クーロン黒沢
鶴見和昭
マミヤ狂四郎

暗黒アジアンハッカーズ

Asian Hackers Inferno

太田出版


TAI FU
SA-016
SACHEN®
© since 1991 Thin Chen, Ent



クーロン黒沢
鶴見和昭
マミヤ狂四郎

暗黒アジアンハッカーズ

Asian Hackers Inferno

太田出版

Asian

暗黒アジアン・ハッカーズ

Hackers

Inferno

はじめに……

20世紀末……。

バンコクのうす暗いアパートの一室で、タバコの煙にせきこみながらノートパソコンを開く人々……。はるばるタイまでやってきたにもかかわらず、水上マーケットにも行かず、ここでは熱っぽいエミュレータ(＊1)のレアなロムイメージ自慢大会がくりひろげられている。

ロム自慢大会のあとは、間髪入れずにエロビデオＣＤやｍｐ3(＊2)データの容量自慢レースが始まった。ｍｐ3は一時期3・3ギガの某氏がトップだったが、なにせここはタイである。負けそうになったらタクシーでひとっ走り、10枚も違法ｍｐ3全集のＣＤを買ってくれれば、それだけで6ギガ半。ハイ逆転。

「ず……ずるいよ。カネの力で」

その昔、欲しいソフトは少しずつ貯金して、瀬戸物でできたアヒルの貯金箱をたたき割って買うものだった。それがどうだろう？　現在はまさにコピーソフト無間地獄。

1＊エミュレータ：
本来、そのマシンでは動かないはずのソフトを、無理矢理に動かしてしまう強引なソフトの総称。マックでウィンドウズ用のソフトが動いてしまったり、ウィンドウズでプレステのソフトが動いてしまう（もちろん、100パーセントのエミュレーションは難しいが）。

これを使えば、10年前の忘れ去られたパソコンやゲーム機のオールドゲームも、あなたのパソコンで楽しめる……ってなわけで、懐古趣味の人にも大人気。ただし、エミュレータ単体だけでは意味がなく、動かすゲームソフトが必須となる。太古のソフトなど、入手自体が難しいものはインターネットで極秘裏にやりとりされていて（多くは非合法で）問題となっている。

シンガポールなど、表向きは違法コピーソフトをシコシコ取り締まっているようにみえるが、実際は「高いソフトに貴重な外貨を使うくらいなら、適当にそのへんでコピーすればいいのに……」というのがおカミの本音らしく、摘発はお祭りの日に見せしめのため行われるにすぎないようだ。

前作『オトナのハッカー読本』（ジャパン・ミックス刊／絶版）からはや3年。パソコンやインターネットはより身近になり、休日にパパが秋葉原でだだっ子にせがまれ、MODチップと配線図（124頁参照）を買う時代に突入した。

コアなマニアは日本を飛び出し、アジア各国で飢えた犬のように儲けのネタを探しながら、この不景気な時代に車やノートパソコンをひんぱんに買い換えている。

はたしてこれが普通なのか？　いや、けっしてそうではないだろう。この数年間にソニーはプレステで大成功、任天堂やセガもそれに追随しようと必死だが……その裏では、ベートーベンに似た男が秋葉原で露天商の人に追いかけられたり（226頁参照）、果てしなく暗い人間ドラマが日夜くりひろげられている。

そんな彼らの活躍が、少しでも後世に伝わればという願いをこめて、この本は企画された。

（クーロン黒沢）

＊本文中の専門用語については340頁以降の「パチモノ用語の基礎知識」をご参照下さい。

2＊mp3：MPEGレイヤー3の略称。CD一枚の音楽を、ほとんど音質劣化のないまま1/10程度の容量に圧縮できる夢のようなデータ形式。データが小さくなったことで受け渡しがラクになり、したがってコピーの温床となってしまった……。

3章／わがニセファミコン人生に悔いなし！

4章／美少女キャラをウヒュヒュ……

5章／怒らないで！ ソニー

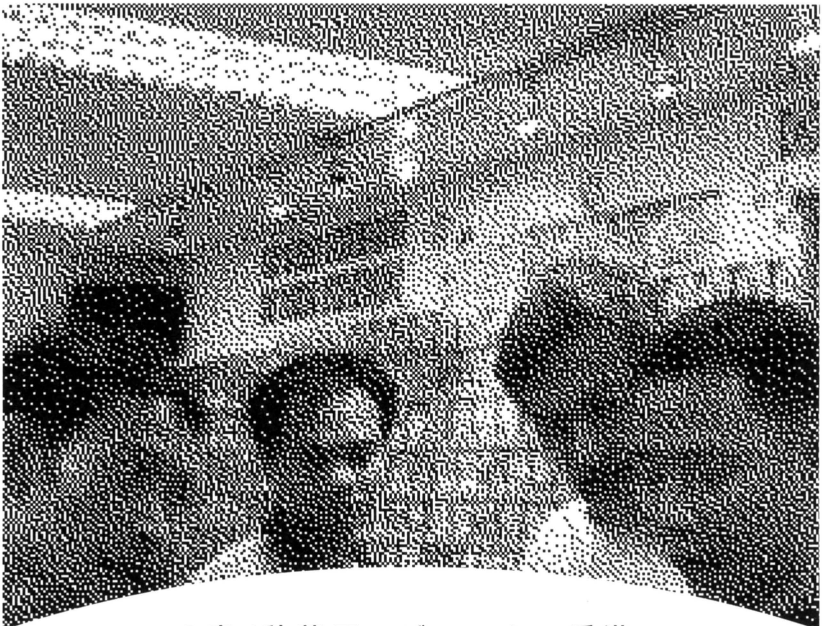
6章／さわやかインターネット'99 味のない体験記

7章／ハック・パチモノ 特選インタビュー

8章／違法CDの恐るべき実態

9章／快適アジア生活ひと口コラム

10章／最後にこれだけは押さえておこう！



1章/秋葉原〜バンコク〜香港、味のない名店の数々




タイゲン伝説
マミヤ狂四郎
平成7年11月
秋葉原
メガドライブ版のゲーム改造ツールを求めて、
学校帰りに一人アキバを探索していた私。
雑誌の広告を見るに「タイゲン貿易」なる店に売っているらしいのだが、
その広告の地図が非常に分かりにくく、
しばし迷う。
あっれ〜？
実は存在しない架空の店なのではないか？
そう思った時・・・
タイゲン貿易発見。
店内は段ボールが散乱し、素っ気ないスチール棚に展示してある商品は驚くほど少なく、非常に怪しげなムード。


そんな中、求めていた商品も
ひっそりと展示されており、
何故か半額という驚きの価格。
だが無情にも在庫は一つしか
無いようだ。
プロアクションリプレイMD
4000円
そして悲劇的にも
私のサイフには三千円も
入っていなかった。
ここに辿り着くまでに
いろいろ散財してしまった
からである。
自業自得とはこのことか。
あした買えば良いと判断し、
その日は見逃す事にした。
ところが翌日・・・
タイゲンのドアは
閉ざされたままカギが
かけられており・・・
ドアの隙間から
覗いてみると・・・
もぬけのから！
夜逃げであることは
一目瞭然であった。
まるで
夢を見ている
様だった・・・
END

消えた名店を振り返る(1)

伝説の輸入代行ショップ「タイゲン貿易」夜逃げの真相を検証する

タイゲン貿易……普通の人には暗号のような屋号。だが、パチモノファンには感慨深い名前である。タイゲン貿易と聞いて**「アアあの店ね」**と反応するひとは、相当の秋葉原通と言ってよいだろう。

タイゲンとは、秋葉原の片隅にある煤けた雑居ビルで、マイナー(店員はメジャーだと思っていた)なゲーム周辺機器をマニア向けに輸入代行・販売していた店である。しかし残念ながら、1995年冬に**ワケあって夜逃げした。**

タイゲンの歴史は古く、1993年春に千葉県の某市で産声をあげた。通販専門、しかも千葉の山奥ということで、速攻で経営がゆきづまったのだろう。まもなく秋葉原に進出する。

もちろん、アキバといっても場末のさらに場末。エレベータもない古ぼけた雑居ビルの3階に店舗を借り、椅子と机を適当に並べて商品もまばらなまま、オープンした



嬉しそうに反応するマニア

のである。

事実上の社長は、台湾生まれで北京語ペラペラ、しかし残念ながら肝心な日本語が思うように喋れないという、うっすら頭のハゲあがった、銀行員のように地味な眼鏡の中年日本人・小原氏（仮名）。そして雇われ店長には、元重機ブローカーで、バブルの頃にはフィリピンに妾が3人、その後1回破産してアメリカに亡命していたこともあるという、英語ペラペラのハデ好きおやじ、萩田氏（仮名）が就任した。

タイゲン貿易のオープン当初。怪しげな雑居ビルの奥深くまで侵入してゆく客はごくわずかで、店は閑散としていた。萩田氏はあえてこの閑散とした店で、**さらにマイナーなアミーガ**[*1]をメインに扱い、イギリスのアミーガ系メガデモ[*2]ディストリビューターNBAや17BIT[*3]から大量にメガデモのディスクを購入。それを店頭でコピーサービスするという灰色商売を始める。ごていねいにオリジナルのディスクラベル[*4]まで貼って……。

しばらくすると、台湾から仕入れたらしき、違法スレスレの変なゲーム周辺機器や台湾のゲーム雑誌も棚に並び出すようになり、このためタイゲン貿易は開店から間もなくして、**あそこに行けば怪しいブツをたくさん売ってるぜ**……と、マニアの間で名が売れ出し、急速に賑わってゆく。

1＊アミーガ：いまは亡き米国コモドール社が販売していた不安定なパソコン。いまだヨーロッパでは根強い人気を持っている。

2＊メガデモ：ヨーロッパ方面のハッカーが、腕自慢のために作る音楽やグラフィックを多用したデモプログラムのこと。何千種類も流通していて、イギリスにはメガデモ専門の通販業者もいくつかあった。

3＊NBAや17BIT：どちらも有名なメガデモ通信販売屋。1枚何百円かの手数料で世界中にメガデモの入ったフロッピーを配達してくれる。

4＊オリジナルのディスクラベル：汚らしい手書きラベルを見かねて、わたしが印刷屋に発注しました（黒沢）。

とまあ、順調だったタイゲンだが、そのうち徐々に雲行きが怪しくなってきた。ある日突然、雇われ店長の萩田氏が店から姿を消してしまったのだ。お調子者で客あしらいのうまかった萩田氏のいなくなったタイゲンは寒々しい雰囲気となった。そしてその数日後、上野にある妙な名前の店から、タイゲンの顧客全員にダイレクトメールが届いた。

そう、ついにオーナーの小原氏と店長の萩田氏、正反対の性格の2人のあいだで戦争が勃発し、タイゲンの2大巨頭はついに分裂。萩田氏は上野方面に逃れ、よく似た店を自分でオープンしてしまったのである。**タイゲンの顧客名簿をガメて……**。

戦争理由は詳しく知らないが、上野の場末(＊5)に新しくできた萩田氏の店はほぼアミーガ専門。そして萩田氏の抜けたタイゲン貿易からはアミーガ色が一気に抜け、台湾製のうさん臭い機械中心の品揃えとなった。

さて、萩田氏が抜けたタイゲンは当然店長不在となる。そこで、それまで店にはメッタに顔を出さなかったオーナーの小原氏が店長を兼任することになり、徳見（やはり少し仮名）という若手マニアの店員も登場した。

しかしこの2人。**ヘタな詐欺師並みに客あしらいのうまい**萩田氏と比較すると、客の応対に慣れておらず、萩田氏がマメに補充していたアメリカやヨーロッパ系ゲームグッズの仕入れもやめてしまい、店内は段々と殺風景に、最終的には**売れないモノの**

5＊上野の場末：JR御徒町駅から徒歩30分。多慶屋の脇を果てしなく歩き、見捨てられた化石のような古ぼけた商店街の一角にある雑居ビルの3階。

貯蔵庫みたいになってしまった。

マジコン登場

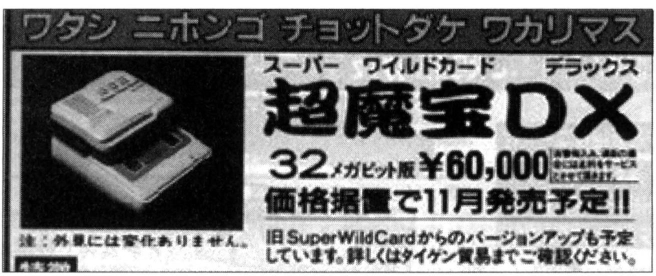
完全行き詰まり状態のタイゲンに、台湾から変なマシンが届けられた。これこそスーファミのゲームをディスクにコピーできるという魔法のマシン。マジックドライブ（マジコン）である。

日本で最初にマジコンの店頭販売を始めたタイゲンは、現地価格2万円チョイのマジコンを、なんと6万円で販売するという暴挙に出た。店員の徳見氏は自信満々に語っていたものである。

「あまり子供とかに買ってもらいたくないんですよ。安くすると子供が買って**悪いことに使うでしょ**。やっぱ6万円ぐらいにしとかないとねえ。そうでしょ？」

よくわからない言いわけである。**こんなもの、大人でも子供でも、悪いことにしか使えねえだろ！**

変な理屈で高値がつけられたマジコンも、買ってしまえばスーファミソフトが全部タダになるという魔法の箱。悲しいことにぼったくり価格でもガンガン売れてしま



う。

このマジコンを製造していた台湾のＦＦＥ社(＊6)とタイゲンは、これを契機に急接近してゆくことになる。しまいにマジコン新製品のＢＩＯＳ日本語化をタイゲンが担当するまでに至った。この頃がタイゲンのバブル絶頂時代である。

しかし、いいことはそう長く続かない。香港製造の格安マジコンを、タイゲンの半額以下で叩き売る店が続々と誕生したのだ。なかには台湾から香港へ輸出されたＦＦＥ社のマジコンを、並行輸入して安売りする店まで出てくる始末。

しかし、この緊急事態にもかかわらず、殿様商売の癖が抜けないタイゲンは、それらの商売敵を表向き意識せず、ロクに広告も出さないで「うちが売ってるのはまがいモノとは違いますし。値段下げなくてもお客さんの方で納得してもらってますからね」という強気な姿勢を崩さない。

他の会社は雑誌広告を増やし、さらに商品の値段を下げてユーザー層を広げようと努力してるのに、タイゲンは「あまり知られても困りますしね」という**マニアならではの意味不明な論理**でこれらを一蹴した。

しまいには、頼みの綱のＦＦＥ社にまで強気な態度を取りつづけるタイゲン。一方、ライバル各社は台湾まで乗り込んで、他社のマジコンが安い値段で販売されているなか、ＦＦＥ社のマジコンをプレミア価格で販売しているタイゲンの広告を同社に

6＊台湾のＦＦＥ社：フロントファーイースト社。台北の住宅街にある小さな会社。が、取材した当時はマジコンが売れまくっていたバブル時で、社長は高級マンションを買い漁っていた。

持ち込むに至って、両社の関係は急速に冷え込んでゆく。

なぜかアミーガにこだわる徳見氏の誤算

すでにアミーガのちょっとしたブームは終わっていた。しかしタイゲンの通称ロンゲ店員・徳見氏は、マジコンバブルで店の景気が良いことを理由に、それでもアミーガへのこだわりを捨てなかった。

アミーガの本領を発揮するＣＧ方面のソフト・ハードは、顧客名簿を片手に消えた萩田氏の店が網羅している。そのため、憎き萩田氏の店と商品の差別化を計りたい徳見氏が、自然に暴走してゆく結果となった。その最たるものが、**コモドールＣＤ32の販売**である。

その頃ヨーロッパでは、倒産寸前のコモドール社が、血迷ったあげくに「ＣＤ32」という呪われたゲーム機を発売していた。

アミーガのアーキテクチャを、弁当箱みたいな無骨なケースへ中途半端につめこんだマシンで、**外観からしてカッコ悪いことこのうえない**。専用ソフトも腐ったクソゲームがいくつか発売されただけで、アッというまに消えてなくなる宿命を持ったマシンだった。

徳見氏はなにをトチ狂ったのか、このＣＤ32を2台も取り寄せてしまう。もちろん

こんなもの売れるワケがない。しかも売値は7万円。棚には他にも売れないまま、何年もうっすらホコリをかぶったアミーガの周辺機器が満載だというのに……。

けっきょく、冷やかしてくれる客すらおらず、一度だけフラリと入ってきた高城剛(*7)が**「これ何ドル？」**とワケのわからない質問をしただけだったという。

ちょうど'95年ごろのこと。世の中ではサターンやプレステが発売されたばかりで、秋葉原は久しぶりのゲーム景気にわきかえっていたが、それでも徳見氏はひたすらアミーガだけを賛美しつづけた。

そしてタイゲン幹部・徳見氏の寵愛を受けようと、常連客もイエスマンに徹し、アミーガを誉めつづけた。それを横目でチラリと見ながら、黙々と帳簿から目を離そうとしない銀行員のような小原氏。

「やっぱりCD32ですよ。**ほら、スペイン語でもゲームできるんですよ。すごいでしょう！」**

満面の笑顔で徳見氏が叫ぶ。恐るべき先見性だ。そろそろ末路は見えてきたな……。と皆が思いはじめたころ、亀裂の入っていたFFE社との関係が、いよいよ木

7＊**高城剛**：「チキチキマシーン」「マカロニほうれん荘」など、つまらないCD－ROMを作らせたら天下一のデジタル日本人。フューチャーパイレーツの将軍様。愛車はポルシェ。

つ端微塵に破壊されるときが来た。

フロントファーイーストとの確執

タイゲンの生命線といえる商品、マジコンの供給元・FFE社との関係は、まさに**冷凍マグロ並みに冷えきっていた。**わたしが雑誌の取材で台北のFFE社本部を訪れたときにも、FFE社長の劉氏は顔を真っ赤にしてこのように語っていた。

「タイゲンはウチに7万USドル以上の未払い金があるんだ。こんど日本に直談判に行くんだけどね。その他にも言いたいことはたくさんある。他の会社が安い値段でマジコンを売っているのに、なんでウチの商品をあんな高値で売るんだ！　**もうダメだあいつらは**」

それから約1ヶ月後、タイゲンの店頭から突如FFE社のマジコンが消え去り、いままで先見性のある徳見氏が**ボロクソ言っていた他社のマジコン**が並ぶようになった。

すでにこの時点で命運は尽きていたのだろう。タイゲンはマジコンや灰色ゲームグッズのほかに、マニアが自主制作したミニコミの委託販売もやっていた。しかし、売



れ線商品が1日数冊売れてゆくミニコミでは、**駄菓子屋じゃあるまいし**、家賃の高い秋葉原でそんな商売が成り立つはずがない。

ピラミッド出現！

タイゲン終末期にはもうひとつの悲しい出来事があった。なにを隠そう、オーナーの小原さんが**変な超能力**にハマってしまったのだ。

この時期、タイゲンへ買い物に行ったマニアのなかには、天井から小さいピラミッド状の物体がたくさんぶら下がっているのを目にした人もいると思う。また、棚の奥に**妙なシール**が貼ってあったり、たびたび小原さんが、石ころの入ったコップでひんぱんに水を飲むのを不思議に思った人もいるだろう。

それがなんの宗教だかたずねる前に、突然夜逃げしてしまったタイゲン貿易。それまで、夜逃げした他の業者や違法行為の目立つ業者を、これでもかと批判しまくっていたのに……。

自作のミニコミをタイゲンに委託していたわたしを含め、数名の常連客がささやかな金銭的被害を被った。が、いまではそんな程度ですんだことを神に感謝しなくてはならない。

タイゲンにマジコンのバージョンアップを依頼していた数十人の客は、結局、永遠



にバージョンアップできなくなったまま、先払いしたカネをドブに捨てることを強いられた。

噂ではそういった人のところに、アクションリプレイなど、小額商品が**大量に着払いで届いた**という話もある。

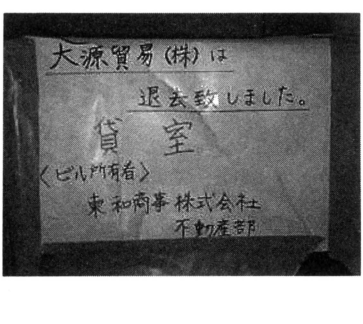
アクションリプレイならまだマシで、奈良にあるタイゲン貿易唯一の販売代理店など、マジコンを発注したさいに振り込んだ150万円ものカネを持ってドロンされてしまった。

お詫びのつもりだろうか、後日、謎の人物から大量の荷物が届き**（着払い）**、開けてみると、昔タイゲンが調子に乗って大量に仕入れ、まったく売れなかったというパチモノファミコン格闘ゲーム「マスターファイター」が、なんと2千個も入っていたとか。

奈良の店長は2千個のマスターファイターの山を見て、**声も立てずに涙だけ流していた**とか。

そして、秋葉原周辺のジャンク屋では、夜逃げの翌日からタイゲンの遺留品とおぼしき、あの呪われたCD32を始めとするアミーガ関連商品がズラリと並ぶのであった。**さようなら、タイゲン貿易！**

（クーロン黒沢）



消えた名店を振り返る(2)
キャンピングカーでひと儲け「ビッグブルーフィルムズ」

ようこそ過去の世界へ。

かつてマジコン全盛時代に、スーファミCD－ROMという超人気商品が存在した。文字通り、数枚のCD－ROMにスーファミのソフトがすべてが焼き込まれているという、**スーパー違法CD**である。

CDを買った客は好きなソフトのデータファイルをフロッピーにコピーして、それをマジコンに入れるだけで遊ぶことができた。

当時スーファミは人気絶頂期にあった。したがってソフト会社も黙ってニコニコ見守っているわけにいかず、警察を動かし、あつかましくも雑誌に広告を載せて、CD－ROMを売っていた業者たちが軒並み検挙されたものである。

しかし、そのなかで唯一、なんの咎めも受けなかった業者が存在する。その名は**ビックブルーフィルムズ**（少し仮名）。なんだかカメラ屋みたいな名前だが、実態は完全違法組織である。でもまあ、ー

人でやっていたらしいので、組織と呼ぶのはやめておこう。
　今日はここに、元某ファミコンショップ店長で、かつビッグブルーフィルムズの人間とも面識があるという事情通T氏を招いて、その手口を検証してみよう。

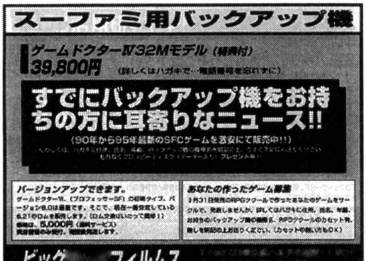
T氏：とにかくズルい人でした……。

　T氏は肩をガックリ落として、静かに語り始めた。

T氏：ビッグブルーの親方と知り合ったキッカケですか？　言えませんね。ああ、うちの店にコピーするためのソフトを買いにきたのがきっかけかな。うん、そう書いといてください。僕疲れましたから、あまり喋りたくないんですけど。
　ビッグブルーの親方って、ほとんどパチモノの知識ないんですよ。単にカネを稼ぐためだけにやっているという、パチモノ業者の鏡みたいなひとでしたね。だからあえてマジコンは他の業者から買ってそのまま転売するだけで、あとは雑誌にワケわかんない広告だけ出して、ソフトのコピーに徹したんです。

●あそこって、どんな組織だったの？

T氏：……組織も会社もクソもないですよ。オヤジが1人でやってるだけで、電話は携帯でしょ。そんで広告に載ってる住所は私設私書箱だから事務所もないんです。
　じゃあどこでコピーしてたのかってい



うと、トヨタのハイエースにパソコンとゲームドクター（マジコンの一種）がたくさん積んであって、そこでCD焼いたりフロッピーをコピったりしてましたね。たぶん寝るのも車だったんじゃないかなあ。実際想像はしても、ああいう生活を実践してる人って初めて見ました。
　ただ、商品は代引で送っていたみたいだから、カネをガメて逃げられる危険性は少なかったみたいですがね。

●私書箱にしろ携帯電話にしろ、身分を隠して手に入れる方法はいくらでもあるからね。用心深い奴みたいだね。

T氏：……半端じゃないですよ。普段も偽名使ってて、いまだに僕も奴の本名知らないし、実際あの手のCD売ってて捕まらなかったのって、ビッグブルーだけじゃなかったかな。とにかくあそこは短期間で一番稼いだと思いますよ。
　コピーもセコくて、よくうちの店にもソフトを買いに来ましたよ。常連なんだから安くしろよって毎回粘って、新作をズラッと買いまくって、それでウチの店の駐車場に車とめて、そこでずーっとコピーしてるんですよ。だからいつも買いに来た十分後くらいには売りに来てましたね。ウチは買ったその日に売りに来れば、かなり高く買い取ってあげるシステムだったから。
　反対に、プロテクトや特殊チップでコピーできないときは、すごく不機嫌でしたよ。



●ところでTさん。さっきから落ちつかないけど、ひょっとしてビッグブルーの親方ってその筋の人なの？。

T氏：……いや、ヤクザじゃないけど、そのかわりすごく陰湿で暗くて、僕が見てる前でも、時間があればすぐ商売敵の店にイタズラ電話かけてるんですよ。だから個人的に狙われるのが怖いだけです。

前にも、誰かがうちの店の掲示板にビッグブルーの悪口を書いたら、すごく変な声で「ビッグブルーの悪口言うな。ガチャン」って不気味な電話があって……モロ奴の声なんですけど。

奴は香港に行ったことすらないし、その手の知識も雑誌で読んで身につけただけ。おまけにCDはSFC研究所（ゲームコピー組織。のちに摘発される）から買って、そのままコピーしてただけでしょ。だけど最終的に一人勝ちですからね。素人でもCDライターとでかい車さえあれば、汚いカネを稼げるってことですよね。

●悪質すぎて捕まったとき大変そうだけどね……。

（聞き手・クーロン黒沢）

オカマがCD－ROMを売る
バンコクの秘密アーケード
『タイタニック』で踊るオカマたち

インドネシア大使館横にあるパンティープ・プラザは、最近タクシー運転手の間にも名前が浸透してきた(＊1)、バンコク唯一の海賊パソコンソフト密集地帯である。

地上5階建ての巨大なショッピングモールには、2つの巨大パソコンショップを含め、無数のテナントが連なっていて、半数はまともな店だが、残り半数はうさん臭い。さらに奥の方ではゴザを広げて海賊版CD－ROMを売っている奴もいれば、伏し目がちに通路端に立ち、道行く男たちに片っ端から声をかけているエロビデオCDの売人もいる。**ひじょうにいい雰囲気だ。**

どこの国もマイクロソフトの圧力におびえ、相次ぐ摘発によりピーコソフト市場は地下に潜りつつあるが、ここパンティープはイリーガル魂むきだしで、**かかってこいよマイクロソフト**状態。

表向きはクリーンな店頭ディスプレイで、オリジナルばかり並べている店でも、注

1＊**名前が浸透してきた**：2年前は言ってもほとんど通じなかった。



これがパンティープだ！

●ところでTさん。さっきから落ちつかないけど、ひょっとしてビッグブルーの親方ってその筋の人なの?。

T氏:……いや、ヤクザじゃないけど、そのかわりすごく陰湿で暗くて、僕が見てる前でも、時間があればすぐ商売敵の店にイタズラ電話かけてるんですよ。だから個人的に狙われるのが怖いだけです。

　前にも、誰かがうちの店の掲示板にビッグブルーの悪口を書いたら、すごく変な声で「ビッグブルーの悪口言うな。ガチャン」って不気味な電話があって……モロ奴の声なんですけど。

　奴は香港に行ったことすらないし、その手の知識も雑誌で読んで身につけただけ。おまけにCDはSFC研究所(ゲームコピー組織。のちに摘発される)から買って、そのままコピーしてただけでしょ。だけど最終的に一人勝ちですからね。素人でもCDライターとでかい車さえあれば、汚いカネを稼げるってことですよね。

●悪質すぎて捕まったとき大変そうだけどね……。

(聞き手・クーロン黒沢)

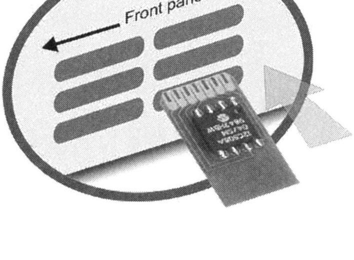
保証くそくらえ！ 生活の知恵

DVDプレーヤーを改造してささやかな優越感を味わう

俺はプノンペン在住2年目で、そろそろ頭がヤバくなっている。DVDについても、実用化までにはあと10年かかるとふんでいた。ところがだ、通りがかりのバックパッカーからもらった半年前の「SPA!」に、月間DVDランキングが載ってるじゃねえか。**いつのまに、俺に無断で普及させてんだよ！**

というわけで、原始時代から現代へ戻るためにバンコク経由で香港へ行った。そこはもう未来世界。地下鉄の駅で上半身裸のオヤジが無人改札に下半身をグリグリこすりつけている。

別にオヤジは変態行為をしているのではなく、ポケットの中に入っている「オクトパス」という電子定期券を使ったままでのこと。オクトパスが財布に入っていたら財布を、鞄に入っているなら鞄を、肛門に入っていたら肛門を改札のセンサーにスリスリするだけで通行できるらしい。**すげえ！**



E-MODのポスターより

改札を通り、地上に出るとそこは電脳街。とりあえずビデオCDショップに入る。香港ではDVDよりビデオCDがシェアのほとんどを占めている。もちろんDVDプレイヤーもソフトも売っているが、ほとんど飾りといった感じ。レンタルが解禁されれば状況も変わってくると思われるが、まあ、DVDの実物が見れただけでもよかった。**想像以上にキレイですね。**

ただ、DVD業界も色々な思惑でネバネバしているようだ。その最たるものが「リージョンコード(*1)」と呼ばれる国識別信号である。

要は、日本でまだ劇場公開している映画のDVDを、アメリカから輸入して日本で売って大儲けされたら困る……というコスい心配をなくすため、DVDプレイヤーとソフトに埋め込まれているリージョンコードが同一でない場合には再生不能にするという、**イヤミな機能**がどのプレイヤーにも標準で内蔵されているのである。

リージョンコードは地域別に六種類もあり、アメリカで買ったソフトは日本じゃ再生できないし、中国で買ったソフトは香港のDVDプレイヤーでは再生できない。まったく、不便なことこのうえない。それでは、新しめのパソコンにくっついているDVD－ROMドライブはどうだろう。

一般のDVDプレイヤーは必ずリージョンコードをチェックするが、DVD－RO

1＊DVDのリージョンコード一覧：
1、カナダ、アメリカ
2、日本、ヨーロッパ、南アフリカ、中東諸国
3、東南アジア、香港
4、オーストラリア、ニュージーランド、中米・メキシコ、南アメリカ
5、ロシア、アフリカ、北朝鮮、モンゴル
6、中国

Mドライブにはフェーズ1と2の2種類あり、フェーズ1はリージョンコードをチェックしない。従ってフェーズ1のDVDドライブを使い、さらに再生ソフトに改造パッチを当てれば、どの国のソフトでも再生可能となるようだ。

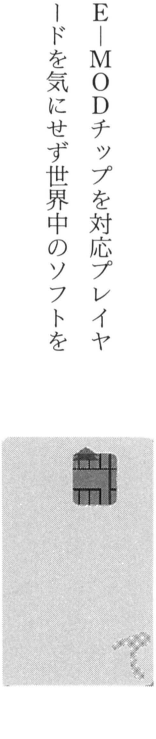
ただ、パソコンでDVDを再生するには、それなりのスペックが要求される。面倒なことが嫌いなひとは、やはり専用プレイヤーで再生するのがベター。

しかし、リージョンコードに縛られるのはイヤだ。そういう人にはプレステ・マニアにおなじみの、MOD改造を勧める。そう、プレステだけではなく、DVDプレイヤーにもMODチップが存在するのだ（プレステの件は、124頁以降を参照）。

このE－MODの製作元は、イギリスのテクトロニクス(*2)という業者。ホームページを見てもらえればわかるとおり、扱い商品はニンテンドウ64のゲーム複製機や警察のレーダー妨害装置、ペイテレビのタダ見スマートカードなど、限りなくロクでもないのだが、真っ白なホームページから受ける印象はまるで**上場企業のようだ**。

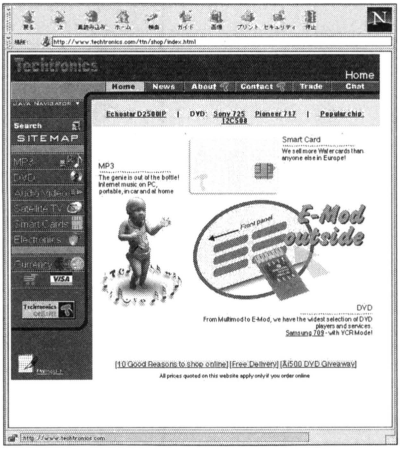
そんなテクトロニクスお勧めナンバーワン商品のE－MODチップを対応プレイヤー（パイオニア系）へ取りつけると、リージョンコードを気にせず世界中のソフトを楽しむことができる。

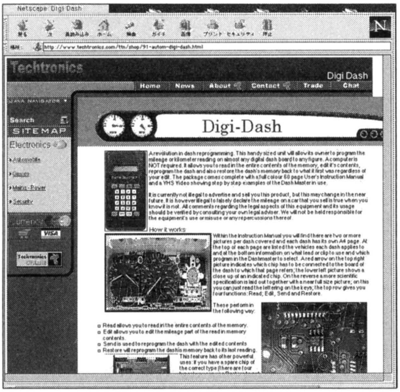
2＊テクトロニクス：
http://www.techtronics.com/

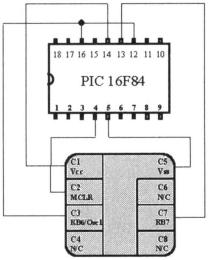

タダ見用のスマートカード

取りつけは自分でも可能のようだが、あらかじめMODチップを取りつけたDVDプレイヤーの販売もしているので、技術に自信がないひとや**単に面倒くせえ**というひとはプレイヤーごと買うのもいいだろう。実際わたしの友人も、ここから改造済みDVDプレイヤーを購入している。

（クーロン黒沢）







配線図（何の？）

オカマがCD−ROMを売るバンコクの秘密アーケード

『タイタニック』で踊るオカマたち

インドネシア大使館横にあるパンティープ・プラザは、最近タクシー運転手の間にも名前が浸透してきた、(＊1)バンコク唯一の海賊パソコンソフト密集地帯である。

地上5階建ての巨大なショッピングモールには、2つの巨大パソコンショップを含め、無数のテナントが連なっていて、半数はまともな店だが、残り半数はうさん臭い。さらに奥の方ではゴザを広げて海賊版CD−ROMを売っている奴もいれば、伏し目がちに通路端に立ち、道行く男たちに片っ端から声をかけているエロビデオCDの売人もいる。**ひじょうにいい雰囲気だ。**

どこの国もマイクロソフトの圧力におびえ、相次ぐ摘発によりピーコソフト市場は地下に潜りつつあるが、ここパンティープはイリーガル魂むきだしで、**かかってこいよマイクロソフト**状態。

表向きはクリーンな店頭ディスプレイで、オリジナルばかり並べている店でも、注

1＊名前が浸透してきた： 2年前は言ってもほとんど通じなかった。



これがパンティープだ!

文するとぜんぶ違法コピーだったりして最高だよ。**違法だから買ってはいけない**けどな。

ウン百万円分のソフトが入ったスーパー違法CDなんかも扱ってるが、最近は時期によって警察の締めつけが厳しくなるらしく、その時期だけは店頭で空のCDケースを眺めながら商品を選び、カネを払ってブツは後ほど郵送という方式がとられている。そういう店はきまって店頭に「EMS」という貼り紙がしてある。

このEMS方式、ホテルにも発送してくれるが、何日経ったら届くのか定かではない。いちいち奴らの台帳に住所を書かされるのも面倒くさいし、こいつらが摘発されたときには、**俺の住所が警察に知れるんじゃないか**と不安にもさせられる。

もともと明日バックレても不思議じゃない、信用するに値しない連中なので、心配な人はとにかく歩き回って直売してくれる店を探すことだ。

この手の店は取締り期間中でも15分ほど待たされるが、どこかからブツを運んで手渡ししてくれる貴重な存在だ。

オカマはそこにいた！

そんなパンティープ・プラザのピーコCD屋の店員は、なぜかオカマが多い。オカマと違法CDにどんな相互関係があるのか不明だが、特に4階奥にあるビデオCD・



これがエントランスだ！



音楽CD中心の店はすごい。

商品の違法コピーCDをDJがセレクトして、それにあわせて不細工なオカマたちが変な踊りを踊っている。ちょっとしたアルカザール状態[*2]だ。

僕が通りがかったときは、映画『タイタニック』のサントラにあわせてユラリユラリと踊っていた。そんで客を発見するや、曲に合わせて近寄ってきてCDを勧めてくる。**気持ち悪すぎる。**

自分を売るに売れないオカマたちが生活に困って、昼間はこういうところでバイトしてるのか……と、想像は膨らむばかりである。

おまけ・気合いが違うよね。香港

違法ソフトをコソコソ郵便で発送するバンコクでは、ほとんどの店員が学生アルバイト。対して香港では、みんなそろって黒社会に憧れる、腕にドラゴンの入れ墨がはいった若い衆が店員をしている。こんな店で万引きが発覚すれば**即、地獄行き**ダヨネー（死語）。

そして香港じゃ空ケースを並べるような姑息なマネはせず、みな堂々とピーコCDを並べて商いしている。

有名な深水歩の高登電脳中心では、いままでコピーソフト屋がズラリと並んでいた

2＊**アルカザール**：プーケットにある有名な観光地。オカマショーを見てオカマと記念写真を撮る。もちろんチップが必要だが、高額紙幣だと絶対おつりをくれないので注意。



暗黒の2階部分がすっかり様変わりし、ハードディスクやメモリを売るつまらない店しか見あたらない。

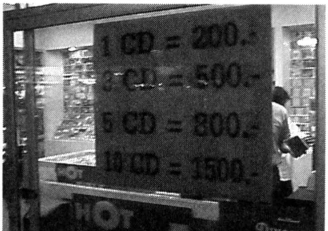
1階にはプレステやゲームボーイを売る店、そしてまったく関係ないスポーツ用品店などがあり、脱力するとともにコピーソフトは消えたのか！　と思いきや、なんと地下1階に潜っていた。本来あるべき場所に戻ったというか……。

高登電脳中心前から地下道を通ってすぐの場所にある科技電脳中心も、これまた地下に広がる電脳中心だが、こちらもいっそう殺伐としていて、プレステピーコCDを売る青年店員たちの目にも殺気がみなぎっている。

ハイラー。捕まえるもんなら捕まえてみやがれモウアー！　という気合いが感じられ、値段はバンコクより若干高いものの、すがすがしい買い物が楽しめるだろう。

（クーロン黒沢＋鶴見和昭）





運河の上に浮かぶ
世界最安値の裏モノ地帯

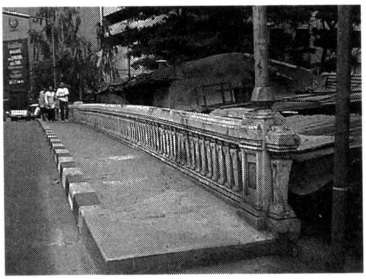
「サパーレック」へようこそ！

誰が最初に考えついたのか定かではないが、バンコク場末のドブ川の上に、ムリヤリ鉄板を渡してトタン屋根をつけ、いつしか1キロ以上もの細長い商店街が完成した。

いまではパチモノマニアで知らなければモグリといわれる、ここが噂の黄金郷・サパーレックだ。一度でも足を踏み入れてしまうと、**二度とオリジナルが買えなくなってしまう**魔境でもある。

１００軒を超えるテナントには、ピーコソフト屋、プレステ改造屋、熱帯魚屋、ミニ四駆屋、トレーディングカード屋などがあり、とにかく趣味と名のつくものならなんでも売っている。

なかでも圧倒的に数が多いのはゲーム関係の店である。プレステの違法海賊版ソフトに関しては、おそらくここサパーレックが世界再安値だろう。なにせ、**どんな最新**



超大作でも50円。開発者が聞いたら**心臓発作でも起こしそう**な値段だが、事実なんだから仕方ない。さらに卸専門の店でまとめ買いすればもっと安くなる。

聞けば小売り店は1枚売って10円～20円の儲けしかないらしく、最近はあまりの競争価格にイヤ気がさし、他の商売に鞍替えする店も増えている。

昼前くらいから店が開き始め、午後2時すぎには蒸し暑さと人混みで地獄のような様相になる。そのなかを天秤棒をしょったババアがカレーを満載して突進してきたりするので、汁だらけになりたくなかったら油断は禁物。

マジコンの修理屋やプレステの修理・改造屋も数多くあり、その場で改造・修理してくれる。日本では'99年10月からMODチップを売ること自体が違法(*1)となったので、タイ渡航記念にプレステ持って行って、治外法権の地で改造してもらうのもいいかもね。

それから使い古して捨てる寸前のコントローラーがあったら、それも持っていけば新品同様にチューンナップしてくれるぜ。

他にも、香港や台湾ではめったに見かけなくなった怪しいファミコンのパチモノカセットや、走るファミコン(*2)等のパチ本体類もここではまだ現役。いまだにこんなモノがメインで並んでいるのは、サパーレックか中国の山奥くらいですよホント。

1＊MODチップを売ること自体が違法：1999年10月1日から、改正された不正競争防止法が施行される。音楽や映画などのソフトや家庭用ゲームにはコピー防止の「信号」がついているが、それを解除する機器が容易に入手できるため、簡単に複製され、海賊版が出回っているのが現状。このためコピー防止解除の機器販売を「不正競争行為」として、ソフト製造メーカーが、機器を販売した業者を訴えることができるようにするというもの。

2＊走るファミコン：某スポーツカーそっくり。モーター内蔵で実際に走るというもの。ただコード類がジャマになって長距離の走行は不可能（71頁参照）。

いまだにサターンを改造する少年

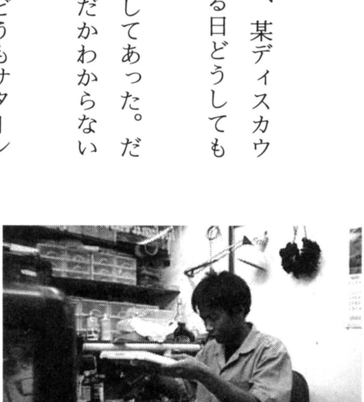
うちには1台のセガサターンがある。新作ソフトもなにもなくなり、某ディスカウントストアではついに999円で叩き売りされているそうだが、ある日どうしても「バーチャコップ2」がやりたくなった。

手持ちのサターンは数年前、すでに自分で分解してMOD改造を施してあった。だが横着したせいか、絶縁がうまくされてなかったのか、ホコリかなんだかわからないが、すでに半分いかれていて、電源入れても画面は真っ黒だ。

しかし、分解してサターンキーを外してみると通常通り動作する。どうもサターンキーがおかしいようだ。こんどタイに行くときいっしょに持ってって、新しいサターンキーと取り替えてもらおうか……と安易に考えていたのが甘かった。

はるばるサパーレックまでサターンをかついでゆき「プレステ・サターン改造します」とタイ語で看板を掲げている某店に持ち込むと、店員はひと言「**もうサターンなんてやってねえよ**。他行ってくれ」と吐き捨てるように怒鳴った。チクショウ、なめやがって。

しかしこの店だけではなかった。サパーレック中の改造ショップには、すでにサターンキーの在庫がなく、入荷する予定も改造する気もないらしい。じゃ俺は、**何のた**


サターンを改造してくれた少年

めにこんなところまでこんなものをかついできたんだ！

どうせやりたいのは「バーチャコップ２」だけだし、改造してくれないならそのへんに捨てて帰ろうかとも思ったが、ヤケになって色々な店を巡っているうち、ようやくプレステマークのジャケットを着た少年グループ３名の経営する改造ショップで、かろうじてサターンキーの在庫を発見した。

中学生位の少年にサターンを手渡すと、久しぶりだったのか困惑の表情でニヤリと愛想笑いを浮かべるが、手際は良くて10分もしないうちに改造終了。７００バーツ（２１００円）も取られたが、改造できただけ良かったよ。**ありがとうサパーレック。**

サパーレックの行き方

中華街とインド人街の国境に流れる、オンアーン運河という汚らしいドブ川の上に浮かんでいるのがサパーレックである。最近はメジャー化しているらしく、タクシーの運転手にもよく通じる。

まずはヤワラー（中華街）に行ってもらい、周りに中国語の看板がチラホラ見えてきたら、でかい声ではっきりと**「サパーレック！　サパーレック！」**と叫んでいれば、まず間違いなく連れていってくれるだろう。

（クーロン黒沢＋鶴見和昭）





日本に持ち帰るなんてもってのほか！
完全違法な……

タイで入手できるもの一覧

プレステ海賊版CD

サラリーマンの平均月収が5万円前後というこの国で、3万円もするニンテンドウ64のマジコンを買ってくれという子供がいたら、**ゲームだけで一家離散**である。したがって、改造するだけでラーメンより安い海賊版の楽しめるプレステが、98パーセント（推定）のシェアを占めている。

でもって、この国にもオタクはたくさんいるようで、なぜか「ときめきメモリアル（日本語版）」が大人気。某店では発売初日だけで300枚ものコピーCDを用意していたが、即日完売状態。それからしばらくは、焼けば売れる状態だったらしい。

この国ではいま、「ときメモ」のオープニングソングが**日本の国歌よりメジャー**なので、現地人のオタクは「ときメモ」の歌を歌えば日本人と仲良しになれると勘違いしている。



CDの山、山、山……

というわけで、変な奴が日本語で歌いながら近寄ってくることもしばしば。奴らは「ときメモ」で日本語を勉強しているため、**みんなオネエ言葉で超気持ち悪い**。

さて、店頭で一番目立つのは、本物より上質といわれるシンガポール産プレスCDだろう。シンガポール製にもかかわらずメイド・イン・ジャパンと刻印され、いかにもインチキ臭いが、造りはある意味本物よりていねいである。コスト削減のため二色印刷の情けない本物と比較すると、こっちの海賊版はマニュアルの表紙をそのままCDの盤面にフルカラーで転写しているので、**はっきりいって本物よりカッコいい**。

店によってはプレス工場と契約して、CDに自分の店のロゴを入れてもらったり、摘発対策として無地にしてみたりと、同じソフトなのに店によって外観はさまざま。でも値段はいっしょというところがまたスゴい。

スーファミ用インワンカセット

マジコンの普及により、1枚30円以下のフロッピーに5千円以上もするゲームをガンガンコピーできるようになり、すたれた感のあるスーファミ用インワンカセット。

しかしタイではマジコンを持たない層が購入するようで、販売店も少ないながら存在する。現在出回っているのは、4本から8本程度のソフトがひとつのカセットに入ったもの。確認したなかで最も本数が多かったのは16インワンだった。





やはり100インワンなど、本数がでかくなると**高さが30センチを超える巨大カセット**になってしまうため、技術的に難しいようだ。

ファミコンインワンカセット

香港ではほぼ完全に消えてしまったファミコンのインワンカセットも、タイではまだ現役バリバリ。価格的に見ても壊れてるんじゃないかと思うくらい安く、香港現役時代と比較すると1/5くらいの値段で買えてしまう。どうもカセット工場がタイにあるため安値が実現しているらしいが、ともかくアジアではいまでもファミコン用の新作ソフトが人知れず勝手にリリースされている。有名どころで「鉄拳2」、ネオジオやアーケードからの移植もある。

インワンソフトに関しては、タイでは2つに派閥が分かれていて、主流派はダブリなし真正インワンを売っている。こちらは値段は高いものの、**良質なものを売ろうとする真心**だけは感じられる（違法だけど……）。もう一方は、**入ってる数が多ければ多いほどいいんだよ！**　という投げやりカネもうけ派。カセットにはしょっぱい数本の同じようなソフトしか入ってないのに、ラベルに印刷される数だけは加速度的に増えつづけている。最初は控えめに3000インワン、5000インワン程度だったのが、調子に乗ってきたのか、しだいにバシバシ増えまくり、ついに世界最高を自称す





ゲーム機の上に飯置くな！

る天文学的な**9999999インワン**が登場。しかし中味を調べた結果、入っていたのはたったの7本。そのうち3本が光線銃モノだった……要するにサギってわけね。

そのほか

ゲームボーイ用では、カセットに色がついた良質な166インワン。アメリカのソフトばかり集めた88インワンが人気。ただし、人気があるだけに値崩れはなく、それなりに高い……もちろん本物買うよりゃ安いけど。

そんでもって、**本家セガがとっくに見放したメガドライブとゲームギア**も、アジアの人々はまだ見捨ててないようで適当に生き残っている。そんなセガ用ブチ込みインワンで面白いのは、セガ・マーク3のソフトが16個詰まったダブリなしカセット。そして、版権問題で発売されなかった幻のテトリス(＊1)やMSXソフト(＊2)、セガなのに勝手に移植されたマリオ関係のゲームが53個入ったカセットなど。

パソコン用のソフトもまた、**ビル・ゲイツの個人資産をつぶすため**にアジアの人々が日夜頑張っている。新作どころか、まだ正式にリリースされていないベータバージョンのプロテクト解除版なんてのもあるが、これらは**完全に違法**なので、日本に持ち帰るなんてもってのほか、見て楽しむ程度にしといたほうが身のためだよ。旦那。

（鶴見和昭）

1＊版権問題で発売されなかった幻のテトリス：当時、セガはパソコン版のテトリスを出していた英国のミラーソフトからライセンスを買ったが、任天堂は莫大なカネを持って直接ロシアに乗り込み、当時のソ連政府を通して作者本人と契約を結ぶ。この時点で、倉庫に入って出荷待ちだったメガドラ用のテトリスは販売不能となり、セガつまずきのキッカケになった。その一部がアジアに流れ、いまでも売られている。

2＊MSXソフト：なぜかゲームギアで動くようになって、いまでも有名タイトルのいくつかが流通している。

白昼堂々、アキバでワレズCDのビラ配りをする、謎の会社

速報！　大●企画の謎に挑戦

日本のソウル（意味不明）秋葉原。そこは混沌の支配する4次元空間。今日もアキバを歩いていると……。

一時期、つぶれたという話だったオウムのパソコンショップ「PCレボ」があった。日本人客よりも外国人客の多いところが面白い。

店員は女性3人に対して男は1人だけ。しかし女性といっても**ババアとガイキチ臭いのばかり**なので早まらないように。

観察していると、常連客らしき男と**ニューハーフみたいな女店員**がワケのわからない会話を始めた。それもすごく楽しそうに……。

「ナナマルナントカ（数字）はもう無いの？」

「はい、ナナマルナントカはもう生産中止なんですよお。これも時代の流れってヤツですね」



これがビラまきストリートだ！

なんだそれ、新機種のヘッドギアか？　それはともかく、48倍速のCDドライブはともかく、当時アップルから訴えられて裁判所から販売中止命令が出ていたはずのiMacにそっくりのパソコン「e-one」を堂々と売っていたのには**少し感心させられた**。

感心しつつ帰ろうとしたところ、レジ奥のゴチャゴチャしたところに、警察の帽子が置いてあるのが目に入った。あれは確かに警察の帽子だよな？　でも帽子だけ、なぜだろう……。

悩みながらも、いつものようにストリートでビラをもらいまくっていたら「(有)大●企画」という会社のビラを手渡された。

配っていた男の風体は記憶から消えつつあるが、黒いズボンにワイシャツで、まるでやり手証券マンのようでもあり、少しばかり**エスパー伊藤に似ている**ような気もした。

さっそくビラを確認すると……シリアル番号付きでワレズCDがバンバン売られているようす。平日に白昼堂々ビラ配りするとは……興味津々だ。

ついでに連絡先の電話番号がケイタイで面白そうだったので、**番号非通知で**電話してみたところ……。

もしもし？





大●「（すごく不機嫌そうに）………アイ…………」

あ、あのー大●企画さんですか？

大●「ア！　ソウ、タイ●ンキカクデス、アイ（機嫌よくなる）……」

えーと、ビラを見て電話したのですが。

大●「アイアイ、ナンデスカ？」

えーっと、売ってるＣＤは全部日本語版ですか？

大●「アイー、エー、〝Ｊ〟ツイテルヤツハ、ニホンゴデス。アイッ」

それ以外は全部英語版ということですか？

大●「ソデス、ソデス」

そうですか、分かりました。

大●「アイ、ドモ、エッ、ドモ、エエッ……ブツブツ」

ってな感じで、日本人ではないみたいだ。アイ。そんでもって、電話を切るまでブツブツ言ってたのがとても印象的だった。アイ。

（マミヤ狂四郎）



むさくるしいアキバ電気街に咲いた、
一輪のザクロの花

ありがちな店員、「がんもどき」ちゃん伝説

ネガティブな男の街、秋葉原。全然女がいないというわけじゃないが、見渡すかぎり男・男・男……。そんなクソむさくるしいこの街に、一輪のザクロの花のような娘がいる。仮に「がんもどき」ちゃんと呼ばせていただこう。

その娘は秋葉原駅に隣接する「アキ○バラデパート」の中の果物ジュース売り場で働いている。新鮮な果物をそのままミキサーにかけてハイどうぞ、のアレである。

彼女の歳は……おそらく20歳前後であろう。たいして美人でもない。どちらかといえば不細工。動物で例えるなら「アリクイ」で、食い物なら「がんもどき」である。

そんな彼女は毎日毎日楽しそうに、果物をミキサーにブチ込んで働いている。なぁんだ、そこらへんにいるただの店員じゃないか！　なんて思ったアナタは正常な人間だ。

ここまではどこにでもいる普通の店員である……が、ここからがちょっとすごい。



「いらっしゃいませドーゾー！」

初めて彼女の声を耳にしたとき、ひっくり返るほど驚いた。彼女の声はまぎれもなく「声優」だった……。声優には詳しくないが、強引に例えると「ペルシャ」の声かなぁ。

彼女は会話の語尾に必ずアニメ声で「**～ですぅ**」とつける。声はペルシャなのに顔はがんもどき……その距離感は、イランと青森県以上に遠く離れている。

顔から察するに、彼女には今彼氏はいない……フリーだ。彼氏イナイ歴20年といったところか。どうして彼氏ができないの？

彼女はあせった。そしてこんな結論に達した。

「この声の素晴らしさを理解してくれる王子様は**アキバにしか……**」

かくして今日も彼女は、アキ◯バラデパートでマジカルボイスを操りながら、一生懸命ジュースをかきまわしている。ただ彼氏の件に関しては、あくまでも推測という名の妄想なので、あしからず。しかし、案外間違っていないかもね！

どうだろう？　いっそアナタが「がんもどき」ちゃんの王子様になってみてはいかがかな？　いまならたぶん**まだ処女だぞ。**

（マミヤ狂四郎）



これが問題のジュース屋だ！

アキバで腹を膨らませるには？

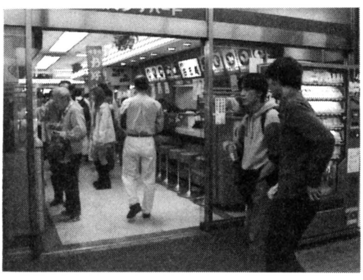
あの人は今、どこへ……「屋オンパ」の洋七

アキバへ行くとやたら腹がへる。歩きすぎるからだろうか？　美味しい匂いなんてしないはずなのに……。

さらにどういうわけか、食うものはだいたい決まっている。ラーメンか牛丼か天丼だ。それくらいしか食えるモノがないといえばそれまでだが、最近はこの3品をランダムに偏らないように食べている。

まだ〝アキバ初心者〟の頃は、ひたすら「安さ」という点のみを重視していた。いまでこそバイクでひとっ飛びなアキバだが、当時は**電車賃をキセルして**、いかにメシ代を浮かすか……ということだけを考えていたから。なにせ浮いたカネで、クソゲーが1本買えてしまうのである。**あなどれない**。

そんな事情があって、当時は完璧なまでにアキバの安い飲食店をリサーチしつくしていた。安ければとりあえず食ってみて、どうしようもないほどマズければ、リストから外す。まあまあ食える程度なら、下位にランクインさせる。



おなじみのアキ◯バラデパート

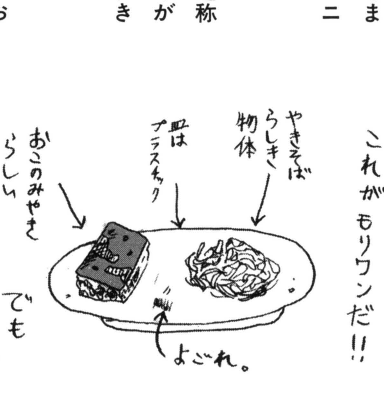
そのリストはトーナメント戦のごとく進化してゆき、最後に残った「安くてしかもまあまあうまい店」というナイスな場所は、「アキ◯バラデパート」の中にある屋台メニューオンリーの、とある店だった。

この店、私は名前を知らないので、本書では「屋台オンパレード」と命名する。通称**「屋オンパ」**のシステムは「椅子に座って食うこともできるが、立って食ったほうが値段が安い」というもので、体感ゲームでは味わえない貧富の差を体感することができる。

リッチな会社員らは優雅に椅子に腰かけ、余裕の面もちでたいしてリッチでもないお好み焼きなどを食しているのだが、貧乏オタク青年はというと、直立不動の状態で**口の周りをソースで汚しながら**、ガツガツと獣のように喰らっている。なんという素敵な光景、っていうか、見苦しいというか……。

安くてハングリー精神も養える、そんな「屋オンパ」の常連になるまでに時間はかからなかった。当時はアキバでメシといえば、それは「屋オンパ」を意味していた。

いつもお好み焼きばかり注文していたのに、その日に限って、お好み焼きと焼そばを同時に食べたくなったことがある。



なにがなんでも、食いたいものは仕方ない。少々値段が高くなるものの、「もりあわせ」というストレートなネーミングのセットメニューを注文してみた。そのとき、事件は起こった。

「モーリワーン！」

たしかに「B＆Bの洋七」似の中国人店員はそう言った。

いったいなにが起こったのだ？　注文したのは「モリワン」なる意味不明のモノでは無く「もりあわせ」である。ひょっとして嫌がらせなのか？

そんないらぬ心配は五秒後に氷解した。洋七が差し出してきたのはまぎれもなく「もりあわせ」だった。お好み焼きと焼そばがドッキングした、屋オンパの名物メニューだ。**ちゃんと通じてるじゃん……。**

後日、こんな素晴らしい店ならみんなにも知ってもらいたい。そう思ってさっそく、友人を連れ「屋オンパ」へ入った。自分はいつもの「もりあわせ」を。友人は「お好み焼き」を注文した。

すると「屋オンパ」のボスらしきおっかないお婆が、

「ちょっとアンタ、もりあわせの方がお得よ。まだ若いんだから、**もりあわせにし**



ときなさいヨ！」

と、強制的に注文の変更を要請。すると中国人の洋七も「了解！」とばかりにこう叫ぶ。

「モーリワーン、ニチョー！」

おい、洋七よ。もりあわせが2つなんだから「もりツー」なんじゃねえのか？　**お前の日本語教師連れてこい！**

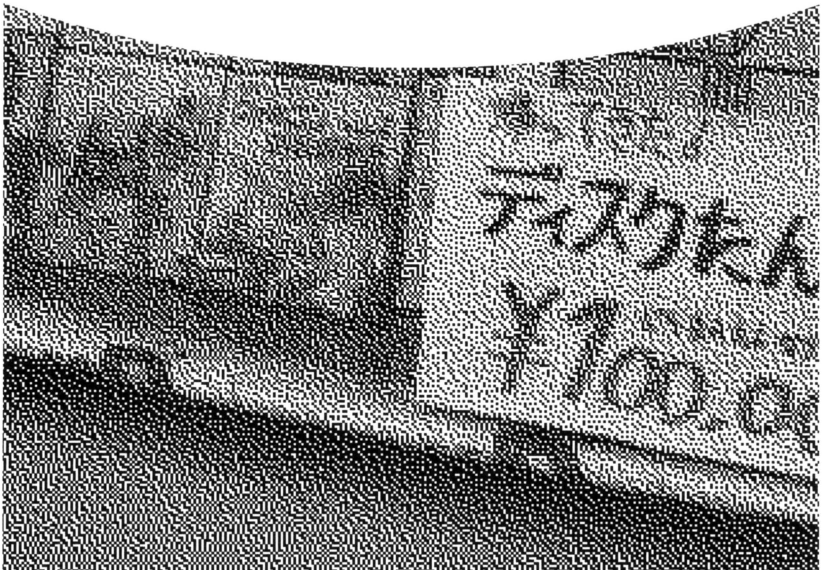
それからしばらくして、洋七は「屋オンパ」から姿を消した。中国へ帰ってしまったのか。それとも強制送還か……。気になる洋七が店からいなくなってから、自分もなぜか「屋オンパ」を避けるようになっていた。もう一度洋七に会ってみたい、いまでもそう思うときがある……。

（マミヤ狂四郎）





2章/これが21世紀の盆栽遊びだぜウヒヒ



次世代の盆栽遊び――

骨董ゲーム改造へようこそ

その昔、1986年ごろ、ファミコンディスクシステムというものがあった。なにを隠そう、当時ゲーム機のシェアを支配していたダースベイダー・任天堂が言いだしっぺという、ガキ大将の提唱する半ば普及を約束されたシステムだった。高価なROMカセットを使わず、クイックディスクという安価でしょぼいフロッピーもどきのメディアを使用して、**世界の子供たちに安価で良質のゲームを!**、という偽善的な理想に燃えた規格だったが、あえなく撃沈。いったいなぜだろう。

ディスクシステム用には、任天堂から早々に「ゼルダの伝説」そして「メトロイド」など、これだけのために1万円以上するディスクシステムをそろえてもよいと思わせるだけの良質なソフトが、景気づけのためにいくつか発売された……が、その他のソフトがこれを**ブチ壊しにするほどクズだった**のが致命的だ。

さらにディスクとはいえ、しょせんモドキに過ぎないクイックディスクは、一括読

み込み方式が基本。1回のディスクアクセスには必ず8秒ほどかかり、発育期の子供たちに大変なストレスを与えた。

つまり、ディスクの利点を生かしたソフトほど、**気が狂うくらい待たされ続ける**というわけ。

そんでもって、任天堂製のディスクライターを設置してあるお店まで生ディスクを持参すれば、1回500円で好きなゲームに書き換えてもらえる……という、最も素晴らしく聞こえる特典は？……

実際のところ、新作ゲームがなかなかライターマシンに登場せず、書き換え可能なのは、カネをもらってもあまりやりたくないようなショボいタイトルばかり。

そのほか、ちょうどディスクシステムのコマーシャルがテレビで流れ始めた頃、世界的にROMの製造コストが一気に値下がりしたり、**色々なオトナの事情**が重なって、ディスクシステムはその短い春を終え、1000円で場末のフリーマーケットに並ぶこととなった。

そんなディスクシステムが、つかの間全盛期だった瞬間、秋葉原でレンタルソフト店を経営したり、コピー関係のアプリを連発していた怪しい会社・アイツー(*1)から、2つの怪しげなソフト「子育てゴッコ」と「ジンゴロー」が発売された。



1＊アイツー：「ジンゴロー」のほかにも、RPGの数値データを変えることができる「トンカチエディター」、背景データを書き換えることのできるツール「ホクサイ」、クイックディスクにROMをコピーできる「創世記ファミー」などを発売。現在はパチモノ路線を半ば放棄し、ごく普通のパソコンショップとして静かにたたずんでいる。イメージキャラ・電脳ウルフがいまでも瞼にこびりついている。

どちらもディスクシステム専用だが、記録されているクイックディスクが任天堂純正ではなく、謎のアジア製(*2)というところからしてウサン臭い。「子育てゴッコ」は決して育成シミュレーションなどではなく、ディスクシステム専用のコピープログラム。そして「ジンゴロー」というのは、ディスク版ゲームソフトのキャラクターを自分で好き勝手に書き換えられるという、当時としてはなかなか興味深いしろものだった。

マリオをオバQにしたい……。ナンセンスな欲求だが、暇をもてあましていたこともあって、さっそく秋葉原はアイツー本店で「ジンゴロー」を購入。パッケージにはハンマー片手の、真面目な童貞苦学生といった感じのメガネ青年が描かれている。いかにも「ジンゴロー」的キャラクターだ。

家に帰ってうすっぺらいマニュアルを読むと「ディスク内のデータを破壊する可能性があるので、必ず「子育てゴッコ」等でバックアップしたディスクをお使いください」との注意書きが……**そんなカネねえんだよ！**

というわけで、さっそくマリオのキャラを書き換えるべく、操作性の異常な悪さを我慢しつつ、5分ほど試行錯誤すると……すでにオリジナルのデータは破壊され、ディスクはただのゴミになっていた。

ウオオリャーアアアア、たったの5分間で！

2＊謎のアジア製ディスク：ディスクシステム用のクイックディスクには、海賊版防止のため「NINTENDO」という刻印がされており、ここの突起が符合しないクイックディスクはそもそも使えなかった……が、符合チェック箇所のみいびつに凹ませた海賊版が間もなく登場。野望は挫かれた。



ジンゴローはそれを契機にお払い箱になった。しかし、それから10年以上たったいま、かのジンゴローと同じことが自宅のパソコンで何のリスクもなく可能になってしまったのだ。しかもディスク版のソフトだけではなく、エミュレータで動くあらゆるROMの内容を書き換えられる！　まったくよい時代になったものだ……。

というわけで、長い前置きだったがさっさと本題に入ろう。

もちろん、本物のディスクやROMの内容をいちいちパソコンに吸い取っていたらキリがないので、邪道だが改造素材はインターネットの**アノへんやソノへん**で流通しているロムイメージデータを使う。

そして改造には、フリーのファミコンエミュレータ・NESticle(＊3)を使用する。バージョン0・42以降のNESticleでは、ロムデータに記録されたキャラデータの表示・変更が単体で可能だ。

さて、NESticleから好きなゲームのイメージファイルを読み込んだら、メニューからパターンテーブルを表示させる。すると、ジンゴロー世代には懐かしい、**色がメチャメチャのキャラクター集合体**が画面に表示される。ここの内容を変えてやると、それがゲームにも即反映されるというわかりやすい仕組みだ。



3＊フリーのファミコンエミュレータ・NESticle：
http://www.zophar.net/NESticle/

この間にも画面背景ではゲームが動いているので、ウザかったらポーズしておくといいだろう。

ここでの操作は、マウスの右クリックでパレット変更。左クリックでキャラクター選択だ。ちなみに大きなキャラクターは小さなパーツの集合体なので、個々のパーツごとに新たなるドット絵を描かなければならない。おまけに、パターンテーブルに変更するべきキャラが整然と並んでいる可能性はほとんど期待できず、足と頭のパーツがデタラメにあちこちに散乱しているさまを見たりすると、**それだけで改造する気など失せてしまう。**カラーは4色しか使えないし……。

はっきりいって根気があって気が長くて、しかも暇人でなければつとまらない、ある種の苦行ともいえる。

しかし、そんなハードルを乗り越えてハッククロムを1本でも世に送り出せば、あなたも貴族の仲間入り。**限られた秘密社交クラブへようこそ!**、というわけで、一部マニア社会での名誉白人の称号と、周りからの尊敬、そしてささやかな名誉を手にできるだろう。

僕が中学生のときに、ゼビウスというゲームが大ヒットした。そのときクラスの約半数は授業中に色鉛筆で方眼紙にゼビウスのキャラクターをドット絵で黙々と描いて

いたものだが（少し誇張気味）、**あの苦労がいまここに実を結ぶのだ。**

そんなわけで、うまいことキャラクタを書き換えられたら、変更内容をWeite-VROMコマンドでセーブする。これで初歩のハックロムは完成である。友達に自慢して軽蔑され、苦渋を味わうのもいいだろう。そしてそれでもエネルギーが余っていたら、バイナリエディタで文字列を書き換えたり、パラメータをいじって主人公の歩行速度を落として障害者設定にしてみたり、さらに気合いの入った盆栽遊びの世界に突入しよう。本書じゃそこまでフォローできないけどね……。

（クーロン黒沢）



ファミコン裏流通
ゲームあれこれ
名作改造骨董ロム・レビュー!

もちろん、自分で作るのがハックロムの醍醐味である。だけどちょっと面倒臭いし、作る前に他人の作品を見て勉強することも必要と思われる。ちょうどいい具合に、作ったハックロムをインターネットで公開しているヤバい人も世界中に散らばっているので、ここはひとつ参考にさせてもらおう。

そう、ファミコンハックロムは世界共通! もちろん、ロムイメージそのものをネットで公開するのはモロに違法なので、通常はロムにあてるための改造パッチファイル(IPSパッチという)(*1)のみを配布する……というパターンが多い。

今回は良質なハックロムを中心に紹介しているが、海外のアングラサイト・エミュレータサイトには、本当にどうしようもないハックロム、人種差別ロム、精神病ロムなど、紹介したくても諸般の事情により削除されかねないオトナのゲームがゴロゴロ転がっている。

デカチンマリオや首無し血だらけくにおくん。ビッチテニスなど、これらはまた別の機会にまとめて紹介しようと思う。もし、どうしても実物が見たかったら……

「nes」「ips patch」「hack rom」

以上3つのキーワードで日本・海外のサイトを検索すれば、目的のブツはすぐに見つかるはず。成功を祈る。

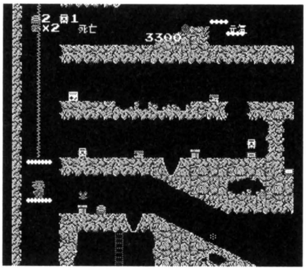
(鶴見和昭)

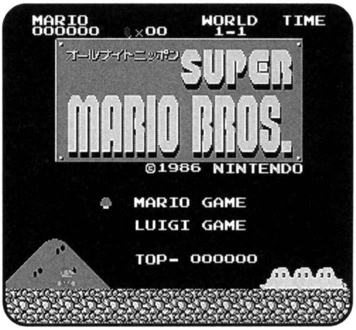
1＊フリーのIPSパッチ生成ソフト・WINIPS:
http://ww4.tiki.ne.jp/~shinosou/smbpri/winips.zip



マリランカー

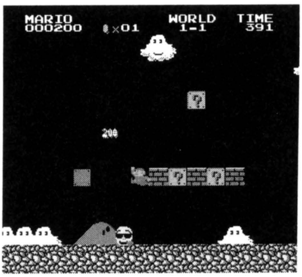
謎のハックロム制作グループツルミ堂作（日本製）。某雑誌のゲームオタク達の人気投票ベスト１を誇るバカゲー・スペランカーのハック。主人公をご存じ人気キャラ、マリオにするだけで別のゲームになるから不思議だ。しかし強引な日本語化で、妙にアジアンな感じに仕上がっている。やはりマリオが主人公になっても、死ぬ。アイテムがファミコンになっていたり、パックンフラワーが土管から出てきたりと細かく変更されている。





オールナイトニッポン版 スーパーマリオ

ディスクシステムでリリースされていた非売品のソフトを、あくまでも改造で忠実に再現。本物はプレミアがついてしまい高くて手が出ないけど、どうしても雰囲気くらいは味わいたい……というパチモノ指向な人には渡りに船。クリボーはサンプラザ中野、パックンフラワーはタモリ。そしてゴール後のフラッグはフジテレビマークと、よくここまで作り込んだなと感心させられる作品。





はまだの名探偵

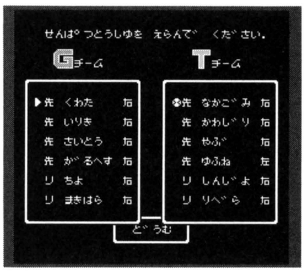
'84年ごろ、ナムコよりリリースされたいにしえのキャラクター選択式アドベンチャーゲーム「さんまの名探偵」を完全ハック。ダウンタウンの浜田を筆頭に、キャラもセリフもオールチェンジ。ただしシナリオ構成に変化はないので「さんま」の攻略チャート（今そんなもの持ってる奴いるのか？）がそのまま使用可能である。ゲームの目的は相方（松本）を殺した犯人を探すこと。登場人物はダウンタウンの２人の他に、パフィー、奥田民生、華原朋美、猿岩石、篠原ともえ、今田・東野等が登場する。国産ハックロムのなかでは最も知名度が高く、気合いが入った作品。

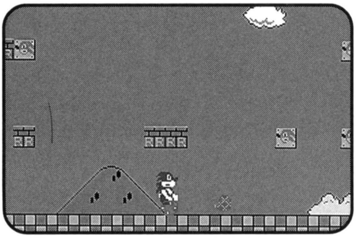




ファミスタ'99

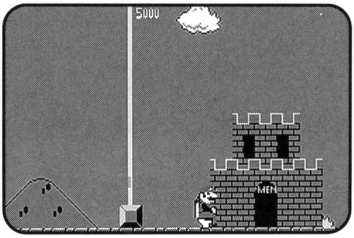
野球ゲームの定番「ファミスタ'88」の完全ハック。本家ナムコがファミスタの最新版をいつまでたっても出してくれないので、野球好きなゲームマニアたちが待ち切れずに勝手に新作を出してしまったというマニア恐るべし！　な作品。セ・パ12球団のデータは今年の選手名鑑を参考にしてあるため、実際のデータとほぼ同じ。そこまでやるか。さらにセ・パ12球団の他に秋葉原マジコン店連合軍など、ほとんど自己満足といっていいオリジナルチームまで登場する。





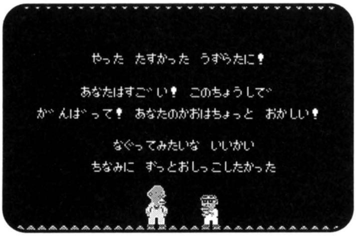
スーパーソニック

　スーパーマリオのキャラをソニックに書き換えた作品。作者はタイ・バンコクの太り気味な高校生。もともと絵のセンスがないらしく、キャラクタはヘボい。ソニックといわれなければ、なんだか分からないほどである。しかし最近、なぜかこのヘボゲームがカセットに焼かれ、アジア各国に出回っているというから恐ろしい。



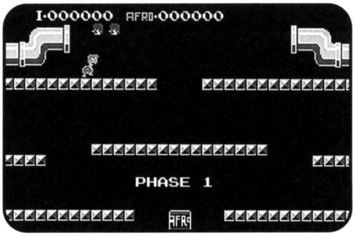
トイレットマリオ

　なんとアメリカ製。敵キャラは全部うんこ。屈折した男の心の内が再現されていて興味深い。ピーチ姫も不細工にリメイクされており、マリオの顔色も悪い。遊んでいるだけで気分が悪くなる味の無い1本だ。



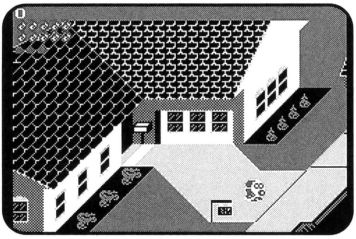
うずら谷くん

「まんがライフ」（読んでる人いるのかなあ?）等に連載中の「かいしゃいんのメロディ」のキャラクター、うずら谷が主人公というマニアックな改造ロム。原作は朗らかなのに、なぜか下品にリミックスされているのがミソ。これはレアだ。



アフロマリオ

　マリオもルイージも敵キャラも、全員アフロヘアーという意味深な1本。作者は他のゲームも次々とアフロヘアーに改造している業界では有名な人物。よほどアフロに思い入れがあるのだろう。



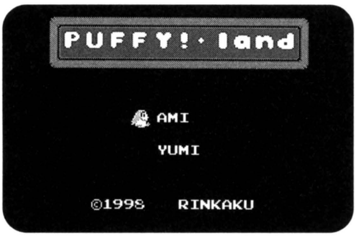
ペーパーボーイマリオ

知る人ぞ知る新聞配達ゲーム「アタリ・ペーパーボーイ」のハックロム。タイトルも変わってないし、テキストも変化なし。どうしてこんなもの選んだのかというと、あまりにもマイナー過ぎるから。



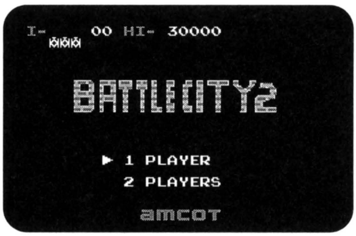
ルイージウォーズ

アスキーから'84年に発売された戦略アクションゲームの名作「ボコスカウォーズ」のハックロム。任天堂に冷遇されつづけ、最近は存在すら否定されかかっている状況の地味キャラ、ルイージを前面に押し出している。



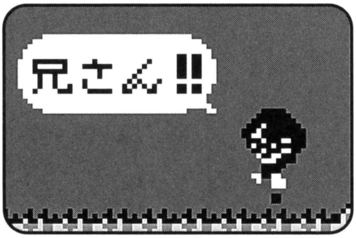
パフィーランド

元ネタは'85年ハドソン発売のアクションパズルゲーム「バイナリィランド」。単にキャラクターをパフィーに替えただけにもかかわらず、知名度は高い。パフィー（無許可使用）のおかげかな？　某雑誌で紹介されたのがきっかけで、勘違いしたパフィーのファンが、アキバの露店にいまでも買いに来るとか。



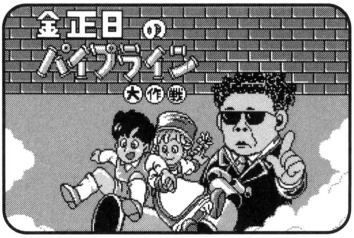
バトルシティ 2

'85年にナムコが出した「ワープマン」をハックしたもの。最初はまったく気づかなかった。バトルシティの海外版っていわれたら信じてしまいそう。ゲーム自体がよく似ているためか、違和感なくプレイできるので面白い。



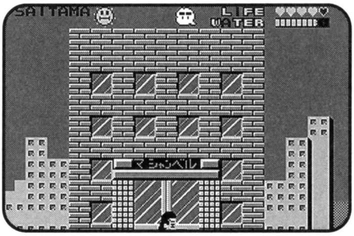
スーパー露店ブラザーズ

怖いもの知らずの暗黒ハックロム、ついに登場！ パチモノマニアにとっては、ミッキーマウスやドナルド並みにメジャーなキャラ、秋葉原で露店を営む“例のオニイサン2人組”が主人公として登場。武器はパチモノカセットという不気味な設定が素晴らしい。



金正日のパイプライン大作戦

それ自体とてもレアな'91年徳間書店発売のゲームソフト「ゴルビーのパイプライン大作戦」を、北朝鮮的にアレンジしたもの。タイトル画面で笑って終わりの1本だが、やはり登場するのが“あの方”だからか、アングラサイトを中心に人気と知名度は高い。



ツルミさんの守るも攻めるも

スーパー露店ブラザーズと同時期に登場したハックロム。いきなり知らないところで出ていたので筆者もびっくりした。スタート地点が埼玉で、マシャンベル（筆者の住んでいるビル）という建物から主人公が出てくるなど、マニアックな設定のハックロムに仕上がっている。

特別寄稿：88エミュレータで太古の同人ソフトを遊ぶ

1986年から3〜4年のあいだ、同人ソフトという静かなムーブメントがあった。

中学生や高校生にもなって彼女もおらず、日がな一日オナニーとニキビつぶしに命をかけていた少年たちが、自分で作ったパソコンゲームを、月に一度行われる集会で場所を借り、声を枯らして売りまくったあの日……。

毎月一度開催されていた代表的な同人ソフト即売会「パソケット」では、開催するたび、会場前に汗くさくて長いオタクの行列ができ、興奮状態のマニアが**奇声をあげたり踊ったり**して、善良な近所の人を恐れおののかせていた。

手堅いエロゲーを作って1回の即売会で100万近く稼ぎ、**風俗女にムチャクチャなプレイを強要**して女への恨みを晴らした勝利組もいれば、わかりにくいマニアックなソフトを1年もかけて作り、たった5本しか売れず電車代にもならなかった敗者も



いる。

余談だが、自分も高校時代のほとんどを同人ソフト制作に費やし、オタクたちに**詐欺だのクソだの**言われながら世の中の仕組みと資本主義を学んだものだ。

そして、作り手側が安易なＣＧ集ばかり出すようになり、客が徐々に興味をなくしていくにつれ、以前あったヤケドするような会場の熱気はなくなり、即売会はすたれていった。

いまでも同人ソフトを作っているサークルは少なからず存在するようだが、昔と比べて即売会の数は減り、客も少ないので苦労は並大抵ではないだろう……。

そんな同人ワールドで圧倒的なシェアを誇っていたマシンが、いまは亡きＮＥＣのＰＣ－８８０１。通称ハチハチである。そんなハチハチがエミュレータになって戻ってきた。押入れに眠ったハチハチ対応のゲームがいま、ウィンドウズマシンでプレイできる！

ただしこのハチハチエミュレータ・Ｍ88を実行するためには、本物のハチハチから吸い出したＢＩＯＳ(＊1)のイメージデータが必要だ。

吸い出しに必要なモノホンのハチハチ。数年前まではゴミのように転がっていて、88円とか冗談みたいな値段で売られていた時期もあったようだが、いまでは若干入手

1＊ＢＩＯＳ：
電源を入れたあとでパソコンをイニシャライズするプログラムのことで、マザーボード上の特別なＲＯＭチップに書き込まれている。パソコンを起動すると、ＢＩＯＳはパソコンを使うための下準備を整える。最近はＢＩＯＳを破壊するウィルスが出回っていて、これが発病してＢＩＯＳが壊されると、もはやパソコンは起動せず、マザーボードを交換しなければならない……というわけで、けっこう重要なもの。

難易度が上がっている。だが、インターネットで**そのへん探せば出てくるよ**とは立場上言えないので、どうぞこまめに中古パソコン屋をチェックして実機を手に入れてほしい。健闘を祈る。

そして、88のゲーム(5インチ2D)をそのまま遊ぶためにはもうひとつ、いまや超入手困難となった**5インチのディスクドライブ**が必要となる。いまや5インチのドライブなど、香港でもなかなかお目にかかれない……。

友人の下条君は、5インチドライブ購入のためだけにタイまで出向き、100軒近くものショップが集まるITモールで1台だけ売られていたドライブをゲットした。

そしてその下条君の主宰するホームページには、黄金期のハチハチ用同人ソフトが作者の許可を得てイメージファイルとして置かれている。これなら、ダウンロードしてエミュレータで動かすだけでオーケーだ。

このホームページには、高校時代、**クラスで孤立してギリギリの精神状態**だったときのわたしが作った捕虜拷問ゲーム「拷問マスター」もアップロードされている。よかったらどうぞ。

(クーロン黒沢)



●参考リンク

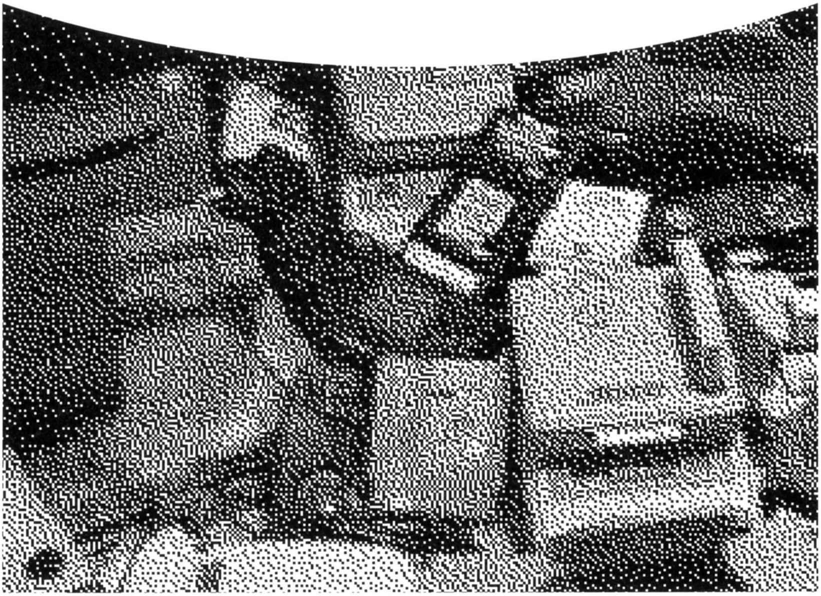
＊88エミュレータ入手場所・M88 NO PAGE
http://www.remus.dti.ne.jp/~cisc/m88/index.html

＊ポッチン下条提供・88お蔵出しページ
http://www.kumagaya.or.jp/~shimojo/

＊M88によるエミュレータ体験記
http://www.kiwi-us.com/~ohta/pc88/emu.htm



3章/わがニセファミコン人生に悔いなし!



プレステ型ファミコン、ロクヨン型ファミコン、果ては"動くファミコン"まで……僕の人生ニセファミコン

ファミコンをはじめとする日本産ゲーム機は世界的にも人気があり、従ってニセモノも数多い。

「本物ない……コピーある……」

バンコクの某ファミコン屋のおやじが操る唯一の日本語である。貧富の差が激しくカネに執着心の強いアジアの人々は、品質よりもまず価格にこだわるので、安ければコピーでもなんでもオーケー。従って、ドリームキャストが売れ残り、プレステ2が発売されようとしているいまも、バンコクの裏通りにある工場では、さほど元手もかからず、高度な技術力も必要としない**ファミコンのニセモノ**が、いまだに製造されているのであった。

ただのファミコンじゃさすがに厳しいだろうと、プレステやニンテンドウ64の箱を型取りして、まぎらわしいマシンを市場に送り出すのはかまわないが、許せないのはそれを売る人々、特にこすっからい観光地の露店の連中だ。

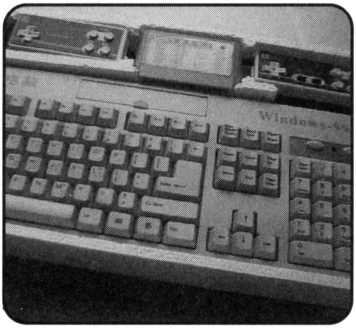
子供の誕生日プレゼントを探しにきた、ゲームにうといお父さんや、バンコクをうろつく素人外人に、本物と偽って**プレステに似たニセファミコン**を売りつけることもあるという。

「ほら、お前の欲しがってたプレステだぞ！」

「ワーイ。お父さん大好き」
「頼まれてた**ダンスダンスなんとか**も、別の店で買ってきたからな」
「お、お父さん！　**こっこれプレステじゃないよ……**」
「えっ……ちょ、ちょっと安かったからおかしいと思ったけど……」

幸せな家庭を一瞬にして破壊しつくす、恐怖のニセファミコン。
バンコクの怪しい商店街・サパーレックは、世界中のニセモノを集めたニセファミコン博物館のような充実ぶり。相場はどれでも2千円前後と安い。
ここでは、そんなニセファミ・コレクションのなかから、語るに値する機種のみピックアップして紹介する。

（鶴見和昭）





リトルコム

キーボード内蔵のファミコンは、かなり前からアジア全土で売っていたが、リトルコムシリーズはそれらと一線を画している。

この手のマシンはたいてい「ファミコン」プラス「ファミリーベーシック」（ファミコン用ロムカセットと付属キーボードで、簡単なBASICプログラムで動くゲームが自作できる、というのがウリで84年に任天堂が発売した大失敗作）というパターンなのだが、リトルコムはオリジナルで機能強化された「ジーベーシック」を搭載。ブラインドタッチ練習ソフトや音楽ソフト、果てはワープロソフトまでついている。しかし、リトルコム用のプリンターはどこにも売ってないので、文字を画面で見て楽しむだけなのだが……。

僕が持っているのはオールハングルの韓国仕様だが、英語版・タイ語版のリトルコムも「ウィンドウズ99」というパチ臭い名前で販売されている。

ミンテンドウ64

ニンテ○ドウ64の形をしたタダのファミコン。そう、スーパーですらなく、普通のファミコンである。大きさも作りもコントローラーまで本物そっくり。ちなみにコントローラはN64と同じく四個まで接続できるが、しても仕方ない。

１メートル先からでは本物と区別がつかないほど。外箱までそっくりで悪質極まりない。しかし、どんなに外観が似ていても、動くゲームは「ハイパーオリンピック」とか「ドンキーコング」どまりである。





ABC－999

こいつはスゴい。合体モノの最終段階である。なにせファミコンとミニ四駆が合体した、動くファミコンなのである。

しかも、ファミコンで遊んでる最中に走らせると、繋がっているケーブルがすべて抜けてしまうというオマケつき。ゲーム中は絶対走行禁止！　しかし走るといってもコントロールできるわけでもなく、スイッチ入れたが最後、どこまでも真っ直ぐ突き進んでゆくのだ……。

モダンメイト

セガと任天堂が夢の合体プロジェクト。見た目はただのコントローラーだが、本体左上をよく見ると、なにか妙な差し込み口が２つもある。なぜ２つなのか？

そう、じつはこれコントローラーではなく、ファミコンとメガドライブ両方のゲームが楽しめてしまうという、超法規的ゲームマシンなのであった。

触り心地もよく、しっかりした作りだが、惜しむべくは付属の２コンが本体兼用の１コンに比べ、しょぼすぎるという点のみ。１コンがゲーム機本体を兼用しているので、当然リセットボタン等もすべて１コン側のみ操作可能。したがってリセットの権利も１コン側のみあり、これがファミスタでの初球ホームラン、パチモノ格闘ゲームでピンチの時などに素晴らしい威力（強制リセット！）を発揮する。

最近は、この手の複数マシン合体シリーズがアジアで次々とリリースされており、最強に極悪なものになると、スーファミとメガドラとファミコンの日本版とアメリカ版。合計６機種が動くという、ミラクルカンフー阿修羅（１９７頁参照）も真っ青の合体モノまで発売されている。



プリマステーション

ハムみたいな名前だが、こちらはプレステそっくりで、しかもスケルトンカラーと、ちょっと暴走しすぎた模様。キレイなだけが取り柄のマシンで、マニア受けはイマイチ。



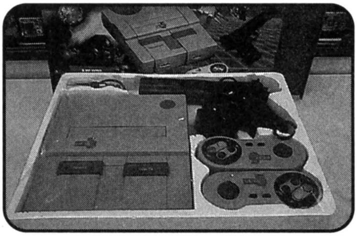
ポリイステーション

名前の通りプレステそっくり。もちろん外箱も瓜二つなのはいうまでもない。日本の某マニアショップで、レジの横に飾ってあったこのパチモノを、アホなバイトがプレステと間違えて客に売ってしまったというエピソードがあるほど、そっくり。売る方も買う方もどうかしてるが、それくらい似てるということか。



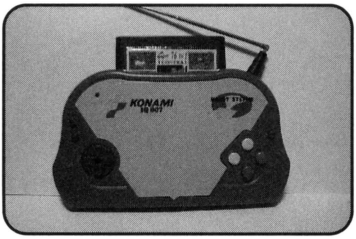
メガパワーネオ

メガドライブ2にそっくりのファミコン。だからどうした！　これと同じケースで、８８８インワンのカセットが本体に内蔵されているモデルもある。しかしゲームは14本しか入っていない。



ベータファイブ

スーファミそっくりのファミコン。使い勝手は超良質。しかも新型のファミコンやＮＥＳ（アメリカ版ファミコン）の純正コントローラーが使えるという変換コネクタ付きで、サービス満点。しかししょせんはニセモノである。



小天才ＩＱ－９０１

テレビと接続するのに、汚らしいケーブルは不要。トランスミッター内蔵で映像電波を直接テレビに飛ばして快適プレイが楽しめる。

ただしこれ電波が強すぎるのか、電源を入れると、隣の家のテレビにまでグチャグチャのゲーム画面を飛ばしてしまうので要注意！　近所迷惑きわまりない半欠陥マシンである。



ミニファミコン

スーファミに似たファミコン。しかし妙に小さい。本物のスーファミと並べると親子のようで情がわいてくる。ところでこのマシンのみ、本体に堂々と「ニンテン○ウ」のロゴが！　箱にも説明書にも入ってる……しかも「MADE IN JAPAN」と刻印するところなど、気合いが入っているのか、身の程知らずというか恥知らずというか……。



トライスター

少々毛色は異なるが、スーファミ専用の半違法周辺機器。

これをスーファミに差し込むとアラ不思議、スーファミでファミコンのカセットがそのまま使えるようになってしまう。

いまから５年ほど前に発売され、当時は秋葉原の裏通りでも堂々と売られていた。



ゲームベイビー

液晶ファミコン・ゲームアックスの対抗馬として登場したポータブルＴＶ型ファミコン。前者の携帯性に負け、あまり市場には流通しなかったが、機能的には史上最強のファミコンだった。ＰＡＬ、ＮＴＳＣ両対応テレビが内蔵されているうえにテレビやビデオのモニターとしても使えるので、これだけで３万円くらいの価値があると思う。残念無念。

キラ星のごとく現われ、
消えていった名機の数々……

アジア・マジコン史

かつて'92年ごろ、世界を制覇した任天堂のスーパーファミコン。日本国内だけで一400タイトルを超えるソフトが発売され、それにあわせてアジアでも寄生虫のごとく、ほとんど違法な使い方しか考えられない、半合法な周辺機器が数多く発売された。

なかでも台湾で作られた「マジックドライブ」という、ロムカセットのゲームをフロッピーに丸ごとコピーすることが可能という画期的なマシンは、値段がスーファミ本体より高価であったにもかかわらず、**通称マジコン**という愛称でアッという間にアジア全土へと広まっていった。

メーカー側はあくまでも「不慮の事故に備えて、カセットをバックアップするための機械です。違法コピーはやめましょう」と苦しすぎる言い訳をしていたが、**実際は違法コピーの温床**。

これまで元祖ファミコン用にも、生ロムにゲームをコピーするロム焼きコピー機が裏通りで売られてはいたが、そんなものを汗だくで使っているのはマニアだけ。

その点、スーファミ用のマジコンは操作も簡単で、記録メディアのフロッピーも安価でどこでも手に入る。というわけでアジアでは、マニア向けというよりも、お父さんがスーファミとマジコンをいっしょに買って子供にプレゼントする……という、ごく一般的なゲーム周辺機器として親しまれている。

香港では発売当時の'92年、マジコンのCMがテレビで放映されていたほか、ほとんどすべてのゲームショップでは、スーファミのソフトがフロッピーでしか売られていなかったほどである。それも1本100円とか200円とか、**ゴミみたいな値段で**……。

けっきょくプレステが本格的に普及するまで、さまざまな国のメーカーが競ってマジコンの互換機を開発し、そして消えていった。ここではそんな星の数ほど種類のあったマジコンの中から、数々の名機をピックアップして紹介する。

（鶴見和昭）

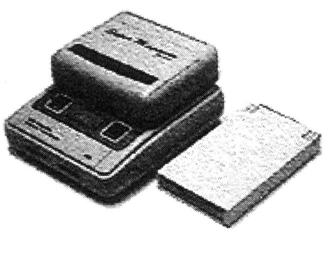


マルチゲームドクター（MGD）

◆日本で扱っていた業者：タイゲン貿易
◆全盛期の相場：フルセット13万円
◆RAM容量：8メガ
◆総合評価：高すぎ

スーファミはもとより、アタッチメントを換えることでメガドライブやPCエンジンのソフトもコピー可能。当時発売されていたソフトのほとんどがコピーできた。

ただ、記憶媒体が普通のフロッピーではなく、ファミコンのディスクシステムを使うというキワモノ仕様なのが致命的。もちろん通常のフロッピーも使えるが、PCと接続するのを前提としていた。





スーパーマジコン

◆日本で扱っていた業者：
タイゲン貿易
◆全盛期の相場：６万円前後
◆RAM容量：12メガ
◆総合評価：スーファミコピーマシンの原点

ＦＦＥ社（16頁参照）が世界に誇る元祖マジコン。パソコンとの接続端子がついているので、落としたソフトをパソコンに転送して解析・改造することもできた。

当時のマジコンはほとんど外付けドライブを採用していた。フロッピードライブがまだ高価だった名残りでもある。メモリは12メガと少ないが、もともと２枚のフロッピーを読み込む機能がなかったので増やしても無意味だった。

スーパーツイン

◆日本で扱っていた業者：
タイゲン貿易
◆全盛期の相場：フルセット30万円
◆RAM容量：不明
◆総合評価：もっと高すぎ

マルチゲームドクターシリーズの最高峰。各種アタッチメントを別途購入することで、スーファミ・ファミコン・ゲームボーイ・メガドライブ・ゲームギア・PCエンジン、なんと６機種ものソフトがコピーできた。

知名度も高く、香港のゲーム雑誌で何度も表紙を飾っていたが、値段があまりにも人をバカにしていたため、ほとんど売れていなかったように思う。



UFOスーパードライブ

◆日本で扱っていた業者：
ワークスポット（現ゲームテック）
◆全盛期の相場：６万円前後
◆ＲＡＭ容量：最大32メガ
◆総合評価：メニューは他機種のデッドコピー

ゲーム改造機能が初めて内蔵されたマジコン。ゴールドフィンガーと呼ばれる14桁の英数字を入力することで、ゲームを改造することができた。改造データ集が付属していたので、手持ちのゲームに飽きていたユーザー層に好まれていたようだ。



スーパープロファイター覇王

◆日本で扱っていた業者：
ＥＺドライブ
◆全盛期の相場：３万円近辺
◆ＲＡＭ容量：16メガ
◆総合評価：雇われ店長の復讐成功

タイゲンの元雇われ店長が香港まで行って探し出して来た新製品は、よりにもよって、ＦＦＥ社の開発スタッフを強引に引き抜いた香港ＣＣＬ社の呪われた自信作、プロファイターだった。

フロント部分には達筆な筆文字で「覇王」と大書きされ、適度なパチ臭さを醸し出している。また、あまりに熱暴走が多いので中を開けてみると、メインの基盤が見えないほどゴチャゴチャにジャンパー線がとばされていて、基本設計が甘いといわざるをえない。

ただ、値段だけは安いので香港ではそこそこ売れたようで、それを見て勘違いした輸入業者が次々と日本国内に持ち込み、あえなく玉砕していった。



スーパーワイルドカード

◆日本で扱っていた業者：
　タイゲン貿易
◆全盛期の相場：６万円前後
◆ＲＡＭ容量：最大32メガ
◆総合評価：マニア向け

　スーファミ後半期に登場した、プロテクトモードのカセットに対応したマジコン。パソコンとの接続もいままで以上に考慮され、ハードディスクからのデータ転送もスムーズ。
　ゲーム途中で特定の操作を行うと、どんなゲームでも強制的にセーブするという強制セーブ機能も話題になった。ただし今回はソフト開発支援マシンの色合いが強くなっているため、ピーコしてヨダレ垂らしながらゲームするしか能がない人民たちには不必要な機能が多すぎるような気もする。



スーパーディスク

◆日本で扱っていた業者：
　イベンターズジャパン
◆全盛期の相場：６万円前後
◆ＲＡＭ容量：16メガ
◆総合評価：怖くて書けません
　ロムカセットをスロットに差し込むだけで、なにもしなくても自動的にコピってくれるオートコピー、そして独自フォーマットで１枚のフロッピーに12メガまで書き込めたり、日本での評判はイマイチだが、妙な話題性があった。
　話題といえば、このマジコンを売っていたイベンターズジャパンという会社の出していた雑誌広告がスゴい。他社が死んでもいうことのできなかった最強の殺し文句「これで友達のソフトをコピーすれば、ソフトなんて買わなくてもオーケーダヨネー」が、堂々と４コママンガで書いてあった。さすがに多方面から苦情が来たようで、次号から４コマのうちオチの２コマが無理矢理塗りつぶされていた……（左はその復元）。
　もうひとつ。わたし（黒沢）は昔、一度だけイベンターズジャパンの代表者と会ったことがある。格幅の良い着流し姿の中年男性が現われ差し出した、極太筆文字で書かれた彼の名刺には……以下省略。


伝説的マジコン広告4コマ漫画
耳よりシアター
in タイランド
マミヤ
いつも不思議に思っていたんだ
ここにファミカセ入れて何するんだろう？
Nintendo
ゲーム屋のおやじ
ゲームの内容を吸い出すのさ
いいこと聞いたゾ


伝説的マジコン広告4コマ漫画
耳よりシアター
in ジャパン
マミヤ
マジコンってすごく便利なんだ！
あっ！マジコンじゃん！
ああ。
スーファミソフトがフロッピーに落とせる！
これってさァスーファミのソフトをフロッピーに落とすんだよね。
そうさ。今プレイしているゲームも実はコピー。
マジコンを持っている友達を見つけたら、
でもさ、なんか違法くさいよね？
交換しまくろう！
くさいよね！
にかっ





ドラゴンボーイ

◆日本で扱っていた業者：
ドラゴン研究所
◆全盛期の相場：５万円前後
◆ＲＡＭ容量：24メガ
◆総合評価：謎ばかり多い

カタチはＵＦＯに似ているが野暮ったい。ダサすぎて愛着が湧いてくるほど情けない。ちなみに本体カラーはグリーンとホワイトのサイケなツートンカラーで、ファミコン本体との違和感はすさまじいものがあった。

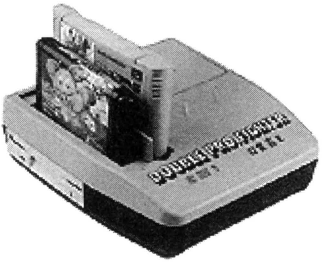
他のマジコンがスーファミのコントローラーで操作するのに対して、ドラゴンボーイには前面に３つのボタンがあり、これでコピーなどの基本動作を行う。そんでもって売っている会社の名前もスゴい。ひょっとしてバックレたときに、恥ずかしくて客に被害届を出させないようにする計略か？

ゲームドクターSF

◆日本で扱っていた業者：
コンセプト
◆全盛期の相場：５万円前後
◆ＲＡＭ容量：最大32メガ
◆総合評価：初のテレビＣＭ放映

機能は豊富だが、もともと香港市場をターゲットに作られたため、コピーしたゲームを遊ぶことを前提に設計されている。よって、自分でセコセコとカセットをコピるときには、どうしても操作性の悪さを感じさせられる。

しかし香港・台湾では爆発的な人気を誇っており、ついにテレビコマーシャルまで始める始末。周辺機器も充実していて、外づけのＣＤ－ＲＯＭドライブまで発売された。これをゲームドクターに繋げて、香港界隈で売っている「スーファミのソフトが全部入ったヤバいＣＤ」を入れると、ゲームの世界を征服したような気分が味わえたものだ。



ダブルプロファイター

◆日本で扱っていた業者：
　EZドライブ
◆全盛期の相場：４万円前後
◆RAM容量：24メガ
◆総合評価：両刀使い

　CCLの開発した、スーファミ・メガドライブ両方対応のバイセクシャルマジコン。ただしメガドラは１のみ対応で、カタチの違うメガドラ２に接続すると、見るも無惨な外観となり、見ている自分の心が傷んでしまう。

　メニューも英語と中国語どちらでもオーケーというバイリンガルで、機械の設計も素晴らしかった。どうして売れなかったのかな？



スーパーコムパートナー

◆日本で扱っていた業者：
　アムデックジャパン
◆全盛期の相場：４万円前後
◆RAM容量：32メガ
◆総合評価：安くて高機能

　マジコンが高値だった時代に、最低モデルが３万円以下という当時としては激安の値段で業界に殴り込み、見事価格破壊を成功させた記念すべきマシンである。

　使いやすい前面フロッピードライブ、電源を切ってもゲームのデータは本体に残るレジュームメモリー搭載、アクションリプレイやゴールドフィンガーにも対応。そして謎の拡張端子も装備されていて（拡張できるものはなにも発売されなかったが……）、ユーザーの立場にたった名機として、いまでも語り継がれている。





サイクロン

◆日本で扱っていた業者：
　サイクロンダイレクト
◆全盛期の相場：3万円前後
◆RAM容量：32メガ
◆総合評価：夢と現実の狭間

　マジコン世界の死神博士・ミスター西本が発案し、気の弱そうな香港人プログラマーを洗脳してマシンの設計をさせ、友人のタイ人デザイナーが業界一奇抜な型枠を作ったという国際的マジコン。
　ただ、1年近くも広告を出し続けたあげく、実際のマシンが広告のスペック以下だったこともあって、評判は芳しくない。
　独自の2メガフォーマット、OSディスクによるバージョンアップ、BMP画像の表示、IDE／SCSI機器の対応（結局は未対応のまま）など、カタログスペックは最強だが、夢と現実のギャップは大きかった。ただその志だけは認めてやりたい。夜逃げしちゃったけど……。

アルマver7.2

◆日本で扱っていた業者：
　タイゲン貿易
◆全盛期の相場：４万円前後
◆RAM容量：32メガ
◆総合評価：タイゲン最後のあがき

　FFE社に見捨てられたタイゲン貿易が、ヤケになって仕入れた謎の台湾マシン。いきなりバージョン7.2というところがまずうさん臭すぎる。
　プロテクトにもひっかかりまくり、しまいにはアルマでしか引っかからないプロテクトなんてものもあり、性能的にも最悪である。
　日本語メニューをウリにしていたが、パチ臭い台湾インチキ日本語で怪しさ大爆発。そのメニューはつねに下から上にスクロールしていて、希望のメニューが真ん中に来たときにボタンを押すという、理解不能の操作体系も混乱を招いていた。そんでもって、このアルマが死にかけのタイゲン貿易にトドメを差す結果となったのはいうまでもない（19頁参照）。



ミスターバックアップ・Z64

◆日本で扱っていた業者：
ポジティブエンタープライズ
◆全盛期の相場：５万円前後
◆RAM容量：１２８メガ
◆総合評価：ZIPドライブ搭載！

PCパーツの主要生産国・台湾から、ZIPディスクを使った新しいマジコンが登場。カセットをピーコするために、わざわざパソコンと接続しなければならず、なおかつゲームのたくさん入ったCDを入れるためだけのドライブを内蔵するなど、最初っから極めて違法色の強いドクターV64と比較すると、Z64はあくまでもZIPディスクとのやりとりのみに機能が制限されている。ちなみに一枚のZIPには、64メガビットのゲームを10個程度保存することができる。

これまで互換性が甘く、ニンテンドウ64用の各マジコン間でファイルの互換性がまったくなかったことを踏まえて、最新バイオスのZ64からは、本体内にオートコンバート機能を内蔵。完全互換を実現した。ただ、PCとのリンクはできない。

メーカー海外担当部長の劉氏に問い合わせたところ「違法性の高い使い方しか考えられないのでリンクは見送った」とのこと。そのかわり、ゲームボーイやメガドライブのゲームを、Z64を介してニンテンドウ64で遊べるようにするためのエミュレータソフトを開発しているという。そっちのほうがよっぽど違法性高いと思うのだが、世の中、一筋縄ではいかないものである。



ドクターV64

◆日本で扱っていた業者：
バングジャパン
◆全盛期の相場：５万円前後
◆RAM容量：128メガ
◆総合評価：N64マジコン世界標準機

ニンテンドウ64初のマジコン。本体にはCDドライブしか内蔵されてないので、ゲームの吸い出しにはPCとの接続が必要。ただしチューチュー汗かいてカセットから吸い出してるのは日本人だけで、海外の仲間はみんな違法なゲーム詰め合わせCDを買ってスマートにプレイしているようだ。

香港を中心に、アメリカ・ヨーロッパではかなり普及しているようだが、日本ではニンテンドウ64自体の人気が薄いため、あまり出回っていないように思える。

まったく関係ないが、世界初のビデオCD再生機能付属。いまでも本体だけでVCDが再生できるのはこのマシンだけ。

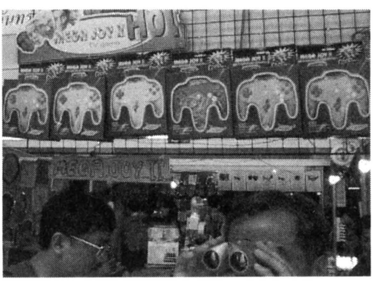
タイの子供に大人気！
インチキマシン「MEGAJOY」とは……

ニンテンドウ64付属コントローラそっくりの外観に、いにしえのファミコン本体とインワンカセットを内蔵。それが**夢の（？）アジアマシン・メガジョイ**である。内蔵されているのは、ファミコン全盛時代の懐かしいソフトばかり。タイトル一覧を見ただけで思わず目頭が熱くなる。さらにその1/3が水増し用のインチキタイトルという点にも注目したい。

つい昨年（'98年）ごろ、日本のマニア間でも支持されたが、スーパージョイ3という類似品の登場により、あっという間に消え去った感がある。しかし、タイでは未だ人気爆発中。従来から市場に居座っているニセファミコンを蹴散らして、逆にこれから大ブレイクする兆しをもみせている。

そしてついに、あの東急マーブンクロンデパート内に、メガジョイ専門ショップが誕生した！





これがメガジョイ専門店だ！

「邪魔臭いカセット、邪魔臭い本体よ。さようなら」

パチモノのくせに、やけに自信満々な広告コピー。本体内にたくさんのゲームを内蔵しているのでカセット要らず、そしてテレビへはメガジョイから直接ビデオケーブルで接続できる。外観は限りなく安っぽいが、タイでの売値はけっこう張っていて、プレステのピーコCDが20枚も買えてしまうほど。

というわけで、メガジョイ専門店の前には、カネの無さそうな子供たちがつねに物欲しそうな目つきで、何名かたむろっている（それもなぜか毎日同じ子供が、だ）。そうこうしている間にも、もともとファミコンの類似品であるメガジョイの類似品が登場する……。そう、この世界に著作権など存在しない。**マネした者が勝ちなんだよ！**

こうした類似品のなかには、明らかにドリームキャストのコントローラから型をとったと思われるニューバージョンもあった。ただ、内部に収録されているソフトはメガジョイとほぼ同じか、**それよりも少しショボい。**

しかし、韓国から登場した「スーパージョイ3」だけはちょっと違う。メガジョイ



地べたでプレイ





にはなかったカセット挿入口があるので、本体内蔵ソフト以外のカセットも遊べてしまう。

さらには質の良い68インワン内蔵。おまけに光線銃や付属2Pコントローラまでついていて、韓国価格約4千円。ちなみに日本では約1万円で取り引きされているが、結果的にこのスーパージョイ3がメガジョイを駆逐し、日本での引導を渡す役を担った。

アジアでは一見すると、従来からあるニセファミコンの狭い市場をメガジョイが奪い、敵対しているように見えるが、実際はお互い助け合い精神で発展している。そのよい例が99年夏以降に登場した、通称**「平和的メガジョイ」**である。

これまで、こういったコントローラ型ニセファミコンの小型化には限界があるとされていた。なぜなら「ファミコン用のカセットが刺さらなければばならない」という大前提があったからである。

この大前提を捨て去って内蔵ソフトだけで勝負するならば、さらなる小型化が可能になるが、**しょせんは10年以上昔のソフトばかり。**それではすぐに飽きられてしまうのがオチである。

この問題を解決したのが、平和的メガジョイ（仮称）。なんと、ゲームボーイ用カ



本体横からテレビへ



セットを二周りほど大きくした、新しいカセットの規格を作ってしまったのだ。**当然、任天堂には無断で！**

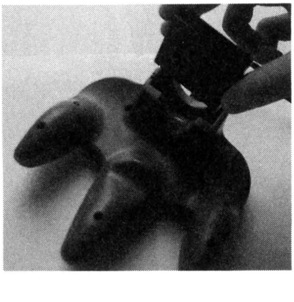
もちろん中味はただのファミコンカセット。ラベルには「ダブルドラゴン」「マリオブラザース」など、よく知ったゲームタイトルが印刷されている。現在7種類ほど出回っているようだ。

しかし、新メガジョイでしか使えないというのが厳しい……と思っていたら、専用アタッチメントでファミコンでも遊ぶことができるらしい。さらにはノーマルファミコン用のカセットを、新メガジョイで遊ぶための変換アタッチメントも用意されている。

無駄なところに素晴らしい技術を惜しげもなく使うあたり、**マニアック**。今後、アジア方面でリリースするカセットは、皆このミニタイプに移行される見通しが強い。

（鶴見和昭）

●参考リンク
＊POSITIVE
http://users.jp.tri6.net/~tsuru/



これが独自規格カセットだ！



完全保存版

パチモノカセットヒストリー'99

これまで長きにわたりタブーとされてきたが、ようやく最近、節操のなくなった……いや、勇気あるゲーム雑誌のいくつかのページで、アジア系の海賊版ゲーム紹介を目にするようになった。

これらはオリジナルのメーカーに無断で、勝手に作って勝手にリリースされたもの。モチロンすべて**存在自体が違法**である。そして、どれもみな、解析しつくされたひと昔前のゲーム機用にリリースされるのが特徴だ。

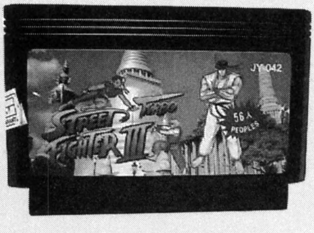
ほとんどが旬を過ぎた腐りかけの鮮度とはいえ、イリーガル以外のなにものでもないこれらの違法ソフトを大々的に紹介できる時期が来たのかと思うと、あふれ出る涙をこらえるのが精いっぱいというところ。**なかにはイイのがあるんですよ……**。

というわけで、そのへんのゲーム雑誌で紹介されているパチゲーの記事を見ると、メーカーに気を使っているのか、及び腰なのか、内容について詳細に述べているものがほとんどないのもまた現実。

そこで我々は、アジアの神秘になりつつあるこれらのカセットのなかから、完成度の高いもの、**特にセコいもの**等をピックアップして、後世に残るよう、詳細にレビューしたうえ、謹んで国会図書館に納めるものである。

（鶴見和昭）

（注：●→元祖ファミコン用／○→スーパーファミコン／◆→ゲームボーイ／◇→メガドライブ）

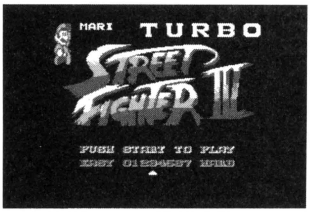


ストリートファイター3・ターボ56人版

マニア価格：８千円
入手難易度：★★★☆☆
プレミア度：★★★☆☆

これが出た時期売っていた「スト2もどき」の作者たちは、対戦相手の数が多ければ売れると勘違いしていたらしく、キャラの数ばかり16人版……32人版……と、ひたすら増殖を続けた。その最強バージョンがこれ。

口ヒゲをつけたリュウや、黒人とハーフになってしまった春麗、メガネをかけたブランカに加えて、なぜかマリオも登場。総勢56人による壮大なバトルが繰り広げられる。やる気にはならないがね。（●）



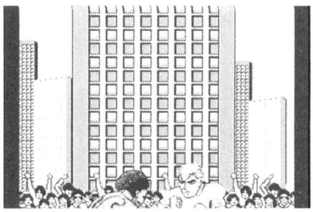


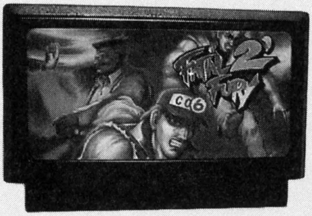
マスターファイター2

マニア価格：６千円
入手難易度：★★★☆☆
プレミア度：★★★☆☆

これぞ、パチカセの歴史に残る元祖ニセ「スト２」だ。このソフトがバカ売れしたことがきっかけとなり、ああいうの作ればカネになるずら……と、真似する奴が続出。数々の名作を誕生させた母のような作品である。

スーファミ用正規版ではカットされていた、スト２アーケード版のオープニングデモまで完全再現。しかしながら肝心のゲームバランス・キャラの動きなどは最悪だ。登場キャラはリュウ・春麗・ザンギエフ・ガイルの４人とかなり省略され、描き込みも甘い。（●）





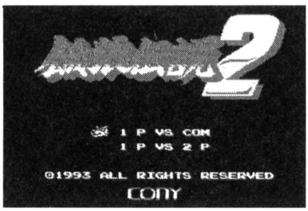


餓狼伝説２

マニア価格：５千円
入手難易度：★★★☆☆
プレミア度：★★★☆☆

当時人気だったアーケードの格闘ゲーム「餓狼伝説２」を、無許可でファミコンに移殖した作品。

最初はスーファミ版をベースにしているのかと思ったが、オープニングデモがしっかり入っているところをみると、アーケード移植をめざしたのだろう。しかしゲームの出来は誉められたものではなく、難易度は宇宙一、必殺技は100年に１回出るか出ないか……ガードの判定もデタラメと、すごくいい加減で旅情をかき立てる（意味不明）。（●）



快打伝説

マニア価格：１万円
入手難易度：★★★★☆
プレミア度：★★★★☆

完全オリジナルの格闘ゲーム。スト２とひと味違うところを見せようと努力したようだが、結局はスト２の壁を越えられず……という、アジアならではの必敗パターン。

世界観はスト２シリーズとはまったく別物で、キャラもすべてオリジナル。プレイヤーは５人のキャラを選択可能。なんとバニーガールまで選択可能で、これがこのソフトのマニア間取引価格をいまだに安定させている要因の一つとなっている。

合成音声も使用されてて、キャラが必殺技の名前を叫んでるように聞こえるが、イマイチ不鮮明なので何と言ってるのか聴き取れない。（●）





ザ・キング・オブ・ファイターズ97

マニア価格：１万円
入手難易度：★★★★☆
プレミア度：★★★★☆

　登場キャラは、京、アンディ、舞、ロバート、エイジ、ラルフ、クラーク、チョイ、チンゲンの９人。オープニングデモには登場していたテリー、ジョー、リョウ、タクマはもちろん、本編の準主役で、デモにもデカデカと登場していた「庵」も、もちろんカットされている。しかし、これでガッカリしているようでは甘い。いざゲームがスタートすると、画面は暗いわ、キャラの色は２～３色くらいしか使っていないわ、効果音はないわ、バランス最悪だわ、対戦中に勝手にキャラが替わるわで、ゲームで遊んでいると言うよりも、悪い夢にもて遊ばれているといった感覚に近い。（●）





モータルコンバット

マニア価格：６千円
入手難易度：★★☆☆☆
プレミア度：★★☆☆☆

　モータルコンバットの顔ともいえる「究極真拳」を完全に再現。欧米ではえげつない残酷ゲームとして社会問題視されたていたが、もちろん残酷大好きなアジアでも流行りまくり。ファミコンでもかなりの数の類似品が（勝手に）移植されている。
　もっと別のところで頑張れば、今ごろは……。（●）





ドラゴンボールZ 2

マニア価格：４千円
入手難易度：★★☆☆☆
プレミア度：★★☆☆☆

スーファミ版の同タイトルを忠実に移殖した、極めて良質な作品。対戦はもちろんCPU対CPU戦も用意されており、ゲームランクも選べるなど、スーファミ版と見比べても気になる点がまったくないくらいうまく移殖されており、完成度が高すぎて気が抜けてしまう。

だから大量生産されたのか、いまだに品物があふれていて、マニア価格は低めである。（●）





真サムライスピリッツ 2

マニア価格：１万円
入手難易度：★★★☆☆
プレミア度：★★★☆☆

ネオジオの「真サムライスピリッツ」をファミコンに無許可で移殖したもの。全体的な完成度は高く、音楽は得体の知れないオリジナル曲ながら「サムスピ」世界観はうまい具合に表現されている。

基本システムは本家と同じ。ダッシュやバックステップも採用されているし、簡略化されたコマンドの必殺技も備えられている。（●）







マリオ&ソニック2

マニア価格：5千円
入手難易度：★★★☆☆
プレミア度：★★☆☆☆

任天堂のマリオとセガのソニック、夢の共演がついに実現した。おまけにドサクサにまぎれ、著作権にうるさいディズニーキャラまでチラホラ登場する始末。それもそのはず、実はこれ、ディズニーのファミコンソフト「チップとディールの大冒険2」のキャラを勝手に書き換えたしろもので、完全オリジナルではない。

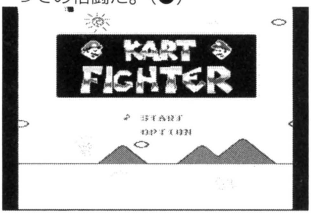
プレイヤーは、マリオ、ソニック、チップ、ディールの4人からキャラ選択可能。マリオとソニックが出ていなければ、おそらく話題にもならなかったゲテモノである。（●）



カートファイター

マニア価格：1万円
入手難易度：★★★★☆
プレミア度：★★★★☆

スーファミ版マリオカートに登場するキャラ同士の対戦格闘という、日々忙しい日本人の我々には考えつかないような、なんだか意味の解らないコンセプトに基づいたゲーム。「闘いに理由はいらない」と実感させられてしまい、メガネが涙で曇って何も見えなくなってしまった。そんで登場キャラは、マリオ、ルイージ、ピーチ、ヨッシー、キノピオ、クッパ、ノコノコ、ドンキーの八人。冷静に考えてみるとこの顔ぶれはスゴイ。人間（？）と恐竜とワケの解らない生き物が入り交じっている。しかも全キャラが同じ背丈になっての格闘だ。（●）



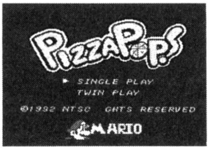




MARIO PIZZA POP!

マニア価格：7千円
入手難易度：★★★★☆
プレミア度：★★★☆☆

今度のマリオは不景気からか、ついにピザの宅配を始める。元ネタはマニアにもほとんど知られていないジャレコ製のショボいファミコンソフト「ピザ・ポップ」。
じつはこれ、カセットに「マリオ」の文字はなく、タイトル画面の最下段にチョコっと書いてあるだけなのだが、それでもマニアの間では「ピザ・マリオ」として親しまれている。
本来のストーリーは、彼女に指輪をプレゼントするべく、某青年がピザ宅配のバイトを思いつく……という経緯だが、これをマリオが演じると、ピーチ以外の女に指輪を贈るべくバイトを始める……となるので意味深。ラテン系の本領発揮か？（●）



SOMARI

マニア価格：7千円
入手難易度：★★☆☆☆
プレミア度：★★★☆☆

メガドライブ版の人気ソフト「ソニック」を、ファミコンに無許可で移殖したソフトだが、なぜか主人公は「マリオ」になっている……。ただしゲームシステムは完全にソニックで、スピンダッシュなども用意されており、グラフィックの描き込みはアマイが、ループバーなどのトラップ類まで完全に再現されている。
発売当初から人気があり、日本に輸入されると同時にマニアの中では高値で取り引きされた。「ファミコンでソニックが動き、しかも主人公がマリオ」という、これ以上ないようなインパクトで、マスコミや各メディアがパチモノを紹介するときには必ず登場し、パチカセの代表作としてその名を広めている。（●）



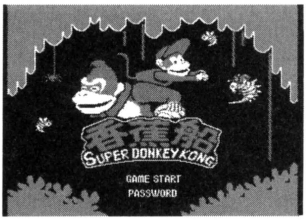


スーパードンキーコング

マニア価格：４千円
入手難易度：★★★☆☆
プレミア度：★★★☆☆

スーファミ版の同名作品を移植したらしいが、よく見ると全然違うのがスゴい。コングは妙にヌルヌルしていて気味悪く、アイテムのバナナは唐辛子みたいだし、敵キャラは何の生物だか判別不可能。

コレを移植といってよいものか……ファミコン界ではよくあることなので、気に留めないでおくのが賢明だろう。（●）





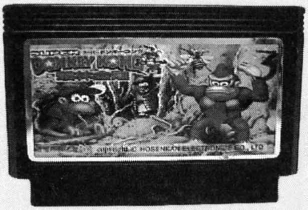
スーパー魂斗羅X

マニア価格：１万２千円
入手難易度：★★★★★
プレミア度：★★★★☆

オリジナルストーリーの魂斗羅だ！

スーファミ版の「魂斗羅スピリッツ」を、アジアテイストに仕上げたオリジナル版。雰囲気だけは「魂斗羅」っぽいが、なにか怪しくてインチキ臭い。そして難易度はバカみたいに高く、クリアしようと努力する前に飽きてゴミ箱行き決定。でもマニアに売れば高く買ってくれるよ。（●）







スーパードンキーコング 3

マニア価格：７千円
入手難易度：★★☆☆☆
プレミア度：★★★☆☆

前作の感動も冷めぬうちに登場したが、ちょっと様子がオカシイ。前作でみられた繊細さはみじんもなく、ゲームに合っていない妙な音楽、操作性最悪、難易度最強、バランス無限地獄。

デモンストレーションにキャラ紹介が日本語で表示されるが、この解説文がまた、全然日本語になっていなくてインチキ極まりない。さらにタイトル前にはクレジットと違法コピーに対する警告メッセージらしきものは出るわで、身の程知らずにもほどがある。（●）



スーパードンキーコング 2

マニア価格：７千円
入手難易度：★★★☆☆
プレミア度：★★★☆☆

スーファミ版の名作をファミコンに逆移殖。しかも、かなりの完成度を誇る。一見しただけじゃファミコンと分からないほどのキャラと背景の描き込み。そしてスーパーサウンド。操作性やゲームバランスなど、どれを取っても質の高い作品で傑作であるといえる。

しかししょせんはパチモノ。任天堂に持ち込んでみればよかったのに。（●）





鉄拳 2

マニア価格：1万円
入手難易度：★★★☆☆
プレミア度：★★★☆☆

プレステでおなじみの「鉄拳」が、ファミコンへ強引に移植された！　「やればできる」という古くからある言葉を体現するような作品である。

登場キャラは、カズヤ、平八、ポールなど八名。諸般の事情により2次元ゲームとなってしまっているため「鉄拳」特有のポリゴン感は皆無。必殺技やダッシュ等のシステムはそのまま採用されているが、要所要所に無理がうかがえて微笑ましい。（●）





AV美少女戦士

マニア価格：1万2千円
入手難易度：★★★★☆
プレミア度：★★★★☆

どこかで見たことのある女性キャラたちが戦いを繰り広げる、アジア製オリジナル格闘ゲーム。勝利時にエッチな画像が見れることだけで一躍有名になったソフトでもある。

登場キャラは、おなじみスト2から春麗、らんま1/2から約2名、セーラームーンから2名。その他、元ネタの判別がつかないキャラが3名ほどの、計8名だ。

操作性はいいがゲームバランスが悪く、難易度が高い。戦闘勝利時にはどっかのエロゲーから吸い出したような褒美のグラフィックが見られるが、ちょっと変。（●）

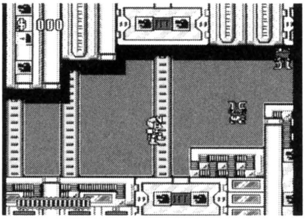


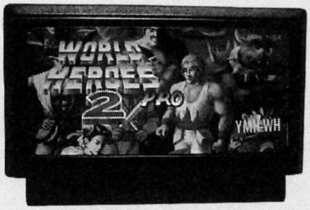


ロックマンX

マニア価格：8千円
入手難易度：★★★★☆
プレミア度：★★☆☆☆

なんだこれ、全然ロックマンじゃねえぞ！　仕方ないのさ、パチモノだから……というわけでこれ、タイトル画面には「ロックマン」と書いてあるが、これは本物のロックマンから吸い出してきたタイトル画面のデータを流用してるだけで、中味はまったく別のゲーム。しかもつまらねえ！（●）



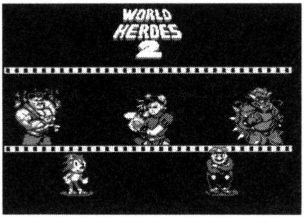


ワールドヒーローズ2・PRO

マニア価格：2万円
入手難易度：★★★★★
プレミア度：★★★★★

登場キャラは、リュウ、春麗、ベガ、アンディ、舞、ローレンス、マリオ、クッパ、ソニック、悟空、レオナルド、ハガーの計12人。

どんな根拠で彼らが選ばれたかのかは不明である。しかし基本的には全員なじみのキャラだろう。そして制作は、パチ格闘ゲームメーカーの代名詞ともいえる老舗・コニーソフト。マニアにファンが多いメーカーである。目が険しいマリオの繰り出す昇竜拳は必見だ。（●）







ソニック4

マニア価格：２万円
入手難易度：★★★☆☆
プレミア度：★★★★☆

ソニック第４弾（？）がスーファミに登場。しかも内容は完全独自。ストーリーを聞いてまた驚愕。何者かに囚われたマリオを助け出すのが目的らしい……聞くも涙のうさん臭さ。メーカーの壁を超えた友情が、いま始まる……。

かどうかはともかく、ゲームはよくできている。その割りにほとんど出回っていないため、闇ルートでの売買価格は高い。（○）



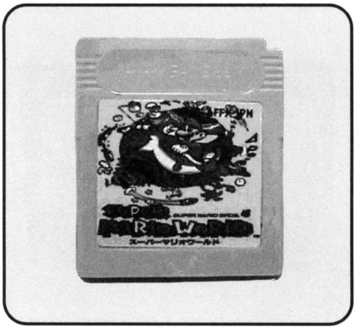
病狂鴨蚕仔 (FIGHTY CHICKEN)

マニア価格：８千円
入手難易度：★★★★☆
プレミア度：★★★★☆

一時期、類似品が腐るほど出回っていた「たまごっち」のファミコン版。基本的には本物と同じくヒヨコ育成ゲームなのだが、グラフィックが汚くて食料がゴミにしか見えず、ゴミをバリバリ食うヒヨコには寒気さえ感じさせられる。

こんなものにセーブ機能をつけてしまうアジアの人々の大らかさに、笑顔で乾杯といいたい。死んじまえ！（●）







スーパーマリオ64

マニア価格：６千円
入手難易度：★★★☆☆
プレミア度：★★★☆☆

ニンテンドウ64初期のキラータイトル「スーパーマリオ64」が、ゲームボーイ版で広告もなにもなく登場！　と思ったらパチカセだった……。こんなビッグタイトルなのに、アキバの露店でしか売ってないので、パチカセなのは一目瞭然。

そんでもって「クレヨンしんちゃん」をベースにキャラを書き換えたパクリゲームだったりして、いっそう気分は滅入る。（◆）



鉄拳２

マニア価格：２万円
入手難易度：★★★★★
プレミア度：★★★★★

アジアでも人気の「鉄拳２」が、来るべくしてというか、スーファミに移植された。もちろん著作権料など１人民元たりとも払っているわけがない。

元祖ファミコン版は２次元だったが、16ビットマシンといえどもフルポリゴンは夢の話。やはりこれも２次元格闘ゲームに成り下がっているが、細かいところをグラフィックの描き込みで微妙にごまかしているため、３秒間は立体に見えてしまうところがスゴい。

生産元はヨーロッパ方面らしく、アジア市場ではほとんど見かけることがない。そんでもって、とり立ててコレといった特徴もクソもないのだが、ただひとつ。マジコンを使ってバックアップできないようになっている。特殊なチップが使われているワケでもなく、単にプロテクトのせいなのだが、そのおかげで、このソフトに限ってはエミュレータ用のイメージファイルが出回っていない。大金叩いて入手したマニアにとっては朗報だろう。（○）



スーパーマリオワールドMD

マニア価格：1万2千円
入手難易度：★★★★★
プレミア度：★★★★★

　スーファミ版ソニックと同じ時期に登場した怪しいメガドラカセット。任天堂のマスコットキャラクターがメガドラに登場というわけで、内容は完全オリジナルアクションである。

　しかし、スーパーマリオを名乗りながらも敵キャラは踏めず、倒し方は変な箱を拾ってぶつける夢工場ドキドキパニック方式。グラフィックが本物そっくりなだけに、中途半端なゲームが惜しい。（◇）





ソニック３Dブラスト・ファイブ

マニア価格：6千円
入手難易度：★★★☆☆
プレミア度：★★★☆☆

　毎度おなじみ酷使されて疲れ気味のソニックが、今度はゲームボーイで登場！　タイトルは「3Dブラスト」と意味深だが、基本はメガドライブ版のソニックがベースになっている。

　ゲームの出来やオープニングデモも、パチカセとは思えない出来ばえに仕上がっているが、タイトルになぜ「ファイブ」と付いているかについては謎に包まれている。（◆）



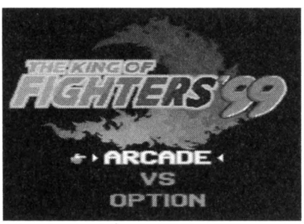




MDキングオブファイターズ99

マニア価格：1万円
入手難易度：★★★☆☆
プレミア度：★★★☆☆

アーケード版「キングオブファイターズ99」の家庭用ゲーム機にPSやドリキャスよりも早くメガドライブ移植された……といっても、アジアで勝手に移植されただけだけど。動きが早いね、アジアは。やはりファミコン版のKOFシリーズと同じくゲームバランスはひじょうに悪い。そしてこんなクソゲーでも、アジア特有の変なプロテクトがかかっているため、マジコンでは吸出しができないのだ。ここまでくるとほとんど嫌がらせだね。（◇）



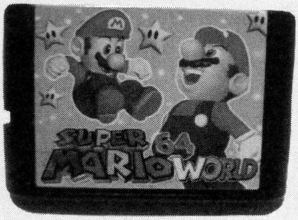
バーチャファイター2 VS 鉄拳2

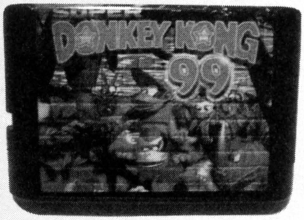
マニア価格：2万円
入手難易度：★★★★★
プレミア度：★★★★★

バーチャファイター、鉄拳2のキャラによる夢のアルティメットバトルが、メガドライブで実現！　よく見るとファイティングバイパーズのキャラもドサクサにまぎれてゲスト出場している。

さすがにポリゴン表現は無理だったようで、完全2次元のゲームになっているが、独自のアクションと世界観にはしびれる。名目はアジア製のオリジナルソフトとのことだが、ジェネシス版（アメリカ製メガドライブ）の「バーチャファイター2」がベースになっているらしい。

全体的な完成度はひじょうに高く、操作性やゲームバランス、合成音声を含めたサウンドなど、どれをとっても素晴らしいデキ。登場キャラは、バーチャから5名、鉄拳から5名、バイパーズから2名の計12人。もちろん、必殺技も忠実に再現されている。プレミア価値が異様に高く、日本では登場と同時にいきなり1万円以上の値がついた。生産数も少なかったようで、いまだに値段は上がりつづけている。（◇）





MDスーパーマリオ64

マニア価格：２万円
入手難易度：★★★★★
プレミア度：★★★★★

スーパーマリオ64が自称32ビットのメガドラで動く！　そのうえ生意気に完成度は高く、どれをとっても素晴らしい、パチカセにしておくのは惜しいほどだ。

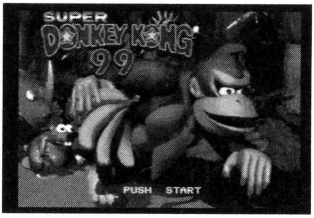
メガドラ用パチカセ全般にいえることだが、もともと売れると思って作っていないふしがあり、生産数がひじょうに少ない。そのため時間が経つにつれマニア取引価格は高騰し、現状ですでに発売時の倍以上も値上がりしている。というわけで、多少高価でも見掛けたら迷わず入手しておくことをオススメする。基本は箱つきだが、箱なしロムのみでも買っておかないと、あとで泣くことになるだろう。まあ、あんたがマニアだったらの話だけど……。（◇）



MDドンキーコング99

マニア価格：２万円
入手難易度：★★★★★
プレミア度：★★★★★

純正でも未発売の「ドンキーコング」99年度版がライバルメーカーのハードで登場。といっても内容はスーファミ版のドンキーコングとほとんどいっしょ。どこが99年版なのかわからない。日本では94年くらいにできた技術だし。それにしてもこのソフトもよくできている。プログラムも流用しているのではないか？、と思うほど、色も動きもスーファミそっくり。たしかにスーファミもメガドラも性能はほとんど変わらないからね。（◇）



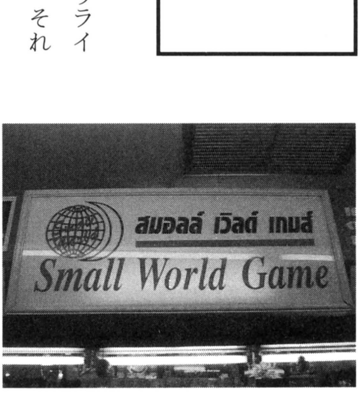
世界有数のイリーガルデパートで パチモノショッピング

スモールワールドでいい買い物を！

サパーレック（34頁参照）やパンティープ（30頁参照）はちょっと……というライト指向のあなた。バンコクでパチモノを探すのにお勧めのデパートといったら、それはもう「東急マーブンクロン」しかない。

整形外科に飛ばし携帯屋にピーコゲーム屋と、日本人の考えるデパートの常識を超越したテナントが無数に軒を連ねる無法地帯。**世界一のイリーガルデパート**だけあって、ゲーム系の違法ショップも多く、サパーレックで成功したあと、こちらへ進出してきた店舗もチラホラ。品ぞろえもすごい。観光客が多いため値段は割高だが、さすがにデパートだけあって無茶な値段をふっかけてくることはない。**かわいいもんよ。**

そのマーブンクロンの無秩序な一角に「スモールワールド」というゲームショップがあった。日本のマニアが札束積んで店ごと買ってしまいそうな、素晴らしくレアな



ファミコンソフトばかりを扱っている。しかし高い。**とにかく高い。**
ファミコンのパチモノカセットに関していえば、タイで普通に売られている値段の2倍はする。が、困ったことに、売っているモノの品質は他と比較にならないほど素晴らしいのだ。**だから買うしかないんだよ！**

「ウチの仕入れルートは他と違うから価格も高いんだ」

と店員は語る。主に台湾・上海ルートから仕入れているようだが、バンコクのカセット製造工場（非合法）の従業員もチラホラ見かけるので、自分のところで量産している可能性もある。
というわけで、ぼったくり価格にもかかわらず、日本人マニアは迷わずここに来る。**量より質を求める大和民族**ならではだ。
スモールワールドでしか売っていないインワンカセットも多数あり、店のポリシーか、ここで売っているカセットはタイトルにダブリのないものばかりなのも嬉しい。
ゲームボーイの82インワンは本当に82本の異なるソフトが入っていたし、ファミコンの76インワンも感動ものだった。
サパーレックはたしかに安いが、売っているものは現地人向けで、たとえ999イ



ンワンでもダブリだらけ。頭の悪いタイ人は気づかなくても、マニアならすぐにヘボとわかるだろう。

そして、ファミコン幻のソフト「マジックドラゴン」や、高値のプレミアがついているエロファミコンカセット「AV美少女戦士」など、日本でもアジアでもすでに絶滅したような超レアなカセットも、スモールワールドでは平気で売っている。

5年前ならともかく、製造もされてないカセットをどうやって手に入れているのか、**入手ルートはもちろん不明**。とにかく、かなり古くて現地にもなさそうなパチモノでも、この店に相談すればけっこうなんとかなってしまうところが怖い。もちろん高くつくが。

それにしても、タイ人の客層を完全無視して、日本のパチモノマニアのみをターゲットにした品揃えには頭が下がる。プロテクト解除版の最新MODチップやスーファミ、ニンテンドウ64用のマジコン。改造ツールも売っている。

そんでもって、GB－Xチェンジャーを使い、好きなゲームボーイソフトを1枚のカセットにオーダーメイドで焼いてくれるサービスも大好評。**ぜんぶ違法で価格もぼったくり**だが、志だけは評価したい。

マレーシア・シンガポールはもちろん、日本のパチモノ業者も主にここから仕入れ



物色中のツルミ氏

ているようだ。秋葉原や静岡のパチモノショップ、そのほか、パチモノカセットを売っているサークルが扱っているブツは、ほとんど全部ここで買えると思ってけっこう。

最近のヒットでは、アジアのひとが勝手にファミコンへ移植したゲームばかり24本も入ったインワンカセット。もしこれが日本だったら……推定マニア価格は3万円だ。

そのスモールワールドがつい先ごろ、サパーレックにも支店を出した。逆進出である。しかし本店よりも値段が高いという、**完全に客をなめきった経営方針。**ただしプレステのソフトだけは異常に安く、どれでも1枚15バーツ（50円以下）。

こんなガキのおやつみたいな値段で売って利益が出るのか、謎は深まるばかりだが、客よりも大勢いるブスの女店員たちをなんとかしてほしいと思いつつ、筆を置くことにする。

（鶴見和昭）



その、ブスの女店員（？）

純正プレミアソフト相場一覧'99
プレミアハード・ソフト、マニア間取引価格表

ファミコン登場からはや15年もたった今、レコードやトレカのようにファミコンにもプレミア価値のついたカセットが多数出てきた。そういったプレミアのお店も秋葉原だけでなく、全国各地に登場してきた。今回は、その手のショップでもなかなか見かけることがない、とりわけ価値がついた超プレミアゲームを厳選して紹介する。

（監修・鶴見和昭）

●**参考リンク**

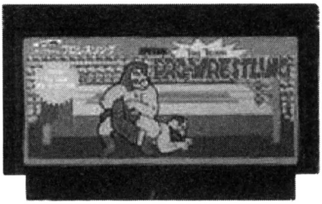
＊暗黒ゲーマー集中治療室
http://www.sun-inet.or.jp/~fukatsu/



四角ボタン、初期ロットのファミコン（任天堂）

マニア相場価格：18万円

未使用品は任天堂の本社に数台あるだけ。メーカーやソフトハウスは研究用にほしがり、マニアは欲望のためにほしがる。半年前の某オークションにて、初期ロットではないが未使用の四角ボタンなファミコンが16万円で落札されたという情報も。



タッグチームプロレスリング賞品版（ナムコ）

マニア相場価格：２万９千円

ナムコがゲーム大会の賞品として提供したスペシャルロムカセット。市販ゲームの改造ロムだが、純正品と比較してもさまざまに改良された跡があり、さらに日本全国でわずか600個しか出回っていないという、とてもレアなブツ。



アルキメンデス版 グラディウス（コナミ）

マニア相場価格：２万７千円
　アルキメンデスという謎の食品の抽選プレゼント賞品だったソフト。現在、コナミにも他ゲームメーカーにも残っていないという超貴重品。これは左上の三角シールが特徴で、某プレミア業者がそれを知らずか、通常のグラディウスにそれをコピーしたROMを入れ換えてた三角シールのない偽物を売りつけて、業界でも話題になったくらいです。



スタディボックス（福武書店　現・ベネッセ）

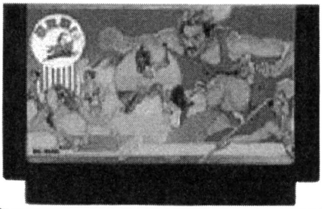
マニア相場価格：15万円
　某マニア誌でも、本当に実在するのかと噂をされたくらい幻の周辺機器。チャレンジでおなじみの福武書店が入会中にレンタルで、ファミコンでお勉強させようという変わった企画でリリースした。理科・英語・算数と３教科のソフトがカセットテープで配られており、それがどれも肉声でしゃべるからすごい。タイ人もびっくりである。そしてスタディボックスのラインナップは全部で百タイトルもあるというから恐ろしい。これをコンプリートしているマニアというのは、果たしているのであろうか？　とりあえず自分たちの周りにいるマニアの中でも、このハードだけは誰も持っていない。



ファミリースクール（第一生命）

マニア相場価格：２万円

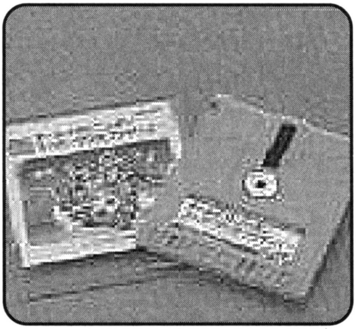
　第一生命が東京書籍の協力を得て作ったダブルブランドソフト。ファミコン全盛期の時代に第一生命で働く保険のオバチャンが勧誘の時の切り札に使っていたと噂されている。ちょっと前までは全然市場で見掛けませんでしたが、最近は良くネットで売りに出されているのを見かけるようになった。



ハイパーオリンピック殿様限定版（コナミ）

マニア相場価格：１万５千円

　ＴＢＳの「カトちゃんケンちゃん」という番組で使用されたオリジナルソフト。１コンのキャラがバカ殿様になっている。なぜか評判が良かったのでコナミは一時期市販していたが、それにもかかわらず現在ではひじょうに入手困難。



オールナイトニッポン版・スーパーマリオ（ニッポン放送）

マニア相場価格：３万２千円

　いまでは消え去って久しい、ファミコン・ディスクシステム用ソフト。オールナイトニッポンの20周年記念に作られたものである。

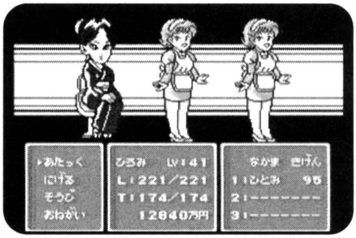
　ゲームシステムはスーパーマリオだが、キャラクターがマリオ以外総とっかえ。本来ならもう少し価値があるのだが、一部の裏ショップに流れたことから、海賊版ディスクや香港で作られた海賊ロム版まで出回り、大きく価値を下げた。それでも貴重である。



メタルスレイダーグローリー（任天堂・ファミコン版）

マニア相場価格：1万2千円

ファミコン末期に登場した制作に四年もの月日をかけた汗と涙の大容量8メガのファミコンカセット。これがファミコンかと思わせるアニメーション技術にはマニアも驚いた。しかし発売した時にはすでに時代はスーファミに移行しており、一般には流通しなかったという、世にも悲しいカセット。



ラブクエスト（ビッグ東海・ファミコン版）

マニア相場価格：1万5千円

ファミコンで出るはずだったこのカセット、さんざん待たせたあげく発売中止になり、その後なぜかスーパーファミコン版で登場したが、ファミコン版も一部のマニアに流れたという謎の多いカセット。

（注：ここから先は、これから値段が上がると予想されるもの）



アテナ（SNK・ファミコン版）

マニア相場価格：1万2千円

ビキニのお姉ちゃんが戦うアクションゲーム。まさにオタク受けをねらったカセットだが、ねらい通り相当なプレミアがついている。カセットのオマケにつく音楽テープもプレミア度は高い。



パンチアウト（任天堂・ファミコン版）

マニア相場価格：1万2千円

「ゴルフUSコース」コンテストの賞品。1万本限定生産品。

現物写真なし

賞品版チャルメラ（日清・ファミコン版・ディスクカード）

マニア相場価格：１万２千円

　ラーメンの応募券で当たる。単純なラーメンゲーム。某プレミアサークルのDMにいつも載っていて、噂ばかり先行しているが、まだ筆者も実物は見たことないぞ！　持っている人いたら連絡下さい。



シャープC１付属カセット（シャープ・ファミコン版）

マニア相場価格：１万円

　ファミコン内蔵のテレビ「C１」に付属していた。「ドンキーコングジュニア」と「算数遊び」がいっしょに遊べる、任天堂公認の数少ないインワンソフトである。



スペースファンタジーゾーン（NEC・PCエンジン版・CDロム）

マニア相場価格：１万５千円

「スペースハリアー」と「ファンタジーゾーン」が合体というセガマニア待望のゲームソフトがなぜかメガドライブでなくPCエンジンで登場……するはずだったが、セガがらみの問題があったのか発売中止。しかしどこから流れたのか、このソフトのサンプル版がCD−Rで流出されている。

現物写真なし

ディスクチェッカー（任天堂・ファミコン版・ディスクカード）

マニア相場価格：１万円

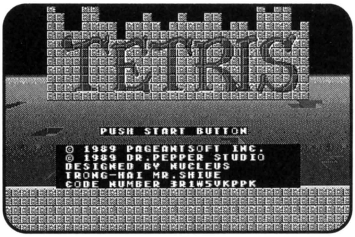
　ファミコンディスク発売当初、任天堂から小売店に配布されたピンク色のチェック用ディスク。入手困難。



スクウェアサンプルロムカセット（スクウェア・スーファミ版）

マニア相場価格：1万円

ビッグタイトルの店頭用サンプルカセット。



セガ版テトリス（セガ・メガドライブ版）

マニア相場価格：1万5千円

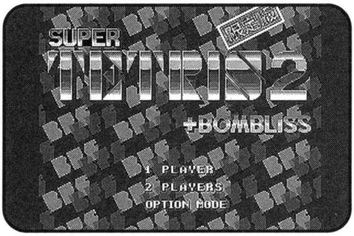
メガドライブ発売当時からリリース予定とされていたが、任天堂と版権でモメて発売中止となった。そんなセガ版テトリスが倉庫から盗まれたのか一部で出回った。しかもアジア各国ではそのコピー品までが流出されている。今は亡きタ●ゲン貿易がひと儲けしたソフト。



もとこちゃんのワンダーキッチン（味の素・スーファミ版）

マニア相場価格：1万円

味の素マヨネーズの応募券で抽選5千名に当たる、初のスーファミ料理ソフト。ストーリーもイイし、関係ないけどオセロも遊べるし、素晴らしいソフトである。



黄金カートリッジ版テトリス2（BPS・スーファミ版）

マニア相場価格：1万円

チョビヒゲの宝石商ヘンクが始めた中規模ソフトハウスBPSが、「ボンブリス」という自社ソフトの面作りコンテストに応募した人のなかから、一部の優秀な人々に与えた豪華なごほうび。テカテカとゴールドに光るカセットは、カネ持ちになったような優雅な錯覚を演出してくれる。



**くにおのトッチボールだよ
全員集合とーなめんとスペシャル
（テクノスジャパン・スーファミ版）**

マニア相場価格：1万5千円

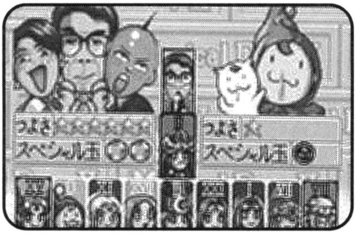
全国のファミコンショップで開かれたゲーム大会の優勝者に配られた大会用カセット。この記事書く今までずっと「なめとんのかスペシャル」だと筆者は思っていた（爆）。



**パチンコの鉄人
（データロボ・スーファミ版）**

マニア相場価格：8千円

データロボが設置してあるパチンコ店でのみ、景品として並べられたソフト（2500発）。限定7777本生産されたパチンコゲーム。ゲームはもちろん攻略ガイドつきなのがまた、マニアの心をくすぐる。



**マジカルドロップ2
文化放送バージョン
（文化放送・スーファミ版）**

マニア相場価格：1万5千円

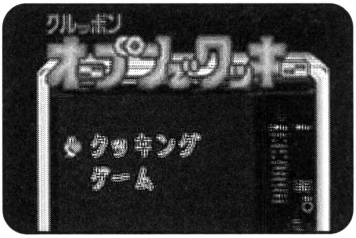
文化放送「吉田照美のやる気MANMAN！」でプレゼントされたカセット。プレイキャラが文化放送スタッフに大きく変更されている。



**SUPER桃太郎電鉄DX
「JR西日本PRESENTS」
（JR西日本・スーファミ版）**

マニア相場価格：1万5千円

JR西日本リゾート・マリンキャンペーンで抽選5千名に当たる、桃鉄のJR西日本版。その名の通り、大阪が起点になっている。



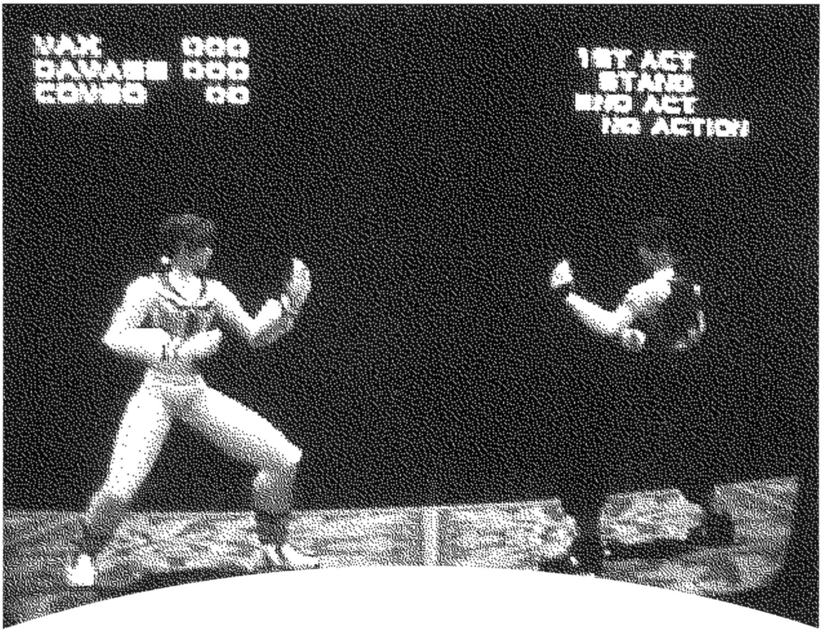
**ヨッシーのクッキー
クルッポンオーブンでクッキー
（データロボ・スーファミ版）**

マニア相場価格：２万円
　中部地方の100ヶ所で５本ずつプレゼントされたスーファミ最高のプレミアカセット。マジコンで吸い出したディスクですら高値で取り引きされているほどプレミア化している。



**SM調教師「瞳」リミックス
（西武企画・スーファミ用）**

マニア相場価格：８千円
　スーファミ未認可エロゲームとして知られる「瞳」シリーズの限定版。これも５千本しか生産されなかったという、需要のある人たちにとっては超レアなカセット。定価ももともと高い。今やマニアの間では、神格化さえ始まっているとか



4章/美少女キャラをウヒュヒュ……



いきなりレベル999！
禁断の改造コードとは何ぞや？？？

プノンペン場末のゲーセン。ここでは1時間30円でプレステを貸し切ることができる。もちろんゲームもしかり、数十種類ストックされているアジア製のピーコCDのなかから、好きなタイトルを選んで無意味に時間をつぶすことができる。平均70年強しかない、**貴重な人生の一部**をな……。

ある日、時間をもて余したあげく、そんなゲーセンのひとつにフラリと入ると、近所の外人レストランでいつも物乞いをしている乞食少年が、モロ日本語版の「FF8」を黙々とプレイしていた。それもかなり先の場面を……。

「こいつ、もしかして日本語ベラベラだったのかな？」

絶対ありえなさそうな不安を感じながらも、目は奴の「FF8」に釘づけ。しかし

＊というわけで情報源……

●**ゲームラボ（三才ブックス）**
書店売りの月刊誌。基本中の基本。コストパフォーマンスも高い。

●**月刊・電脳亜細亜**
質も量も標準的。

●**アクションリプレイコード集（カラット）**
使い方ノウハウ充実。ただしアクションリプレイ対応コードのみ。

●**アクションリプレイ秘技コードCD Vol.1～Vol.5（カラット）**

やはりこの乞食少年は、日本語などコンニチワすら知らなかった。

ではなぜ、あんなに先の方で、しかも強力なレベルのキャラを率いて楽々プレイしていたのかというと……奴は店の**「アクションリプレイ」**を使ってインチキをしていたからだ。

アクションリプレイとは、プレステの外部拡張端子に接続してから、各ゲームに対応した特定のコードを入力すると、ゲームのパラメータを都合よく書き換えることができるという、**爆発的ヒットを記録した灰色周辺機器**の代表的な名称。

なぜ代表的なのかというと、アジアやらあちこちで仕様をまねたデッドコピー品が続々と売られ、しまいにどれがオリジナルかも定かではなくなったからだ。

もとはコモドール社の忘れ去られたパソコン・アミーガ用に発売され、画面のスナップショットや付属のツマミでスローモーションを可能にした、無難なアダプターだったのだが……。

入力される改造コードは、各ソフトの各効果ごとにすべて異なる。これらはマニアたちが血と汗と努力でゲームを解析しながら見つけてゆき、インターネットや一部ミニコミで発表される。

要するに**「三国志」で呂布の知性を999にしたり……**と、夢みたいなことがコード入力だけですべて可能となってしまうわけで、そんなコードがインターネットやミ

改造コードが詰まった便利なCD-ROM。いちいち入力する必要がないこともあって好評のようだ。ただし、カラット社の販売するアクションリプレイ対応コードのみ収録。

●アクションリプレイ（ブレインストーム）
書店でも手に入るコード情報誌。

●速報コードエクスプレス（ゲームテック）
最新のコードを毎月発売。反応のよいコードばかり集めた別冊のほか、ゲームボーイ対応コードのみ集めた増刊号などもあり。

●POSITIVE
改造コードの内容は古いが、他では紹介されていないレアなものが見つかる。

●改造コードの杜
http://www.shonan.ne.jp/~kow/guc/kaizou.html

ニコミを中心に、全世界で数千種類が出回っているといわれている。

なかには格闘ゲームの女性キャラに的を絞り、**スカートのポリゴンを消して下着を鑑賞**したり、本来の目的とは若干異なる視点で解析されたコードも発表されていて、あなどれない。

下欄では、この手の改造コードを入手するための情報源をまとめてみた。書店で購入できる雑誌や、日本でアクションリプレイ（とその類似品）を発売している各代理店が独自に発行しているミニコミも含めると、その数は膨大で、すべてチェックするのは不可能なほど……。

インターネットではさらにお盛んで、元祖アクションリプレイ発売元のデーテル社のサイトをはじめ、日本語の検索サイトで「ゲーム改造」等のキーワードでサーチすれば、**もうけっこう**といっぱいになるほど手に入るだろう。健闘を祈る。

（鶴見和昭）

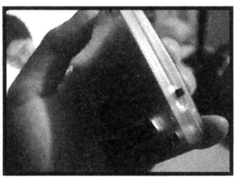
●**改造帝国**
http:// www.remus.dti.ne.jp /~kaizov/

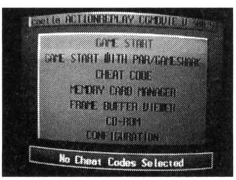

ファンシーな外箱。


こういう風に刺します。


これはパソコンに繋がる。


こっちはPSに。


横にはメニュースイッチ。



メニュー画面（PS）。

憧れのゲームキャラの、スカート脱がしてモヘモヘモヘヘ

特選！ えぐいアクションコード総覧

資料のなかから、特に味のないアクションコードをいくつか紹介しておこう。

中でもお勧めは、サターンの「バーチャファイター2」。かなり気持ち悪く、言われなければ「バーチャ～」と気づかないほど。最初に見たときは『ミラクルカンフー阿修羅』（しつこいが197頁参照）がついにゲーム化されたのか、と……思わねえよ！

ともかく、フリークスの悲しみを実感できる貴重なコードである。

（編・マミヤ狂四郎）

◆プレステ

●爆走！デコトラ伝説

「お金持ち」

D008AA7E 0000

8008AA7A 7FFF

「アクセル全開」

D0087EC4 1890

800A52A6 0C80

●DEAD OR ALIVE

「かすみとあやねのスカート脱がしちゃおう」

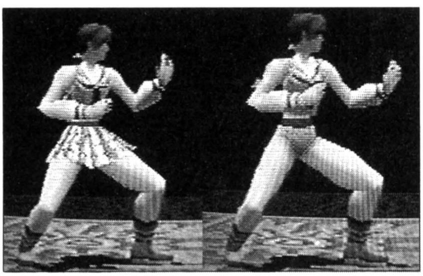
D008E010 0100

30093842 000F

「Lボタンでオッパイ震える」

D60965E6 FFF7

36034BE5 00FF



スカート姿のかすみ（左）と、パンツ丸見えのかすみ（右）。面白いか？　ええ、まあ……

●ストリートファイターZERO3

「さくらのパンツ脱がしてモヘモヘモヘへ」

801969C 4ADE
801969E 3A5D
801996A0 2996

●バストアムーブ2

「コメットのスカート脱がしてハアハアハア」

D012DBF0 061C
8012DBDC 0000
D012DBF0 061C
8012DBDE 0000
D01A4E78 4E94
801A4E7A 0000
D01A4E78 4E94
801A4E78 0000

●ソウルエッジ

「タキちゃんのスカート脱がしてアッアッアッウッ」

800B6630 0000
800B6632 0000
800B6C10 0000
800B6C12 0000

「こ、腰当ても脱がそうかなぁ……」

800B62E0 0000
800B62E2 0000
800B6270 0000
800B6272 0000

●私立ジャスティス学園

「ひなたとさくらのスカート脱がそうっと」

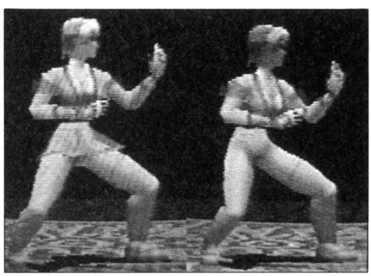
301EFC02 0000

◆番外編・セガサターン

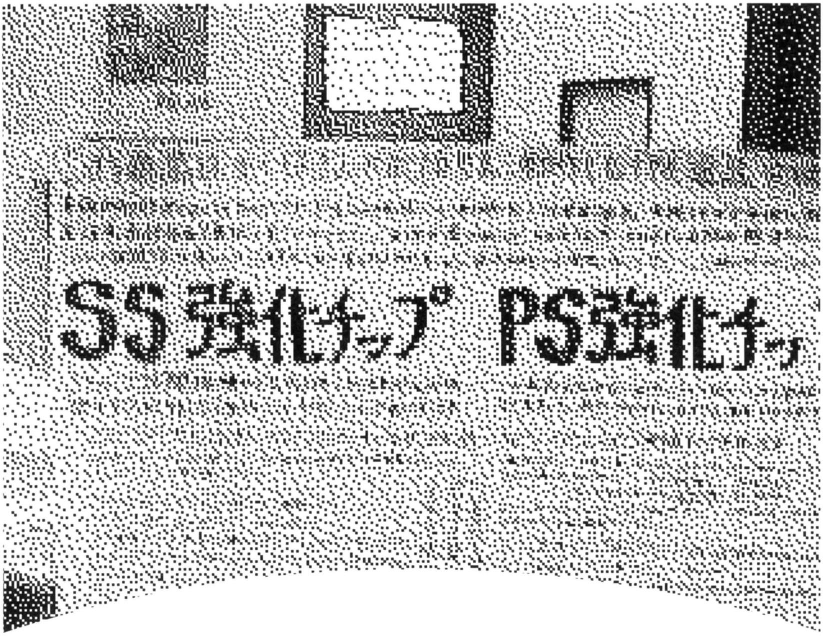
●バーチャファイター2

「ジタバタとのたうちまわりながらも戦うフリーク野郎」

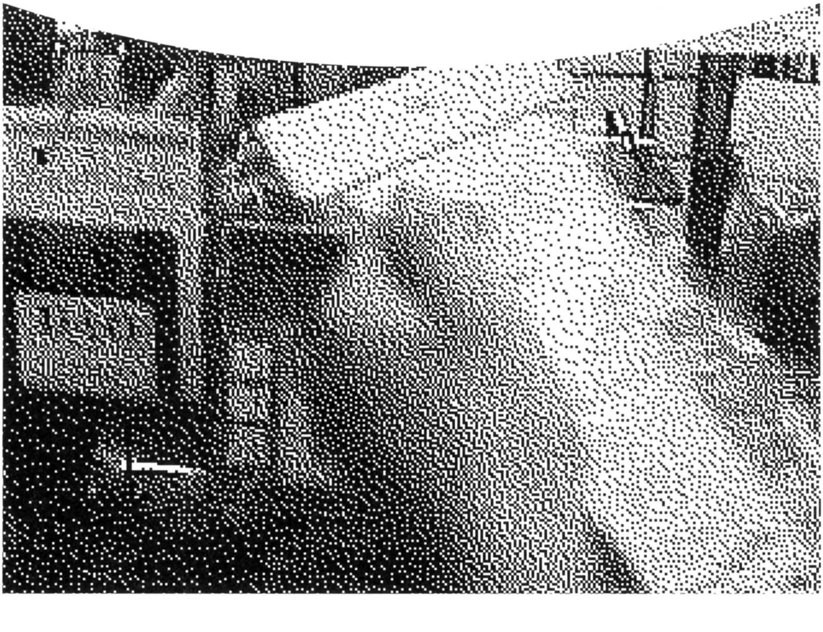
30240002 0001



これまた
スカート姿のあやね（左）と、
パンツ丸見えのあやね（右）。



5章／怒らないで！ソニー



違法な改造がされていますので
修理できません……

MODチップとソニーのアフターサービス

ＣＤ―Ｒにコピーしたプレステソフトを起動させると、「このディスクは、PlayStation規格のディスクではありません」という拒絶メッセージが表示され、遊ぶことはできない。これは、プレステ本体に内蔵されているコピープロテクトに引っかかっているため。

このプロテクトを無効にし、そのへんで複製したソフトを動作可能にするアイテムが、**MODチップ**という小さなＩＣだ。

このチップをプレステ本体の基盤に配線図通りハンダづけすると（ＰＳの型番によって異なる）、いままではタイトル画面すら表示されなかった金色のＣＤが正常に動いてしまう。また、違法だがアジア各国でクズみたいな値段で叩き売りされている海賊版のＣＤ―ＲＯＭも遊べるようになってしまう。

しかし、このチップの取りつけは、ハンダごてに慣れたマニアでもたまに失敗する

ほど難しい。ピーコゲームが動かないだけならまだしも、**本体ごとぶっ壊してしまう**ことも しばしば……。

こうして改造中に壊してしまったプレステは、ひじょうにやっかいである。なぜならこんなものをソニーのサービスセンターに持ち込んだ日には、**「てめえ改造しただろ！」**と責められたあげく、修理を拒否されてしまうからだ。

そういうわけで、サービスセンターにバレないための、もしくは、バレても開き直れる秘策を授けよう。

まず、技術派の皆さんには実力行使をお勧めしたい。失敗したチップごとはずして、**改造した痕跡をすべて消し去ってしまう**のだ。

このとき、チップを外すだけならバカでも可能だが、そのうえで、盛ったハンダもハンダ吸い取り器でキレイに除去し、ついでに基盤にくっついたハンダのヤニ（おコゲみたいなもの）も、セロハンテープ等でキレイに除去してから持ち込むと、うまくすればなにも言われず修理してもらえる。

ただし、ソニーのサービスセンターもバカではないので、少しでも痕跡が残っていると、暗い男の声で、

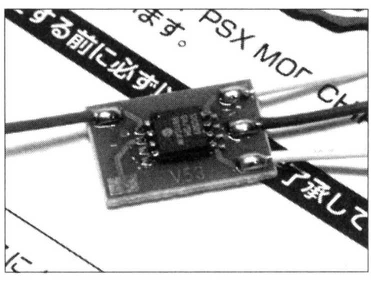
「違法な改造がされていますので修理できません……」



と、呪いの電話がかかってくる。しかしここでめげずに開き直り、
「あー、そのプレステは中古で買ったもんで、たぶん以前に買ったひとの仕業じゃないでしょうか？　**困りますよね〜、著作権を厳守してもらわないと……**まったく」
とかなんとか、心から善人のフリしてトボければ、さすがに中古嫌いのソニーでも、渋々修理せざるをえない状況になるだろう。確率はほぼ１００パーセント！　**これで何回ぶっ壊しても安全だ。**
ただし、修理代は思ったよりも高く、基盤交換だと７５００円はかかるので覚悟しておくように……余談だがSCPH-1000番台の古いプレステを修理に出すと、問答無用で中味がSCPH-5500に取り替えられてから戻ってくるので、初期型をこよなく愛する人は、よく考えてから修理に出したほうがいいだろう。

MODチップのチープな歴史

１９９５年、香港の利ざとい連中が、それまでコピー不可能といわれていたプレステの海賊ＣＤを生産開始する。しかしこれは、プレステ本体にかけられたプロテクト



により通常では動作しないので、それを無理矢理動かすための必殺技もあわせて開発された。

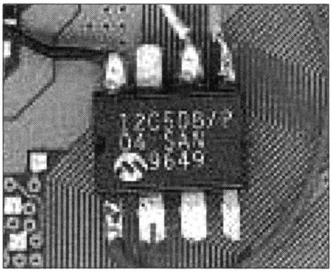
それは電源投入時にオリジナルＣＤ（どんなソフトでもよい）を入れてプロテクト部分のみを読ませ、終わったところで**強引にニセＣＤと交換しやがれ！**、というムチャクチャな方法。

こんなことを電源入れるたびにしなくてはならないので、実際あまり普及しなかったようだが、**貧乏でコピー大好きな香港人たち**は競ってマスターしたようだ。

この技のために、フタを開けっ放しでも動作が止まらないように、フタセンサー部分をだますスプリング、その名も**「黄金軸」**が発売され、安値で叩き売られるが、ソニーも負けじと次期ロットのプレステからプロテクトの方式を変更し、黄金軸はあえなく無用の長物となった。

ソニーの完全勝利に終わったかと思われた業界だが、そこに彗星のごとく飛来したのが、地獄の黒い石、ＭＯＤチップである。

プレステ本体のマザーボードに直接ハンダづけという荒技が要求されるが、つけたら最後、**コピーフリー**。いままで汗かきながらＣＤ入れ替えていたのがバカバカしくなるほど、なにも考えずにコピーＣＤが普通に動いてしまう！



これがＭＯＤチップだ！

……というわけで、MODチップ出現以降、香港やバンコクで売られるプレステはすべてあたりまえのように**MOD改造ずみ**。この状況を見た一部の人間が、これ持って日本で売れば大儲け！　とコセコセ売りはじめ、実際に売れてしまったので「これはイケル！」と真似をする奴が続出。秋葉原の裏通りではMODチップを売るのがちょっとしたブームになった。

そのうち、マニア向けにチップを売るだけだった業者のなかから、改造作業を代行する店が現れた。客がプレステを送ると、**香港仕様になって帰ってくる**というものだ。

これにより、それまではハンダごてが自室にあるような奴ばかりだったMODユーザーのなかに、普通のお父さんや怖いもの知らずの中学生など、一般ユーザーが大きく流入。この事態を憂慮したソニーは、MODチップの有無を関知する新タイプのプロテクト、通称**「レッドハンド」**を、新作のビッグタイトルに次々と導入した。

レッドハンドが導入された新作ソフトを、MODチップの入っているプレステで遊ぶと、たとえゲームがオリジナルでも動作しない。これにはMODユーザーが泣きながら右往左往する結果となった……。

が、しょせんプロテクトの世界は追いかけっこ。すぐにレッドハンド対応の新MODチップが発売され、ソニーの企業努力はふたたび悪の力に封じられた。



それだけではなく、これが数百円台まで値下がりしていた旧ＭＯＤチップに替わって、業界全体を再びうるおす、期待の新製品となってしまったのである。**かわいそうなソニー……。**

黄金軸マスター石渡少年現る

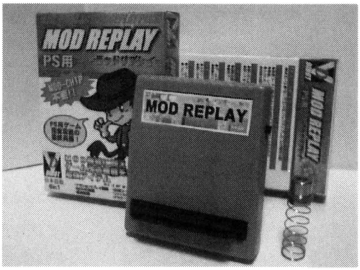
そんなとき、死体に鞭打つようなムーブメントが発生した。弱冠15歳の少年が最新ロットのプレステで、ＭＯＤチップなしでもコピーＣＤを動かす方法を考案したのである。

しかしながら、ＣＤの回転数を監視しつつ、動いているＣＤを合計３回も素早く入れ替える作業は、**熟練のＤＪでも手こずる難解さ**で、一般的ではない。

だが、某ゲーム改造アダプターの製造会社はこの技に注目。ＣＤを入れ替えるべき時に、機械的にＣＤドライブの回転を止めてしまう機能をもったアダプター**「ＭＯＤリプレイ」**を完成させた。

このカードをプレステ後ろの外部拡張端子に差し込むだけで、プレステを改造しなくてもコピーＣＤがガンガン動いてしまうという恐怖の周辺機器である。

怒り狂った（……かどうかは知らないが）**ソニー**は、ついに最新ロットのプレステから後ろの拡張端子をなくしてしまい、さらには外部拡張端子に何かささっている



これがＭＯＤリプレイだ！

と、ゲームが強制終了してしまうというプロテクトを新作ソフトに導入しようとしている。

そしてついに、新しい法律が施行され、そういったプロテクトを解除する物品の販売自体が禁止となり、すでにこの本が出るころには、日本国内で合法的にMODチップやMODリプレイを売ったり買ったりすること自体が非合法となっているはず。(*1)

仕方ないから、**香港旅行の土産におねだり**するしかないね……。

(鶴見和昭／情報協力&実践・石渡少年)





1*日本国内で合法的にMODチップやMODリプレイを売ったり買ったりすること自体が非合法となっているはず。：まだ売ってました。
http://www.modmarket.com/

3千円もないよという
貧民のみなさんにも朗報！
セガサターンキーとセガのアフターサービス

プレステと同じく、セガサターンにも海賊版の判別機能があり、自分で焼いたCDはむなしくシカトされる。これを無理矢理とっぱずして、**何でも受け入れオーケーの淫乱女**にしてしまう消費者の味方が、香港某社で開発された**「サターンキー」**だ。

取りつけは簡単。本体後ろのネジをはずし、本体のメイン基盤とCDドライブのピックアップ部分のあいだにかませるだけで、バックアップしたソフトでも、鬼安で売られているアジア製のピーコCDでも……要するになんでも動作するようになる。

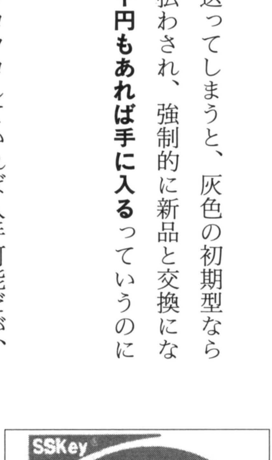
さらに特典として、なぜそうなるのかは知らないが、ゲームの立ち上がりが約5秒ちょいも短縮されるので、**時間に追われているビジネスマンなどは必須**だろう。たった5秒というなかれ、1万回ゲームしたら5万秒。13時間以上も得する計算になる。

プレステでは死ぬ気でハンダを吸い取らなければならないアフターサービスも、サターンキーを取りはずすだけでオーケー。ハンダづけする必要がないので、改造して

いた痕跡を発見される危険性は、まずありえない。
ただし、うっかり寝ぼけてキーをつけたまんま送ってしまうと、灰色の初期型なら2万7千円。スケルトンモデルなら1万9千円も払わされ、強制的に新品と交換になってしまう。いまなら**中古のサターンなんて、5千円もあれば手に入る**っていうのに……。

サターンキーは、秋葉原で3千円も握りしめてウロウロしていれば入手可能だが、そのカネもないよという貧民のみなさんは、ちょっとめんどうくさいが、以下の方法で代用することが可能。
ただし、CDのアクセスランプを注視しなければならないので、アクセスランプのない白サターンの場合は、分解してCDドライブ部分の「DATA」と書かれた場所から、むりやりLEDを引っ張ってランプをつけてから挑戦してくれ。
そのうえで、CDのフタセンサースイッチを、セロテープかなんかで固定するのも忘れずに……。さて方法だが、

（1）コピーしたCD－Rを入れて電源オン。
（2）オリジナルではないので、音楽CDプレーヤーの画面にかわり、トラックナン



バーが表示される。

（3）オリジナルソフト（なんでもいい）と入れ替えてリセット。

（4）サターンのロゴが表示されてから、CDのアクセスランプが3回点滅する、3回目が終わった瞬間に、オリジナルとコピーCDを素早く入れ替えればオーケー。

なお、この方法の場合、2枚組、3枚組のゲームはプレイ不可能。やりたかったら素直に本物買うか、サターンキーを買いましょう。

（鶴見和昭／情報協力&実践・石渡少年）



←これが
「サターンキー内蔵セガサターン」
だ！、っつうことで……

MODチップなんていらねえよ。新黄金軸テクニック

石渡少年（未成年）提供

とき○モ等のピーコCDをとあるルートで入手して約1年間、その動作プロセスに頭をかかえていた僕……。というのも、持っていたプレステのモデル番号(*1)がSCPH-5000だったため、ピーコ動作の必需品、黄金軸(*2)という便利なブツが使えなかったからだ。

当時はMODチップが鬼高で、現在みたいに安易に買えず、いまでは1個千円以下で買えるMODチップも、なんとあたりまえのように1万円以上で売買されていた。モデル番号が1000番台のユーザーなら、MODチップなんてつけなくても黄金軸ひとつでコピーCDが遊べるのに……。

が、僕はあきらめきれず、約1年かけて研究・修行した結果、どのプレステでも確実にMODチップなしでコピーCDを動かすことができる「新黄金軸方式」を確立することができた。

1＊モデル番号：プレステは製造ロットによってさまざまなコピー防止策がとられている。モデルナンバーは本体裏のシールに印刷されているので、気になる人は見てみよう。あたりまえだが、後期になるほどキビしく。最新のプレステでは、色々な半非合法周辺機器が接続できた後部の拡張ポートがまるまる削られてしまった（129頁参照）。

ＭＯＤチップがなければ絶対にピーコＣＤが動作しないといわれていた、SCPH-3000〜7500のプレステでも、黄金軸だけでピーコを動作させる魔法の方法を、ここで紹介する。

読んでもらっただけでは**「そんなことできるのはお前くらいだ！」**と叫びたくなるほど難しそうに思えるが、要は経験……。練習して練習して練習しまくれば、自然に身についてゆくと思う。ま、**一銭の得にもならない**けどね！

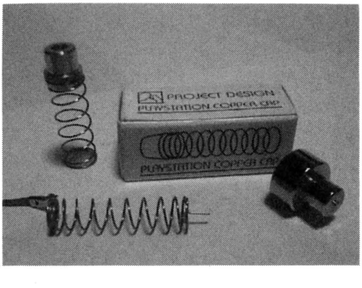
まず、黄金軸をＣＤドライブのフタ根本、開閉センサー部分に取りつけて、なんでもいいのでオリジナルのＣＤを入れてプレステの電源を入れる。もちろんＣＤのフタは開けたままだ。

すると、おもむろにＣＤがシュルシュルシュル……と回転を始める。回転には高速回転と低速回転の2種類あるので、回転音の違いをよく聞いて、耳だけで聞き分けられるくらいにしてほしい。

ＣＤが回り始めると、画面にはおなじみの「ＰＳロゴ」がジョワァアというＢＧＭとともに表示され、それから約1秒くらいするとＣＤの回転速度がはっきり変わるのが見えるはず。その瞬間に、**オリジナルとコピーＣＤを素早く入れ替えろ！**

それから約5秒経つと、ＣＤの回転数がまた変わるので、ここで素早くオリジナル

2＊黄金軸：
香港製の小さなバネ。金色に塗られていたことから中華方面では黄金軸という商品名で親しまれている。プレステのＣＤドライブ蓋のつけ根部分に取りつけると、フタ開閉のセンサーが無効となるため、電源を入れたままＣＤを入れ替えたりできる。



CDに再度入れ替える。この間、許される入れ替えの所要時間は、わずか1秒。入れ替えて、オリジナルCDが高速回転を始めたら、そこで再びピーコCDと**気合いで入れ替える。**これでOK。

余談だが、ターゲットとなるゲームにより、若干回転ポイントが異なるので注意してほしい。「ナムコミュージアムアンコール」や「ブレスオブファイア3」あたりは、途中の部分がやけに特殊なので、マジでムズイ。ただ、これ以外のソフトはコツをつかめば簡単なので、ぜひ挑戦してほしい。

（特別寄稿・石渡少年）

自分でいっぺんチップを焼いてみたいというマニアに朗報！

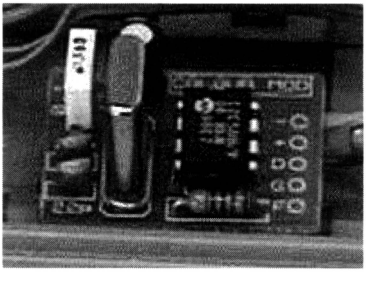
MODチップのできるまで

1900年代最後の年の10月から、わが国では素晴らしきプレステMODチップの販売が法律により禁じられた。

インターネットでは早くも密売化の動きが顕著だが、値段も高くなったことだし、**本来タダ同然のものを怪しい人から買う**ことに憤りを感じる貧乏人も多いはずだ。

そこで、ここではMODチップの製作について軽く触れておきたい。なぜ軽く触れるかというと、チップひとつ作るのに、それなりにインフラ投資が必要なのと、インフラそろえてショボいチップひとつ作るだけなら、密売でもなんでも**買っちまったほうが安くつく**という悲しい現実を直視してのことである。

それでもマニアのなかには、いっぺん自分でチップを焼いてみたいと思う人もいるだろうし、自分の家でチップの製造ができれば、友達や近所の人などに売って小遣い銭を稼げる……と考える**抜け目のない読者**もいるだろう。だから〝少しだけ〟触れて



←これが目的のMODチップだ！

おこう。

プロテクトの原理

プレステ用CD－ROMには、通常のライターでは書き込みができない最も内周側に、国識別用のコードが記録されている。プレステにゲームを入れると、プレステはまずここのコードをチェックするが、もしそこになにも情報がなければ、イコールそれはピーコCDとして拒否されてしまうというわけ。

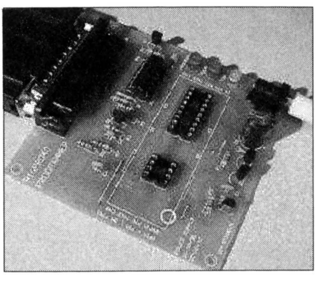
そこでMODチップは、あたかもその場所に識別コードが書き込まれているとプレステに思い込ませるため、ニセの識別コードをプレステ側に送り続けるというわけで、これによってプロテクトは無効化されてしまう。

簡単に説明したところで材料をそろえよう。

まず用意するものだが、生のチップが必要だ。

巻のMODチップは3千円前後で売買されていたが、生チップはというと、一度しか書き込みできないタイプ(＊1)で200円。何度でも書き込みができる高級タイプ(＊2)でも600円ほどである。

これらはマイクロチップ社が開発したPICという規格(＊3)のチップで、秋葉原の裏通



これが「チップ焼きマシン」だ！

1＊一度しか書き込みできないタイプ：ライトワンスと呼ばれる（CD－Rみたいね）チップ。12C508,12C509など。

2＊何度でも書き込みができる高級タイプ：16F84など。コツを掴むまでこちらを使うのがベター。

りで手に入る「PICライター」という焼きマシンの上にのせ、パソコンからプログラムを転送するだけで、MODチップのいっちょうあがり。

ただし、焼きマシンは意外に高い。マイクロチップ社推奨のもので3万円前後。**そんなカネはない！** と威張るマニアは、インターネットで手に入れた配線図を元に自作するか、秋月電子のキット（＊4）でも買って組み立てるしかない。

さあ、準備ができたら生チップに焼き込むMODプログラムを手に入れよう。ひと昔前までは、インターネットのあちこちにMODプログラムのソースコードが落っこちていたが、モラルのない業者たちが無断使用でカネ儲けしまくり、さすがに制作者たちも腹が立ったに違いない。いまではソースが置いてあるページを探すのは至難の技。見つかるのはソースコードをアセンブル（＊5）した後のHEXファイルと呼ばれる実行形式のものしかない。しかし、これからMODプログラムを解析してソニーをつぶす野心でももたないかぎり、ソースは必要ない。チップに入れなければならないのはHEXファイルだけなのだから。

HEXファイルをチップに焼くためには、焼きマシンの他にPCから焼きマシンをコントロールするソフトが必要である。もっともメジャーなのはマイクロチップ社の「MPLAB」というソフト。これは同社のホームページからタダでダウンロードでき

3＊PICという規格：（P＝プログラマブル）－IC

4＊秋月電子の自作キット：定価5700円。http://www.tomakomai.or.jp/akizuki/で手に入る。

5＊アセンブル：ソースコード（人間にも理解できるプログラム）を、実行形式に変換すること。

るうえ、日本語マニュアルまでPDFファイル(＊6)で提供されている。

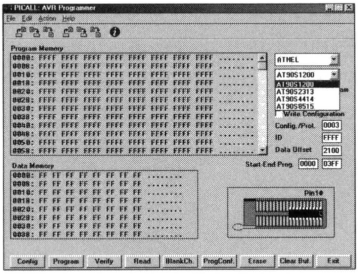
焼くプロセスについては適当に試行錯誤してもらいたいが、いざ焼いたとしても、本当に使えるかどうか試すのには、プレステ1台ブッ壊す覚悟で挑まねばならない。

また、MODチップに対抗する新プロテクト(＊7)が続々と考案されたおかげで、MODチップの種類も増えつづけ、さらにプレステも製造ロットにより基盤の配線がまったく異なっている。

よって、試す（実際に装着する）には、そのMODチップ専用で、なおかつ対象のプレステの型番にも合った配線図を入手しなければならない。

あとはアナタの腕次第だけど。

（クーロン黒沢）



↑これが「書き込みプログラム」だ！

5＊PDFファイル：ADOBE ACROBATというソフトでキレイに印刷できる。

6＊新プロテクト：起動するとき、MODチップが発している識別信号をプレステがチェックするというもの。したがってチェック時に信号を止める機能を持った新MODチップが必要。もしくはMODチップの配線にスイッチをつけて、手動にすることもできる。

●参照リンク

＊MODCHIPS UK: http://www.modchipsuk.freeserve.co.uk/st2install.htmhttp://come.to/modchipsuk
プレステの分解方法（ネジの位置まで詳細解説）から取りつけまで、超丁寧解説。

＊25ドルのPICライタキット販売：
http://www.dontronics.com/508.html

暗黒街の操り人形に直撃！
「MODはねえけどコピーは動くぜ」

アキバのどんどん（牛丼屋）正面でハッピ着てMODチップ売る親父はオウムなのか？

秋葉原にはよくわからない露店が多い。売っているものもタコ焼きとか焼きソバではなく、焼きは焼きでも高いソフトを焼いたCDだったり、半導体だったりと……なんとも秋葉原らしい。

アキバの怪しい露店といえば、泣く子も黙る老舗のパンチパーマ、JIN（仮名）さんの店が有名である。この店の詳細についても触れておきたいけどタブーなので、気になる人は実際秋葉原まで行って、探してみてほしい。秋葉原にいる人なら85パーセントは知っている超有名な露店なので、探すのも苦にならないと思う。

ポケットにカネを満載したオタクたちで賑わうJINさんの露店だが、最近また新たな動きを見せた。そう、ついに舎弟（姉妹店）ができたのである。

場所はたまに移動することもあるが、牛丼屋「どんどん」の周辺とだけいっておこう。そこに年齢60歳ほどか？　なんとなくくたびれた雰囲気のオヤジが、路上に店を



開いている。外見はヤクザというよりも、どちらかといえばホームレスという感じ。商品に関する知識はみじんもない。したがって、買う側がすべてわかってないと、交渉すら成り立たないので注意が必要だ。

「あの……これMODチップですよね？」
「しらねえよ。改造チップだよ！」
「……MOD機能はありますか？」
「モッド？　モッドはねえよたぶん、改造チップだよ」
「ってことは、プレステにつければコピーCD動くんですよね？」
「アーウー。モッドはねえけどコピーは動くぜ」

という感じでワケがわからない。それでもけっこう売れていて商売が成り立っているらしいから恐ろしい。MODチップは黙っていても売れる、超人気商品だからだ。MODチップ以外の商品ラインナップだが、師匠の店の売れ残りと思われるFCの海賊ソフトやエミュレータのロムイメージなどを焼いたCD－ROMを販売。そんでもって、CDについてもオヤジの知識は皆無だった。
「あのう、これなんですか」

「CDだよ」

「……。CDというのは見ればわかるのですが、中味は？」

「しらないよ」

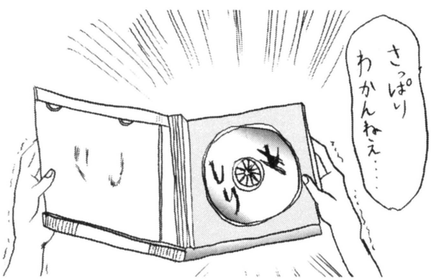
最初は本当にマニアックな内容のCD－ROMを販売していたようだが、肝心の内容をオヤジがまったく説明不能なため、さすがのマニアもこれでは、買う気がしない。

というわけで、しばらくあとで扱いをやめ、いまではあらかじめ細かい内容説明がジャケットに明記されているCDのみ販売している……が、実際にブツを買うと、渡されたCDに詳細説明の**ジャケットはついてこない。**たいていはオヤジの殴り書き（極太マジック使用）か、よくてテプラが無造作に貼りつけてある程度。

カッコイイジャケットにつられて買う決心をしたマニアの某氏は毎回、「あのージャケットないんですか？」と恐る恐る訊ねるのだが、オヤジは眉ひとつ動かさず、

「このジャケットは展示用の見本だから、つかないんだよな」

と語る。



また、関連商品として芸能関係の盗撮ビデオCDも並べられていて、こちらも興味深い。そのなかに「宇多田ヒ○ル」のトイレ盗撮があってビビったが、実際に購入してみたら……**なにも入ってなかった。**

しかしながら、文句いっても相手は素人なので、まるっきし言うだけムダ。ましてや返品など絶対に受けつけてくれないので、注意が必要である。

余談だが、この露店の写真を隠し撮りした命知らずなアンダーグラウンド系ゲーム雑誌があった。以前はJIN兄貴の露店しか存在しなかったため、同編集部の某氏が本店を何気なく隠し撮りしようとした現場を発見され、とっ捕まって**服をビリビリに破かれた**という事件があったが、それにも懲りず、このくたびれたオヤジの支店なら怒られないだろうと撮って掲載したのが運のつき……。掲載直後、どういうルートで雑誌が彼の手に渡ったのか不明だが、とにかく本店のJIN兄貴から編集部に、

「おめえんとこに勝手に掲載されて、こっちはすげえ迷惑してんだよ。とりあえずよう、電話じゃ話になんねえから、いまから詫び入れにアキバまで来いや……」

という恐ろしい電話があったという。触らぬ神に祟りなし……。

（鶴見和昭）

プレイステーションの可能性に挑戦

メーカー非公認、勝手に制作ハードたち

皆さんおなじみのプレステだが、つい先頃のロット（'99年中期から出回りはじめた、裏側に記載されたシリアルが9000番以降のもの）から重大なコストダウンというか嫌がらせというか……が行われた！　本章最初の原稿で述べたとおり、ソニー純正の周辺機器がついにひとつも発表されないまま、プレステ後ろ側の**外部拡張端子が廃止されてしまった**のである。

これまで、この拡張端子用に発売されたものといえば、ゲームメーカーにとって不愉快なアジア製の半違法製品ばかり。まるで自分の首を自分で絞めているようなコネクタだったのだが、ソニーもようやく気がついたのだろうね。**偉い偉い**。

というわけで、これまでアジアの怪しいメーカーから発売されたプレステ用拡張機器の数々を見ると、合法／非合法をゴチャゴチャ討論していたらとうてい生まれなかったような、ユニークなものばかり。このさいだから、いくつかピックアップして紹



介しておこう。

なお、現行で売られているプレステに、これらのハードを装着することは、**建前上不可能**ということになっているが、気合いの入ったマニアは**拡張端子を自作**して、無理矢理接続しているらしい。

GBブースター

コレを装着すると、なぜかゲームボーイのソフトがプレステで動いてしまうという不思議なカード。

なおかつカラーエディット可能なスーパーゲームボーイ互換機能を持ち、アクションリプレイ代わりにも使えるので、ゲームボーイソフトを改造することも可能である。唯一、サウンドがエミュレートされていないのが残念なところ。

MOD機能も付属しているので、これさえつけていればMODチップ不要という、最強最悪さも魅力のひとつ。

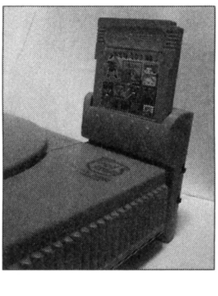
ムービープレイヤー

接続すると、プレステがビデオCDプレイヤーになってしまうという便利なもの。

ビデオCDの規格は、バージョン1.0／1.1／2.0のすべてに対応している。香港などでは



（上）ムービープレイヤー



（右）これがGBブースター

プレステでビデオCDを楽しんでいる人が多い。

最新のデコーダーチップを搭載しているため、専用プレイヤーと張りあえる画質を再現している。価格も激安で、アジアでは3千円程度、日本で買っても5千円くらい。類似品もいろいろと出回っていて、MOD機能やアクションリプレイが使えるものも存在する。

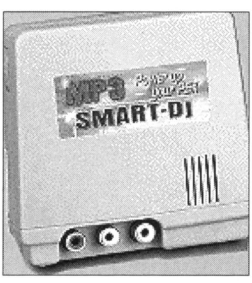
PSMP3

CDなどに記録された音楽を、ほとんどそのままのクオリティでコンパクトに圧縮してしまう話題のフォーマット・mp3。1枚のCD−Rに音楽アルバムが10枚分も記録できてしまう。

そのmp3ファイルを、プレステ本体だけで再生してしまおうというのが、このアイテム。CD−Rに焼いたmp3ファイルをプレステのコントローラーで選択、テレビやステレオのスピーカーで再生できる。ランダム、セレクトなどの再生方法も、選択可能だ。

番外編：ゲームボーイでmp3が！

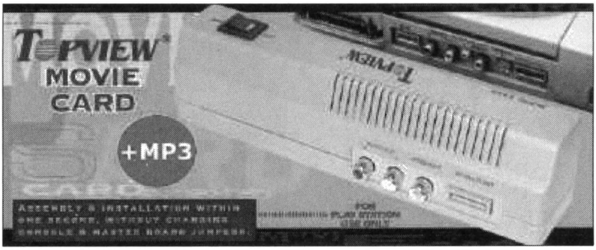
慣れとは恐ろしいもので、そのへんのプレステでmp3が再生できると聞いても、



PSMP3 再生カード

フーンと軽く受け流せる時代になってしまった。
しかしそれがゲームボーイなら?
現在、日本の某パチモノショップと悪名高い香港のCCLがタッグを組んで開発中なのが、ゲームボーイ用のmp3デコーダ。詳しい仕様はまだあきらかにされていないが、任天堂未公認でそこまでやるか……。

（鶴見和昭）



これは無敵の「VCD＋MP3再生カード」

企画力はともかく、技術力はあるらしい……

プレステ用エロソフトの深淵

?ゲーム

ロシアで制作されたらしい。なぜなら表示されるテキストはすべてキリル文字。しかしなぜか灼熱のバンコクで売られていた……。

ジャケにはデカデカとハテナマークがひとつ。売っていた店のおばさんに事情を訊ねると

「これはスケベなゲームで**子供が買うと教育上悪い**でしょ、だから中味がわからないようにハテナマークだけのパッケージなのよ」

と自慢気に語ってくれた。しかし、余計に興味をそそるだけだと思うけど……。

気になる中味はショボいエロムービー集。静止画も数多く収録されているが、**どれも大味すぎてヌケない。**しかし珍しさだけで売れまくり、ついにパート2までリリースされるが、警察からの圧力なのだろうか？　現在バンコクで入手するのはほぼ不可能となっている。それだけにレアだ。

電源を入れて最初にプレステのロゴが表示される箇所も、制作チームらしきロゴマー









クにすり替えられているが、事情通によるとこれはけっこう難しい技らしく、企画力はともかく、技術力はあるらしい。

日本の同人ソフト

日本の同人ソフト業界からも、プレステ用のエロCG集がいくつか発売されている。「女教師レイプ願望」「人形OL縛られて」など、タイトルに関しては**かなりそそられる**。しかしどれもエロ画像が表示されるだけでゲーム性は皆無なのが残念。そのうえ**モザイクが薄すぎ**て、ついに発売中止となってしまった。

PS野球拳

セガサターンの裏人気ソフト「野球拳スペシャル」を**無理矢理プレステに移植**したもの。ムービーなど、ほとんどすべてそのままコンバートされていて、マニアからの評価も高い。台湾から出回り始めたので、台湾人が移植したのでは……との、もっぱらの噂。

（クーロン黒沢）



ブリームをピーコする……

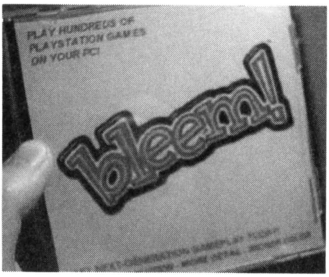
クラック版「ブリーム」を売る3人組

PCでプレステのゲームが大体動いてしまう、ソニー激怒のエミュレータソフト「ブリーム（bleem!）」だが、CDをひっくり返してみた人はもっとビックリ！　**いままで見たこともないような変な模様が……**。

なんでトラックとトラックのあいだがこんなに離れてんの？　ひょっとしてプロテクト……？　そのとおり。盤面見るだけでコピーする気が失せてしまう、究極のプロテクトである。

しかし13年前、「まむしの執念」という機械のダイヤルを汗まみれで握りながら、ワントラックごとに回転数を合わせ、シコシコとコピーしていた地獄のような過去を持つ身としては、**いつかは誰かがコピる**だろうな……という予感があったが、思ったよりも早く実現したようだ。

コピーすることだけに機能を絞りまくった焼きソフト「ディスクジャグラー」と、定評のTEAC　CD532Sを使用。リードエラー無視の設定でひたすらエラーを繰り返しながら、約3日かけてディスクイメージ作成。そして書き込み。



合計、都合4日ほどかける意気込みさえあれば「ブリーム」は焼ける!、という結論に達したみたいね。だが4日も自分のパソコンをつぶさなくても、タイに行けば100バーツで手に入ったのに……。

場所はパンティーププラザの2階某所。3人組の青年が通路端にテレビを置いてプレステに熱中している。しかしプレステの姿はどこにもなく、そこにはお約束のようにカラーコピーされた「ブリーム」のジャケがケースに入って山積み……。

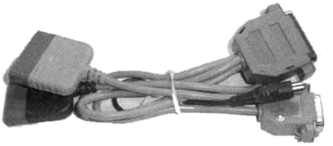
プレステのコントローラがPCで使えるようになる、手作りの変換コネクタつきのセットですら300バーツ。すなわち千円しない。

アジアっていいですね。

(クーロン黒沢)



右奥がその、ブリーム売り場



プレステ←→変換 PC コントローラ



手作りの変換コネクタ・アダプタ

ああ神様、便利な世の中になったもんだ！

GB-Xチェンジャーで自宅でインワンカセット製作

香港からまたワケのわからないマシンが届いた。

タバコの箱くらいの大きさの箱に、謎のケーブルがくっついているだけの単純構造。その謎のケーブルをパソコンのプリンタポートに接続し、さらに機械の挿入口にゲームボーイのカセットを差し込むと、あら不思議。**カセットの中味をハードディスクにコピーすることができる**……という代物である。

ハードディスクにコピーしたらどうなるのかというと、パソコンのゲームボーイエミュレータで遊ぶのもいいだろう。そしてさらに……。

コピーしたソフトを中古屋に売っぱらってしまい、小遣い銭を手に入れたところで、付属の生カセットをマシンに挿入。ハードディスクにコピーしておいたロムデータを、生カセットに再コピー、それをゲームボーイに差し込むと……なんと、さっき売ってしまったはずのゲームがそこに……。



これがGB-Xの外箱だ！

もちろん違法だ。ヒッハッハッ。

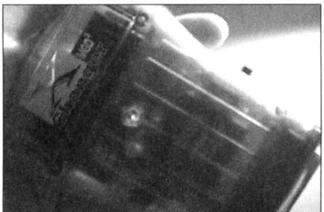
ああ神様、便利な世の中になったもんだ！　おまけに生カセットには容量（最大16メガ）の許す限り、複数のゲームを書き込むことが可能なので、つまりはオリジナルのインワンソフトを、自宅で作ることができてしまうというわけ。

生カセットは何度でも書き換えることができるが、秋葉原の裏通りや通信販売で新品の生カセットがいくらでも購入できるので、自宅を**アジアのカセット工場状態**にすることも夢じゃないよ。まあ、**あんたが望めば**の話だけどな……。

昔のソフトなら、生カセット1本に対して10本や20本は楽勝で入ってしまう。最近のものでも5~6本は入るだろう。そのうえ好きなゲームを選べるように、電源オンで出てくるメニューまで勝手に作ってくれる。**もう怖いモノなしだ。**

このマシンの名前は**「GB－Xチェンジャー」**。日本での売価は16メガの生カセット1本付きで8千円前後といったところ。もともと自作のゲームボーイソフトを作りたい人々のための、開発環境として売り出されたものである。

ゲームボーイ用のプログラムを作成し、完成したら、それをGB－Xチェンジャーに転送。生カセットに焼けばそのまま市販ソフトと同じく、ゲームボーイで動かすことができるというわけ。



これが「GB-X チェンジャー」

あまり偽善的なことは書きたくないので言っておくが、実際のところは、そんな酔狂なことに使っている人々など本当にごく一部……。主な使い道はやっぱり**違法コピー**だろう。

ちなみにアジア各国では、ゲームボーイのロムイメージが数百個単位で入った違法CD―ROMが、**豚ロース300グラムと同じくらいの値段**で買えてしまう……。

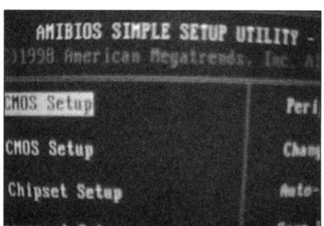
使い方

超ユーザーフレンドリーな機能を持つGB―Xチェンジャーだが、購入時に付属してくるのは、本体と生カセット、そしてラベルも何も貼ってない真っ黒いフロッピーが1枚、さらに説明書らしき紙っぺらが1枚……。

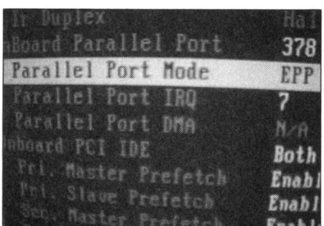
香港あたりでは説明書が入ってるだけ、**まだ親切**なのだろうが、これでは初心者が途方に暮れてしまうだろう。付属ソフトはもちろんMS―DOS専用。そんなわけで、実際使えるようになるまでの経過を簡単に説明しようと思う。

自分で用意するものは、単4の電池6本、そしてパラレルのストレートケーブルが1本のみ。

ストレートケーブルでパソコンとGB―Xチェンジャーを接続したら、パソコン側のBIOS設定を見てみよう。設定画面を出す方法はパソコンにより若干異なるが、



BIOS設定風景・その1



BIOS設定風景・その2

電源を入れてすぐ、DELキーもしくはF1キーを押しっぱなしにするかなんかすると、設定画面が現れると思う。

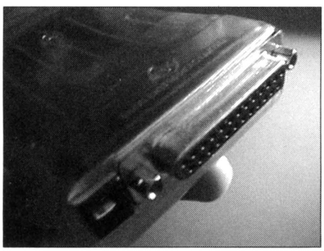
設定画面のなかから「パラレルポートのモード」項目を探し、そこがEPPモードになっていれば問題なし。もしECPモードになっていたら、EPPモードに変更してから設定をセーブして、パソコンの電源を入れ直す。

無事にここまできたら、いよいよ付属の黒いフロッピーを使うわけだが、ひとつ問題がある。このフロッピーに入っているのはMS－DOS用のプログラムのみ。したがってGUIではなくキーボードからコマンドやファイルネームをいちいち入力しなくてはならない。

はっきり言って面倒臭いので、これはあえて使わず、

http://www.ganga.demon.co.uk/

からタダで入手できる、**「ガンジャボーイ」**というウィンドウズ用の怪しいソフトを使う。これ、アイコンはマリファナの葉っぱだったりして、**素晴らしいソフト**である。



こちらはパラレルポートに



ここにカセットを入れる

ガンジャボーイをスタートしたら、右上にあるメッセージボックスに注目してほしい。ここに「GB-Xchanger Not Found.」と表示されている場合、残念ながら正しく接続されていないようなので、もういちどケーブルとパラレルポートの設定をチェックしよう。

ガンジャボーイには、以下の便利な機能が搭載されている。

その1：GB―Xチェンジャーに刺さっているロムカセットの内容を、パソコンにイメージファイルとして保存できる。

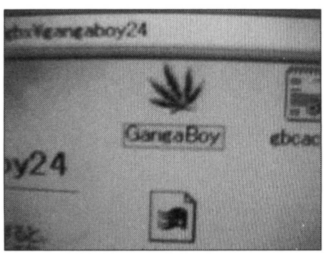
その2：パソコン側にあるイメージファイルを、生カセットに書き込みできる。

その3：S―RAMの内容をパソコンとやりとりできる。

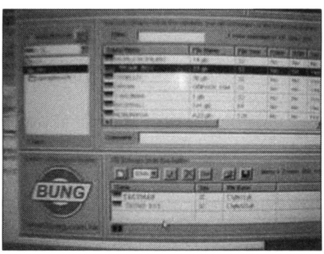
その4：複数ソフトのイメージを統合して、インワンソフトを作ることができる。

……と、こんな感じ。付属ソフトで同じことをしようとしたら、腱鞘炎になるくらいバチバチとキー入力しなければならない。**作った人に感謝しよう**。ではまず、試しに市販カセットを一発ピーコしてみよう。

まずは、ターゲットロム（吸い出したいカセット）を用意して、それをGB―Xチェンジャーに挿入。それからGB―Xチェンジャーの電源をオンにする。



アイコンはマリファナの葉っぱだぜ！



ガンジャーボーイ設定画面

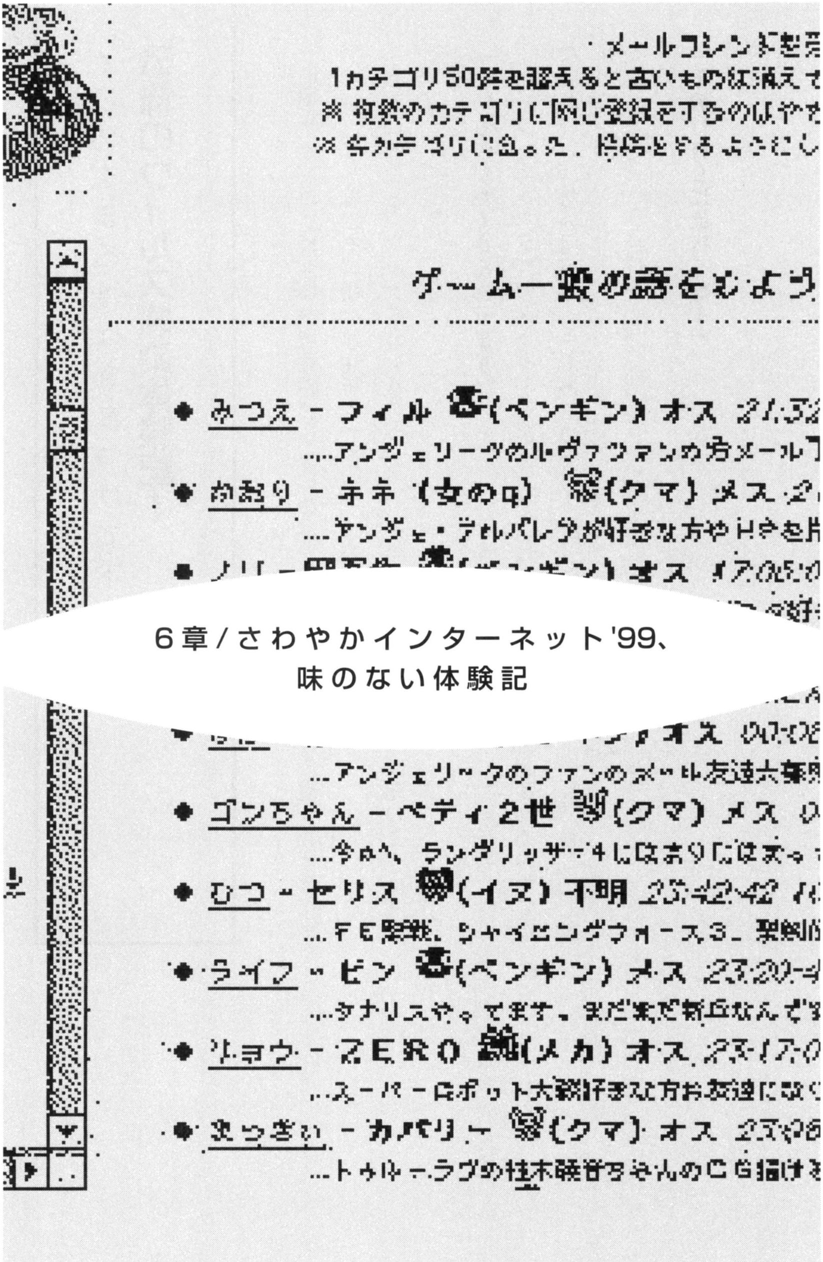
ガンジャボーイで保存ファイル名を指定すれば、あとは勝手に残り時間のゲージが表示され、ガンジャボーイがやってくれる。

これを生カセットに書き込みするときは、ガンジャボーイで書き込みたいイメージファイルを選ぶだけ。**マジで簡単すぎる。**終わったら生カセットを抜いてゲームボーイに入れてみよう。

特別注意することはなにもないが、ただ、ガンジャボーイは基本的に英語オンリーなので、ロムイメージ名に日本語は使わないこと。

（鶴見和昭＋クーロン黒沢）





6章/さわやかインターネット'99、味のない体験記

リンクするときは気をつけて……

恐怖のウィルス感染体験記！

地下サイトにリスクはつきもの。しかしながら、実際に危険な目に遭うことは、まずない。だからこそ、我々は油断してしまうのだ。

ある日のこと。マック系のシリアルだの、その他のお役立ち情報が蝿のように飛び交う「heheheBBS」を覗いていると、

「いいものがたくさんあります」

といったニュアンスのメッセージが。ごていねいにＵＲＬまで付記されているではないか。いったい何がたくさんあるのだろうか。これはぜひチェックしておこうと思ったが……。

「下のＵＲＬには行くな！」

そのすぐ後にこういったメッセージも。これは悩む。前者を信じるか、後者を信じるか。しかし「行くな」と言われると逆に行きたくなるのが人間の性である。私は意気揚々とジャンプしてみた。

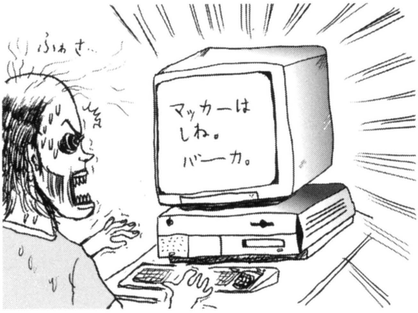
すると……。

「おめでとう！　おまえのマックはウイルスに犯されました！　マッカーは死ね！クソ野郎ども！　気にくわねえんだよ！」

という級数のでかい文字が……。それを見た瞬間、目の前が真っ暗になり、背筋は凍りつき、心臓はバクバクした。私の目の前にあるのは、買ったばかりのG3マック……。

すぐにモデムの電源を切った！　やたらと重いページだったので、ウイルスに感染している可能性は高そうだ。心配だなー、クソ！

応急処置として「ノートン・アンチウイルス」等のアプリでウイルスを探したが、なにも発見できず。コレは単なる脅しなのか、それとも未対応の新たなウイルスなのか……？



発端となった掲示板を改めて見てみると、このＵＲＬを紹介した迷惑な野郎はアンチマック派であることが判明した。マックをバカにする発言も数多く記録されており、彼の最後の攻撃がこの『ウイルスＵＲＬ』だったのだろう。

その後、入ってるんだか入ってないんだか、よくわからないウイルスの妄想に悩む日々が続いた。なんかシステムがフリーズする頻度もだんだん高くなってきたような気が……**気持悪いなぁ**。

そして、とある日のフリーズ後、再起動を試みた私は恐怖の体験をすることになる。画面が「ポケモン視聴者ぶっ倒れ事件」の時のごとく**チカチカ点滅**しはじめ、**意味不明な単語**が画面にバラバラ表示されているではないか。

モニターに映る私の顔は怯えきっていた。結局、何をしても修復することはできず、システム総入れ替えを余儀なくされてしまった。

あのサイトにジャンプしてから1週間。ジワジワと狂っていった我が愛するマック。あの時、本当にウイルスに感染したのだろうか？　それとも単なる個人の怨念ページだったのか……。

（マミヤ狂四郎）



外ヅラ、VIP、現実逃避……
あればあるほど便利

メールアドレスをもらいまくれ!

メールアドレスはひとつじゃ足りない。一人最低3つは欲しいところだ。ひとつは超親しい人にしか教えない「VIP用」。もうひとつはホームページや掲示板に書き込むとき使う「外ヅラ用」。最後のひとつは、危ないことをするための「現実逃避用」である。

ほかにも「他人になりすますため用」や、リアルワールドの女装に相当する「ネットオカマ用」もできれば確保したい。要は、**たくさんあった方がいい**ということ。

そんな要望の多い昨今、「無料メールアドレス」という大変ありがたいサービスがある。なにせ無料。タダで無限にメールアドレスが幾つも幾つも幾つも幾つも幾つも……持てる時代になってきたのだよ。これは便利だ!

種類も豊富で、指定されたウェブサイトでメールを受信する「ウェブメールアドレ

ス」といったモノから、自分が指定したメールアドレスにメールを転送してくれるという「転送メールアドレス」。そして普通のメーラーで使用可能な「ＰＯＰメールサービス」など……**すべてダータ**。まぁ、下らない広告を強制的に見せられる程度のことだ。

ウェブメールアドレスは、いちいち指定されたサイトまで行って、ひとつひとつ受信しなくてはならないのでクソ面倒臭い。そのサイトが混んでいた日には発狂ものだ。

続いて転送メールアドレスだが、モノによっては転送に丸１日かかったりするのでパス。母親が死にそうなので緊急メールしたら、なんと死んで火葬場で燃やす頃になって、やっとメールが届いたという**笑えない話**がある……というのはウソだが、そうなってからじゃ遅いからね。

ということで、ＰＯＰメールサービス以外はあまり使い道がない。

無料ホームページでおなじみの「ジオシティーズ」では、ホームページを開くほかにメールアドレスが取得でき、ＰＯＰサーバを使い、普通にメールのやりとりが可能である。まさに至れり尽くせり。



ＰＯＰメールアドレスの使用法だが、要はプロバイダからもらうメールアドレスと扱いは変わらないので、メーラーにＰＯＰサーバの名前とアカウントをごく普通に登録するだけ。

複数のメーラーソフトがあれば、プロバイダからもらったメールアドレスを仕事用に使い、ポストペットはジオシティーズのアドレスで使用する……という使い方もできるよ。

（マミヤ狂四郎）

同級生のあの娘は今、何してるんだろう？

卒業した同級生をウェブ上で検索、そして感動的な再会！

過去の友人との縁をキッパリと絶ち、同窓会等のイベントにもぜったい出席しないヒネクレれた野郎ほど、じつはみんなのことが人一倍気になっていたりするものだ。そういう奴は、ついついサーチエンジンで母校の名前を検索したり、ついでに昔好きだった女の子の名前を検索しちゃったりして、ふと虚しくなったりもする。**自分がカワイイと思ってる女性の皆さん、**間違いなくあんたの名前も検索されてるぜ！

同級生のあの娘は今、何をしているんだろう。結婚しているのかなあ。生きてるのかなあ。どっかの風俗で働いてたりして……と、妄想だけは果てしないが、気になるのだから仕方ない。

そんな心配性な野郎にピッタリのサイトが『**ウェブ同窓会　この指とまれ！**』であ

る。

名前は同窓会と銘打っているものの、自分の旧クラスメイト全員がインターネットに繋いでいるわけではない。あらかじめ、ここのサイトに登録している人と、運がよけりゃ連絡が取れるかも……というサービスだ。

もちろん、住所と電話番号が出てくるわけでもないので、本物ストーカーはガッカリかも？　さらには、自分も登録しないと調べることすらできないという余計なルールも存在し、調べる意欲も若干減退してしまう。

でも、あの娘が登録していたら……と考えると！

メール交換を経て、久々に再会して、ちょっと**飲み過ぎて気分が悪い**って言うから連れてきたんだよハアハアハアハアハア……と、淫靡な妄想は拡大し続ける宇宙のように広がって**大爆発**（＝ビッグバン）。登録しても損はないだろう。**さあ登録だ！**

登録して何日か経つと、君だけのパスワードが発行される。そしてついに旧友と出会えるときがやってきた。ネットを通じて再会とは感動的じゃないか。あの娘もきっといるはずだ……。

ところが！

自分の場合、登録していたクラスメイトは一人しか見つからなかった。まあ、たった一人でもいただけ大したものである。

が、しかし、それは野郎だった……。それもただの野郎ではなく、鉛筆の芯を粉末にして指紋を採集したり、電車を見て**意味もなく興奮して**写真撮ったり、ボールを投げるときは女投げだったりする、いわゆる**「ラジオライフ」系の友達**だった。

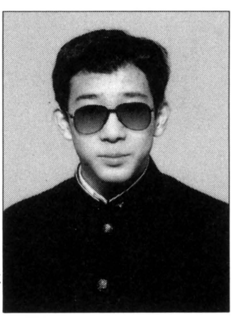
「それにしても、インターネットを通じて再会するとは、やっぱり当時のオタッキーコンビらしいなあ。なあ?」

と、ラジオライフな彼からメールが届いたのは、登録してからすぐのこと。

「やっぱり当時のオタッキーコンビ……」というクダリが何とも後味悪いが、これはこれで感動的だった。

というわけで忘れないでほしいのだけど、ここに登録している君のクラスメイトは、要するに……**自分みたいなヤツだ**、ということである。

よく考えてみよう。リアル世界の同窓会に笑顔で出席する活発で社交的な仲間たち

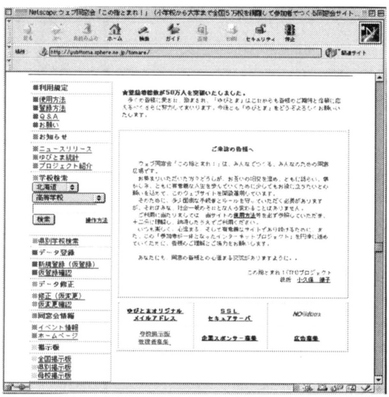


ネット経由で再会した友人（画像処理ズミ）

が、果たしてこんなサービスのことなんて知っていると思うかい？　**そもそもパソコン触っていることさえ疑わしい。**

だがまあしかし、マニアな友達と再会するのもオツと言えばオツである。友達のよしみでソフトの一本でもコピーさせてもらおうぜ。

（マミヤ狂四郎）



●参考サイト

＊ウェブ同窓会「この指とまれ！」

http://yubitoma.sphere.ne.jp/tomare/index.shtml

モサドもびっくり！
インターネットで世界最強の戦闘集団・アメリカ海兵隊員のドキドキ浮気調査

うぅみーの男わあよーう。

ある退屈な深夜。コーラを口元から垂らしながら、なじみの掲示板をいつものように巡回していた。**お巡りのように……**。すると、バンコク在住者がさわやかな情報交換をするという某掲示板に、ひときわ浮いた異色のメッセージが投稿されていた。

「主人の浮気調査をお願いしたいのですが。どなたか、バンコクで信頼できる探偵を紹介していただけないでしょうか……」

安いホテルがどうとか、安いチケットがどうだとか、悪寒が走るような安っぽい質問と回答ばかりなこの手の掲示板で、なんでまた**唐突に浮気調査の依頼なのか**……もしかしてイタズラ？

思った通り、人妻のメッセージに対して真面目に回答する者は一人もいない。唯一、掲示板の運営者らしき人物がひと言。

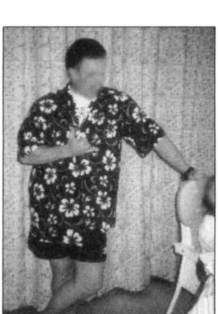
「タイの探偵は素直ですからね。素行調査なんて頼んだら、旦那に直接『**あんた浮気してるの？**』って質問しかねないよ」

と、素気ないコメントを残すのみ。ここまで他人がシカトされるのを見ると、中学生時代に仲間から孤立して、**思いきりシカトされ状態だった自分の過去を見ているよう**でいたたまれない。

そこで、この人妻にメールでコンタクトを取ってみることにした。

「こんにちは奥さん。わたしはプノンペンに住んでいますが、**決して怪しい者ではありません。**旦那さんが浮気されてるそうですが、ちょうど当社でも探偵業務を始めるところでしたので**（ウソ）**、もしよろしければ、わたしがタイまで出張して、旦那さんを調査いたします。研修ですので代金は実費でかまいませんいません」

いやらしい冷やかしのメールでも送ろうかと思い、キーボードに向かって3分間



スティーブ（仮名）君。

……。そこにはいつの間にか、**タイで浮気調査**という面白そうな話に気が変わり、詳しい事情を知るため、なんとかこのカワイソウな主婦に食いつこうとしている、**飢えた雷魚**のような自分の姿があった。

そんなメールに、問題の人妻から速攻で返事が戻ってきたのはいうまでもない。

……黒沢様。お電話しようかと思いましたが電話番号がわかりませんでしたのでメールしました。ありがとうございます。誰に頼ればよいのか分からず、途方に暮れていたときのメール。まさに天の助けでした。

しかも実費で調査していただけるなんて、いいのでしょうか？

とりあえず私の知っていることを書きます。主人の船（米海軍）が4月28日にタイのプーケットに着くのですが、主人は何日かプーケットに滞在した後、パタヤに行くようです。そこに彼女のバーがあり（主人出資？）、5月7日に次の寄港地のシンガポールに直接飛行機で向かうようです。

今回はホテルではなく彼女の家に泊まるようです。バーの周りの女の子はみな、主人を知っていて**「ハーイ、スティーブ（仮名）」**と声がかかるそう。うちの主人は26歳ですが、**体格がいいのでわかりやすい**と思います。

よろしければ郵便で主人の写真と服の写真を送ります。これから5人の子供を一人

で育てていくことになるので、少しでも養育費がほしいのです。お返事お待ちしております。

クリントン秀子（仮名）

そんなわけで、まさか毛唐との国際結婚だとは思わなかった。アメ公が日本の女とくっついて、さらに飽きたらずタイの女をつまみ食い……すげえ国際的だ。しかし米海軍って……**兵隊かよ！**

名前といい、ハーイ、スティーブといい、なんか**ネジが一本外れたような文章**。大丈夫かなこの女。

でもまあ興味津々なので、もっと詳しく旦那の特徴を教えてくれとメールを送る。すると翌週にはもう、ＤＨＬで旦那の写真と特徴をまとめた手紙が届いた。

そんでもって届いた写真を見て驚いた。いきなり家族のスナップ写真やＴシャツ姿の旦那はともかく、背中から撮った写真には、あちこちに隙間のないほど入れ墨が彫ってある。それも**マンガ家志望の小学生が徹夜明けでドラッグやりながら描いた**ような、ヘッタクソでナンセンスな絵があちこちに……**まさに人間落書き帳だ。**

鳥居にドラゴンあたりまでは理解できたが、その下の人間だかなんだかよくわからない物体はなにかと思ったら、**なんとニンジャタートル。**ふつうそんなもん、身体に


これがニンジャタートルの入れ墨だ！

彫るか？

でもタイで昔、**セブンアップのロゴ**を腕に彫ってたバカは見たことあるけどね。

というわけで、写真はともかく同封の手紙により、国際的浮気男の素性が判明した。アメリカ海兵隊スティーブ・クリントン（仮名）。年齢26歳で子供4人……ってメールでもらったのと同じ情報じゃないか。体型は尻がでかく派手なTシャツを好む……って、**毛唐はみんなケツがでかいじゃねえかよ！**

こんなショボい情報と背中のニンジャタートルだけを頼りに、パタヤの町からスティーブを探し出し、女とツーショットの写真を撮ってこいという。

ただスティーブには海軍の規則で、宿泊場所をつねに上官へ報告しなければならない義務があるため、妻のクリントン秀子が上官に直接問い合わせれば、彼の居所を掴む可能性は高まる。

面白半分に引き受けてみたものの、なかなか大変な仕事に思えてきた。パタヤは小さな町だが、とにかく**どこへ行っても毛唐だらけの土地**である。ましてや相手は海兵隊。**尾行に気づかれ変死体で見つかる**ような事態だけは避けたい。

とにかく当面の経費として10万円請求してみたが、秀子の対応が煮えきらないのにもイライラしてきた。

……あのう黒沢様。費用なのですがもう少しなんとかならないでしょうか？　いま5人目の妊娠中でお金がなく、借金せねばなりません。できる限り努力します。主人の言った言葉はすべて、主人の友人から私に入ってくるので、今回の浮気も分かりました。まさか私が知っているなんて、夢にも思っていないでしょう。

しかし、私たちに初めから愛情がなかったという言葉には腹が立ちました。5人目も7月に生まれてくるのに、なんて人なんだろうと悲しくなりました。なので少しでも養育費がほしいのです。私を馬鹿にしていた主人を見返したくて、今回の依頼になりました。

黒沢さんの助けを本当に必要としています。ほかに頼れる人はいません。どうかご協力お願いいいたします。

クリントン秀子（仮名）

本当に生活感丸出しの女である。これじゃスティーブもイヤになるだろうよ……。でもまあ、5人もガキを作ったあげく、タイの女に店を持たせて、そのうえ友達相手にヨメの悪口を言うなんて、**生殖機能だけは上等だが、とんでもないクズ野郎だ。**

しかしビジネスはビジネス。ボランティアでこんな面倒臭いことをするほど、わたしはお人好しではない。サラ金でもなんでも使って、こちらの必要経費だけは払って



海の男、スティーブ（仮名）

くれないと着手はできない……と最後通告を突きつけると、秀子から届くメールの文面は日増しに情けなくなっていった。

しまいに飽きてきたので、さっさと断って香港にでも遊びに行こうかな。と思っていた矢先に、**なんとかカネを集めました**という秀子からのメールが！

残念、その頃にはもうすっかり興味が失せて、まったく別の予定を立てていた。カワイソウだが断るしかない。秀子も秀子で、一時帰国したスティーブにパソコンの中味をチェックされ、日本語がわからないのでごまかせたものの、わたしのメールアドレスをめぐって**ひと悶着**あったらしい。

「決断は早ければ早いほど良い」

インターネットがきっかけで得た教訓である。**がんばれ秀子！**

（クーロン黒沢）

エロ画像だと思って、
たっぷりダウンロードしたらガックシ！

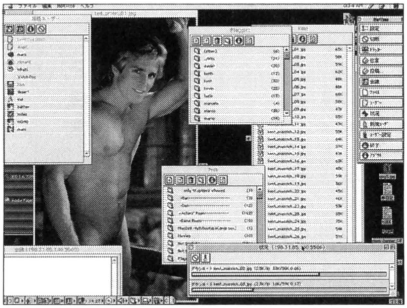
厳しくなったホットライン事情

ホットラインと言えばウェアーズ、その逆もしかり……。

まあ、いないと思うが、ホットラインをチャットするためだけに使ってる真面目な人に聞かれたら**ブン殴られそうなセリフ**だが、実際そうなんだから仕方ない。

かつてのホットラインは素晴らしかった。喉から手が出るほど欲しいソフトが、片っ端からダウンロードできた、あの栄光の時代が懐かしい。

ちょっと昔までは、嬉しいことにダウンロードフリーのサーバがいくつも存在した。タダなんて気前のイイこと言ってくれるから、こっちもたまにはファイルをアップロードしてお返しする。心の中は……こんなにたくさんもらっちゃっていいのかなぁ……という幸せ気分でいっぱい。お返しに手持ちソフトをアップロードしていた、無邪気な青春時代。**最高だったね。**



これがホットライン画面だ！

では、いまの状況はというと……ファイルの数だけは昔よりパワーアップしているようだが、いざファイルをダウンロードしようとすると、
「お前はウチとなんの関係もないから、ファイルはやらんよ」
なんて感じで、英語で注意されてしまう。しかも、
「お前がアップロードしたら管理人に伝えてくれ。**もしイイモノだったら、あとで入会を考慮してやるよ**」
と、高飛車な態度。コレには萎える。
実際にムダな時間をかけてファイルをアップロードしてやったのに、約束を守らず、なおかつ翌日から消えてしまう詐欺師みたいなサーバなんてのもあったりして、人間不信になることうけあい。**嫌だなぁ。こんな世界。**

しかし、諦めるのは早い。
トラッカー(*1)をこまめに探すと、いまでもまれにフリーサーバーが引っかかることがある。ま、いまのご時世、タダなんてところに大したファイルは転がってないけどね。この手は主にエロ画像交換に使われているようだ。
美味しい場所を発見するためには、トラッカーに登録されているすべてのサーバに、根性入れてログインしまくるしか方法はない。まさに骨折り損のくたびれもうけ。



1＊トラッカー：ホットラインサーバのリンク集みたいなモノ。管理者が自分のサーバの広告コメントを登録した電話帳みたいなモノである。で、カタログと言っても色々な種類があり、世界各国のイケてるサーバが軽く500個近く登録されている大百科事典並みのトラッカーもあれば、つまんねえチャットサーバーが計10個くらいしか登録されていない新聞の折り込みチラシ程度のモノもある。フリーダウンロードサーバを探すには、デカいトラッカーをシラミつぶしに探すのが確実である。

け。たとえトラッカーにフリーと書いてあったとしても、実際にファイルをダウンロードしようとしたら突然、**「ダメだよ」**と警告の出るケチなところも珍しくない。

とある日の私もまた、トラッカーに登録されているサーバを片っ端からパトロールしていた。

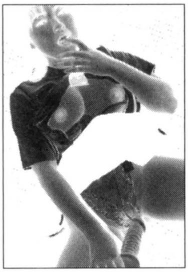
すると、膨大な量のファイルがフリーで落とせるとご自慢の、某サーバを発見。ファイルの拡張子と容量を見るに、どうやらエロ画像だと判断したので、さっそくダウンロードを始める。**ムヒヒ。**

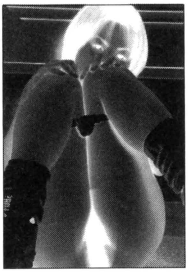
ほかにログインしてる奴らは、会議室でなにやら熱心にミーティングしているようだ。もちろん英語だから何を語っているのかは分からないが、**賑やかで雰囲気のよいサーバ**だな、という印象を受けた。

これを現実に置き換えると、神保町あたりのエロ専門古書店で、**特価のエロ本を漁っている**最中、隣で世界各国のオヤジどもがテーブルを挟み、アツく**マンコ話を語っている**といったところか？　**どうでもいいことだけど。**

これに対して、アプリ系のソフトをバラまいているサーバをリアル社会（本の町・神保町）に置き換えると、高価な専門書ばかりの書店で、レジなど見向きもせずに黙々とカバンに本を詰め込む**万引きツアーに参加**しているようなもの。それぞれのサ







ーバに特徴がある。

そんな**しょうもないことを妄想**しながらダウンロードに命を賭けていると、このサーバの管理人と名乗る男（多分）が、私に直接メールを送りつけてきた。海外なので英語である。

「ちょっと落としすぎたかな？」

ダウンロードばかりしやがって……という怒りの警告かと思いきや、**違法コピーの翻訳ソフト**を立ち上げ、マッハで日本語に置き換えてみると……。

「やあ！　君は日本人かい？　**日本の男は初めてだヨ！**　もう友達！」

と、やたらにフレンドリーな文章がそこにあった。エロ画像をダウンしているだけなのに、すでに友達まで関係が進んでいたとは……段落の端々に**ビックリマーク**が妙に多用されているのが気にかかったが……。

「ところで君のメールアドレスを教えてくれないか？　**すぐにスゴい画像を送ってやるよ！**」



スゴいのは欲しい。こりゃ教えなければ損しそうだ。あくまで本能に従い判断し、彼に自分のメールアドレスを教えた……。すると、1分も経たないうちに再びメールが。

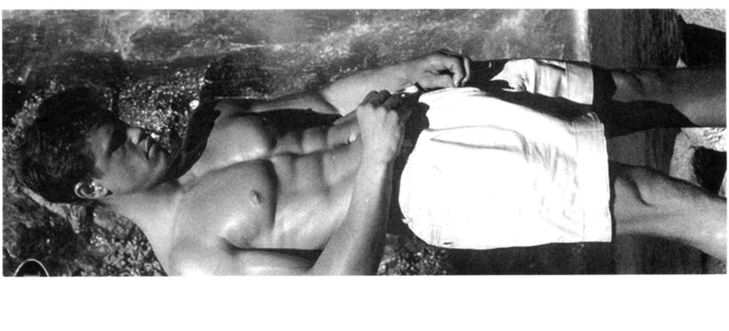
「いま送ったから！　**ところで君のポコチンは何センチだい？**」

……おい、ちょっと待て。「ところで」以下の文章が『ところで』すぎやしないか管理人よ。**翻訳ソフトも驚いているぞ。**

そして画像が届いたあとには、再び彼からの熱いメールが。

「フフフ。いま君もおれの画像でオナニーしているんだろ？　**ところで君のはどれくらい固いんだい？**」

すでに彼の頭の中では、私がポコチンを握りしめ汗だくになっている4次元ビジョンが見えている様子。この時点で**ホモサーバと判断**して接続を切ろうとすると、またまたメールが。



「ところで俺のはとても小さいんだ……」

海の向こうのアメリカから、こんな相談を持ちかけられた私だが、**ケーシー高峯のような気分**で胸を張り、

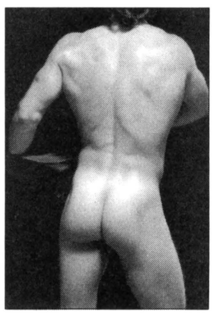
「気にするな。俺だって小さいぜ」

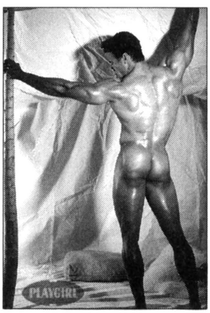
と答えてログアウト。

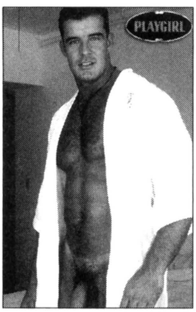
もらった画像を確認すると、管理人らしき毛深い男の裸体画像が上からズルズルとだらしなく現れた。そして、苦労してダウンロードしたファイルを確認すると……こちらも**すべてホモ画像**だった。

少しだけ、ホットラインが嫌いになった。

（マミヤ狂四郎）







モテないネット男の超強力最終兵器？

女の子とはポストペットで知りあえ！

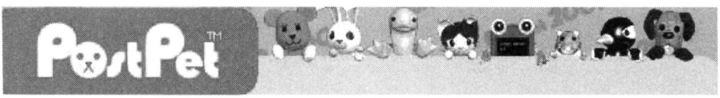
「ああ神様！　せっかくインターネットをしているんだから、**なにかよい出会い**はないものかなあ……」

と思っているチミィ！　そんな君にはぜひとも**「ポストペット」**をオススメしたい。

このソフト、要は単なるメーラーなのであるが「かわいらしいペット同士でメールを運び運ばれ和気あいあい」というのがウリである。まあ、かわいいっていうのにも主観があって、**俺は別に可愛いと思ったことなんかねえけどよ。**

その「ペットでメール交換」が世の女性（と一部の男）にウケにウケまくり、軽く50歳を超えるババアまでもトリコにしている。

「なんだよ、オンナ向けのメーラーなんて使ってられっかよ！」



かっ、かわゆ〜ぅいっ！

と、硬派に拒絶する日本男児諸君、**君は間違っているよ。**なぜならこのソフト、使い方によっては「モテないネット男の超強力ウエポン」として大活躍。ナチスの誇る**カール臼砲並みの威力**だ。

では、使用方法を説明する。

http://www.so-net.ne.jp/postpet/index_j.html

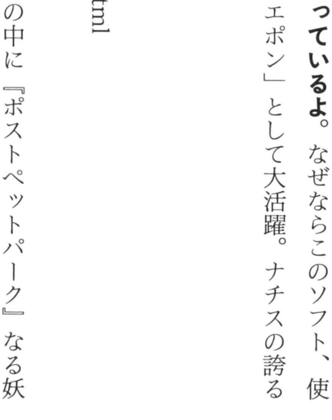
まずは、ココを見てもらいたい。このページの中に『ポストペットパーク』なる妖しげな言葉がある。その謎めいた公園こそ、**約束された楽園**に最も近い場所である。

この公園にて「ハック」「ウェアーズ」「クラック」「電話ツブす」などの地下用語を口走る野郎に出くわすことは、まずない。

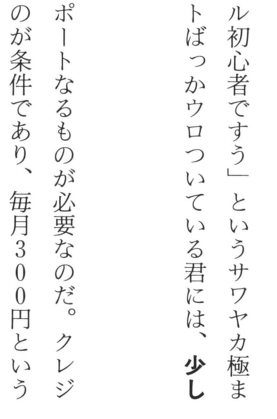
そのかわり「友達募集」「ペット自慢」「メール初心者ですぅ」というサワヤカ極まりないメンツでにぎわっている。アングラサイトばっかウロついている君には、**少しばかりまぶしく感じる**かもしれない。

アングラ野郎がなぜここに近寄らないのか。

じつはこのサイトに入場するためには、パスポートなるものが必要なのだ。クレジットカードを所持している**真っ当な人間**というのが条件であり、毎月300円という



どこが可愛いんだ？　んなもの…



これが楽園の扉だ！

セコイ金額を支払えば、パスポートを発行してくれる。不覚にも俺は、このためだけにクレジットカードを作ってしまった。**ああ無念！** カードジェネレータ(*1)が使えるかどうかは、犯罪になるので試していないけどな。**使えるかもな。**

ところがパスポートだけではなく、実際に入場できるまでにも、さらにさまざまなチェックをパスしなくてはならない。会員制の秘密女子高生デートクラブのごとき、厳しいチェックをくぐり抜けると、いよいよ秘密公園に入場することができる。

そこには掲示板がたくさん設置してあり、それぞれテーマが決められている。例えば**「ネコにメロメロ」**という掲示板。ここはその名の通り、ペットにネコを使用している人達のための掲示板である。

初心者ならば「イエローページ」という掲示板に自己紹介を書き込もう。運がよければ続々と君のペット小屋に来客が訪れるハズだ。

また、趣味がアニメだとか、バイクが好きなんだとか、素直に彼女が欲しいだとか、とにかく色々なテーマの掲示板があるので安心してほしい。自分の趣味に合った場所で書き込めばオーケー。

もちろん、文章はサワヤカに。これは鉄則だ。間違っても語尾に「ニヒヒ、誰かC



1＊カードジェネレータ：好みのクレジットカード会社を選択するだけで、各社固有の書式にしたがったカード番号をペッと吐き出してくれる便利なソフト。ただしカード会社で確認すれば、すぐに偽番号とわかってしまうので犯罪には使いにくいが、オンライン登録のプロバイダなどで一時的にアカウントを取り、その後使いまくって捨てたり……その手の行為にはひんぱんに使われている。

D交換しませんか?」とか、「グヘへ」だの、**下品な効果音を書くのはやめた方がよい。**ニヒヒ。

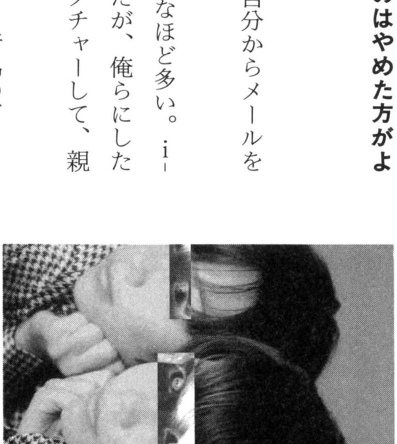
もっとてっとりばやく女の子と知り合いたいのならば、積極的に自分からメールを出せば確率は高まる。**できればペットで送るのが望ましい。**

また、最近の傾向としてi-Macを購入したばかりの女性が異常なほど多い。i-Macなら簡単になんでもできると思ってる阿呆が支配する世の中だが、俺らにしたらまさに天国。**酒池肉林とはこのことだぜ。**いろいろ親切ぶってレクチャーして、親切ついでに……**モヘへ。**

俺の場合はとにかく「イエローページ」という掲示板に、無差別テロ行為のごとく発言しまくった。しかし、何を血迷ったのか、野郎からたくさんメールが来たりして、落ち込んだこともある。

これではイカン!そう思い、今度はこっちから女性を選び、ピンポイント攻撃でメールを出してみた。もちろん可愛いペットにメールを運んでもらうんだ! ここがポイントだな。

するとどうだろう、俺の受信簿は瞬く間に、**女からのメールでいっぱい**になっていた! なんつー威力。



マミヤ氏がポスペパークで出会った女の子、その1(画像処理ズミ)

しかし実をいうと、俺はまだ、その女どもと実際には会っていない。かなり惜しいところまで行けるのだが、**結局はスカされるのだ。**

俺が思うに、このポストペットユーザーの女というものは、そこらへんにある「出会い系」サイトの掲示板に書き込む尻軽女とは、はるかに異質みたいで、『メール友達は欲しいけど、そこまで男に飢えてはいない』、難しいタイプが多数。この手の女は、かわいらしいペットでメール交換をすることによって、すでに欲求は満たされている様子だ。そしてこれはポストペットに限ったことじゃないが、**少し変なヤツ**が多すぎる。例えば……。

「彼氏にヤラれて子供ができたんだけど、オロせって言うから仕方なくオロしたの。それ以降、重度の鬱病になって、メールの返事が書けませんでした。ごめんね」

とか言う鬱女。

聞くところによれば、その彼氏、なにを隠そう某超有名アニメ(*1)の声優だという。

メールの内容は果てしなく暗く……ヘヴィーな手紙を運ぶ**ペットは少しも可愛くなく**、不気味であった。その彼女は2ヶ月毎に鬱の世界へ入るようで、いまも逃避中。

1＊某超有名アニメの声優：エ●ァンゲリオンだそうです。ちなみにもの凄い態度がデカいらしいけど、来年結婚するそうです。

「こんばんわっっ！　私はよくオフ会に行くんだけど、**エッチなオタクが多くて困ってます**」

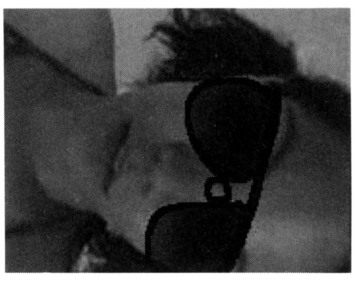
という自信過剰な女。彼女のホームページで本人の顔写真を確認したが、例えて言うと**「若かりし日の北斗晶**（女子プロレスラー）」にそっくりだった。その後は軽く黙殺しておいた。

「どうもっス！　俺もカブとルパン三世が大好きっス！」

こんな暑苦しい野郎から湯気のたちこめたメールが届くことも、日常茶飯事である。ポストペット使って野郎同士でメール交換するのはタブーだと思うよ。**虚しいだけだからな。**

「こんにちは。うちのリクガメは最近夏バテ気味です……」

なんていう、真面目なメールをくれる人もたまにいる。俺が『実際にリクガメを飼育しているひと募集』と掲示したら、速攻で返事をくれた主婦である。



マミヤ氏がポスペパークで出会った
女の子、その２（画像処理ズミ）

いまでは俺のリクガメ先生になっていて大活躍の彼女。ちなみに年齢は教えてくれない。**こういうのもアリかな。**

「オイッスゥ！　今年の5月まで看護婦をしていたけど、**いまは浮浪者なの！**　お金ちょうだい！」

と言う元看護婦(*2)……ナースからルンペンなんて波瀾万丈な人生だよな！、と感心するしかない。なんだかぜんぜん美味しいことがないな。**やってらんねえよ！**

いずれの女性たちにも共通するのが、「会いたい」とか「手紙を書くから住所教えろよ」だの、最大限さりげなく訊ねたつもりでも、**軽く一蹴**されてしまうところ。ココが「出会い系サイト」との大きな違いかもしれない。それとも俺の聞き方が悪いのかなぁ。

ま、とりあえず『ポストペット』を使っているのであれば、このサイトに行かないと**絶対に損をするね。**あんまりオイシイ思いはできないかも知れないけどさ。そこはチミのテクニックで……。

（マミヤ狂四郎）

2＊**元看護婦**：僕がものもらいになったとき、本格的な病名と治療法等を書いてきたのでリアルだった。

省エネ、クソ食らえ！
テレホタイム限界ギリギリ……

目覚めスッキリ、ダウンロード

まさかとは思うが、君が寝てる間、**パソコンもいっしょに寝てないよな？** お互い仲良く夢見ていないだろうな？ そんで朝起きてメールチェックしたときに、テレホーダイの時間はとっくに終わってたりしねえか？ **まさか……な。**

そんな不健康な生活は一刻も早くやめちまえ。お肌に悪いから君は寝ててもいいけど、**パソコンは寝かすな。** 奴にはテレホーダイのタイムリミット寸前まで働いてもらおうじゃねえか！

そう、テレホーダイのあいだはずっと繋ぎっぱなしで落としまくり！ ただし寝る前に、欲しいソフトをダウンロードソフトに登録することを忘れずに。ウィンドウズなら『ReGet』が定番。マックユーザーにも便利な『Monica』とか『DownDown DX』なるダウンロード定番ソフトがある。これでバッチリだ。

◆ダウンロードソフトの入手先

●マック用

[Monica] http:// www.ziggy.speedhost.com/

[Down Down DX] http:// hp.vector.co.jp / authors / VA008500 : ddx.html

●ウィンドウズ用

[ReGet] http:// www.reget.com/jp/

他にもいろいろダウンロードソフトがありますが、オススメは上記の３本です。

使い方はどのダウンロードソフトもほとんど似たり寄ったり。欲しいデータが置いてあるＵＲＬを『**コレが欲しいよウィンドウ（仮称）**』にあらかじめドラッグ＆ドロップしておけばいっちょうあがり。

たとえば「**あ、フォ●ショップ発見！**」てなことになったら、そのＵＲＬをペトリと登録。

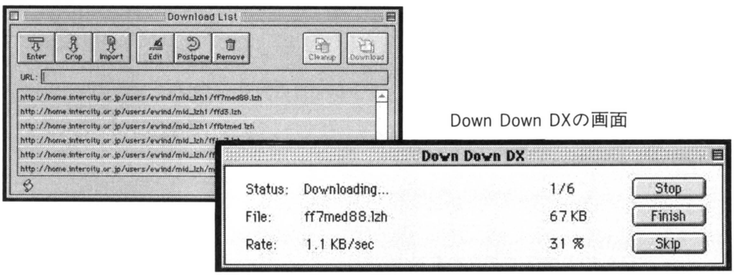
「**ワオ！　大量のエミュＲＯＭ発見！**」という事態に直面しても、冷静かつ陰険にペトペト登録すればよい。簡単だろ？

あ、でも落とすのはまだ早いよ！

実際のダウンロードは、登録ウィンドウがパンパンになってからにしよう。ま、あまりモタモタしてると、**どっかの偽善者に消されちゃうかも**しれないけどな。

さあ、ひととおり登録したら、パソコンつけっぱなしでグッスリと床についてくれたまえ。電気代がもったいないというセコい人は、モニターだけ消してもいいだろう。ただ、間違ってもモデムの電源は消すなよ。

準備ができたら『**取って来いやボタン**』を押してグースカ寝てくれ。あとはダウンロードソフトがひたむきにファイルを落としまくる。設定によっては一度にまとめて何個も同時に落とすことも可能。**この欲張り野郎め！**



Down Down DXの画面

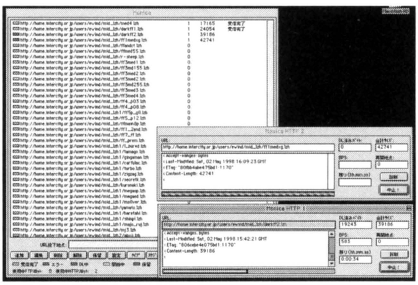
明日には登録したソフトがズラリとハードディスクに並んでいるんだと思うと、興奮して寝つけないかもね。

余談だが、これらのダウンロードソフトには大抵レジューム機能がついていて、何かの理由で落としきれなかったファイルも、次回接続時に切れた場所から再開することができる。

プレ○テのソフトが、CD1枚分そのまんまアップロードされている大事件も珍しくないのでコレは便利。まあ、専用線でもない限り、一晩で600メガなんて落としきれないからな。だけど電線伝ってプレ○テのソフトが落っこちてくるんだぜ。**すげえ世の中になったもんだよな**（違法です）。

ただし、朝8時になったら回線は切ろう。切ったら朝のコーヒーを優雅に飲みつつ、高価なアプリやらエロ画像やらでハードディスクがいっぱいになっているはずなので。それらを整理することも忘れないように。

整理しながら、昨晩落としたソフトの合計金額を計算するってのも**悪趣味で楽しいな**。3Dソフトとかは1本1本が高価だから一晩500万円を目指すことも十分可能だ。**違法だけど。**



Monicaの画面（左頁とも）

こんな生活が続くと、必ず朝8時前に目が覚めるという死ぬ間際の老いぼれジジイのような体質になるハズだ。**もう心身共に健康優良児。**早起きは三文の得。体が資本ともいうし、イイことだ。

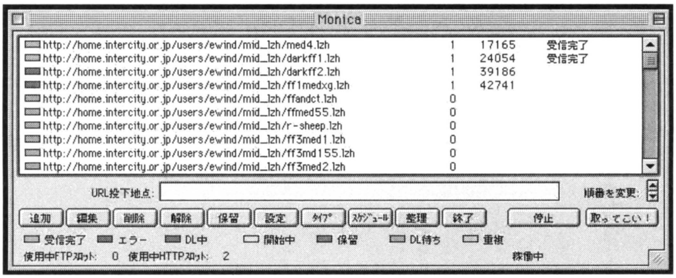
子供の頃「サンタクロースが来て、足元にプレゼントが！」なんて夢を見たことはないか？　でも実際に起きたら何もないんだよね。当たり前だけどさ。

でも、こんなダウンロード生活を続けてると、それこそ毎日がメリークリスマスだぜ。毎朝8時には、あんたのハードディスクが**ハッピーなプレゼントでパンパン**になっているんだからね。

最後に言っとくが、希望のソフトを見つけられないなんてザラだから。そううまくいくとばかり思わないように。

そんな時はmp3のデータとか可愛いアイコンでも落とすしかねえ。悔しいけどしょうがねえ。そんなものでも1万個も溜まると壮観だぜ！「mp31万曲ハードディスク」とかめざすのもクレイジーで大いにけっこう。じゃ、オイラはもう寝るよ。明日の靴下チェックが楽しみだぜ！

（マミヤ狂四郎）



児童ポルノ法案成立記念コラム・その1

ロリータに説教した男

児童ポルノ法案(*1)が国会を通ったというのに、まわりの人間は妙にロリータづいていて不気味である。その好例が、もう5年近いつき合いになる細井さん(29)だ。

某ソフト会社を経営するやり手の青年実業家だが、その実態はというと、テレクラでナンパした女子高校生に部屋を与え、**マンコに剣道の竹刀を挿入**。

しかし濡れてなかったのでアソコから血が出てケンカになり、ついつい手が出てしまい部屋をもっと血だらけにして、怒った彼女に後日、部屋のテレビを持ち逃げされるという(*2)、**素晴らしい生き様**を送っている。

そんな細井さんが最近自慢しているのが、チャットで知り合った女子中学生A子とB子である。どちらも去年小学校を卒業したばかりの13歳。**はっきり言ってあなたそれ犯罪ですよ……**。

1＊児童ポルノ法案:カネにからませ18歳に満たない児童の乳首・性器・肛門に接触することを禁ずる法律。もちろんペド画像のやりとりも規制の対象になる。掟を破った者には5年以下の懲役・または100万円以下の罰金。また、児童買春の周旋をした者にも3年以下の懲役・または300万円以下の罰金が待っている。

2＊部屋のテレビを持ち逃げされる:ソニー製の21型ワイドテレビ。ほとんど使ってない新品同様のものだった。

……いいんですよハハハ。A子はエッチできるまで3～4ヶ月かけただけあって、乳首は僕好みで小さいし、あそこの締まりもいいし、それにセックスしたあと精子だらけの汚いチンコを舌で一生懸命掃除してくれるんですよ**ウワハハハハ。**

まだ覚えたてだからアレが楽しくて仕方ないみたいで、何度でもオーケーだし、だけどいまちょっと家出状態で、彼女の母親が警察行ってギャーギャー騒いでるみたいなんですよね。

だけどしょせんはエッチしたことがバレなきゃ民事不介入ですからね。彼女は僕の子供産んでもいいみたいだし。**いいですよ中学生は。黒沢さんもチャットやるといいですよ。**

だそうだ。

ちなみにB子とももちろん性交済みである。いまでは東京の某高級住宅地に中学生との密会用マンションを買い（注：細井さんには妻も子もいる）、夏休みもセックス三昧ということ。**ちなみに犯罪なんですけどね！**　というわけで、インターネットには細井さんだけでなく、あわよくばネットでロリータと知り合ってウヒヒ……と甘い考えをもくろみながら日々オナニーに励む変態が、国籍問わず少なくとも10万人以上は生息しているだろう。

欧米ではすでに深刻な社会問題となっていて、**チャットで変なオヤジから声をかけられたら注意しろ！**　と、日頃から親が子供に言い聞かせているほど。日本もすでにその域に達していると思うのだが、まだ親のほうが対応できていないようだ。

もしあなたの一人娘が、インターネットのチャットで知り合ったペドビデオのコレクターに竹刀突っ込まれて、その画像をニュースグループに投稿されたりしたら、**いったいどうするだろう？**　とりあえず俺だったら、その野郎をぶっ殺してから首を切断して、デジカメで死体を撮影。それをPCに転送してから、**画像をニュースグループにアップロードする**だろうな、おそらく。

話がそれた……。

というわけで、いま、その手のロリコン軍団から最も熱い注目を浴びている出会いの場所。小便臭いチャットサイトといえば、それはもう、キ○ィちゃんで有名なSンリオ（仮名）の運営する**「ムグチャット（ちょっと仮名）」**をおいて他にない。

やたらなれなれしいメッセージ。カタカナを多用した子供向けのインターフェイス、そして画面のあちこちには女の子向けの可愛いキャラクターたち……メニューを

見るだけで**反吐が出そう**だが、これなら無垢なロリータたちが群がるのも理解できる。

「ムグチャット」のサインアップは簡単なうえ無料である。自分の個人情報を適当に入れてキャラクターを選び、スポンサーから提供された星を選んでそこに家を建てればよい。

たとえば某製菓会社提供の「おかしの星」に空き地があれば、そこにチョコレートの壁やビスケットの椅子を置いて、自分ならではの家を作ることができる。

というわけだが、ご自慢の可愛いグラフィックが重たくて、家を建てている段階で**少し気が狂いそうになる**。しかし家がなくては「ムグポスト（少し仮名）」という会員間のメールシステムが使えない。**これでは相棒のいないミラクルカンフー阿修羅**(＊3)みたいなもので……**要するに不自由**である。

忍耐で家を作り、自分のプロフィールを登録したら、あとはチャットや掲示板で自分の名を売って、そこで知り合った人々とメールの交換を通じて親交を深めてゆこう。基本的に「ムグチャット」では、プライバシー保護の観点から、相手が改まって告白しない限り、個人のメールアドレス等はいっさい表示されない。したがって通常はSンリオのサーバを通した、ウェブメールでのやり取りとなる。

3＊ミラクルカンフー阿修羅‥足を切断された男と、腕を切断された男が合体して戦う香港映画。詳しくは黒沢著・『怪しいアジアの暮らし方』（ワニ文庫）を参照あれ。



ミラクルカンフー阿修羅

このメールがまた、画面上の便せんにファンシーなキャラクターが惜しげもなくバラまかれており、便せん一枚表示するのに**鼻血が吹き出すほどイライラ**させられる。しかも、無料会員は100～200文字の**チンケなメールしか送れないのだ！**

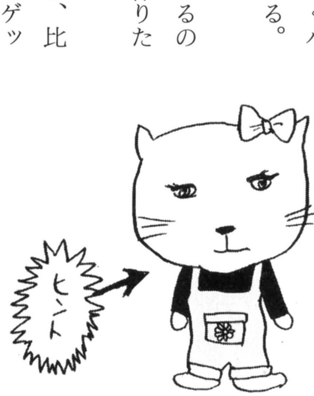
まったく、いいかげんストレスがたまるシステムである。この時点で生き残れるのは、よほど気の長いのんびり屋さんか、自由な時間がペルーの通貨みたいに、作りたいだけ作れる**ヒマなガキ**のどちらかだろう……どちらにせよ好都合だ。

そんなわけで基本的に皆ヒマみたいなので、掲示板でメールを募集していれば、比較的簡単に女の子からメールがもらえるし、逆に意味もなくメールを求める女をゲットするのも、この世界の中だけなら容易である。

うまく知り合えたらJAVAスクリプトがうざったいオンラインゲームで遊んだり、相手にもリアルタイムで見えてしまう「おえかき」で似顔絵を描きっこしたりして、**さりげなく善人ぶりをアピール**しつつ、リアルワールドでは自慢の竹刀に水で溶かした覚醒剤でも塗ったりして、**来るべき日の準備**をしておこう。

もちろん、ここにもネットオカマや年齢詐称女が腐るほど存在する。だが、そんな連中も「おえかき」に誘い出して一発なにか描いてもらうと、見事に尻尾を出してくれるから面白い。

つまり、マウスで描く文字や絵には、その人物の個性が文字よりも色濃く浮かびあ



がるわけで、おおざっぱに幼児、子ども、学生、成人……どれに属するか、たとえ相手がウソをついていても、絵を見ればなぜかだいたいわかってしまう。また、線を引いていく速度やていねいさなどからも、無意識に表面化された相手の性格を読み取ることができるかもしれない。（おえかきは現在、未稼動であるが……）

ロリータに説教した男

知人の坂本君（仮名・25歳）も筋金入りのペド伯爵である。

彼もご多分に漏れず、ロリコン仲間から「ムグチャット」での美味しい話を聞いて、さっそく「おかしの星」に家を建てた。

坂本君は手っ取り早く、知り合った女の子にアピールするためだけの自己紹介ホームページを作り、家のアルバムに数百枚ある写真のなかから、最もカッコよく写ってるモノをピックアップして、掲載した。

その後しばらくして、彼にも何人かのメールフレンドができた。厳選してフルイにかけただけあって、**全員小学生から中学生**である。坂本君によれば、年齢にさえこだわらなければ、女からのメールなど掃いて捨てるほど集まるらしく、実際彼も少女趣味の人妻や団地妻などからのメールを、ガンガン切りまくったらしい。

そして、それら複数のロリータたちとの1日数回にもおよぶメール交換を連日つづけてゆくうち、一人、二人と返事が来なくなり、結果、**小説家志望の小学生・ムグ子**（12）が残った。

その女の子は小学生のくせしてすでにコミケに出入りしており、ハードやおいの小説やマンガを愛読しているという。そして、年上の男とのオトナの関係に憧れていると打ち明けられ、つきあってほしいとトントン拍子でコトが進んでいった。そのあいだ、要した日にちは**なんと3日**らしい！

ロリコン仲間の証言はウソじゃなかった。こんなに簡単に核心に迫れたなんて……と、目標達成に心躍らせる坂本君であった。

そしてある日曜日。ついにムグ子の住む静岡県の某市で開催されるミニコミ即売会で初デートが決行されることになった。ただし彼女は以前、他のロリコン男と会ったことがあるらしく、そのとき**なにがあったのか**は知らないが、警戒して友達3人で来るらしい。

そんでもって約束の時刻、待ち合わせ場所に現れた3人組のうち、**一番太めで厳しい顔の女の子**がムグ子ちゃん（仮名）だった……。夢と希望が打ち砕かれてしまった坂本君。

「あ、あのっ、はっ始めまして！　坂本さんですか！」
「うん、会えて嬉しいよムグ子ちゃん」
「わ、わたしもです！」
「それはそうとムグ子ちゃん、僕ちょっと**そこの店でうなぎ食べて来る**から、マンガでも買ってきなよ」
「……は、はい」

しかしブスだからといって邪険にあつかうわけにもいかない。彼は適当な口実でその場を抜けだし、コッソリと新幹線で帰ろうと思っていた。しかし、ムグ子もそれを予期したのか、なんと駅へ向かう坂本君をダッシュで追いかけてきたのである。それも**たった一人で……**。

「さっ坂本さん！」
「あっ……ムグ子ちゃん。ど、どうしたの？　買い物はすんだの？」
「ちょっといいですか……」
「あっ……はあ……いいよ」



「わ、わ、わたし、オトナの男の人と恋愛したいんです！」

「……」

一瞬、ブスでもなんでもいいから、とりあえず据え膳食らってしまおうかと思ったそうだが、なぜかそのとき、口が勝手に動きだし、**考えてもいないない偽善的な説教**をして、ムグ子を拒絶してしまうのであった……。

「……他の友達とかも、みんなそういうこと考えてるのかな？」

「多分、わたしだけ……**わたし早くオトナになりたいんです！**」

「あのねえムグ子ちゃん……お父さんお母さんに心配かけるようなことはよくないよ！　つきあうのはムグ子ちゃんが**もう少しオトナになってからね！**」

……というわけで、せっかくのロリータを振ってしまった坂本君。「**ペドの道は地獄**ですからね、どうせ同じ地獄なら、相手は選ばなくちゃあ**ウヒャヒャ**」

そんな恐ろしいことを言いながら、彼はまた新たな獲物を求めてファンシーな世界をザブザブ泳いでいるようだ。

（取材・クーロン黒沢）



＊参考リンク（本文とは関係ありません）
http://www.magnet.ne.jp/

児童ポルノ法案成立記念コラム・その2

幼女のマンコ舐め特権を提供するカラオケ経営おやじに見る暗黒ペドの世界

日本有数のペドビデオコレクターであり、なおかつカネを腐る程持っている危険な青年実業家・細井さん（29）は静かに語る……。

「あのねえ黒沢さん。カンボジアには11歳のピンサロ(*1)があるらしいですが、日本も最近は負けてないですよ」

ここの記事、あまり詳しく書いてしまうと、当事者たちの人生はともかく、ひとりの少女の未来までブチ壊してしまうため、適当に触れるにとどめておくが、**ほとんどぜんぶ事実**である。

ただし、真実をありのまま書いてしまうと、素晴らしいほどターゲットが特定されやすいこともあって、若干事実を曲げて述べることにしたい。ご了承いただきたく

1＊11歳のピンサロ：いつ摘発されるかと見守っているが、半年たっても堂々と営業してる……いいのかよ！

……**ブォーン**（銅鑼の音）。

某国内プロバイダに、一見すると罪もなにもない、家族紹介のホームページがあった。

子煩悩なパパさんが、愛娘（7歳）の成長記録として、これまでに撮りまくった写真の数々を、自分のホームページで公開するというもので、普通ならタイトル見ただけでネットスケープを閉じてしまう類の**腐れサイト**である。インターネット全体で300万個はあるだろう、ごくごく平凡なページにすぎない。

本業はカラオケボックス経営というパパ（けっこういい歳）、そしてホームページに自分の意志と関係なく、バシバシ写真を載せられている女の子は、例えて言うならばクラスに一人はいるカワイイ娘が、なにかのはずみで引退前の辰吉を怒らせてしまい、2～3発ブン殴られた感じというか、**要するに愛嬌のある顔**をしている。

そんなわけで、ひととおり娘の写真集を拝見させてもらうが、妙にシチュエーションや衣装に凝っていたりして、事前知識のまったくない者ですら、なにかキナ臭いものを**ピン**と感じてしまう。

お腹いっぱい幼女のスナップ写真を拝見してから、付属のリンク集をたどってビッ

クリ。なんだか知らないけど、ロリコン関係のページばかり……**もしかしてヤバイぞ、このオヤジ。**

しかしながら、ホームページから某パパの真実の姿を知ることは不可能だ。彼もまた真性ロリコンに特有の、**狼に育てられた少年も顔負けの警戒心**を持ちあわせているらしい。

しかし頼りになる細井さんは違う。生まれ持ったペドビデオに関する博識を武器にロリコン仲間と親交を深め、彼らの信用を勝ちえたのち、ネトネトしたオフ会にも何度か参加したあげく、ついに**某パパの裏の顔**を知ってしまったのだ。

余談になるが、オフ会に現れるひとのなかには、海外の銀行に口座を持ち、日本では手当たり次第にそのへんの女の子をイタズラしているという、**前歯のぜんぶ無い男**などというデンジャラスな人物もいて、なおかつ細井氏が頼めば**イタズラ現場への同伴見学**も許してくれるという。

親しみやすい変態というべきか、よくわからないが……時代も変わったものである。

しかし、こんな危険人物よりもヤバかったのが、実は最も無害そうに見えるパパさ



んだったという。なにを隠そうこのオヤジ、1回10万円で自分の娘と希望者のロリコン男を、すっ裸で密室に閉じこめるという、はっきりいって**モロ違法なアルバイト**を密かに実施しているのだった。

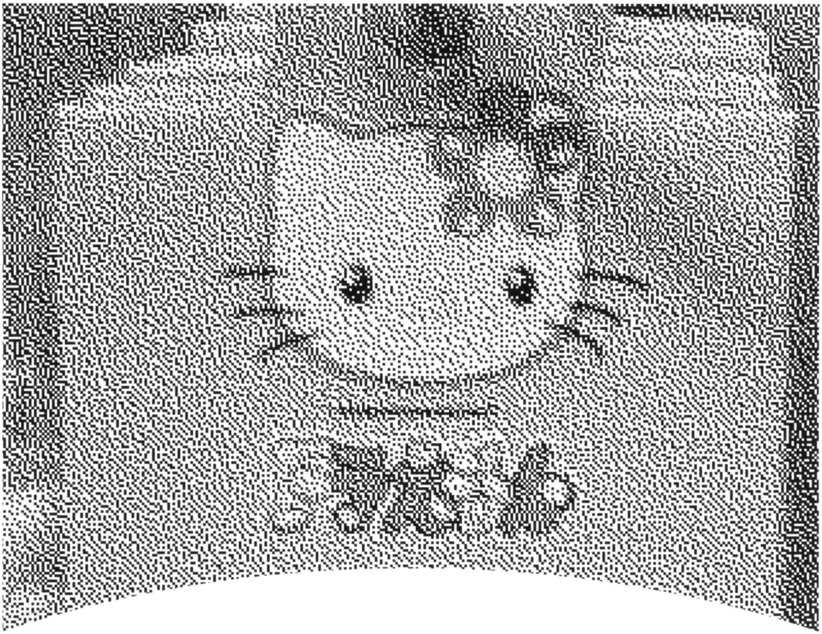
体験者には、細井氏とかなり親しいという某一流商社のJ氏（34）も含まれており、細井氏が彼に感想をＩＣＱで訊ねたところ、

「そそそ、挿入はしなかったけど、**舐めました**」

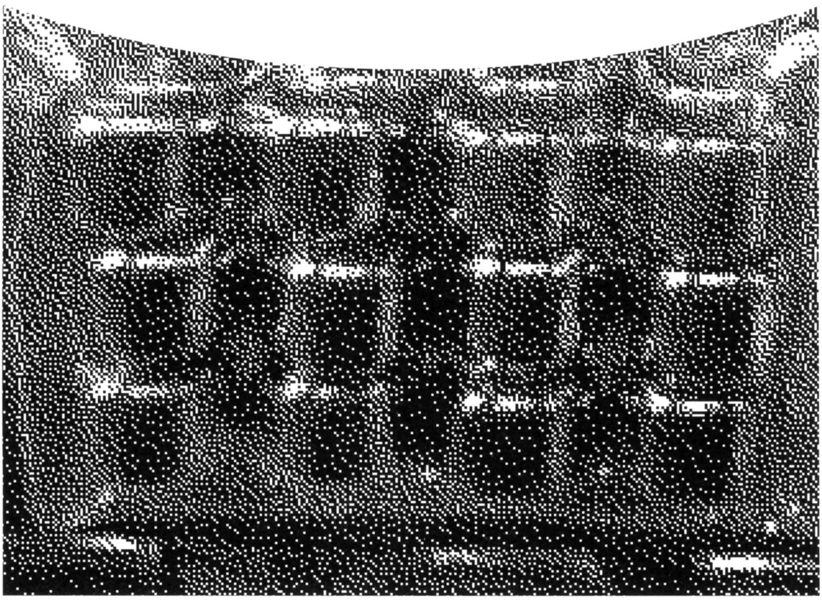
という、恐るべき回答が返ってきたという。

日本もそろそろ厳しい時代になってきたようだ。合掌。

（クーロン黒沢）



7章/ハック・パチモノ特選インタビュー



直撃インタビュー
幻の海賊版「インワンソフト」製作者に接触！

相手は当然**イヤイヤ出てきた**あげく、**言葉もろくに通じない**うえ（一部外国人）口も重く、あくまで**のらりくらり**と、核心を突いた質問を片っ端からはぐらかしてくれる。それでも我々がアジアのインワン事情について予想外に詳しかったため、後半部分では突っ込んだ質問にも、それなりの回答をしてくれた。

今回対談に応じてくれたインワン関係者は、来先生と孫先生のお二人（ともに仮名）。

モロ違法なだけに情報量が少ない「インワンソフト」。

雑誌にもしばしば登場するものの、珍品アイテム紹介の域を出ず、制作者や組織の情報なども闇の中に閉ざされ、タブーとされてきた。

インワンソフトが日本に上陸して早くも10年が経過している。その間、さまざまな人々と知り合い、さまざまなコネを使いまくって実現した今回のインタビュー。

そして聞き手と通訳は、彼らと繋がりのある我々の仲間、中太郎君（仮名）が担当してくれた。仮名ばっかりで申しわけないけど、いっちょういってみよう！

中太郎：はじめまして。

来先生：ドウモ……。

孫先生：アイ……。

中太郎：来さんはインワンの工場関係者に知人が多いそうで。

来先生：そうですね。でも場所は言えません。**死刑だから。**

中太郎：逮捕されたら死刑なんですか⁉

来先生：絶対ってわけではないけど、中国で悪いことして目立ったら**マア死刑ですね。**

孫先生：他の人にも迷惑がかかる。

中太郎：すいません……。

来先生：91年にも、どこかのバカが情報漏らして、大きな摘発がありましてね。大勢捕まりました。

中太郎：ああ、セガが圧力かけたっていう、有名な大摘発ですね。

来先生：よく知ってますね。日本でも有名ですか？

中太郎：いや……誰も知らないんじゃないかなあ。

孫先生：あれが契機で、全員地下に潜った。少しずつ作って、少しずつ出荷する。

来先生：それまでは作ったらまとめて売るだけだったのですが。

孫先生：大きな工場でも、不良率はすごい。



来先生：千本作ったら、800本は不良でした。

中太郎：その不良品、どうしたんですか？

来先生：変な奴が全部買っていきました。

孫先生：もちろん、タダ同然で売った。

中太郎：そんなもの、どうするんでしょうねえ？

来先生：観光客が通るような場所の露店に卸すんですよ。

中太郎：ははあ……**あまり考えたくない**ですね。ところで不良品の話に戻りますが、いまでもそんなに大量に不良が出るんですか？

孫先生：いまはほとんどない。原価も下がったから。

来先生：そうね。昔はEP－ROMがメインだったけど、いまではEP使ってるとこなんかないですよ。

中太郎：なるほど、昔のインワンソフトが高いのは、原価もそれなりにかかってたからですか。

来先生：そう。不良品の部品代も上乗せされてました。

孫先生：大容量のEPは高いから、安いEPをたくさんのせたり。

中太郎：そういえば、大容量のカセットは重かったですね。

来先生：いまではコストは安いし、取り締まりもないですし、よい時代になったと思います。

中太郎：昔と比較してユルいと思いますか？

来先生：ファミコンはもう現行機種じゃないですから。**税関もほとんど無視**してます。

中太郎：いま厳しいのはプレステですか。

来先生：そうね。僕たちはプレステのことあまり知らないけどね。

孫先生：いまはチップ（MODチップ）なしで動くCDも技術的には可能だけど、出回るのはもうちょっと先。

来先生：でもね、いまでも**中国ではまだまだ**ファミコン売れてますから。子供のアイドルですから……。

＊

中太郎：ところで、インワンソフトのデータ形式ってどうなってるんですか？

来先生：基本的にはFFE方式（マジコン用イメージ）のデータでオーケーですよ。ファミコンに限らず、どの機種も似ています。

中太郎：じゃあ、エミュレータ用ロムイメージも使えますか？

来先生：可能です。

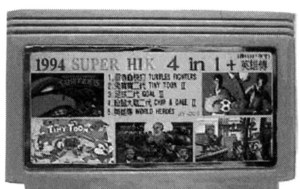
中太郎：ちなみにファミコン以外のインワンソフトって、なんであんなに少ないんですか？

来先生：売れないから。売れるのはファミコンとゲームボーイだけよ。**任天堂はよく売れるね。**

中太郎：日本やタイでは最近、64インワンや76インワンのリバイバル版が売れてますよ。

来先生：それ、マスタリングしたのは僕の知り合いの業者だよ。





海賊版「インワンソフト」いろいろ（その１）

中太郎：76インワンには「Tsang Hai」という名前が入ってます。

孫先生：「Tsang Hai Products」だね。意味ない。

来先生：ニックネームみたいなものです。

中太郎：でも、10年前のものなのに、良質な商品はいまでも売れるんですねえ。

来先生：でもね。中国ではたくさんゲームが入っていてもダメなんです。

中太郎：えっ……なんでまた？

来先生：いまは、良質で大容量のロムが4～5本入ったカセットのほうが売れるんです。「くにお君」とか「ロックマン」とか。

中太郎：「くにお君」ねえ……。

来先生：しかし、**タイのカセットは本当に安い**です。驚きます。

中太郎：コピーのコピーだから安いんですか？

孫先生：このレベルだと、部品代からして、とてつもなく違うと思う。コピーのコピーでもこんなに安くはできない。

中太郎：でもバンコクでは、店頭価格でこれくらい（200バーツ：約500円）ですよ。

来先生：不思議です。うちで卸すときの値段でさえ、タイの小売り価格の倍はいきます。タイの小売り価格が中国の部品原価よりも安いのですから、商売になりませんね。

中太郎：タイで仕入れて売ったほうがいいですね。

来先生：流通の問題がありますけどね。

うちらは密輸だから。韓国にも卸してますよ。

中太郎：マレーシアやタイで売っているのは、中国産ですか？

来先生：マレーシアはシンガポール製。タイは自国で作ってますね。あの値段で仕入れるのは不可能です。

孫先生：マスタリングしてないから安いのかもしれない。

来先生：マスタリングって、手間暇かかりますから。

中太郎：そういえば、エミュレータ用のロムからオリジナルのインワンソフトを作ることも可能なんですよね？

来先生：ファイルの変換は必要ですが、問題ありません。

孫先生：容量が重要。ゲームボーイもファミコンも、基本的に256KB、512KB、1MB、2MB、4MB（32Mビット）の五種類ある。

来先生：ダブリ無しの76インワンでも、2MBくらいです。

中太郎：じゃあ4MBにすれば、倍入りますね。

孫先生：技術的には可能だけど、**大容量は問題が多い。**インワンの場合は、各ゲームの容量を統一したほうがトラブルがないんだ。

来先生：大容量だと単価も高くなります。

中太郎：もし僕がオーダーしたら、何本から作っていただけますか？

孫先生：**最低千本から。**

来先生：マスタリングの手間と費用もあ



るから、千本くらい作らないと割りが合わないのです。ケースやラベルの印刷もありますから。

中太郎：では、もし2MBのカセットを千本作ったら？

孫先生：250万円。

中太郎：1本2500円ですか。しかし千本あってもねえ……。

＊

中太郎：アジア製のオリジナルソフトありますよね。任天堂のライセンスなしで作った、ファミコン版の「モータルコンバット」とか「ソマリ」とか……。

来先生：見たことはありますが、くわしくは知りません。

孫先生：ファミコン版の「鉄拳2」はよかったな。

中太郎：ああいうソフトの開発はしないのですか？

来先生：我々は基本的にインワンしか作らないのです。スタッフも少ないし、コピーの技術だけでプログラムや絵を描く人もいない。

孫先生：台湾のメーカーだと思う。

来先生：そうですね。台湾にはファミコンのライセンスを所有している会社がいくつかあるから。プロじゃないとあの仕事は無理だと思います。

孫先生：オリジナルのゲームを出しても儲からない、だから売れそうなものを狙って作ったのかもしれない。

中太郎：心当たりはありますか？

孫先生：ウーン。台湾ならSACHEN(＊1)とかNTDEC(＊2)とかWET(＊3)あたりが怪し

1＊SACHEN社（TCE）：台湾で最も大きなゲームメーカー。ファミコン以外でもオリジナルゲームを多数リリースしている。

2＊NTDEC（高遠科技有限公司）：ファイティングヒーローというモドキソフトを出して、日本とモメた実績を持つ。ゲームボーイ用にオリジナルのゲームをいくつかリリースしている。

3＊WET（外星電脳科技有限公司）：ワイシン電子の略。最近頻繁に社名変更を重ねていて怪しい。ニセたまごっちなどを製造している。

い。

来先生：しかし**作ってもコピーされるだけ**ですよ。どう計算しても儲かりません。

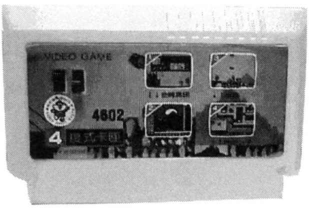
中太郎：なぜですか？

来先生：マスタリングの段階で、業者はかなりの量を水増し生産してます。悪いところだと制作者が流通に流す以前に、工場から小売店に流出するケースもあります。

中太郎：信用できませんね。

来先生：しかしね、**それが我々の業界**なんですよ。

（構成・鶴見和昭）





海賊版「インワンソフト」いろいろ（その2）





本当にあったキワい話――パチモノ業界潰し合い外伝

通販ウェブは外注に出すな！

「初めはみんな仲良かったんだよね。皆で甘い汁を吸いあったりしてさ……」と語るのは、情報通で現役パチモノ業者の田中氏（仮名）。

これから１時間にわたって田中氏が語るのは、シラフではちょっと信じられないような、後味の悪い業界裏話。まったく、お金って恐ろしい！

●こんちは。では最初から聞かせてもらいましょうか。

田中：アア、スーファミのブームが終わって市場がプレステに移行したよね。それでマジコンの売れ行きがガクンと落ちて、将来が心配になってきたときに、うまい具合に時期主力商品を発見したんだよ。それがＭＯＤチップなんだけど。

●あれも最初はひどかったですね、秋葉原じゃひとつ１万円で売ってた店もありましたよ。

田中：１万円ならまだいいよ。アキバの

○ト○ートなんて1万5千円だったもんな。**あんなしょぼいチップ一個で。**

そんなとき、「ウルトラセブン」（仮名）って会社を興した青年実業家のI氏（仮名）が、MODチップを2500円ポッキリで売り出したんだよ。価格破壊ってわけで、相当売れてたみたいだね。

●そりゃ、売れるでしょうね。

田中：でもう一人、「ザンク」（仮名）という会社も同じような値段でチップを売り始めたんだな。こっちの社長のO氏（仮名）も、やっぱりまだ20代後半と若かった。

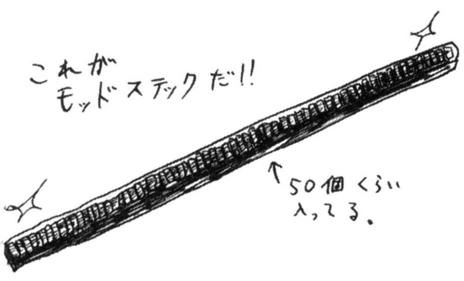
ただ、O氏はいちいちタイまで行って、50個単位の長い棒を仕入れてたみたいで、苦労してたみたいよ。それがまあ、**眠れる恐竜を復活させてしまった**わけだけど。

●はあ、恐竜？

田中：そう、むかしスーファミ用のマジコンを売りまくってひと儲けして、そのまま香港にこもって商売して、姿を消していたミスター西本っていう謎の人物なんだけど、彼が**「オレがチップ卸しますから」**って、O氏とI氏に提案したんだよね。

二人とも仕入れでこれ以上苦労したくないし、相手は香港在住だけどいちおう日本人だし、パチモノ業界じゃ名の通った人だから、けっきょくすっかり頼り切っちゃってね。

実際、そのあとしばらく、業界じゅう



ほとんどみんな、ミスター西本の会社からチップを仕入れてたんじゃないかな。

この頃、ザンクとウルトラセブンはとっても仲良くて、雑誌に載せる広告も二人で相談して値段を決めてたくらいだったんだけど、ミスター西本がザンクO氏と個人的に深く関わるようになってから、だんだん雰囲気が変わってきたよね。

●O氏はミスター西本とタッグを組んだんですか?

田中:そう。ミスター西本もそれまでは表向き、どの店にも公平にチップを卸してたけど、いざザンクと正式合併してからは逆に、**他の業者をツブす**、って公言してたからね。

その第1弾が、京大生ハッカーの通販ページ作戦だったわけよ。

●謎のハッカー斉藤君(仮名)の登場ですね。

田中:うん。たしか**現役の京大生**だったな。斉藤君はザンクによく出入りしていて、はたから見てもモロにザンクの人間だったんだけど、それまでのナアナアな仲で、うちも含めていくつかの業者が、彼に通販ページの作成を頼んだんだよ。

なんで他の会社の人間にそんなもの任せるのかって?

その頃は業界全体が人材不足でね、たしかに彼は1ページ10万ってムチャな額を提示してたけど、CG1やプログラム技術は最強だし、カッコいいページ作っ

てくれたから。仕方なかったんだよな。

●一時期、いくつかの業者ページがやけに似てたのって、それが原因だったんですか。

田中：そうかもね。でもって、京大生ハッカーなめてたら、とんでもない細工されてたんだよねー。つい最近まで一年以上気がついてなかったんだけど、うちに来た注文のメールが、ぜんぶそっくりそのまま、ザンクにも転送されてたってわけ。

●派遣型スパイですか。カッコいい話ですね。ハハハハハ。

田中：**笑い事じゃねえよ！**　うちだけじゃなくてウルトラセブンもやられてたからね。つまり売り上げや顧客名簿が、ぜんぶリアルタイムで流出してたってわけで、**死亡遊技だよ**、これじゃ。

　この頃、ザンクの指導権は完全にミスター西本が握っていたみたいだな。うちはあまり影響受けなかったけど……ウルトラセブンはそれこそ目の敵にされてたよ。

　一時期、京大生のパソコンからインターネットと電話回線を通して、あっち側が起動してるあいだ、ウルトラセブンー氏のハードディスクが**ぜんぶ覗けたら**しいし、ホラー映画より怖いよ。あいつは。

●ミスター西本は露骨に対ウルトラセブン用のショップも作りましたね。「ウル



トラシックス」（仮名）って。

田中：**フザケた名前だね。**Ｉ氏をツブすための店だから、商品もほとんどウルトラセブンと同じで、しかも価格設定はぜんぶウルトラセブンより200円安くなってたりして。

ちなみに最初の受付電話番号は0氏のPHSだったそうだけど。それでもＩ氏は気がつかなかったらしいよ。でもちょっと詰めが甘かったみたいで、振込先の名義人がザンク某スタッフの名前だったんだよね。それでＩ氏が気付いて**マジギレしちゃった。**

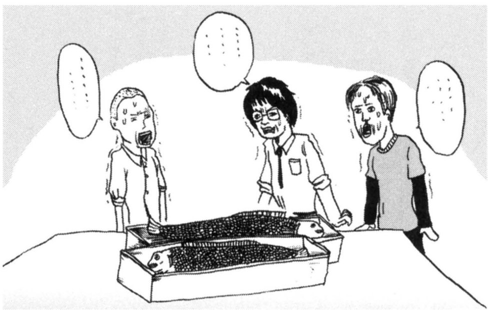
●Ｉ氏がマジギレしてもミスターＩ西本はへっちゃらだったんですか。

田中：アア、そんなんでビビるようなタマじゃないからね。

ところでＩ氏はどうして自分の会社の情報を、すべてザンクに見透かされているのか、ずっと悩んでいたみたいなんだよね。

それで出した結論っていうのが、社内にスパイがいるんじゃないかって、なぜかそっちの方向にいっちゃったのよ。

それがきっかけで片腕の某社員を疑ってしまうんだけど、これを敏感に察知したミスターＩ西本とザンク0氏は、四百年前の戦国時代に使われた古い計略を再現して（武田信玄を愛読してたらしい）、なにを思ったのか、お歳暮に１メートルくらいの**超でかい新巻ジャケ**を、ザンク名義でウルトラセブンに送りつけたんだよな。２匹も。



●ずいぶん厳しいことしますね。しかし武田信玄とは……。

田中：そうだね。で、某社員に贈られた新巻ジャケのことを知ったI氏は、いよいよ人間不信になって、会社に居づらくなった片腕の某社員もやむなく退社しちゃったんだ。カワイソウに。

あとで真相を知ったI氏は、会う人ごとに**「腐れ外道西本！」**って叫びまくっているみたいだけど、あとの祭りだからね。それにあまりの気迫と怨念でみんなひいちゃってるよ。

●はあ、人間なにも持ってないのが一番平和でいいですね……。今日はありがとうございました。

（インタビューと構成：鶴見和昭）

＊本文中の個人名および会社名はすべて仮名となっています。



緊急掲載！

限度を知らない未成年・パンキー石渡

今回は特別に、この業界のあちこちから、**最年少懲役行き確定者**といわれている少年Aこと、パンキー石渡君のインタビューを緊急掲載しよう。

若干16歳にして眼光鋭く、つねにナイフを携帯している危ないガキです……という危険な前評判にもかかわらず、石渡少年は**清潔な好青年**だった。まあでも、好青年と見えてじつは腹黒いというのが、この業界に巣くう人々の共通項でもある。そんなことで油断するほどバカではないので、こちらも**言葉を選びながら**収録させてもらった。

石渡少年がこの世界に入ったきっかけは、小学6年生のときに書店で買ったファミ通だった。巻末に載っていた某短編マンガで、イラストだけとはいえ、ゲームをコピーすることができる怪しいマシンをはじめて目にした石渡少年は、その後中学生となり、書店の隅で「アクションバンド」「ラジオライフ」(*1)などという



1*「**アクションバンド」「ラジオライフ**」：無線マニア、警察マニアが愛読する盗聴雑誌……というと聞こえは悪いが、内容のマニアックさでは他の追随を許さない。いまだになんの解説もなく回路図が載っていたり、白黒広告では警察手帳のレプリカが売っていたりして、本棚に並べておくと他人に誤解される可能性大。

2*「**ゲームラボ**」：「ラジオライフ」と同じ出版社が発行する同じノリのゲーム雑誌。こちらもいまだに16進数のプログラムリストがあたり前のように掲載され、「ラジオライ

怪しげな雑誌といっしょに並んでいた、ひときわ異彩を放つ分厚い隔月雑誌「ゲームラボ」(＊2)を発見するのだった。
「ゲームラボ」誌上で、**見てはいけないものを見てしまった**石渡少年はじょじょに進化し、秋葉原の裏通りで店を開く某ショップで、この本の共同執筆者・鶴見氏の主宰するミニコミ「POSITIVE」を発見するにいたって、**ついに開花**してしまう。
　それからはもう、戻りたくても戻れない。小遣いがあれば秋葉原を歩き回り、パンチパーマのアニキが仕切る露店などでパチモノROMを買い漁り、高校1年までに集めたパチROMが約50本。
　また、プレステも購入するが、当然オリジナルのソフトを買う気もカネもない石渡少年は、そのうえMODチップを買うカネもなかったため、ついにチップなしでピーコCDを動作させてしまうという、**奇術並みのテクニック**を編みだしてしまう。
　電源オンのときだけオリジナルCDを入れ、あるタイミングで素早くコピーCDと入れ替えるという、常人では考えすらしないその技術に、秋葉原パチモノ関係者たちは大いに驚かされた。
　さっそく石渡少年は、このテクニックを恩義のある「ゲームラボ」に提供するが、なぜかシカトされてしまう。これには石渡少年もショックを隠しきれなかった。
石渡：**「シカトされました……」**。絶対に

フ」に匹敵する広告の怪しさで反抗期の少年たちを虜にしている。

3＊「コン○ール7」のおばちゃん：数あるパチモノ通販ショップのひとつ。代表は某青年実業家だが、時おり彼がテンパったときに母親が電話に出ることがあり、石渡少年はよく母親の方に電話でクレームをつけていたようだ……。

4＊おばちゃんとの格闘：97年、某雑誌にてMODチップ2500円という破格店を発見した。
　その当時、MODチップはどんなに安くても5〜6千円はしたが、その店はなぜか2500円だった。理由は不明だが安いことはいいことだ。これは買うしかない。しかしカネが足りない……。
　そうだ！　ちょうど近所で夏まつりをやっていた。まつりに行くからカネちょうだい。これ

掲載されると思ってたのに……。**編集部全員ぶっ殺してやろうか**と思ってナイフを買いましてねえ……。いまでも持ち歩いてますよ……へへへ」

ただし、若いだけあって立ち直りも早く、「コン○ール7」(＊4)のおばちゃん(＊3)と毎日**電話で格闘**したり、タイに行ってパチモノCDや女を買い漁ることによって、**傷心と殺意をなんとか鎮めた**ようだ。

バンコクへ通うようになってからというもの、あちこちでパチモノや禁断CDを仕入れ、日本で組織した結社のメンバーにそれを販売するという**高校生らしくない生活**を送っている石渡少年に、業界に対する率直な意見を語ってもらった……。

石渡：周りから見ると大きく見えたパチモノ業界ですが、いざ中に入ってみると、3つも4つも同一人物が経営していたり、趣味の延長でダラダラ商売している人が大多数だとわかりましたねえ。

ただ、知識もないくせに偉そうにしてる業者が多すぎて**ムカつきますね**。そういうパチ臭せえ奴らに負けたくないですから、自分もパチモノに関して日本でナンバーワンと言われるようになるために、**修行ですよ修行**。

まあ、カネのためにやってる奴は絶対に長続きしませんからね。

……と、意外に真面目な答えが返ってきた。では、こういった業者の客でもあ

で母から小遣いをもらった。チョロいな。さっそく某店に電話すると、意外にもおばちゃんの声が……。

「プレステのMODチップひとつお願いします」

「はい。あさってつきます」

やった！ ついに念願のチップ入手成功。ところで当時の某店は、青年実業家がひとりで経営していたため、彼が海外へ出る際は、彼の母とパートが受注と発送を仕切っていたらしい。

ところが1週間後。まだこねえ……怒って電話する。

「あっスイマセン！ 出し忘れてました」

出し忘れるなよ！ それから2日後、待ちかねたブツは届いた。しかし取り付け用の説明書を見たら、MODチップじゃなくてサターンキー用が入ってる。これじゃ使えないじゃねえかよ。

再び怒りの電話をかけ、5日後に急送すると言われ大人しく待つが、届かない……。そろそろ限度ギリギリだ。震える手で

るマニアについてはどうだろう?。

石渡:ああ、湿っぽくてラードみたいにネバネバした身◯臭せえのばっかりでムカつく。**タイのゴーゴーバーの売れ残り**と張り合ってんじゃないかな。

　あ、僕のホームページの掲示板を荒らす阿呆が一人いるんですけど、そいつのホームページに行ったら全然おもしろくないし、本のパクリばっかりなのに、なぜかアクセスカウンターが7千人突破していたりして、増え方が尋常じゃないんですよ。で、**本人が自分で連打**して増やしてるみたいなんです。

　だから自分もそいつの掲示板に「カウンター連打するなよバカ」「本からパクるなアホ」って書き込んだら、逆に向こうから「こぴいしーでぃーうるなばか」とか、ぜんぶ平仮名で嫌がらせのメッセージを**延々10時間続けてポスト**してきやがりましてね……。

　いま毎晩寝る前にシーツとマットを**ナイフで100回突く**んですよ。そうすると落ちつきますよ。寝心地悪くなりますけどね。

　……というわけで、単なる著作権法違反か、それとも傷害かはたまた殺人か、16歳で**戦国時代並みの生活**を送る石渡少年の未来には、よくも悪くも業界全員が注目している。がんばれ石渡少年!

（クーロン黒沢）

受話器を握るが、おばちゃんはあくまでも無邪気にこう言った。

「スイマセン! 出し忘れてました」

……その2日後、僕の名前を書き間違えながらも、解説書と図面の入ったフロッピーが無事届く。しかし図面の画像は妙なフォーマットで圧縮されていて、当時インターネットもなにもやっていなかった僕は途方に暮れた。

　振動パックのようにブルブル震えつつ再度某店に電話して、お願いだからプリントアウトして送ってくれよ、と半ば懇願するが、おばちゃんは無慈悲に僕を突きはなした。

「できませんね」

　諦めた僕は、同じクラスのオタク仲間に、某店から買ったMODチップをカツアゲ寸前で押し売りした。手数料含め3千円で……。

（石渡少年:談／構成:クーロン黒沢）

屋台の兄貴から毎日逃げ回る……

パチモノ界のダースベイダー＝秋葉原のベートーベン

秋葉原に、連日テキヤの兄さんたちから攻撃され、逃げ回りながら違法商品を売っている**ベートーベンに似た男**がいた。

通称「妖怪アカナメ」「パチモノ界のダースベイダー」と呼ばれる、**加持田（仮名）**という男。

口調はなぜかオカマ調、デブでアトピーで、髪の毛はホームレスみたいで脂まみれ。上から見ても横から見ても、この世のものとは思えない。常にフーハーフーハーと鼻息荒く、汗ダラダラで暑苦しい。**てめえ人間かよ！**

いまでこそ平和なパチモノ業界だが、一昔前はパチ臭い業者ばかりてんこもり。その手の雑誌広告の審査など、よほど適当だったのだろう。どう見ても違法と思われる商品を売る業者が全体の約半分を占めていた。**いやあ、よい時代でしたな。**

その手の広告を出していた連中のなかには、摘発され捕まった者も大勢おり、客か



ら預かったカネを持って夜逃げした業者も珍しくはなく、その頃、カネのなかった僕らユーザーにとっては、なにか商品ひとつ購入するのも命賭けだった。

ソフィアというお店

ソフィアを知ったのは、'93年10月に出た某雑誌広告だった。他のページで「アムデックジャパン」(*1)という業者が、大きくカッコイイ広告を出している横で、半ページ白黒の、小さくて怪しいワープロ切り貼りみたいな怪広告を載せている業者があった。なぜか値段はすべて「?」マークのみ……。

当時、僕はタイゲン貿易(*2)で買った「スーパーマジコン」と、アムデックで発売当初に買った「スーパーコムパートナー」という、2台のマジコン（どちらもスーファミのゲームをフロッピーへコピーする機械）を所有していた。通っていた高校のクラスでも、ひそかに伝道しながら友達にも買わせて、確実にコピー仲間を増やしていた。

新作なら1本5千円以上するものも珍しくないスーファミのカセットが、この機械があるだけでダータになってしまうわけで、クラスメイトもすっかり僕の洗脳に迎合し、よい業者を探すため、その手の雑誌を授業中にペラペラめくるようになっていた。

1＊アムデックジャパン：ミスター西本という業界の有名人が興した通販会社。最初にマジコンと呼ばれるスーファミのゲーム複製マシンを安売り。それまでドロドロだった業界を再編した。ただし、後年「サイクロン」という問題大ありの金食いマシンを独自開発。これが失敗のもとで自然消滅してしまった。

2＊タイゲン貿易：詳しくはタイゲン貿易の項（12頁）を参照。この店はまっとうな商売でユーザーからの支持を集め、値段は高いが根強いファンを持っていた。ところが社長が変な宗教にハマったり、妙な哲学を客に押しつけるにいたって総スカンを食い、最後には夜逃げ。

そういう雑誌に広告を出していた通販会社のほとんどは、マジコンを買ってくれた客にオマケとして、各社いろいろなデモディスクをプレゼントしていた。アムデックの対応にはおおむね満足していたので、友達にもアムデックを勧めたかったが、色々な店で買わせれば、全種類のデモディスクをそろえることも可能だ……そんなコレクターとしての純粋な気持ちが、**滅亡への始まり**だったとは……。

当時のパチモノ情報ソース「バックアップ活用テクニック」(*3)という雑誌には、信じられないほど魅力的なアジア製のパチモノソフト、ハードがたくさん紹介されていたものである。

しかし、高校生時代の僕は香港に買い出しなど行ける環境ではなく、日本でおおっぴらにパチモノを扱っていた数少ない店、秋葉原の「メッセサ○オー」や「タイゲン貿易」に顔を出し、棚に陳列された高価な商品を見てため息をつくのがやっとだった。

コレクターの血が騒いでいたのか、自分の持っていないパチモノは**すべて欲しくて欲しくて、仕方なくなってしまう**。

実際、それまで集めていた貴重なファミコンカセットやスーパーファミコンの本体などをソフマップに売って、そのカネを握りしめてタイゲン貿易へ行き、ひとつ2万

3＊「バックアップ活用テクニック」：三才ブックス発行、後にゲームラボと名前を変える。

円というぼったくり価格で売られていた数種類のインワンカセット(＊4)を、片っ端から買い占めていたほどである。タイゲンも笑いが止まらなかっただろう……。

それ以外にも、広告にないレアな商品をゲットするため、用もないのに日本中のパチ系通販ショップへ資料請求の手紙を出しまくり、ダンボール満載のダイレクトメールを毎日**目を充血させながらチェック**したものである。

そんなところで、特に怪しげなソフィアの広告が目に入ったものだから、なにも考えず反射的に電話すると、加持田と名乗る男が応対してくれた。どうもこの店の社長らしい……。

あのう、マジコンはもう持ってるので、インワンカセットとか、マジコン用のゲームディスクが欲しいんですが……。

「あら、そんなのうちの事務所にゴロゴロしてるわよ！　**あなた、そういうのが欲しいの？**」

ええ、どうしても欲しいんです……。

4＊インワンカセット：
アジアで売られている、1本のカセットに複数のゲームが入ったソフトの総称。詳しくは39～40頁を参照。

「リストは作ってないけど、**なんでもよけりゃ売るわよ**」

はあ、できればチェックしたいので事務所行きたいんですが。

「まだダメよ。だったらなにかウチの商品を買って**常連さんになってちょうだい！**」

というわけで、**オネエロ調がとても気になった**が、とりあえず仲良くなればイイことあるかもな、という結論に達したため、ソフィアからマジコンを1台購入することにした。

加持田はなぜかCCL(＊5)の回し者みたいに、評判のよくないCCL製のプロファイターを勧めてくるが、品質の悪さはよく知っていたので、前から愛用している他の機種を購入する。そんで、ほかにもチョコチョコものを買って電話でお世辞を言いまくり、加持田を褒めちぎっていたら、ある日、本当に浦安の事務所へ招待してくれた。

それからは学校が終わるたびに、埼玉から浦安まで部活をサボって通いつめる日が続いた。ゲームギア用の73インワンが転がっていたので、「これ売ってほしいんですが……」。と値段を訊ねると、

5＊CCL：チャイナコーチリミテッド。香港の悪名高いマジコンメーカー。台湾某社から有能なエンジニアを引き抜いて自社ブランドのマジコンを出して大躍進。社長は元溶接工。いまは高級ナイトクラブを荒しまわっているとか。

「ああ、これは送料がけっこう高くて、**1個6万円ならいいわよ**」

とのこと。**なんでこんな小さいモノに送料かかるんだよ！** というわけで、必死に値切り交渉して2万5千円で購入する。ほかにも、加持田のパソコンのハードディスクには、発売されているスーファミ用ソフトが、日本版とアメリカ版含め、ほとんど全タイトル入っていた。

じつはこの男、自社からマジコンを買った客に別名義でダイレクトメールを送り、1本500円でデータをフロッピーに入れて販売していたのである。**もちろん違法だが**、僕も喉から手が出るほどほしくて仕方なかった……。

どうしても欲しいソフトだけ厳選しても百本はくだらなかったので、1本500円でも5〜6万くらいはしてしまう。すでにパチモノやマジコンで、普通の高校生には想像もつかない大金を動かしていてカネがほとんどなかったので、プライドを捨て、加持田に頭を下げて頼んだ……**いっぱい買うから安くしてください！　カネないんです。**

すると、当時、副業がパチプロだったという加持田は、

「だったらあなた、パチンコで稼ぎなさいよ」



と、パチンコのこすい技を伝授してくれた。それもまた、どうしようもなくセコイ技で、タイミングにあわせて延々1発ずつ玉を打ってゆくというもの。

これで稼ごうとすると必ず丸1日は台に張りついていなければならないが、それでも必ず6千円くらいは出るので頑張った。加持田はマジコンで小金を稼ぐまで、これ一本で生活していたらしいが、とても面倒なので**僕は2日で挫折**した。

パチンコ屋の人もいい顔しないし、1日かかって稼いだカネをすべて加持田に持っていかれるわけで、鵜飼いの鵜になったようで気分悪かったからだ。

仕方ないので、再び誉め殺し作戦を開始した。**完璧です！　最高です！　さすがパチプロすげえー**、とかいって加持田をいい気持ちにしてから、タイミングを見計らって**タダでゲームのデータください**よ、と持ちかける。最初は難しいかと思ったが、案外カンタンにオーケーが出て、それからは秋葉原でフロッピーをしこたま買い込み、毎日夜中まで加持田の事務所に詰めて、ピーコしまくる毎日が続いた。

洗脳・そして香港へ

そんなこんなで、表面上仲良くしていくうちに、加持田から色々な裏話を聞くことができた。ただ、あとで裏をとってみたら**99パーセントはガセネタ**だったのだが

……。

「アムデックの西本にマジコンを教えてやったのはこの俺だ！」とか、「あいつは俺の作ったルートから勝手に仕入れて、ウチをツブすような真似をしやがって、こっちは新車3台買えるくらいの損害をこうむったのよ！」とか……。

また、僕といっしょにいるときにも、加持田がひんぱんにアムデックへイタズラ無言電話をかけている(＊6)ので、「なんでそんなに嫌ってるんですか？」と訊ねると、

「アムデックの住所は私書箱なのよ！　本業は裏ビデオも売ってるのよ！　**許せない！**」

と、意味不明のヒステリー。ソフィアの商品はすべてアムデックより1万円高かったが、その理由を聞くと、

「うちは1個1個動作チェックして、過酷な使用にも耐えられる本物しか持ってこないの。わざわざ香港まで行ってチェックしてるんだから、**他のはクソなのよ！**」

という感じで、納得させられるようでなにか意味不明の答えしか返ってこない。そ

6＊アムデックへイタズラ無言電話をかけて：このときその無言電話を受けていたのは俺だったんだよ！（黒沢・談）

の頃ソフィアの広告では「プロファイターが月々3200円で買えます」という意味不明の分割払い制度を始めていた。ただし**ローンの合計回数が書いてない……**。とにかくうさん臭いのだ。

しかし、にこやかにあいづちをうって機嫌をとっておかないと、ゲームのデータがもらえないので、とにかく頑張ってひたすら誉め続けていると、加持田の口から唐突に、**香港買い出しツアーをやろう!**、と新企画が発表された。

そして香港出発。雑誌広告で募集をかけたらしいが、**参加者は加持田と僕のみ。**ツアーだと思っていたら、単に加持田の買い出しにつき合わされただけ……。

そのうえ参加料金が20万円を超える(*7)ぼったくり価格で、いまとなってはいくら加持田のポケットに入ったか知るよしもないが、香港初渡航なので緊張していて、そこまで頭が回ってなかった。

それより驚いたのが、香港で売っているパチモノの値段と、加持田の販売している値段とが、あまりに違いすぎることだった。ちょっと前に2万5千円で買わされたカセットと同じものが、3千円で売っているのだ。

怒りがまったくわかなかったといえばウソになるが「加持田てめえぼったくりやがって!」というよりも、「加持田さん、こんなに安く売ってる場所に連れてきてくれて**ありがとう!**」という感謝の気持ちの方が、先に出てしまうのだった。

7*参加料金が20万円を超える:余談ですが日本と香港の往復チケットは、4万円から5万円で買えます。

当時、加持田は「これが一番売れてるマシンなのよ」と、CCLのプロファイターばかり売っていたが、いま考えるとあれは単に香港で売れ残った在庫が安く買えたからにほかならない。

深水歩の裏通りでは、上半身裸のオヤジが露店でUFO（77頁参照）という人気のマジコンを売っていた。聞いたら1台6千円。ちなみに日本での相場は約6万円。10分の1である。**マジかよ！**

その頃、僕は「POSITIVE」というパチモノ情報交換のための会員制サークルを作っていた。ここで売ってるの全部買って、日本でうちの会員に売ったら、旅費も含めて**おつりが来るじゃねえか！**

というわけでオヤジの在庫20台すべて買い込み、税関で怒られたりしながらも、なんとか気合いで持ち帰った。が、その20台は**すべてブッ壊れていた……**。

日本に戻ってから、加持田との仲はいっそう密接なものとなり、そんなこんなで加持田からマジコンを買って仲間に売って……ということを繰り返し、気がつかないうちに、ソフィア埼玉支部のようになっていった。



逃げられた！

親しくなった加持田だが、'94年6月頃から急に連絡がとれなくなった。**おかしい、**いくら電話しても加持田がいない！　たまに小林と名乗るババアが電話を取るが、加持田はいったい……。

ちょうど加持田が行方不明になる直前、僕は自分の主宰するサークルの会員向けに、マジコンの販売を始めていた。加持田からは10台まとめて買って値引きしてもらい、すでに何度も取引があったのですっかり信用していたため、みんなから預かったお金も加持田に預けっぱなしになっていた。

や、やばい。バックレられたか！

でもって本当にバックレたようなので、手がかりを掴むため、奴が広告を出していた雑誌の編集部に電話する。「あのう、そちらの本に出ている広告の店で、バックレられちゃったんですが……」。

「そうですか……そういういかがわしい広告を載せた当社にも問題がありますので、**キチンと調査させていただきます**」

頼もしい答えが返ってきたが、実際はタダの決まり文句だったみたいで、大した協

力は得られなかった……。仕方ないのでしりごみする編集部を半ば脅して**「ソフィア被害者の会」**を設立。

しかし、あくまでも編集部側は及び腰で、持っている情報をなかなかこちらに教えてくれなかったが、叫んだりわめいたり泣いたりしているうちに根負けしたのか、ようやく加持田の実家の連絡先を渋々ながら教えてくれた。

当時、僕以上にアツい被害者・野崎さんという人から突然、

「キミ、被害者？　そう、僕も被害者」

と、暗号のような謎の電話がかかってきた。

僕の電話番号は例の編集部が教えたらしい。野崎さんの被害者指数は僕より高く、どうも会社の同僚に片っ端からソフィアのマジコンを売りつけている最中に、バックレられたらしい。

そのうえ彼は、プロファイターと「ハッカー486」という意味不明な名前のパソコンを、なんと月々3200円プラス7200円の分割払いで購入しており、商品がまだ届かないというのに、銀行からは合計金額分のカネがいまだに毎月引き落とされているという。

引き落としを代行しているオリコに文句をいうと、

「うちは仕事でやっているだけなんで」

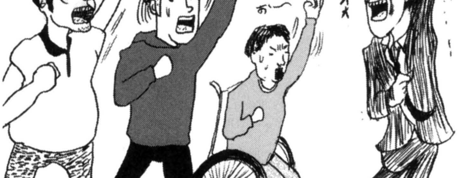
と事務的に片づけられ、断念。野崎さんとは同盟を組み、加持田の実家に手紙を出したり情報交換したりした。しかし手紙も電報も加持田は完全シカト。**残念ポンで断念ポン。**

ほかにも被害者の会には、通称ハイド君という下半身不随の車椅子少年から、結婚生活にくたびれたオヤジまで、本当にさまざまな層の人々がいて、会うたびにみんなで加持田のことを呪っていた。

特に野崎さんはぼったくられた額も**デカデカデカオ君**でヒートアップ。ついに加持田の母親にコンタクトを取ったらしいが、加持田の母親は泣きそうな声で、

「息子はすでに勘当していて、縁を切ってますので知りません。なんでワタシばかり。**ウウウウ〜〜〜**」

と唸るばかり。思わず同情してしまう野崎さんだが、後に母親もグルだったことが



わかり、呆然。**なんていう一家なんだよ！**

よりによって、野崎さんが加持田の母親に電話したあと、なぜか僕の実家にイタズラ電話がガンガンかかってくるようになった。黒幕はもちろん、加持田である。

「フヒヒヒ。アンタのやっている行為は度が過ぎているのよ！　**警察に通報したわよ**。ついでにソフィアの留守番電話に吹き込んだ声も録音して、それも送ったから覚悟しなさい。だいたいねえ、商品はもう送ってるのよ。**アンタがウソついてるのよ！**」

よくもそんなデタラメを被害者に向かって言えるものだ。「こっちも被害者の会を作ったから、そういうことならこっちも警察に通報しますよ！」と叫ぶ。

「あらそう。へーへーへー。そうきますか。覚えてらっしゃい！」

と言われ、一方的に電話を切られた。**まるでマンガだ。**

加持田は行方不明？

いっこうにラチがあかないので、ソフィアの事務所に乗り込もう！　という決定がくだされた。筆頭被害者の野崎さんと僕が、まずマンションの管理人と不動産屋に会った。

管理人のおばちゃんによると、宅急便や郵便局が何度も来ているが、いつまで経っても不在で困っていたという。そのうえ、

「アーラまあ、みんなから追いつめられて生きてるのが嫌になって、もしかしたら加持田さん**自殺してるんじゃないかしら？**」

とイヤなことを言うので、それじゃ合い鍵で開けてみよう！　ということになった。怒り心頭だったが、このときばかりは、**「加持田死なないで！　どうか生きて僕にお金を返して！」**と、ちょっと弱気になっていた。

まずは管理人のおばちゃんが室内に潜入。僕らは外で見守る。

どうでもいいが、ドアの外から見える光景だけでもスゴい。床から天井まで、「過酷な使用に耐える」はずの、ぶっ壊れたプロファイターが山積み！　そしてなぜか**猫だらけ**。置き去りにされたのか、あちこちでニャーニャーうるさい。

「うちのマンション、ペット禁止なのに……」

さすがに温厚そうな管理人も途方に暮れていた。**猫の手でも借りたいから猫飼ってたのかなあ？**

こういう経緯で、僕らはもうあきらめるしかないと思い、スッパリ忘れることにした。しかし、車椅子少年ハイド君をはじめ、警察や消費者センターに駆け込んで苦情を言う被害者メンバーもいた。

だがしょせん、買ったものもパチモノだし、彼ら自身かなりうさん臭いので、相手にすらされなかったらしい。**ああ無情。**

ボーナスコンピュータ（仮名）登場

しばらく沈黙の日々が続いた。

悪夢の出来事を忘れかけていた頃、サークルメンバーの一人から連絡があった。

「ボーナスコンピュータ」という業者から、突然怪しいダイレクトメールが届いたという。

そういえば昔、加持田の結婚相手と噂されていた小林さんがこんなことを言って



た。

「みんなから預かったお金を香港に送ったけど、ボーナスコンピュータって業者にバックレられて、発送できないんですう」

加持田も当時からボーナスコンピュータという名前をよく口にしていたが、もしやあいつがまた……。

さっそく通報してくれた当人に、「そのダイレクトメールをこっちに送ってくれ！」と頼む。

そしてブツが届くと疑惑は確信に変わった。そう、ソフィアが昔くれていたダイレクトメールと、書式も使ってるワープロもまったく同じ。扱い商品まで同じというありさま。イヤ～な予感は的中した。

さっそく、例の雑誌編集部に電話で報告する。

「前に夜逃げされたソフィアが、ボーナスコンピュータって名前で復活したみたいなんですけど、そっちにボーナスの広告って入ってますか？」



するとと編集部からは落ちついた声で、

「わかりませんねえ。もし判明したらご連絡しますので……」

とのつれない返事。しかし次号にはちゃっかりボーナスの広告が掲載されているのだった。またもや宣伝文句には「過酷なプロ仕様」とか書いてあって、**どう見てもバレバレ！**

仲間うちでボーナスから商品を買ったという人を探し、経過を訊ねてみたが、1ヶ月ほど待たされたものの、頼んだ品物はいちおう届いたらしい。

加持田のやつ、懲りずにまた同じ商売始めたか……。でも商品が客のところに届いてるってことは、心を入れ替えたのかな？　まあ、どちらにしても、俺から踏み倒したカネは返してもらうからな……。

というわけで、再び加持田の行方を追った。**まずは電話だ！**

しかし、ボーナスコンピュータはいつも留守電で、たまに誰かが電話を取ったとしても、昔ソフィアでバイトしていたF井という男でラチがあかない。もちろん本人は否定しているが間違いない。

やっと尻尾を摑んだと喜んだのもつかの間、ボーナスコンピュータの広告はアッと

いう間に消え、電話も再び不通状態。聞けば今回も何名かの客がカネを持ち逃げされたという。

うわさのベートーベン露店

また逃げられたか……と、悔しい思いをさせられながらも、そろそろ忘れた頃に、アキバの路肩で露店を営んでいるテキヤのお兄さんがボソッとこんなセリフを叫んだ。

「邪魔臭い店ができたからつぶす」

なんでも許可なく露店を開き、しかも扱っている商品が某露店とモロにかぶっているらしい。なぜかイヤな予感がしたが、その無許可露店があるという場所に行ってみると、加持田にそっくりの男が歩いている。

心臓バクバク。もしあいつだったら殺られる前に殺るしかない……そんな僕の気迫に感じるものがあったのか、加持田に似た男は素早く路地裏に姿をくらまし、そのまま消えてしまった。

その数日後にも、

「あのベートーベン頭をしたやつが、そこの露店で働いているぞ！」

という通報が某露店に届いた。兄さんたちは、加持田のことを通称**「麻原に似てる奴」**と呼んでいた。

僕はその足で加持田露店へと走る。噂では聞いていたが、本当に本人が店番していたのでびっくりした。しかし加持田は僕の顔を見るや血相を変えて車の中に逃げ込み、そのまま走り去ってしまった。

ちくしょう加持田！ 頭の中はにっくき加持田でいっぱい！ まさに加持田の虜だ。ああ加持田。仕事も手につかない。

だが、それからというもの、兄さんのニラミが効いているおかげか、加持田の露店が再び現れることはなかった。

そしてDコンピュータ（仮名）

バイバイ加持田。どこかでのたれ死ね！ とハッピーな某週末。兄さんのおやっさん、通称ボスからとっておきの情報をもらった。

「おう鶴見、あの麻原の野郎、性懲りもなくまたアキバに店出したみたいだぞ」

あの野郎、なんどツブされれば気がすむんだ！、と言っているあいだにも、例の雑誌に**また奴の広告が載ってる！**　その店の場所は秋葉原の場末にある某雑居ビル3階。名前は「Dコンピュータ（仮名）」といい、表向き「安いCD－Rメディアとかわいい女性店員」をエサに、オタクボーイズを誘き寄せている。おまけに店長は加持田の忠実なる飼い犬・F井だ。

しかしDコンピュータの女性店員は**本当にかわいい**。あんな子がどうしてあんな店で働くのか不思議に思っていたら、どうも**キャバクラ嬢をキャバクラなみの給料で雇っている**そうだ。

インターネットの某掲示板でも大きく話題になっていたが、**「仲良くなればオッパイ触らせてくれるんだぜ」**という、どう見ても加持田本人が書いたと思われるメッセージもチラホラ。知人の間でも「普通ならアキバじゃ絶対見れない、そのへんのコンパニオンよりも断然かわいい」とのことで、そらもう大盛況らしい。おまけに、

「店長、これ安すぎじゃないっすか？」

というセリフを決まった時刻に叫ぶ、**汗ダラダラなサクラ**まで2人も雇っているら



しく、あまりにムカついたので、兄さんたちに加持田の悪業を片っ端から告白することにした。

「なんだよ。ネタあんじゃねえか」

兄さんは喜び、とりあえずいっしょに行ってやるからひとこと言ってやれと、兄さん、そしてボス、さらにはボディガードの外人3人を連れて、加持田の店に乗り込んだ。

さすがにビビると思ったが、加持田も並みの役者じゃない。

「アンタ、俺の部屋に勝手に入って金品を盗んだのは分かってるのよ！ **早く帰らないと警察呼ぶわよ！**」

と、わけのわからないことを大声で連呼して、まったくひるむ様子をみせない。なんでこんなに強気なんだよ加持田！ **加持田加持田加持田加持田……**（以下永遠ループ）。

（鶴見和昭）

パチモノ持ち帰り隠匿術、ちょっといい話……

全部没収されたらかなわんよな、高橋君。
ファッハッハ

国際化の波は、例外なくパチモノマニアにも訪れている。

いまや直接現地へ出向いての、激しい買い物も珍しいことではなくなった。さすがアジア各国はパチモノ発祥の地だけあって、新卒で大蔵省に入った若者たちには信じられないようなソフトやハードが、超特価で売買されている。

どこかで見たようなキャラが勝手に使われているしょぼいゲーム、数十本ものゲームが無秩序につまったカートリッジ、本物よりもキレイなラベルのコピーCD。どれも僕たちの胸をときめかし、過剰なまでに購買意欲をあおり、異常なまでの衝動買いへと発展させてしまう。

買い物をすませ、両手に持ちきれないほどのパチモノを抱えながら考えることはひとつ。**「どうやって税関クリアーしようか……」**だ。「パチモノマニア」と「税関」は、未来永劫のテーマなのかもしれない。

某年某月。初めてタイに行った。香港をしのぎ世界一のパチモノ市場となったバンコク。そこで売られている商品の数はハンパじゃない。

自分もご多分にもれず雰囲気にのまれ、怪しいＣＤをたんまり買いこんでしまった。その数５００枚オーバー。自分で適当に包装してみたら、**小型冷蔵庫くらいの体積に**なってしまい、とても持って帰れそうにない。

仕方ないのでほかの荷物も適当に混ぜてみて、２つに分けて郵便で日本に発送することにした。航空便と船便を選べといわれたが、料金に差がありすぎたうえ、量が量なので船便を選んだ。１ヶ月もかかるらしいが、気長に待つとしよう。

というわけで発送したが、それから1ヶ月経ってもぜんぜん荷物の届く気配がない。いっしょに旅行した友人の荷物はもう届いているのに。もしかして次の便に回されたのだろうか……。

２ヶ月ちょっと経った頃、ウチのポストに1通の手紙が届いた。差出人は東京国際郵便局の税関。威圧的な明朝体で書かれた文章を読むと、どうやら検査で荷物が引っかかったらしい。

冷や汗を流しつつ文面を読むと、



右は呼び出しの葉書、
そして左がタイに送り返した郵送費……。

「品数（CDの枚数）があまりに多いので、税金が別途必要になるかもしれないから、1枚あたりの単価を教えてくれ」

とのこと……お安い御用と、正直に**「1枚500円ポッキリ」**と書いた書類を返送した。

そしたら1週間後、税関から直接電話があった。

「単価が安過ぎるので中身をチェックしたところ、コピー品ということが判明しましたんで、**あなた1回こっち来てください**」

言葉は柔らかいが果てしなく威圧的である。**ヤバイ、バレたかも……**。ショックで相手が何を喋っているかよく解らない。冷静になってみれば、プラスチックケースに入ったままのコピーCDを500枚も入れたダンボールだ。バレない方が不思議である。

後日、電話でいわれたとおり、ビクビク震えながら大手町の税関に向かう。担当職員に会うやいなや、**「渡せませんからね！」**と叫ばれてしまった。お目当てのダンボール箱は、手を延ばせば届く近場にあるだけに、悔しさもひとしお。

使いませんから……これ動作しませんから……ラベルがキレイなんで観賞用なんですぅ……など、寝る間も惜しんで考えた言い訳も「ダメです！」の一点張りでかわされてしまう。担当者いわく、

「あんたねえ、動作しようがしまいがダメなんですよ。プレステ改造すれば動くようになるんでしょ？　5枚や10枚ならともかく、**この量じゃ業者にしか見えないからね**」

ウムムムム。意外に詳しいじゃないか。**さすが税金使って生きてるだけあるな、**このハゲオヤジ……などと納得している場合ではない。

ハゲオヤジによる違法性の判断だが、CDのケースにプレイステーションやセガサターンのロゴマークが明記してあるものは、問答無用でコピーCDとみなしているそうだ。

そういうわけで、無地やロゴなしケースにかんしては、いちいち1枚1枚チェックするわけにもいかないので、一応はクリアですとのこと。結局、500枚中380枚がコピーとみなされた。

こうなると精巧なコピー品がかえってうらめしい。残りの120枚はオーケーなの



荷物は目の前にあるのに、開口一番「渡せませんからね！」と叫ばれ……。

だが、これを持ち帰るには380枚を自主放棄**（要するに没収だよ！）**しなくてはならない。

送り主（つまり、バンコク）に返送という手段も残されてはいるが、同一発送物ということで全品を返送しなければいけない。一部のみ返送というのは認められないそうだ。

どうしても500枚のCDを捨てるわけにはいかないので、泣く泣くバンコク在住の知人宅に送り返すことにした。半ばヤケクソ気味で、1週間で到着するという最速の航空便にする。**運賃ナント4万円弱。**なんで俺だけ……。

税関での悪夢から1ヶ月が過ぎた。荷物ももう着いているだろう。こうして再びバンコクへ出発したが、肝心の知人宅には、まだなにも届いていないという。

近くの郵便局を訪ね、タイ語会話集を片手に相談するが、どうもうまく通じない。数時間の押し問答の末、やっと中央郵便局を紹介してくれた……。この中央郵便局は、バンコク中心部にあるこの国で一番でかい郵便局だ。ここでもう一度押し問答するが、やはりうまく通じない。2時間もかけてやっと、

「あんたの荷物、ここには無い」

と言っているらしいことが判明。ひょっとして僕は、あちこちタライ回しにされているだけじゃないのか？　忙しいなか時間をさいてタイまで出向いてきたのにあんまりだ。頭にきたので、日本の国際郵便局まで「一番速い便で出したのに、話が違うじゃねえか！」と怒りの国際電話で怒鳴りまくった。

すると、「至急確認しますよ」とのこと。約1時間後に電話をかけ直したら、あの日の翌日に間違いなく発送しているという。じゃあ、なぜ届いていないんだ？　消えたのか？

僕だけではとてもラチがあかないので、友人のひとり、日本に8年も留学していた経験を持ち、風俗ではいつも**「日本人の池田です」**で押し通していたという謎のタイ人・ニチポン君に無理いって通訳を頼んだ。

完璧な同時通訳の結果、問題の荷物はバンコク郊外の空港内にあるという事実が判明。どうやら、まだ税関処理の途中らしい。

さっそく空港へ向かう。また税関か……。空港の税関に着き、関係者に問い合わせまくったところ、ようやく自分の荷物と数ヶ月ぶりの再会をはたした。

ところが税関側がいうには、税金の計算が終わるまで荷物は渡せないという。処理にはまだ数日かかるようだ……。もちろん僕も仕事があるので、そんなにダラダラ居



「動作しませんから…観賞用なんですぅ…」といった言い訳もまったく通用せず。

られない。
かなり激しく説明したが、相手はしょせん小役人。けっきょく、目の前にある荷物を**ヨダレダラダラで見つめる**ことしか許されなかった。
それから数ヶ月後、執念深い僕は再びタイに戻ってきた。しかし、返送先である知人を訪ねると、まだ届いていないという！　かわりに1通の書類が届いていた。税金の請求書である。タイで買った物をタイへ返送したのに、**なんで税金かかんだよ！**
例のごとく言葉の問題があるので、仕方なく日本の税関に電話で問い合わせしたところ、

「日本とタイのお国柄の違いですねえ」

と、まるで世間話でもするかのような、淡々とした反応。
全然納得いかないいんだけど、今回は細かく通訳してくれる友人もいない。額を聞いてみると、CD1枚につき約500円の税金をよこせという。**買値より高いじゃねえかよ！**　ただ、もういい加減疲れていた。そうこうしている間にも、サパーレックでのピーコCD販売価格は毎月値下がりしていて、このままでは**悔しくて発狂してしまいそうだ**。仕方なく、いわれるまま税金を支払うことにした。

こうして、やっと自分の荷物を再び手にすることができた……といっても、また振り出しに戻っただけのこと。こいつをまた日本まで運ばなくてはならない。しかしもう郵便使うのだけはこりごりだ。

結局、なんとか色々な手段を駆使して、ブツを日本まで持って帰ることができたが、最終的に経費を含めて計算すると、ＣＤ１枚あたりの単価は４千円近くにもなっていた。これって楽勝でオリジナルが買える価格なんですけど……。**でもいいんだよ！**

その後の僕

例の悪夢がよい教訓になったのか、その後十数回の渡航でも、もれなく海外から大量のブツを買ってきているのだが、完璧にノーミスで**一人勝ち状態**。もちろんすべて手荷物で持ち帰っている。なぜなら、郵便ではどんなに気合いを入れても、１００パーセントの成功はまずないからね。

郵便だと時間たっぷり、そのうえ厳しい税関員のチェックが待ちかまえている。これが手持ちだと、どんなに大量でも方法によっては絶対に失敗しないから面白い。そらもう旦那、**こっちも用心してますから……**。

あまり多くないから大丈夫だろうとピーコＣＤを30枚ほど、そのまんまバックパッ



結局500枚のＣＤ全部、
バンコクへと送りかえすことに……
それが悪夢の始まりだった。

クに入れて持ち帰り、あわれ税関で没収されたって話はよく聞くが、そんな馬鹿なことしなけりゃいいだけの話で、こちとら、そうだね……1回で千枚、手持ちでノープロブレムさ。

コツとしては、**全体の体積をできる限り減らすこと**にある。プラスチックケースなどは問答無用で捨てる。そんなもの、ほしけりゃ日本でも腐るほど売ってるしね。それに、タイではケース不要で中味だけの場合は、その分値引きしてくれる店がほとんど。大量買いの人なら、この値引きもバカにできない。

ケースを捨てたら、CDとジャケットはそれぞれ別々にしよう。ジャケは雑誌の間に挟むと目立たず、CDは単体だとかなり薄くなるので、数枚の束に分けて洋服か何かで包んでしまえばよい。欲しくなくても民芸品や食料などをたらふく買って、カモフラージュに利用すればバッチリだ。

そして最近とくに注目を集めているのが、**ブツをPCのケースに入れて持ちこむ方法**である。これは現地の運び屋たちも実際に使っている実践的な現役テクニック。

空のタワーケースの中に、裸のCDなら千枚近くもつめ込むことができる。あとは適当に固定してからネジ止めして、ダンボール箱にでも入れれば完璧。なにか訊ねられたら、

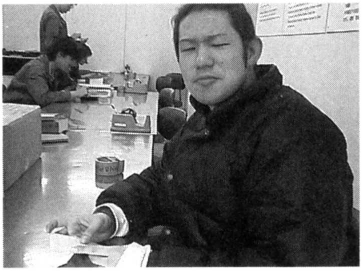
「パソコン安かったから買っちゃいまして……エヘヘッ」

とでも言えばよいだろう。税関が誇る麻薬犬も、さすがにピーコCDまではかぎ分けられないからね。

混み合っている空港の税関で、ネジ止めされたPCケースをわざわざ開けてまでチェックする熱心な税関職員はまだ見たことがない。これまで、この方法を使ってから100パーセントの成功率を記録していたが、さすがに喋りすぎた感もあるので、**そろそろヤバくなってきたかも**しれない。実はもうひとつ、とっておきの方法があるのだが、これを書いたら周りからフクロにされるのでヒミツ。

ちなみに、ファミコンのインワンカセットやアジア製の怪しい周辺機器にかんしては、税関も黙認状態なんで心配無用である。成功を祈る。

（鶴見和昭）



泣きべそをかくツルミ氏。
（でもこれを教訓に、その後はノーミスー人勝ち状態を習得したからね……）

最小ロットは500台だ！
300万円よこすあるよ！

オリジナルのパチモノを作る男たち……

パチモノやアジアグッズを仕入れるだけなら、どこの輸入業者でもやっている。現地にも売っていない珍しいブツをオレサマの指示で作らせる……というのは、奴らの反日感情もあって相当疲れることだ。そんな苦労話をお話ししよう。

ゲームアックス

全人類の夢をかなえた、最強のキング・オブ・ファミコン。それが「ゲームアックス」である。

液晶テレビ付きのクセに、薄気味悪いほど小さな本体で多機能、そして省電力。もちろんご家庭のテレビにも接続可能。普通のファミコンにもなってしまう。

これだけのスペックを持っているため、マニアはよだれをたらして欲しがるくらい、普通じゃない人気度を誇っていた。入手困難ぶりもすばらしく、毎月アジア各国

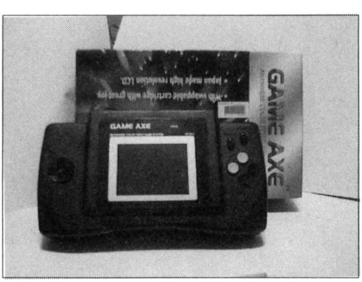
でブツを探し回っている僕ですら、なかなか目にすることができないほど。

アジアを放浪する友人から「ちょっと高いんだけど、シンガポールにゲームアックスが売ってるぜ」という情報が入り、入手するしかねえだろ！　ねえだろ！　**ねえだろねえだろ！**　と、速攻で全部買い占めに行ったこともある。

アジアなのにあれもそれも高い国、日本で買うより高いパチモノも多い国、もしかして高いから売れ残ってるのか、だったら逆に感謝しなくちゃな……などと考えながらシンガポールの町をかけずり回って、どんなにぼったくられても、悪い条件も全部飲み込み、あるだけ全部買いまくったが、それでも30台しか入手できなかったので、やっぱりゲームアックスはレアなんだなあと痛感する。

現地の贔屓にしている販売店にもつねに問いあわせ、取り寄せ依頼をしてるにもかかわらず、めったなことでは手に入らない。なにせ1年ほど前までは、日本人で所有しているのはたった3名という話だったから。ああでも、**一番最初はおそらく僕だろうがね。**　ちなみにタイで買えました。価格はなんと１５００バーツ（当時相場約５千円）。買ったときはびびりましたよ……。

そのあと、自慢したくてしょうがなかったので、各ゲーム雑誌にさんざん紹介しまくった。特に某誌では、幾度となく登場させて認知度を上げ、マニア達をドキドキさせていたので、僕の店にもつねに問い合わせが殺到していた。**これは売れる！**

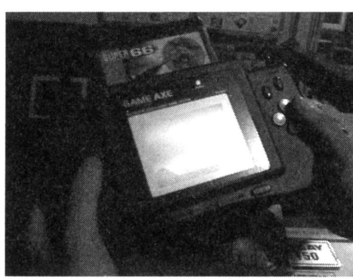


これが話題のキング・オブ・ファミコン、「ゲームアックス」だ！

ゲームアックスのマニュアルには「レッドアント」という会社名が記載されていた。なんだよ、ウチにメモリカード卸してるとこじゃねえか……面識あるじゃん。
というわけで、レッドアントの正規代理店をしていた知り合いの通販ショップを通して問い合わせるが、けっこう人をなめた内容の返事が返ってきて、夕飯をまずくさせてくれた。

「生産はもう終了してしまいましたから、もしどうしても作ってほしいなら、最小ロットは……そう、あの……500個からです。そんであの、1個単価は6千円ですので、300万円プラス送料は最低かかりますねえ。**それから全額先払いのみです**」

なんだようさん臭え……単価もタイで買った値段より高いし。
実はゲームアックスを発注しようと悩んでいたちょっと前に、タイで大流行していた携帯ファミコン・メガジョイの日本向けバージョンを作らせたことがある。
タイで売っているメガジョイは、当然ビデオ出力端子がPALシステム(*1)だったので、日本のテレビにそのまま接続できるよう、NTSC版の制作をメーカーに依頼したのだった。そんで、ここでもかなりしんどいやり取りが続いた。



1*ビデオ出力端子がPALシステム：ヨーロッパ標準のカラー方式。日本のテレビではまともに映らない。

どうせNTSC版にするなら、内蔵しているソフトも日本人向けに再編集してもらおうと思い、メーカーに訊ねると可能だという。こちらで希望するファミコンのロムデータを編集して送ったまではよいが、かなり待たされたあげく、なぜか送ったロムデータとは**まったく違うソフトのたくさん入ったメガジョイ**が大量に届いた……!?

しかしこれも全額先払いだったため、クレームなど受けつけてくれるわけもなく、合計500台も届いてしまい途方に暮れる。

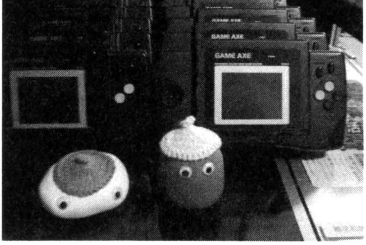
1台単価3千円近くかかっているので、合計150万円也。

まあ、業者にも逃げられることなくちゃんと荷物が届き、税関でも課税されるくらいだったので、結果オーライといったところか。

全在庫のうち、100台はゲーム仲間や友達にタダで配り、残りをうちの店独占で売っていたので、どのみち元は取れたけど、ブツが届くまでは、つねに心臓バクバクものの賭けだった……。

ゲームアックス生産を諦め、ハックロムへ

そんな心労を二連チャンで味わうなんて身体がもたない。どうせ先払いなら、マニアの間でブームを呼びつつあるハックロム(＊2)をまとめて、オリジナルのインワンソフトを作ってもらおう。



2＊ハックロム：市販ゲームのキャラや背景を、ツールを使って強引に書き換えたもの。マリオを変奇郎にしてスーパーブラック商会変奇郎ランドとか。色々な裏ソフトが出回っている。詳しくは58頁以降を参照。

まあ、こちらの業者も同じくらいうさん臭いが、どうせカネを持ち逃げされるなら、自分の夢でもある自作ハックロムインワンで逃げられたほうが本望だ。

キャラ書き換えツールを手に入れ、自分でもハックロム制作にハマり、いくつかのハックロムを仲間うちに発表した。キャラクタ書き換え、強引な日本語化など、他のひとが作ったものも含めると、すでに数十本を超えるハックロムが流通している。

通常、ハックロムは市販カセットのロムデータをパソコン上に吸い出し、それを改造ツールで書き換え、パソコンのエミュレータ上で遊ぶのが普通である。しかし、それがすべてロムカセットに入って、自宅のファミコンでそのまま遊べたらなあ……という声はあちこちからあった。

もちろん僕もその一人。しかも自分が編集したカセットがアジア各国で売られたら、**それもまた気分爽快だろう**。とにかくこいつは知り合いのマニアだけで流通させても、元は取れるだろう。

ハックロム仲間に考えを漏らしてみたが、賛同してくれる人がほとんどで、なかには**「俺の実名をタイトル画面に入れてくれ！」**という強者も登場。たとえN天堂の鉄槌が下ってもかまわないという。

彼らの協力により、ソフト選択のメニューもすべてオール日本語となった。あとは業者を見つけるだけだ。



「ゲームアックス」の大量入荷に浮かれる
パチモノマニア（その１）

信用できる業者を探すため、自分の知っているすべてのルートを洗い直した。香港、台湾、タイ、そして、これまでにもオリジナルのインワンをいくつも作った経験をもつ、秋葉原の露店兄さんの協力も受けた。

露店ルートは実績があるだけに確実なのだが、時間がかかるうえ、もちろん全額先払いで、しかも保険のために怖いルートをいくつも通すので割高となり、1個単価が約2千円と、コストパフォーマンスがよくない。

しかし他の業者もまた似たり寄ったりで、存在自体が怪しかったり、やたら態度がでかかったり、高飛車に厳しい条件を出してくる**信用ならない連中ばかり。**

そのなかで、最小ロットは5千個だが、1個単価が600円という良心的な値段の業者を香港で発見。そこはちゃんとした会社組織のようで、ホームページまで持っている。

どんな業者でも、カネ持ったままトンズラなんてよく聞く話だし、ブツの性格上、足元みられるのも仕方ないだろう。でも今回だけはどんなにリスクが高くても実行するのみ！　でも、どうしても完成品だけは自分の目で見てみたいので、あまり無茶しないで慎重にことを進めている。このロムがアジアをはじめ、**世界中に流通する日を夢みて……。**



「ゲームアックス」の大量入荷に浮かれるパチモノマニア（その2・未成年）

番外編・二重人格のクソ業者

ゲームアックスのことなど、すっかり忘れたある日。ふとしたきっかけでレッドアント社のホームページをチェックすると、生産終了したはずのゲームアックス紹介ページが、いまだに残っている。なんだよ、偉そうなこと言ってまだ売ってんのかな？

この話を、業界でやり手と評判の某パチモノショップ責任者に話すと、ちょうどそこもレッドアント社と取引をはじめた経緯があって、「売れるものならウチから制作依頼してみるよ」という答えが返ってきた。

しかし最小ロットは５００個から。そんなに作っても在庫ばっかり増えてキビシイかなあ……と思っていたら、やり手の責任者から次のようなムカツク情報が届いたのである。

「鶴見さんから聞いて、５００個覚悟してたんですけど、１００台からでもオーケーだそうですよ。しかも本体カラーも受注次第で選べて、ｉＭａｃと同じ色に発注もできるようになってますね。**ははははは……**」

ウウウウ。**相手見て態度コロコロ変えやがって**クソレッドアント。それでも、なん

の苦労もせず日本でもあのゲームアックスが手に入るようになるわけだから、祝福せねばなるまい。

そして、新ゲームアックス日本進出だが!?

と思い、新型のゲームアックス（日本仕様？）を見てみると、「なんじゃこりゃー!!」。まず見てびびったのが新名称。「ゲームアックスカラー」って何だよ？ **いまさらカラーはないだろ！** しかもロゴがゲームボーイカラーのまんまパクリ。ファミコンをパクるよりもロゴパクる方が危険じゃないのか!? 任天堂を敵にまわすと怖いでしょ。それにゲームボーイと違ってゲームアックスは初期型からカラーなんだから、いまさらカラーを強調しなくても……それにパッケージのいたるところに書かれた「MADE IN JAPAN」の文字。**そんなわけねーだろ！**

でも、本体自体は黒のスケルトンカラーで前のよりカッコイイ。そしてモニターも大きくなり、以前のより1インチは大きくなった模様。しかし、コスト削減か液晶モニタが以前のＴＦＴモニタからなんだかわからない中古臭い安モノのモニタになってしまった。白と青の区別もつきにくいし液晶自体が粗いので、ドラクエのような字を追っかけて進むロールプレイングなんかは無理だろう。



これが新型「ゲームアックス」、その名も「ゲームアックスカラー」だ！

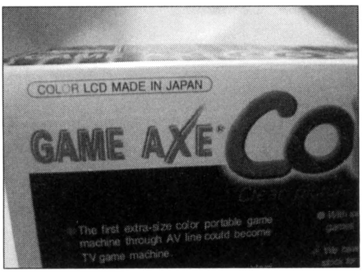
そんなわけだから初期型のＴＦＴモニターゲームアックスのプレミア度はさらに高騰し、新型のゲームアックスはゲームギア並みのコストパフォーマンスで日本の市場へ登場。**日本にもついに平和がおとずれた。**

まあ、とにかくゲームアックスがみんなが買えるようになって**ヨカッタヨカッタ。**

（鶴見和昭）



両手に抱えきれないほどの大量の
「ゲームアックス」を運ぶラスタ青年?!



パッケージに「MADE IN JAPAN」の文字
……そんなわけねえだろ！

●参考リンク

＊ハックロムについて
http://users.jp.tri6.net/~tsuru/sp/pachi/mdpachi.htm

＊レッドアント社
http://www.redant.com.tw/

＊ゲームアックス紹介
http:// www.redant.com.tw / newpage18.htm

＊香港AIトレーディング
http://www.goldenshop.com.hk/

ゲーム業界より、よっぽど危ない
アイドル追っかけ地獄

オタクの復讐に脅えるニセサイン師

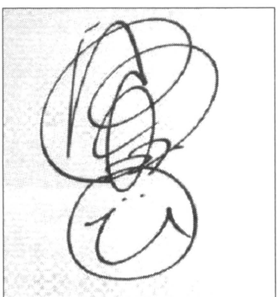
内田某、森高某、安室某……1枚たった100円の色紙に、人気女性アイドルのサインをたくみに真似て書き、原価の百倍＝1万円で売る男がいた。

「どうせ本物なんて見たことない奴に売るんだから、**見分けられるワケがないじゃん！**」という盲点を突き、次々とニセサインのレパートリーを増やし、全盛期には**会社役員クラスの月収**を荒稼ぎしていたという。

その後、三才ブックスの裏モノの本や、別冊宝島のムックなどで激しく露出したことがきっかけで、いままでの悪業がすべて客にバレてしまい、あえなく引退に追い込まれてしまったが……。

彼の名は矢島君（仮名）。年齢29歳、見た目はやせ細ったオタク青年だが、おなかはしっかり出っぱっている。どこか地獄にいる**餓鬼のよう**でもある。

髪型はオカッパ、口調はつぶやきシローのようにブツブツ小さい声で喋るので、今回のインタビューも聞き取りにく



【参考図版】
西田ひかるのサイン（ホンモノです）

くて大変だった。そのうえ独り言も多い……。

●こんにちは。ところでもうニセサインは売ってないんですか？　ほかにアイドル関係の活動とか、してたら教えてよ。

矢島：もう売ってないすよ。さんざんいろんな本で紹介されたおかげで、ひどい目にあいましたから。そのうえ雑誌の奴らは出涸らしになるまで俺のこと紹介しといて、あとはぜんぜんかまってくれないし……本当にクズぞろいですね。

こせこせやってたホームページも荒らされまくって閉鎖したし、本当になんにもやってませんよ……。**あのねえ！**（急に大声になる）マジで、この手のオタクは怒らせると本当に怖いんですよ。ゲームなんかの業界よりたぶん、よっぽど危ないよ。とにかく一度信頼関係を失うと、もう絶対関係修復は無理だから。

矢島氏は3年ほど前から個人情報誌やアイドル系の同人誌などを通じて有名人のサインを売っていた。しかし、売っていたサインはすべて、**矢島氏自身が書いたもの**だったのだが……。

かつては、東京パフォーマンスドールという、いまでは忘れ去られたB級アイドルグループの追っかけをする傍ら「Z-BEAM」というアイドル研究誌を自費でコツコツ作っていた矢島氏。そんな彼がなぜ、悪の道に転落していったのだろう？

矢島：ああ、アイドルオタクの間ではけっこう有名なミニコミになったから、俺の存在もまあまあ有名でした。それに俺、**けっこう社交的**だから、他のアイドルを追いかけてるメンバーとも親交はそれなりにあって、顔も広くなっちゃって。

　で、自分のミニコミやホームページ、それに知り合いが出してるミニコミとか個人情報誌で、サイン売ります……って書いたのが、そもそもの始まりですかね。

●じゃあ、とりあえず書いてみてくれます？　色紙たくさん買ってきたから。

矢島：アムロちゃんでいいすか？

●古いなあ……深田恭子とか書けない？

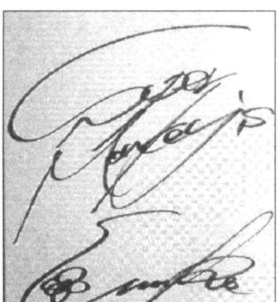
矢島：最近本当にやってないんで、新しいアイドルのサインはダメなんですよ。そこいくと、アムロは数書いて練習してたし、楽チンなんです。じゃ、マッキーの太いやつ貸してください……こんな感じかなあ。

●ほう、これがアムロのサインですか。

矢島：ええ、それでこっちが本物です。どうです、**あんまり似てないでしょう。**でもそれは本物と並べて見比べているからで、実際こっちだけ見てりゃ、わかんないもんなんですよ。

矢島君ヒストリー

中学時代から筋金入りのアイドルオタ



【参考図版】
アムロちゃんのサイン（ホンモノです）

クだった矢島君。特に無名アイドルの追っかけを好み、無名アイドルのサイン会にはかならず足を運んでいた。

そう、B級アイドル追っかけの性で、お気に入りのアイドルがいざメジャーにあがると、興味がさめてしまうクチだった。しかし、B級でもA級でも、**追っかけにかかる費用は似たようなもの**である。あるときカネに困った矢島君は、仕方なく、自分がかねてから収集していた貴重なサインを売って、追っかけ生活の足しにしようと、あちこちの媒体に告知を出した。

正直いって手放したくない気持ちが強かったので、値段は相場の倍の1万円。B級だけに超高値だったが、それでも熱い購入希望者が12人も集まってしまった。ちなみに売りに出したのは東京パフォーマンスドールの穴井と市井のサイン。

もちろん、12人全員に切り分けるわけにもゆかず……かといって、アイドルオタクの執念深さを知っている矢島君は、どうにか皆に恨まれず、丸く収める方法を考えた。それがけっきょく、ニセサインにつながってしまうのだった。

まずは本物のサインを研究して、何度も練習する。そして**目をつぶり本人になりきって**から、おもむろに色紙を取り出し、執念でニセサインを書き殴る。

穴井と市井のニセサインを11人に送り(1名には本物をあげた)、それから1ヶ月間ビクビクしながらすごすが、練習の甲斐あって1通のクレームもなく、無

事にほとぼりがさめた。

これで味をしめた矢島君は、本格的にニセサインの売買を始め、全盛期には13人のアイドルのサインをマスターし、かなりの荒稼ぎをする。しかし、調子に乗って色々なメディアに登場して**喋りすぎた**ため、秘密は漏れ、彼自身かなり危ない立場に立たされている。

矢島：ウウウ。やっぱり秘密は誰にも言っちゃだめですね。この世界ほとんどロコミだから、噂が広まるのは早いですよ。

特にインターネットではほとんどバレてますね。一時は殺されるかもしれないと本気で悩んで、しばらくインターネットから距離置いて逃げてましたしね。特技っていっても**サインの真似**くらいだし、これからいったいどうやって生活してこうか……

（インタビュー・鶴見和昭）



アイコラ画像をパウチ！
裏トレーディングカード業界の熱いコピー世界

いまをときめくアイコラで大儲けした宮家（少し仮名）さん。

アイコラというのはアイドルコラージュの略。つまり、アイドルの顔面と（主に）ヌードの身体を、パソコン等を使って強引に合体させたものである。

アイコラの醍醐味は、いかに合成した痕跡を消すかにあるという。

最近では、ヌードモデルやハメ撮り写真と強引に合成するのはあまり流行らず、水着セクシータレントの水着をはだけさせたり、そういうまわりくどい画像に人気が集まっている。

そんなアイコラ画像をトレカサイズのピクトロ紙（紙焼き写真と同じ紙）に出力してパウチした〝裏トレカ〟が、マニアの間でちょっとしたブームになっている。値段は通常トレカのなんと5倍。1枚千円前後と高い……が、売れて売れて仕方ないというから**日本は狂ってる**。

この商売をはじめて金銭感覚が2桁ズレるようになった……という宮家さん





に、直接内情を聞いてみた。売れてますか？

宮家：**売れてますよ。**アイコラ画像入れたフロッピーとかCDなら、ウチじゃなくてもいろんなとこで売ってるけど、トレカにして売ってるのは多分ウチだけだからね。

　やっぱり、紙だとパソコンで見るのと違ってオナニーにも使いやすいからね。気にいったカードをズラリと並べて豪勢な気分も味わえるし。こんな感じなんだけど、どう？

●す、すげえ。ほっ、本物みたいですね。

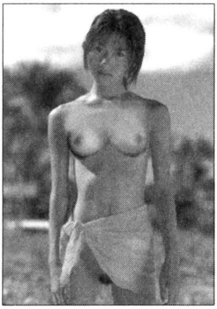
宮家：**いや、バレるけどね。**だって本物の○○○○はこんな格好しないしね。でもすごいでしょ。うちはいま会員が１２０人いて、そうだねえ……一人最低１万円は確実に買ってくれるし、常連で１６０種類そろえている人もいるので、３００万はすぐ突破したな。

　おかげさんで儲かってます。やっぱりアイコラはいいですよ。**オナニーするならアイコラしかないよね。**

●そ、それで作ったきっかけは？

宮家：**印刷所で働いてるんだよ、**じつは。しかもピクトロ課の課長なのよ、ウへへ。だから職権乱用で、インターネットとかでイケる画像を見つけたら、すぐに落として出力して、ポスターにしたりカードにしたり、**それが楽しくて会社行**







ってるようなもんだからね。

そんで、友達の誕生日にヒロスエのアイコラ画像をポスターにしてプレゼントしたら、なんだか知らないけどムチャクチャ喜んでくれて……もしかして、これってすごく需要があるんじゃないか……って思ったのよ。それがキッカケだね。

それですぐに、この話を会員になってた大手アイコラ画像制作サークル・某氏に持ちかけたら、快く手を組んでくれたので、僕もひそかにアイコラグッズ販売ホームページを地下でオープンした、と。

はじめは相場も知らないから、ポスターを8千円くらいで売ってたんだけど、あんまり売れなくって……で、ある日、お客さんから「もっと小さいサイズでいいから安いのないか？」って聞かれて、それで千円をメドに作ってみたのが、今のトレカなんだよね。

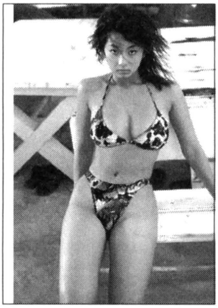
試しに超人気アイドルのアイコラを16種類作って、試験的に売り出したんだけど、そしたら見事バカ売れで、いつのまにか会員も増えに増えて、儲かるようになった、という。

●なるほど……で、現在にいたると。

宮家：そうね。いまはリクエストもたくさん来るから。例えば「**あのタレントのトレカ作ってください**」、みたいな。

そんでトレカ形式にこだわったから、コレクションしてくれるアイコラマニアも出てくるし、「これなら手軽にオナニーできます。ありがとう！」みたいな感





まわりくどいことに芸をみせる、
最近のアイコラ……

謝のメールもたくさんくるし。**やってて よかったよ。**

●**こないだ、偽サインを売っている人をインタビューしたんですけど。正反対ですね。**同じニセモノでも。

宮家：そらあんた、こっちはニセモノとわかってて、みんな買ってるわけだからね。そのうえオナニーにも使えるし、夢がある。**最高でしょ！**

　来年に向けて、全ページフルカラーのアイコラ写真集の地下出版も考えてるから楽しみにしててよ。ま、モザイクは入れるけどね。

（インタビュー・鶴見和昭）

●**参考リンク**

＊コラージュストリート
http://www.type38.com/

＊J－S
http://www.bekkoame.or.jp/ro/jis/himitu.htm





これがアイコラを素材にした、裏トレカだ！



8章/違法CDの恐るべき実態



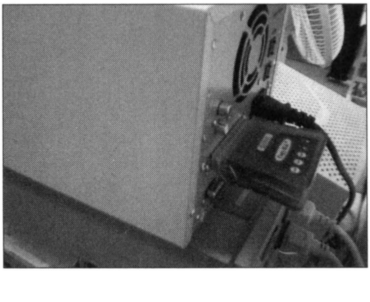
パソコン要らず、究極のヤキヤキ秘密兵器

「COPY ALL」の実状をレポート

「COPY ALL」とは、CDドライブに接続するアダプタの一種。CD－ROMとCD－R（ともにSCSI）の2台を用意して、間にCOPY ALLを挟むだけで、パソコンも焼き焼きソフトも不要の、本物のデュプリケータマシンができあがる。20万するデュプリケータと同じものが8万円以下で作れてしまうのだから、夢のようなアイテムである。

パソコンいらずでPSやVCDがガンガンバックアップできるというのは、なかなか手軽で便利。わざわざ毎日ウチまで焼きに来ている、パソコン持ってないピーコ友達も、

「10万円あったらパソコン買わないけど、**これは欲しいですね！**」



機器後方にズボリと
刺さっている「COPY ALL」

と、大好評。それほど焼き焼き初心者にはやさしい。

最初にCOPY ALLを発見したのは'99年の3月、バンコクのパソコンショップ「SPC（パンティープ・プラザ内）」で、COPY ALLをいくつも使い、ピーコCDを量産しまくっているところを偶然目撃。びっくりして店員に問いただしたところ、価格は1万円ちょいと、予想に反して安かった。

ただ、その当時はピーコ専用のパソコンを持っていたし、日本国内での前評判がかんばしくなかったため、購入を見合わせた。これもじつは、初期に扱っていた店（秋葉原のド○○ンコンピュータ）のサポートの悪さが原因で、COPY ALL自体になんの落ち度もなかったのだが……。

台湾で生まれたCOPY ALL。いまでは日本を含むアジア全域で売れている。ちなみにタイでは1万円ちょい、日本でも2万円あれば、通販や裏通りの怪しい店などで入手することができる。

こんな小さなアダプターでも機能は充実。バックアップのみに機能を絞り込んだCOPY ALLだが、将来性も考えてBIOSはフラッシュメモリに書き込まれている。だから新しいCD－Rドライブが登場しても、BIOSだけ書き直せば随時対応



お店で売っている「COPY ALL」の様子

させることが可能……というわけ。CDフォーマットもほぼ全種類対応している。
COPY ALLの開発元は、吸い出したN64のゲームをZIPドライブに書き込める悪魔のようなマシン「Z64」を開発した、台湾名うてのメーカー「メディアストリーム」。ここの広報部のオリバー氏（注：あの人間とサルの混血児とは関係ありません）が、

「COPY ALLで焼けないCDは存在しない！」

と豪語するだけあって、面白いようになんでもかんでもコピーできてしまう。基本的にはデータ構造をそのまま写し取るシステムなので、特殊フォーマットであろうとなんだろうと影響ない。
あえてコピーできないのは、マスター自体が恐ろしく汚いアジア製プレスCDくらいなものか？　それでもPCを使ってオンザフライ(*1)で焼いているときのように、中途半端なところで止まらず、コピー前のチェック段階で教えてくれるので、生CDをムダにすることがなく、**ひじょうに嬉しい。**
実際に買って使ってみたところ、やはりすごい。いままで4倍速で焼いていたところを、見事に8倍速CD—Rドライブの威力をフルに発揮してくれる。速いし正確

1＊オンザフライ：通常、ハードディスクにCDの内容をすべてコピーしてから、それを生CDに焼き込む。この作業を省略して、CDから生CDへ直接コピーすることを「オンザフライ」という。ただしパソコンが非力だったり、読み込み側のCDドライブが遅かったりするとスグに失敗する。

だ。そして、コピーが終わると焼き完了を音で知らせてくれる。これがまた、しょぼい音なのだが、案外よく聞こえる。

ただ、使用するドライブや生CDとの相性(*2)で、大きく焼きこみが変わってくるので、COPY ALLでデュプリケーターを作りたいという人は、まずそれなりの詳しいお店で、経験者からアドバイスを受けたほうが無難である。

ちなみに秋葉原でも五本の指に入るマニアショップ「あきばんぐ」の通称塾長・高野店長は、COPY ALLマスターとして全アジア的に有名な存在なので、話を聞くだけでも面白い。ただ、迷惑にならないようにな。

（鶴見和昭）



「COPY ALL」があれば、
こんな立派なデュプリケーターが…

2＊相性：ちなみに自分のCOPY ALL環境は、
＊CDドライブ……PLEXTOR-PX32TS
＊CD－Rドライブ……TEACのよくある8倍速（型番忘れた）

●参考リンク
＊メディアストリーム
http://www.zeanet.com/media.html
＊COPY ALL分解
http://dontaku.csce.kyushu-u.ac.jp/~ishizaka/pic/copy-all/
＊COPY ALL解説・掲示板その他
http://www2.bit2.co.jp/~show/main.html

CDライター豆知識　いっそう邪悪にジャケまで自作！

ダウンロードしたり、ヤバい友達からいただいたエミュレータのロムイメージは、ハードディスクの片隅に貯めておくのが一般的。

CDライターを持っている人はCD―Rに焼いて保存しているようだが、いつものワンパターン、金色のCDに黒マジック殴り書きでは、どれがなんのCDだか判別のつかなくなる日もそう遠くはない……。

キレイなジャケットをフォトショップなんかでセコセコ作るのもいいが、いかんせん**面倒くさい**し、ある程度のセンスも要求される。そんなとき便利なのがこのサイトである。

ニンテンドウ64、ネオジオ、アーケードエミュレータ（MAME）……これらの違法ロムデータを詰め合わせたCD専用の、カッコよくデザインされたジャケット用版下が**無償で提供**されている。

これをカラー印刷してハサミで切り取り、CDケースに入れれば、汚い手書きラベルのCDが、一瞬にして市販ソフト顔負けのグレードに品質アップしてしまう、

というわけ。

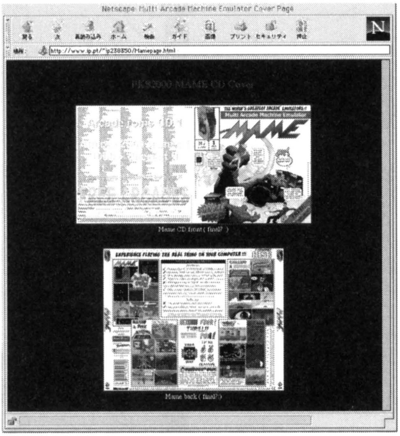
思わず友人・知人に自慢して、あわよくば売りつけてやりたくもなるが、いうまでもなくそれは犯罪なので、自分で眺めて楽しむくらいにしておこう。

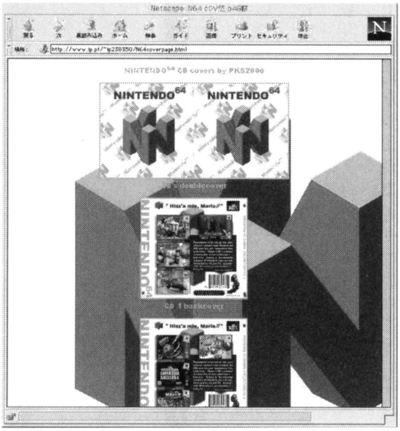
（クーロン黒沢）

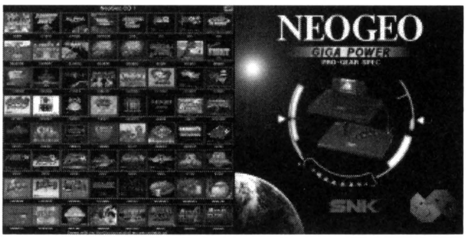
●参考サイト

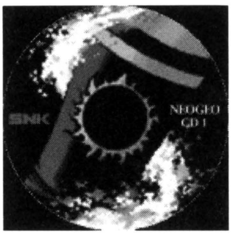
＊オリジナル違法ジャケットサイト

http://www.ip.pt/~ip238350/









オリジナル買ったのに
ジャケなくした馬鹿野郎にも朗報!

プレステジャケット裏収集法

バンコクの横町で、朝から晩までひたすらCDを焼きまくるタイ人青年。3台のパソコンは朝でも深夜でも、交互にシャーシャーと焼き上がったCDを吐き出し、無情にも休み時間はおろか、労働基準法すらここには無関係。

そんな彼が、コピーの合間にインターネットでなにかシコシコとダウンロードしているぞ……**おい、さぼっちゃダメじゃないか!**

と思ったら、これも重要な仕事だった。

彼がダウンロードしていたのは、なにを隠そうプレステのジャケット画像データ。それもソニー純正のブツだった……。

ソニーのホームページには業者へのサンプル用として、これまで発売された全プレステソフトのジャケット用画像データが、表・裏、しかも等倍で約2300種類も登録さ

れている。そのうえこれ、**誰でもアクセス可能**なのだよ。
あくまでもソニーがサービス用に非公開で提供しているものなのだろうが、アジアのコピー業者が日夜これをダウンロードしているのは、いうまでもないこと。

http://www.scei.co.jp/all_index1.html

このURLから落としたデータを、カラープリンターでそのまま印刷すれば、友達からもらった金色のCDも本物っぽく早変わり。いないと思うが、オリジナルを買ったのにジャケを紛失してしまった人にも救いとなるだろう。
昔はここ、オートパイロットのダウンロードソフトでそのまま一気にダウンロードできたのだが、さすがにソニーも**なにかを感じた**らしく、最近は意地悪なCGIやフレームが続々追加され、これまでの技が通用しなくなってしまった。
というわけで、アジアのピーコ青年たちは、以下の方法でダウンロードしている模様。例として

http://www.scei.co.jp/soft/jacket/1/scps10096.jpg

これが表ジャケット。そして裏は……



http://www.scei.co.jp/soft/jacket/1/scps10096b.jpg

と、最後に「b」の付くのがポイント。

そんな感じで、scpsの数字の値を換えてしまえばよいだけの話。「Iria」などのかしこいダウンロードソフトで一気に登録してしまえば、かなり楽な作業となるだろう。

それよりも誰か、プレステのジャケデータが全部つまったCDとか出してくれないかな？　速攻で買うんだけど……。

（鶴見和昭）

特選・香港エロＶＣＤレビュー

しょっぱくて湿ったところ（大威湿）

香港の裏通り。上半身裸で汗にまみれ、ご自慢の鳥籠を肩にのせた厳つい初老の人々が、大きな声で汚い言葉を罵りながら行き交う一角に、一軒のビデオＣＤショップがあった。

いまだに、ホイ3兄弟の「ミスターブー」シリーズ全作をそろえているマニアックな店。レジを操るおやじの顔にもはや**生気はほとんど感じられない**。

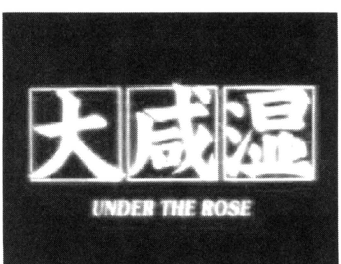
その店の片隅に、他のエロＶＣＤに隠されるようにして「大威湿」が置いてある。タイトルを日本語に訳すと「しょっぱくて湿ったところ」。

いったいこれは何なのだろう。

ジャケには、全盛期の大橋巨泉が愛用していた、ぶっ太い黒ブチのメガネをかけた中途半端に肥満した中年男が、化け物みたいなカメラの後ろでパンチラをニヤけながら撮影している……というもの。まったく内容は読めないが、**とりあえず購入**することにした。

じつはこれ、先ほどの中年男が、まっ黒くて暑苦しいスーツを着込んでホストとな





り、下品なダミ声でうすら笑いを浮かべながら、**香港市内の風俗を片っ端から紹介してゆく**というもの。

尖沙咀のトップレス・バーから旺角の売女、エロビデオ屋の裏が秘密のピンサロになっていたり、男人街の片隅でエロ本や性具を売る物売りへのインタビュー。そして靴を全裸の女に磨いてもらうという謎の風俗まで、隠し撮りもふくめてかなり詳細にレポートしている。

ありし日の九龍城砦で行われている秘密のストリップも紹介されていて（画面は限りなくヤラセっぽいが……）**なんだか得した気分**を味わえた。

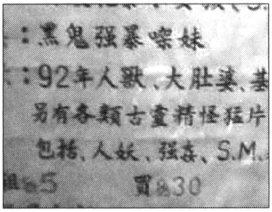
こんな獲物があるから、流行らない店のＶＣＤ漁りはやめられない。

（クーロン黒沢）

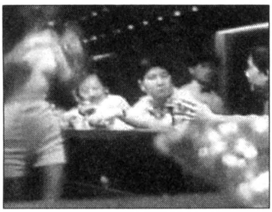


長髪姑娘……エロ広告？


エロ本、エロ本、エロ本！



何やら淫靡なお品書き……


トップレスバー（らしい…）


怪しい性具をレポートする２人。

＊問い合わせ先
http://www.yawara.net/

航空会社からIBM、
さらにはアムウェイまで網羅……

極悪ロゴCD「タイロゴ」

「タイロゴ」……直球ド真ん中ストレート的ネーミングのCD—ROM。ジャケットには、無差別にでかい会社のロゴが、超適当に並べられている。

ゴチャゴチャしていてデザインセンスをみじんも感じさせないそのジャケットを見たとき、不覚にも財布に手がのびてしまった。

「おばちゃん、これください」。

自動車メーカーの「ボルボ」に、日本でも大人気のマルチな「アムウェイ」。「IBM」あたりはお約束としても。そのうえ「ジャスコ」のロゴまでさりげなく収録してあるのが心憎い。

〝ロゴ集〟とうたうほどなので、量にも自信があるようだ。ざっと数えて確認したが、5千種類は収録されている。そんなに入っていたら、**なにがなんだかわかんね**





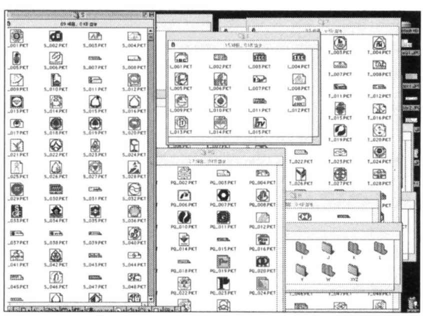
えな……と思っていたら、ちゃんと「航空会社」「ホテル」など、大筋でジャンル分けされていた。つまらないところに親切で好感が持てる。

ところでこのCD―ROM。いったいどんな使い方をすればよいのか。私なりに考えてみたが、ファイル形式がイラストレーターやクォークなどのDTPアプリでそのまま加工できるEPS形式なので、**インチキ名刺を作る**のにはもってこい。

「俺、実はコダックの部長なんだよ」

……などと、タイ人が自作の名刺で見栄を張り合う光景が想像できる。**さすがはタイ式**。デザイナーも大喜びだ。

（マミヤ狂四郎）



デスクトップに並ぶ、
そうそうたる大企業のロゴマーク


昔は・・・
・・・・・
CDコピー実践漫画
ピコピコの向こうで
作・マミヤ狂四郎
楽しかったなぁ・・・
347


昔のオレは・・・
オッス。
はいよ。CDR二十枚。
なんでぇメディア買いに行くヒマも無いってか？
いつもパシらせちゃってごめんね先生。
ビリッ
そんじゃぁ最近も・・・
コレか？
もち
レッツラピーコピコっすよ！
プレステサターンに
ビデオCDからワレズ集まで、
イエーイ
焼き焼きッス！
ほぉ・・・
いい瞳（イキイキ）していやがる・・・


しかもね、最近はただピーコするだけじゃなくてね・・
ほら。
サッ
・・・ってオイ。こりゃモノホンじゃねえのか？
ん？
こっこれは・・・・！
カラーコピーでジャケまで完パケ！
やるなァ。
ムフフ
音楽CDと本当に大事なCDとかはジャケまでピーコして
クソCDはCDフォルダーにブチ込みますっ。
PS
う〜ん。良い出来だ。こりゃ
でもさすがにレーベル面まではピコらないんだな。
パカッ
うん。一応ストンパ買ったんだけど面倒くさいしどうせ見えないから
殴り書きッス
エフエク
この音楽CDはレンタル品か？
ココ
そう。ツ●ヤで借りたんです。
今から行きませんか？
いいね！行こうか！

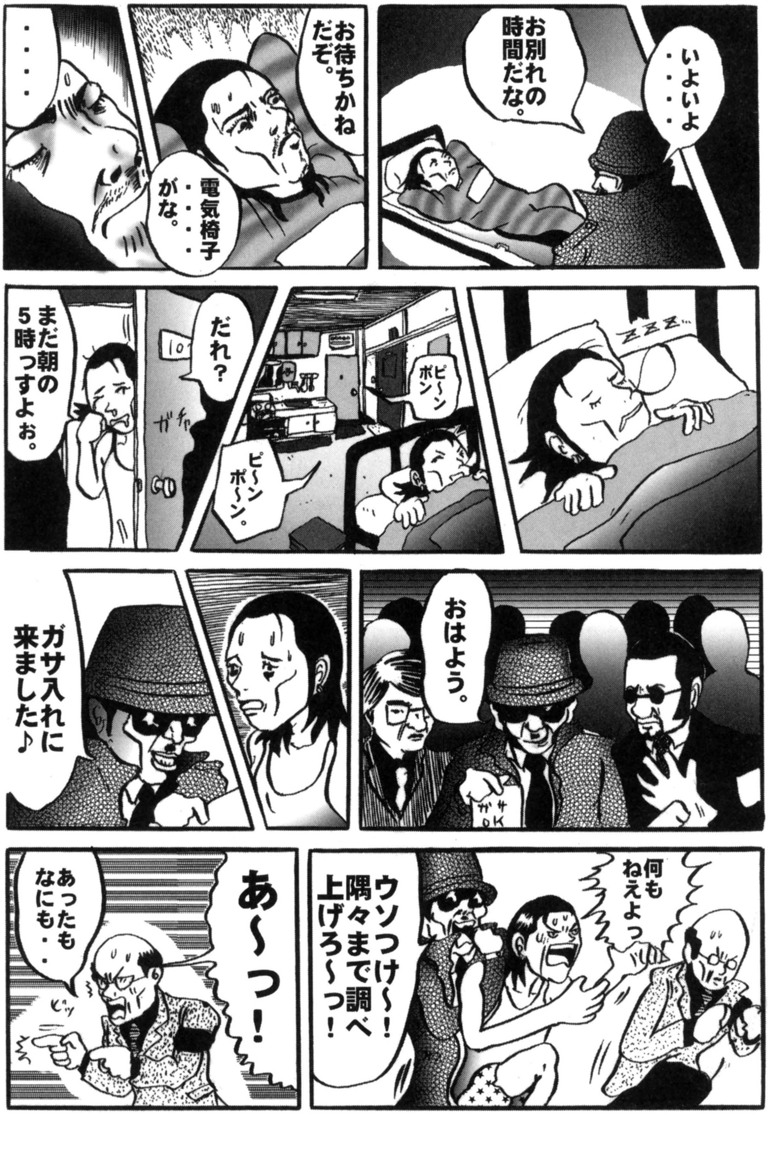

先生、僕はツ●ヤが大好きなんです。
他の追随を許さない圧倒的な品揃え・・
そんなブツ共が
全部自分の物になる様な気が・・
ここにあるCDはぜんぶ・・・
パァァ…
おれのモンになるんだぁっ
おい、347番。
メシだぞ。
最後の晩餐ってトコだな。
ス…


俺はお前の事嫌いじゃないぜ。
寂しくなるナァ。
ほれ、一服すっか？内緒だぜ。
・・・・
しかしお前さんよぉ、ありゃ少しばかり・・
やりすぎ・・・ってモンだろ？
先生、知ってますか？
ツ●ヤって2種類あるんですよ～。
2種類？
ジャケを貸してくれる店と、貸してくれない店なんだけど。
見分け方は簡単。貸してくれない店には
貸し出し中のCDに『レンタル中』ってフダがついてます。
そうぃやぁウチの近所は貸してくれねぇな。
貸してくれる店は、当然ながらお客が持ち帰るので
貸し出し中のCDは並ばないんですっ！
そっか


あとね、レンタル料金も店舗によってバラバラ。
お前、やけに詳しいな。
お客様、このカードは当店では・・
あり？
他店のツ●ヤカードです。
ツ●ヤの会員証って全国共通じゃ無いんですよ。
そりゃウザいな。
やーね
次はコンビニ。
コンビニ？
そう。セブンかローソンね。
両方ともカラーコピー機があるでしょ？
なるほど。
さてと・・・先生。ここをしばらく占領して全部ピコりますよ！
なにゴソゴソやってんの？
パカッ
バキィッ


こうやって裏ジャケを取り出すの。
ほらっ
先生も手伝って。
なんで店内でわざわざやるんだよぉ。
ザー
うし。
先生っピーコ完了。帰りましょう!
やっと終わったか～。
キチ キチ
すい～
定規をあてながら切ります。
几帳面だな。


折る所は先の尖ったモノで・・・
例えばコンパスとか。
これも定規でキチンと・・・
スジを入れると
キレイに折れる。
おりっ
んで組立てて～。
楽しそうだな。
できた！
ガー
CDも焼けた！
レーベル面は殴り書きで十分ね。
ズバッと勢い良くな！
にひひっ
なぐり
完全クローン誕生～！
キャー
ピ～コばんざ～い！
プレステはどこで借りるの？
友達から集めましょう♪


いよいよ・・・・
お別れの時間だな。
お待ちかねだぞ。
電気椅子・・・・がな。
・・・・
ZZZ…
ピ～ンポン
ピ～ンポ～ン。
だれ？
ガチャ
まだ朝の5時っすよぉ。
おはよう。
ガサOK
ガサ入れに来ました♪
何もねえよっ
ウソつけ～！隅々まで調べ上げろ～っ！
あ～っ！
あったもなにも・・・
ビッ


このフォルダー全部プレステですよっ！
なんとっ
サターンもあるぞっ！
ていうか全部違法！
この長いスピンドル
自作だっ
音楽CDはジャケまで完ピーコしていやがるっ！
こいつ最低っ！
この量と手口と熱意。
これは間違いなく
死刑だな。
ピ・・
ピーコじゃないやいっ！
バックアップだいっ！
オッ、オメェ！この量のどこがピーコじゃ無いってんだよ！それに・・・
ピーコじゃ無いって言うんだったらオリジナルはどこにあるんだよっ！
オリジナルはちゃんとあるんだっ！
あるんだよっ！
テメェらには見えないかも知れないけど・・・



心の中にしまってあるんだっ！
心の！
中に！
心の中に・・か。
いいセリフだったぞ。
最後にひとつだけ聞いていいか？
・・・
後悔
してるか？
んなモンしてねぇよ。スッキリしたさ。
我がピーコ人生に・・・
悔い
無し。
END

レンタル業界唯我独尊
ツ○ヤにマークされよう！

世界のツ○ヤで指名手配

圧倒的なソフト数と殺人的な種類。そのド迫力なラインナップでレンタル業界の頂点に立った「ツ○ヤ」。まさかタイにまで進出しているとは思わなかった。あなどれない店である。

この世界規模で展開するレンタルショップ・ツ○ヤがひとたび商店街にオープンすると、その近所で従来から商売している小さなレンタルショップは相次いで生死の境をさまようという……それほどツ○ヤのパワーは果てしない。

もう完全に「レンタル業界唯我独尊」という状況になっている。そんな今だからこそ、あえてツ○ヤを攻略してみたい。

ツ○ヤの棚に並ぶ膨大な種類の音楽ＣＤを見ていると、「ああ、このＣＤたちが全部そのまま、俺のモンになったらなぁ」と、ついつい**ジャイアンのごとくエゴイズム**

全開になってしまう。

だったらここは男らしく、クローンCDを制作してみようではないか！　クローンとはいっても完全なクローンを作っていたら、買ったほうが安くついてしまう。安いコストでできるだけ本物に近づける、そんな意気込みで臨んでくれれば幸いだ。**あ、前科者になりたくなかったら、真似すんなよ。**

カセットテープにセコセコ録音するのは昔の話。MDに録音するのも芸がない。いまはCD－Rでそのままコピーの時代である。

これさえあれば、クローン羊のドリーちゃんのように無限増殖が可能である。CDをそのままコピーするのは当たり前として、マニアならぜひともジャケットにもこだわってほしい。なぜならば音楽CDというものは、ピーコしたケースをズラっと並べて、そこで初めて征服感を感じることができるからだ（断言）。

それでは、ジャケット制作テクニックから行ってみよう。

初級編～（危険度0％）

まずはジャケットのカラーコピーから始めよう。表ジャケはもちろん、裏ジャケも



ケースを分解して取り出すくらいの意気込みが必要だ。

まずはジャケをカラーコピー機を設置しているコンビニに持っていき、軽く30分は占領する勢いで一気にコピーする。べつに紙幣を印刷しているのではないのだから、胸を張って堂々とコピーしていただきたい。口出しする奴がいたら**一発ブン殴ってやれ**ばいいぜ。

ちなみに現時点では「セブンイレブン」（以下セブン）と「ローソン」にカラーコピー機が設置してある。

べつにどちらでもよいのだが、セブンの方が10円高く、ローソンの方がキレイな仕上がりとなる。**だったらローソンだよな!**、と思うのは当然だが、ここに落とし穴がある。

ローソンのプリント用紙は光沢なしの安物で、いかにもニセモノ臭い。一方、セブンの紙には光沢があり、高級感ただよう仕上がりとなる。けっきょくは個人の好みだが、両方試してみることをオススメしたい。

次はコピーしたものを慎重にカッターで切断する。ラインにそって定規をあてるとうまくいく（マンガ参照）。同じく、折る場所にも定規をあてて、先の尖ったモノでスジを入れると、それらしくキレイに折り目をつけることができる。

最後にコピーしたジャケをCDの空ケースに収納。ピッタリと収まった瞬間、いい

つくせない快感が背中を走る。

中級編〜（危険度13％）

ツ○ヤのレンタルCDには、親切にも収録時間の書かれたシールが表ジャケットに貼られている。親切迷惑とはこのことをいう。**ジャケをコピーするとき邪魔なんだよ！**

できれば、このシールを剝がしてからカラーコピーするのが最高なのだが、バレると大変な事態になりかねないので止めておこう。

ここは一発、デザイナーのごとくフォトショップで上手にシールの部分を消してからプリントするのが正道とされる。

上級編〜（危険度98％）

「カラーコピーのニセモノには、もう満足できないんだよね」

と語る本物志向のアナタ。君はもう上級犯罪者クラスの仲間入り。

上級犯罪者はどうするかっていうと、まずは、普通にジャケをカラーコピーする。

これは初級・中級編と同じ工程である。問題はここからだ……。



返却するCDの裏ジャケを、カラーコピーしたものと入れ替える。つまり、**本物と偽物のジャケをすり替える**のだよ。

しかし、あくまでもすり替え可能なのは裏ジャケのみということを肝に命じておこう。当然だが、返却する際に店員がチェックするため、表ジャケのすり替えを悟られずにすむのは、店員がよほどマヌケなときだけ。

しかし、細かいキズや他の顧客の指紋がベタベタついた透明プラケースに覆われた裏ジャケを、コピーだと見抜く税関職員のような奴はまずいない。

コピーの純度を上げたいのであれば、表ジャケもコピー品で返却するのがベターである。ところが店舗によっては表ジャケを実際に触って、わざわざ本物かどうか確認する用心深い店員も存在するから油断できない。

カラーコピー紙はペラペラで、色も完全再現とはほど遠い。熟練した店員に触られたら一発でバレるだろう。しかし、そいつも裏ジャケまでは確認しなかったけどな。

ウワハハ……。

プロならカラーコピーなど使わず、自分のパソコンでスキャニングし、フルカラーでプリント出力したものを返却するのもいいだろう。むろん用紙も、写真と同じ材質の高価なモノを使用する。

ごくまれに、本物よりもキレイに仕上がってしまったりもするが、経験値のない新人店員ならばカンタンに誤魔化せる可能性大！　しかし、コストは馬鹿馬鹿しいまでに高くなる。

結論として、表ジャケットの入れ替えはリスクが高すぎるので止めておいた方がよい。まあスリルを味わいたいのなら、話は別だが……。

神業編～（危険度158％オーバー）

まずは、万引き防止のセンサーについて。

レンタルCDにも几帳面なことにセンサーの片割れが装着されている。レンタル代をケチり、万引きしたCDを持ち帰ろうとすると、もれなく入り口で御用となってしまうのだ。

センサーのある場所は、CDケースの「のど」の部分。「オビ」といわれる紙の裏だ。試しにCDを借りてきて「オビ」の内側を見てほしい。サイバーなシールが貼ってあると思う。

ここで注目していただきたいのが、CDそのものに何ひとつセキュリティが施されていないという点だ。つまり、ケースからCDを抜き取り、何食わぬ顔で出口を抜けることも可能なのである。



知り合いの元ツ○ヤ店員に聞いたところ、昔からこの被害が続出していたという。

犯行の現場もめったに発見できないらしい……しかし、これは**完全なる万引**きである。キャリアを積んだ贋作師は、万引きなどというゲスな行為はしない。**あくまでも、コピーすることに重点を置くんだよ！**

また、こんな話もある。

「あのう……このCD、キズ多くて音飛び激しかったんですけど」

と、返却時に**優しくクレーム**をつけてみたことがあった。べつに普通に聞けたんだけど、言ってみただけ。そしたら店員が急に低姿勢になり、

「**も、申し訳ございません。**あのこれ……」

と、ボソボソ言いながらレジの下からなにか出してきた。これが噂の「お詫び用レンタルサービスチケット」だった。要はタダ券なのだが、コレを一度に2〜3枚くれるから嬉しい。



これが噂の"お詫び用"
レンタルサービスチケット（実物）

この券1枚につきCDまたはビデオを1本無料で借りることができるというものだが、1回のレンタルにつき1枚しか使用できないのが難点。しかし、キズもないのにクレームつけたり、あげくの果てに自分でキズをつけるまでにいたると、嬉しいことに**ツ○ヤのブラックリスト**に名前が載るという栄誉が待っている……。できることなら、**それだけは避けたい。**

よって連発はタブーであり、キズが目立つCDを借りた時にのみ、クレームをつけるのがセオリーとされている。むやみにタダ券を欲しがってはならない。ここぞというチャンスを待つのだぞ。

（マミヤ狂四郎）

DVDクソ食らえ!

俺は死ぬまでVCDに忠誠を誓う

日本ではほとんど普及しなかったビデオCD。だがアジアではVHS並みに標準化しつつある。なにせ、香港じゃコンビニに売っている風俗情報誌のオマケに、エロムービー満載のビデオCDがごく普通に付属しているくらいだからね。

狙い通りの人気だったハリウッド映画『スターウォーズ・エピソードワン』『マトリックス』などは、アメリカで劇場公開された翌週にはすでにビデオCD化され、プノンペンの場末で痩せたババアが売っていた。それも1枚2ドル50セントで……。もちろん、劇場にこっそりカメラを持ち込んで撮影した、**隠し撮りバージョン**である。

「隠し撮り」と聞いて、顔をしかめる人もいるかもしれない。

昔、まだ日本で劇場公開もされてなかった『ターミネーター2』のビデオを、バンコクの違法屋台で購入したときのことを思い出す。

言い値わずか400円のそれは、ダビング100回目のロリータ裏ビデオといった雰囲気で、見る見るうちに視力が吸い取られていくような粗悪品だった……。

しかし、現在プノンペンやバンコクで売られている隠し撮りのビデオCDは、撮影にDVカメラを使い、素材をデジタルのままCDに焼いて、さらにデジタルのままプレス



新作映画・違法コピー
ビデオCDのジャケットたち…

するという特性から、オリジナルからの画像劣化はほとんどゼロ。アメリカからプノンペンの煤けた市場まで、いったいどんな行程を経てやってくるのか想像もつかないが、劇場隠し撮りとは思えないほど鮮明な画像で楽しめてしまう。音も一応ステレオだ。

ところで、『マトリックス』や『スターウォーズ・エピソードワン』級のヒット作品になると、隠し撮りだけでも数種類のバージョンが存在する。ものによっては開始時に客の拍手や口笛が聞こえたり、前の席の奴が便所に立つ姿が映ってたり、突然カメラが傾いたりすることもしばしば……。このあたりは昔から変わらない光景である。

客席からの隠し撮りからしばらく時間が経ち、ビデオリリースが間近な頃になって出回るのが、レンタル店向けのサンプルテープから収録したものと思われる流出ビデオCD。この前、市場で買った『ゴジラ』『ペイバック』などは、鮮明画質で一瞬オリジナルからのコピーかと思わせておいて、途中に画面一杯の恐ろしい警告画面が表示される……

「このテープを買った人は直ちに以下の電話番号へご連絡をウミャウミャ……」

うざってえ！

しかし、最新作がタダみたいな値段で楽しめてしまうアジアのビデオCDに、クオリティを追求する方がどうかしてる。ゴミみたいな値段で売ってるんだから、**ゴミでも**



ビデオCDマーケットと負傷兵

我慢しなきゃ！

ゴミ……いや、ビデオCDを作ろう！

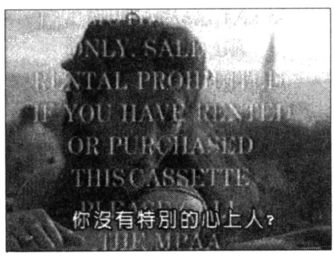
日本でも、パソコンやプレステ等で普通にビデオCDが再生できるようになってから、マニアの間でビデオCDが普及しつつある。しかし日本国内ではほとんどソフトが発売されていない。ではどうするのかというと、自分のコレクションをひたすらビデオCD化する作業が主体となる。そしてひと通り所有作品をデジタル化したあとでどうするのかというと、**仲間とコピーしまくる**、というわけ。

このとき、マニア間の交換レートによって作品は通貨のように取引され、「ドクター中松の政見放送」「ミラクルカンフー阿修羅」「高橋名人VS毛利名人」などのレアな作品は、通常のハリウッド映画などよりも数倍も高いレートで取引される、というわけ。

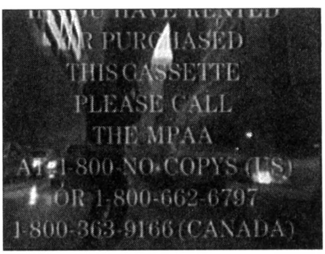
こうした作品はVHSからMPEGキャプチャーボードでパソコンに取り込まれたあと、モノによっては編集されてCDに焼かれる。数年前に同じことをやろうとしたら、中古車が1台買えるほどのカネがかかったが、いまならキャプチャーカードとCDライターを買っても、10万円で釣りが戻ってくるほど。

これで自分の所有作品を焼きまくり、マニアたちの輪に入ってしまえば、あとは雪ダルマ式にコレクションが増えてゆく、というわけ。

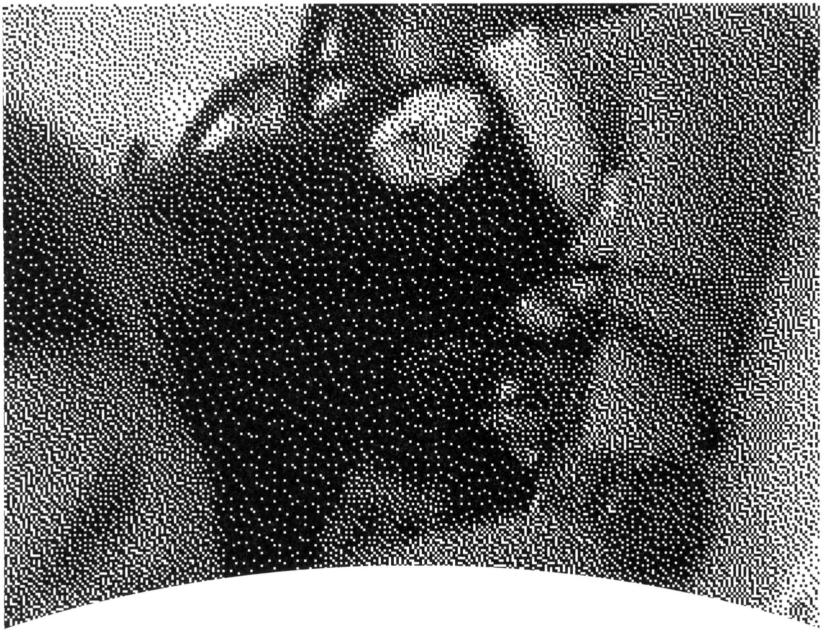
（クーロン黒沢）



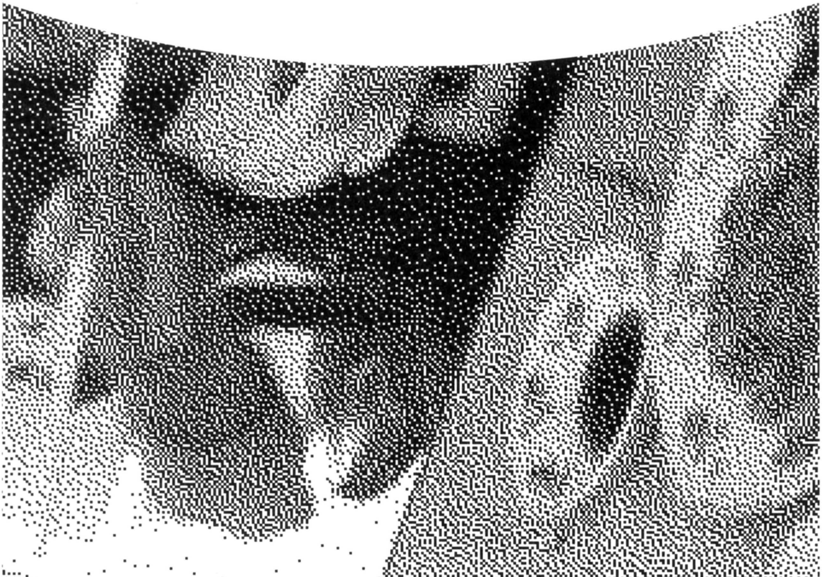
画面いっぱいに広がる恐ろしい警告文



しつこく続く、恐ろしい警告文…



9章/快適アジア生活・ひと口コラム



サイコな絵と薄幸なシナリオ……1冊15円の単行本

タイ国産マンガ「タイコミ」事情

数々の名作を生み出した日本のマンガ家たち。彼らのおりなす技術は世界でもひろく評価されている。そんな日本が誇る素晴らしきマンガたちも、タイでは**あっさりとコピーされていた。**

タイ人はコピーしかできないのか……と怒りに震えるマンガ家志望の諸君よ、おちつけ。タイにもたしかにマンガ家は存在し、パクリではないマンガも売っている。「アメコミ」ならぬ「タイコミ」だ。

まず入手方法だが、これはいたって簡単。そこらへんの露店を探してみよう。あったあった！　小汚いオヤジと薄汚いテーブル。その上には無数の小冊子が平積みになっている。

さて、値段の方はと申しますと、1冊約15円ナリ。日本とは比べものにならないほどの激安ぶり。値段に負けて店のマンガを1冊ずつ、**全種類買い切ることにした。**

はじめに、ジャンルについて付記しておくことにする。露店に売っているタイコミの

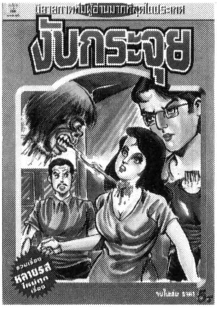
ジャンルはズバリ「血みどろ」モノである。もっと無難なギャグマンガなどはコンビニにて入手可能だ。あとは本屋とかね。また、日本ではオハコのファンタジーモノが皆無なのが気にかかった。そこらへんは日本に任せたということか？

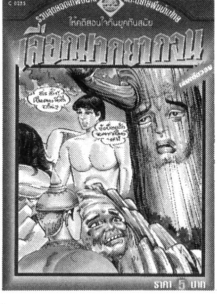
で、この「血みどろ」だが、表紙からド肝を抜かれることうけあい。どういうわけか必ずといっていいほど「首チョンパ状態」の描写や「ナイフぶっ刺し」やら「緑色の怪物（そのまんま東に似てる）」がひんぱんに登場する。これらの条件が三位一体となり、タイコミ独特のうさん臭いブッ飛んだムードを形成しているのだ。

そんなサイコ表紙群の中でも強烈な3冊を、ここでピックアップしてみた。

「緑の怪物、美女の首より内蔵を喰らう！　後ろにはお約束の首チョンパ男性！　のんきな顔してことを見守るバーのマスター！　頭上には美女のことを想うガリ勉メガネ青年！」

「心配そうな表情で汗をかきながらしゃべる木！　これまた困った顔をしている氷山！　黄金の兜をかぶる青年！　ベットに横になる女性と自分のテクニックに不安になるおぼっちゃま風のマッチョマン！」





「子供を抱えている女性に気持ちよく刺さるナイフ！　その子供は、ママどうしたの？といわんばかりの表情！　お約束の緑オトコは目が充血気味！　ジョン・トラボルタ風のホモ臭い男性の胸にうなだれるババア！」

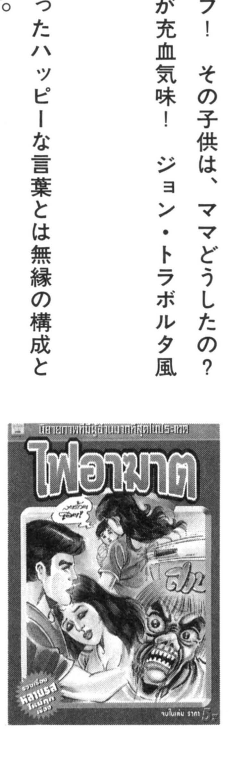
……というように「幸せ」「夢」「楽しい」といったハッピーな言葉とは無縁の構成となっている。**表紙からして先が思いやられる。**

さて次に、マンガの命のなるネタだが「表紙に騙された！」というコミケによくありがちなパターンになることは間違ってもない。律儀にも、**表紙そのまんまの内容**となっていて良心的だ。

しかし、そのキレイにカラーで印刷された表紙にリキを入れすぎたのが原因なのか、中味のマンガに極悪なほどの手抜きをしているモノも珍しくない。小学生に描かせた方がマシだろ！、とツッコミを入れたくなるような新人のマンガも収録されている（それが**本編よりおもしろかったり**もする）。

また、スクリーントーンを使うマンガ家がタイでは皆無であるという、衝撃的な事実も発覚した。買うカネないのかなぁ？　そのかわり、マックなどで濃淡を表現しているデジタルマンガ家がいたことも見逃せない。

マンガは模写して上手くなるモノ……とはよくいう言葉だが、タイマンガ家たちもま



た「ムム、こいつはＡＫＩＲＡ風だな。」とか、「ありゃ、少女マンガチックなスタイルだ。」とか、さざまなスタイルをマネしていることがわかる。しかしどういうわけか、みんなインチキ臭くなってしまっているので可哀想だ。

タイコミはタイ語を覚えるのにも適している。そのサイコな絵と薄幸なシナリオを堪能したいがために、タイ語を勉強するのも一興だ。タイに行った際には、ぜひとも購入してほしい。

ところで、タイのマンガ家たちは小売り価格15円の本で生活できているのか？　その実状を探るべく、私はタイでのマンガ家デビューをひそかに目指している。乞うご期待……。

（マミヤ狂四郎）



▲マミヤ画伯によるタイコミ風4コマ

ノーヘル当たり前、原付に二ケツも当然だコノヤロウ……

カブマニア日本代表が見た。アジアのカブ事情

「スーパーカブ」

ホンダが世界に誇る、販売台数世界一の化け物的人気オートバイ！　壊れにくく、かわいらしく、軽快な走りを提供してくれる最高の相棒。

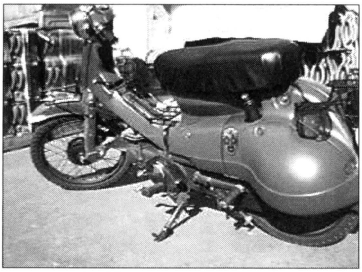
おれはカブが大好きだ。

カブの愛好家は世界に散らばり、ソバ屋さん等の業務用はもちろんのこと、若者にもオヤジにもジイちゃんにも大人気。もちろん私もカブにメロメロな、自称カブマニアだ。

突如「日本代表」と断言するが、言った者勝ちなので、日本代表のカブマニアということにしておいてほしい。**スマヌ！**　マニアというからには、さぞかし世界中のカブでも見てきたのかと思いきや、

「タイとカンボジアだけッス……」

それでいいのか日本代表よ。



●**タイ編　〜そこはカブというよりカワサキ派だった〜**

『タイカブ』

この単語にピクっと来た人は「かわいいんだモン！」といった理由でカブに乗るビギナーではなく「燃費がですねぇ……」などとウンチクをついつい語ってしまう愛らしいカブマニアだ。

さて、この通称『タイカブ』であるが、その実体はホンダがタイから逆輸入している特定モデルのこと。日本で売られているカブと比べ、ひじょうにスパルタンな仕様となっているが、**かなり格好悪い。**

しかし、日本のマニアの中では「エンジンだけ欲しい」だの部分的パーツ取り用として、ひそかな人気者になっている。

そんな『タイカブ』。カブに国名がつくくらいなのだから、さぞかしたくさん走っているんだろうなぁと思いきや、

「パァ〜ン、パンパン」

この排気音はまぎれもなく2スト(＊1)！　道路にはレーシーなカブ風のバイクであふれている。信号待ちではお互いにニラミを効かせ、青になると同時に「鈴鹿八耐」ばりにアクセル全開。

どうやらこの国では、老若男女のバイク乗り全員が「**バトル上等**(＊2)」「**ぶっちぎり**」「**バリバリ伝説**」という思想で統一されているようだ。

1＊2スト：2サイクルのエンジンを積んだ、ペペンペンペンとうるさいバイクのこと。加速とパワーに優れている。町中のスクーターはほとんど2ストである。

2＊バトル上等：走り屋達が好んで使う言葉。信号待ちの時に走り屋同士目を合わせたら即バトルとなる。また、こうした言葉のシールをバイクに貼る者も多い。

メーカーはやはりレース野郎に人気の「カワサキ」が主流。ちなみに「タイカブ」のシェアは20％くらい。タイ人らしいチョイスに納得の日本代表であった。

●カンボジア編　～驚愕の日本代表～

『カンボカブ』

そんなモノはない。そこにあるのは『日本からパクってきたばかりのホカホカカブ』である。なんせ、走ってるのはホンダのバイクばかり。独占禁止法にひっかかりまくりそうな勢いだ。

シェアの80％はホンダのカブで、残りの15％にこれまたホンダのシャリィ[＊3]と、カブではないもののマニア泣かせのセレクション。

そして最後の5％に、うっかりパクリ間違えたのか、スズキの『バーディー（カブにそっくりなバイク）[＊4]』も共存している。

カンボジアはノーヘル当たり前で原付に二ケツも当然だコノヤロウという、**族気質あふれる風潮。**警察官は何をしているんだとお怒りのアナタ。警察官は仲良くノーヘルでカブに二ケツしながらマシンガンを2丁掲げ、笑みを浮かべていたので、どうか安心してほしい。

バイクの数もタイと比べものにならないほど多い。いちおう信号はあるものの、信号無視は常識、みんなニコニコと独特の優雅で自分勝手な走り[＊5]を披露してくれる。

3＊シャリィ：カブと同じエンジンを搭載したオバちゃん向けバイク。見ようによっては格好悪いが、カブマニアたちは認めている。

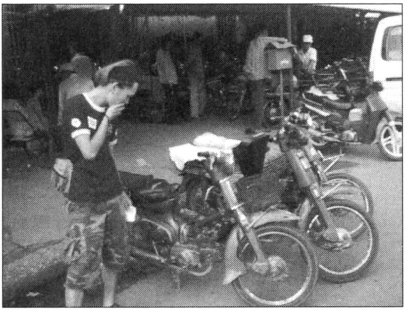
4＊バーディー：スズキから発売された「カブのパクリなんじゃねぇのか？」とカブマニアの逆鱗に触れつづけているバイク。

5＊4スト独特の優雅な走り：4ストは加速には向いていない。のんびり速度を上げていくのがカブの正しい楽しみ方である。

しかし、バイクタクシーでコレをやられるとたまらない。バイタクといえば、当然ながら『カブ』である。彼らのマシンには「もう軽く千人分のケツを乗せているだろう」と思わせるヨタヨタのタンデムシートが装着されており、**貫禄だけは十分。**数々の病原菌が住みついていたであろうそのシートに尻を預けると、不思議と下半身がむず痒くなってくる。

（マミヤ狂四郎）


現地のバイクを食い入るように見るツルミ氏。


現地のバイクを食い入るように見るマミヤ氏。


ノーヘルでニケツしながらマシンガン掲げる、現地の警官たち。

言葉がわからなくてもタイの売春バーでモテる方法発見！

ゴーゴーバーで似顔絵交換

異国の怪しげなバーで、どうしてもホステスの女と会話が成立しない……がんばればヤラせてくれそうな予感がするが、きっかけさえつかめない自分の語学能力を呪うしかない。

辞書を買ったり語学教室に通うのもひとつの手だが、最も簡単な解決方法は文房具店にあった……。ペンと紙、それさえあれば、**強引に意志は伝えられるのだ。**

バンコクの某ゴーゴーバー。けだるい雰囲気のまま、今日も肌荒れのひどい女が、俺にまとわりついてくる。

「ホテルはどこ？」

「タイにはどれくらいいるの？」

「仕事は？」

つたない英語で、どうでもいい質問を投げかけてくる女。しょせんは間をもたせるための会話なので、女もまともな答えなど期待していない。しかし最後の質問に、私が真顔で**「マンガ家だ！」**と叫んだことから、事態は予想もしなかった方向に……。





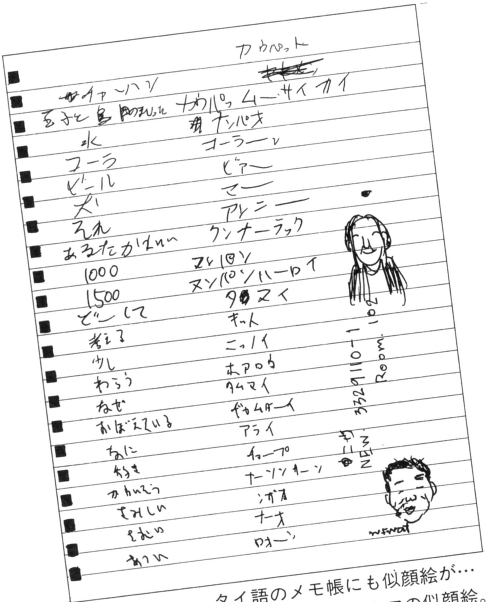
「マンガ家なら、あたしの顔を描いてよ」

女の要求通り、渡されたザラ紙に**肌荒れ女の顔**を描いてやった。これをきっかけに、店中のホステスと、果ては通行人のオカマの似顔絵まで描かされたが、その見返りは充分にあったとだけ言っておこう（ニヤリ）。

女はほとんどタイ語でしか喋ることができなかったが、絵は世界の共通語である。

フヘフヘフへへ。

（マミヤ狂四郎）



タイ語のメモ帳にも似顔絵が…
右下にあるのがオカマの似顔絵。



肌荒れ女はこんな感じ

股間付近が少し黄ばんでいる商品？

タイで変態外国人扱いを受けた古着マニア

古着マニアには2種類ある。かたやプレミアのついた高価なビンテージ物を好んで身にまとう者。かたや単に貧乏性がこうじて、新品の洋服を買うのがバカらしくなってしまった者。できることなら前者を目指したいが、悲しいかな私は、**バリバリの後者**である。

したがって私のようなタイプを「古着マニア」と呼ぶのは、少々間違っているかもしれない。あえて言うならば「ジャンクハンター」。秋葉原にはびこるゴミ同然のＰＣパーツを目ざとく発見しては捕獲するという「ジャンクハンター」の洋服バージョンだと思ってもらえれば、イメージはつかみやすいだろう。

ある時は友人が捨てる予定の服をタダ同然で買い取ったり、フリーマーケットで壮絶な値段交渉を行なってケムたがられたり、もちろん古着屋も念入りにチェックする。なるべく出費を抑えるため、日々東奔西走を余儀なくされる。そんな執念が「**全身の洋服の総金額5千円以内**」という恐るべき成果を達成させるのである。しかし一歩間違えれば、浮浪者そのまんまのビジュアルになってしまうので……注意が必要だ。



路地先で無造作に
つり下がっているタイの古着？

タイでも私はその嗅覚をいかんなく発揮した。タイと言えばインチキブランドばかり売っているイメージが先行するが、実際タクシーから商店街を見渡すに、そうでもなさそうだ。店先に巨大なステンの棒が渡してあり、そこにはいい感じで使い古された洋服がハンガーに吊されて、ディスプレイされている。**まるで古着屋そのものだ。**

「ああ、タイ人も古着愛好家が多いのだな。ウフフ」

……と、2〜3軒ごとに古着屋があるタイ人を羨ましくも思った。いったい、これらの古着のお値段はどのくらいなのであろうか？　新品のパチTシャツが300円そこらで買える国だ。ひょっとして10円だったりして……**これは楽しみだ！**

その日、重要な買い物を終えた私は、意気揚々と古着買いあさりツアーに一人出かけていった。さぞかし安いだろうから「釣り銭ナイヨ」などとナメたことを言われないよう、前日に両替して、小銭を用意することも忘れない。

あるある！　薄汚れた洋服があるわあるわ。ヨダレがしたたるほどの量である。なかでもヨレヨレの半袖開襟Yシャツがいい感じだ。欲しい！　さっそく交渉に入る。

「こ、これいくらですか？（タイ語）」

いかにも、さぞこの人は貧乏なのだろうな……と思わせる**貧相な表情でアピール**しつつ、値段を訊ねた。店主らしきババアは、とれかかったパーマ頭がなんとも「ハズしのファッションテクニック」を心得ていて好感触……しかし、なにか様子が変であ



これは駄菓子屋なのか、それとも洋服屋？

る。パーマは仲間を呼んできた。

「ギャーギャー！　ナンタラカンタラ〜!!」

私を指さし、けげんそうな表情で競馬場のオヤジのごとく、がなるババアたち。いっこうに売ってくれる気配がないので、ニヤリと妖しい微笑みを交えながらそそくさと退散した……が、退散するとき、ババアのいぶかしげな表情のワケが理解できた。

「こ……これは……パンツじゃないか！　**それもシミ付き！**」

ハンガーに吊されていたのは、まぎれもなく男物のブリーフだった。なぜ、パンツがいきなりディスプレイされているのか。少し股間付近が黄ばんでいるので使用済みなのだろう。著しく購買欲を減少させる商品である。**古着屋として失格だ！**

……が、そのパンツを手に取り考えた。

家の中から困った視線を送ってくる婆ちゃんが気になるが、この際関係ない。どうやら私は、ひとん家の洗濯物を物色していただけなのか！　つまりここは古着屋ではなく、単に天気がよいので洋服を干していただけの家だったのだ。

そこでパンツを手に持ち、難しそうな表情で悩む私は、まぎれもなく「変態外国人」だった。

（マミヤ狂四郎）



さて、これ（→）は
商品でしょうか？　それとも……

タイで夜露死苦！

タイのバイク雑誌にカラーで紹介された名誉ある日本の暴走族たち

海外旅行へ行ったら、その国の雑誌をチェックするのは男の常識だぜ。ジャンルは「週プロ」(＊1)でもオーケー。部屋の模様替えが好きな人は「私のカントリー」(＊2)でもかまわんよ。

文字だけの本は読めないだろうから、写真がたくさん載っている**バカっぽい雑誌がベストだ。**

私の場合、バンコクでバイク雑誌をひと通り買ってみた。なんせこれだけバイクだらけの国である。さぞかしバイク雑誌も種類がたくさんあるのだろう……と思っていたら、悲しいかな「走り屋」系の地味な雑誌が2〜3種類。ホモ雑誌は10誌近くあるっていうのに……。

よく考えてみたら、バイクだらけといってもそのほとんどは、荷物運びやバイタクに使われている実用バイク。マフラー切ったりシートを薄くしたりした、カスタムバイクはあまり見かけない。

＊1 **「週プロ」**：週刊プロレス。ターザン山本・元編集長で有名な、名門プロレス雑誌。

＊2 **「私のカントリー」**：主婦が好んで購入するインテリア雑誌。名前のとおり、部屋をカントリー調にしたいと思う主婦が、夢をみながら購入する。

ところが！

某バイク雑誌を開くと、そこには**頭の悪そうな男たち**が読者に斜め下40度からガンを飛ばしているではないか！

そう、我らが日本の暴走族が掲載されていたのだ。これにはビックリ！ 彼らはタイのバイク雑誌に、なんとカラー見開き2ページも使って紹介されていたのだ。

注意深く写真をチェックすると、自慢の特攻服には「山梨」と刺繍されている。仕方がないので勝手に彼らを「山梨名誉県民」に任命した。**おめでとう！** また、レディースもチョコっと紹介されてて、ヤキの入った彼女らの表情を見ると、こっちも気合いが入る。

いったいタイ人編集者は、どんな風に彼らのことを紹介しているのだろうか？ 例によってタイ文字はまったく理解不可能。しかし、今回ばかりは何としても真意を読みとりたい。

そう思い、相棒のタイ語会話集を片手に2時間ほどがんばって、とりあえず見出しから翻訳してみた。結果は、



何て書いてあるのかわからないけど、とりあえず「日本の悪党レーシング」の紹介です…

「日本の悪党レーシング」

であった。

そんなことわかってるんだよ！ 少しせつなくなったけど、彼らを見習い、根性入れてもう少しがんばって翻訳してみた……が、しょせん「タイ語会話集」である。

彼らの常套句、

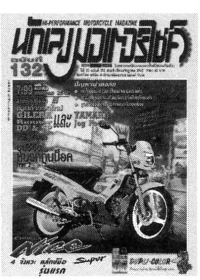
「気合い入ってんでヨロシク」
「全国制覇するんでヨロシク」
「そろそろ引退なんでヨロシク」

などの単語は見つからず、あとは写真を頼りにイメージをふくらませることしかできない。おそらく、レース系の雑誌なので「**空気抵抗がなってない**」とか、書いてあるんだろうけど……。

（マミヤ狂四郎）



空気抵抗がなってない、名機の数々……。



問題の「走り屋」系バイク雑誌。

灼熱地獄のサパーレックでアイスクリームを頬張る

ちょっといいアイスの話inタイランド

タイ最強のコピーゾーン「サパーレック」。そこに拡がるのは、夢のような数のコピー品と汗くさいオタクどもで一種異様な人間模様。そんな無法地帯において、ある種のオアシスを発見した。

そこにはまぎれもなく「サーティーワン」等で見かける、通称「アイス箱」が堂々と鎮座していた。デカいスプーンでほじくるアレだ！　といっても、ケース自体が小ぶりなので、アイスは6品程度しか収納できないようだ。

「なぜここにアイス箱があるのか？」

驚いてる間に追い打ちをかけるがごとく、ある事実が発覚した。

「こ、ここは、アイス屋じゃなくて洋服屋じゃないか！」

狭い店内をよく見てみると、電脳というキーワードからはるかにかけ離れた洋服群が陳列されていた。しかも婦人服ときた。**これは一種のトンチなのか？**　それとも

……。

その時だ。まるで狼に囲まれたときのような、鋭い視線を背後から感じ取った。

「バ……ババア」

妖怪を見たかのようなリアクションをする外国人に対して、ババアは物陰からじっとこちらをにらみつづけている。さらにメガネを装着し、よりいっそう**「大門刑事（西部警察）」風のド迫力な面構えになるババア。**彼女の背後に「金剛力士像」の霊をはっきりと感じてしまったがため、完全降伏しか道はない。

「こっ……このアイス……いくら？」

コーヒー味らしきアイスを指さし、アホ面でこう言うしかなかったが、ババアは一瞬の沈黙の後、こう反応した。

「コーンとカップ、どっちがいい？」

絶対に腐っていそうだ。そう思うのは当然である。しかし、キュートなババアに賭けてみたい気もする……などと思いながら、アイスにガブリとかじりつく。



世にも不思議なサパーレックのアイスの旨さを伝導せんと、ババアの店に友人を連れてきたマミヤ青年

「うまい」

灼熱と汗にまみれたサパーレックで頬張るアイスは絶品だ！　これまでの人生のなかでも、こんな旨いアイスを食べたことはそうそうない。**ババア……ありがとう。**

翌日、このアイスの素晴らしさを世界的に知らしめたくなったため、友人を連れていき強制的にアイスを購入させた。ところで、昨日コーンを選ばずプラスチックのカップに入れてもらったため、捨てる場所を探すのにひと苦労した。なにせバンコクは、ポイ捨て禁止だからである。**まあ、みんな捨ててるけどな。**

よって、友人にはコーンを無理に薦める。じつはコーンの方が少し値段が高いんだけれど、俺の金じゃないからいいんだよ！

（マミヤ狂四郎）

うざってえ……でも、友達でいればいいことあるかな？

味のないゲームマニア・水谷幸太（タイ人）

水谷君と初めて出会ったのは、バンコクのロビンソンデパート(＊1)にある、某ゲームショップに僕が行ったときのこと。そのフロアには複数のゲームショップが隣接していて、中国製の海賊版ゲームやＶＣＤなどが堂々と販売されていた。

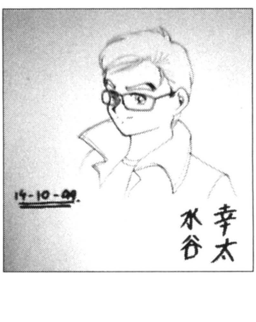
どの店も変わりばえしない品揃えで、脱力しながらブラブラしていると、いきなり妙なパチ臭い日本語で話しかけられた。

「ナニカ欲シイモノアリマスカ？」

そこには笑顔の水谷君がいた。実家はそこそこ金持ちで、高校のとき日本に長期間ホームステイして、ステイ先の家族につけられた名前が水谷というらしい……**なんで水谷なのかは、謎だった。**

ちなみに水谷君の外見は、果てしなく不細工。見れば見るほど不細工である。どこか身障臭いので、身障マニアの僕としてはお友達になっとくしかねえべ！、ということで

1＊ロビンソンデパート：バンコク中心にチェーン展開するタイ版ダイエー。しかしダイエーよりはいささか無秩序で、支店によってはＰＳの最新ソフトが１００円で売ってたりするので油断できない。



（水谷君の）自画像

意図的に近づいた。さらに世間話をしていると、熱烈なときメモファンということまで発覚、水谷君はゲームマニアそのものだった。というわけで、**表向き意気投合**。ゲームマニアに国境は要らない。

外見だけで判断すると「うぜえな、こいつ」となるが、データがいろいろもらえるなら**ば、犬や猫とでも友達になれる**特技を活かして、とりあえず仲良くすることにした。

最初、水谷君は僕のことをナメていたようで、ファミコン用のくだらないインワンソフトばかり勧めてくる。仕方ないのでアジアのパチモノについての知識をひと通り披露し、「なめんなよ！」と暗にいいきかせると、じつは純正品マニアだった水谷君は目を輝かせ、「お互いのパチモノと純正品を物々交換しませんか？」という結論にいきついた。ただし、水谷君の提示した交換レートがあまりにも悪いので、けっきょくこの話はなかったことになる……、うざってえ。

そのうえ、水谷君はパチモノと純正の区別があまりついていないらしく、「『鉄拳2』のPS版はいいけど、ファミコン版はへぼいよね」とか、バカなことをいっている。ファミコン版はそのへんの**中国人が作ったニセモノなんだよ！**

ともかく、水谷君とEメールの交換をはじめることにした。使用言語は日本語なので、こちらはラクだ。

水谷君は毎回辞書をひきながら、3時間くらいかけてメールを出してくるのに、その

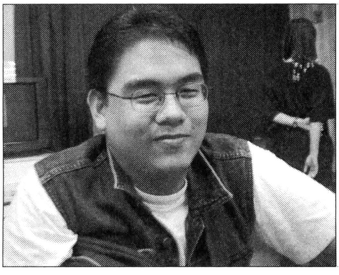
内容は本当にくだらない……。でも、友達でいればなにかいいことあるかな？と思い、我慢しいしい、文通をつづけた。彼いわく、

「私の膨大なコレクションを見せるから、今度タイに来たときは私の家にいらっしゃい。タイでも有数のコレクターですから」

とのこと。さっそく別の用事でバンコクに行った際、水谷君の家を訪問するが……。たしかに奴のコレクションはまあまあ凄かった。現地人にしては純正品をたくさん集めているし、向こうも向こうで、やっと自分のコレクションを自慢できる相手に巡り合った興奮を隠しきれず、鼻息粗く**フーハーフーハー解説**してくれる。

しかし、サパーレックを初めて見たときの興奮と比較したら屁でもない。いまではサパーレックやパンティープの卸問屋となっている友人のニチポン君や、タイ最年少のゲームショップオーナー・タム君など、タイのハードコアなマニアの友達が多い僕としては、どうしても水谷君のコレクションがチンケに見えてしまう。

それでも、たまにはビックリする宝物も見せてくれた。「マジックジュエリー2」、単品の中国将棋、「トルネコ」中文版とか……そういったレアなブツを見つけ次第、こちらの用意したオタクグッズと交換トレードする。僕が提供したのは、PSやFCの純正ゲーム、そしてエヴァやときメモグッズ、フィギュアや同人誌などである。



実際の水谷君（タイ人）。前ページ掲載の自画像をもう一度見直してほしい…（怒）

ブツを交換して終わりではあまりに味気ないので、翌日、水谷君と僕の友達（日本人）と3人で遊ぶことにした。行き先はバンコクで最も人気のあるディスコ「某」である。もちろんオタクの水谷君は、ディスコはじめて。

まずは気合いを入れて、ベンツを1日借り切ってしまった水谷君が登場する。そこまでしなくても……**タイ人の見栄っ張りぶり**には驚かされる。

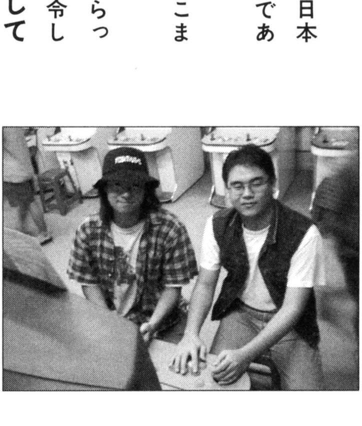
とりあえず店に入り、酒をガンガン飲んで飲ませて、ちょうどいい具合に酔っぱらったところで水谷君をいじめながら、半強制的に女の子をナンパしてこい！　と命令した。しかし、オタクの水谷君にナンパなどできるわけがない。**わかってて命令してるんだけどね。**

けっきょく僕が行って、女の子と適当に仲良くなった。しかし、そこに水谷が来たら、**オンナがひいてしまった**。さすがだ……次の日から**水谷君とは遊ばない**と誓った。

せっかく日本でのうっぷんばらしにタイまで来ているのに、限られた時間をあんな奴のために使うのはもったいないとわかったからだ。

「タイに来る予定あればメール下さいね！　そして、タイに来たら電話して下さいね！」と言われたが、以後一切シカトすることにした。その後、現在にいたるまで、ばっくれ続けている。ごめんね水谷君。

（鶴見和昭）



表向きはとっても仲良しこよしの
ツルミ氏（左）と水谷君（右・タイ人）。

パチモノマニアに大人気！

マーブンクロンのオリジナル日本料理屋「スモー」で味気ない昼食を

ピーコゲームでカネを使いまくったあとは、そろそろ腹がへったと思うので、なにか腹ごしらえに食いに行こう。

せっかくタイまで来たのだから、辛くて酸っぱいタイ料理を腹一杯……という気持ちは理解できるが、カオパットやトムヤムクンは、正直いって池袋の裏通りでも食うことができる。

ここでは、世界でもここでしか食べられない、**パチ臭い日本料理**に挑戦してもらいたい。マーブンクロンデパート1階にある食堂コーナー「メニューマート」の「スモー（相撲）」という店。

相撲取りをあしらったマスコットキャラクターは、かなりへぼくて怪しいが、じつはここの寿司が穴場的にうまい！　日本のヘタな回転寿司の寿司など問題にならないほど旨い。**なにか薬品でも混ぜてるのでは……**と勘ぐってしまうほどだ。

スモーはパチモノあふれるマーブンクロンに、今年（99年）4月からオープンした。



日本で本格的な修業を
積んだ板前さんたち（タイ人）。

日本で本格的な寿司の修行を積んだという、タイ人の板前が創始者である。しかし最近は弟子たちに店を任せっきりにしていて、この創始者が姿を現すことはほとんどない。

そんでもって日本で本格的な修行を積んだわりには、日本ではゲテモノ扱いの、見たこともないようなキワい料理が多いのが特徴である。そんな料理教えてくれる店、**日本のどこにあんだよ！**

まあ、日本の技術だけ盗み、あとはそれを現地人風にアレンジしているのだろう。なかでも最もキワいネタと思えるのが「ピザ寿司」。寿司ネタがピザという和食&洋食のヤバすぎる組み合わせ。しかし美味しい。**どうなってんだ？**

そして極めつけが「クレイジー寿司」そして「ドラゴンロール」である。クレイジーはエビ天、ドラゴンはアボガドととびっこがマヨネーズであえてある。**うまけりゃなんでもいいのかよ！**

それだけではなく、ステーキ、焼き肉、天丼、親子丼など、日本のヘタなファミレス以上の品数を誇っている。ただし寿司以外ははっきりいってマズいので、お勧めできない。

（鶴見和昭）

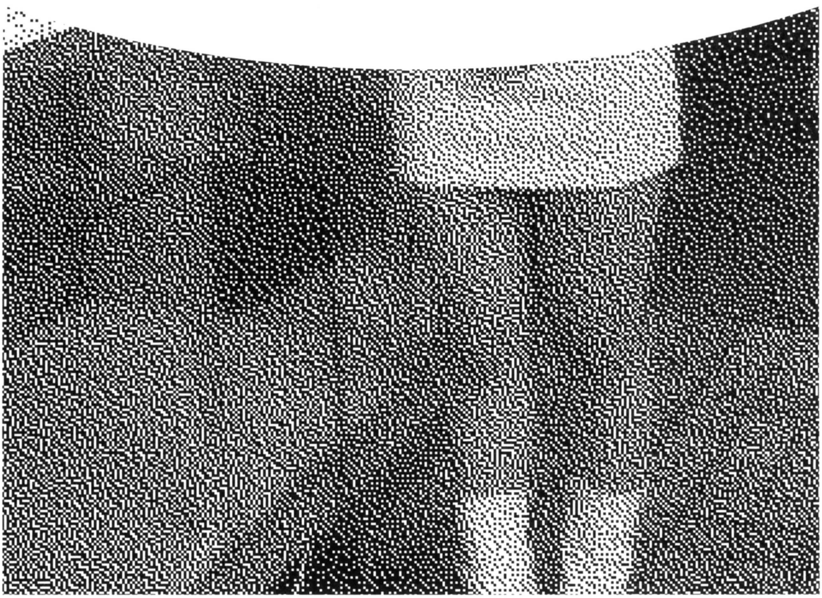


SUMOでご馳走をパクつく
日本人観光客（…なのか？）

●参考リンク
＊SUMOファンクラブ
http:// www.geocities.co.jp / SiliconValley/6167/sumo.html



10章/最後にこれだけは押さえておこう!



パチモノ用語の基礎知識

●ピーコ

コピーの隠語。ほかにオバＱ（小田急線のこと）など、まわりに一般人が多い場所（駅・ファミレス等）でヤバい会話をするときには、これらの隠語を使う。

●エックスターミネーター（X-TERMINATOR）

ゲーム改造の代表選手。ゲームプログラムの一部を偽のデータと入れ替えることでいろいろな改造が楽しめる。現在出回っているゲーム機のほとんどに、それ用のエックスターミネーターが発売されている。

●アクションリプレイ（ACTION-REPLAY）

エックスターミネーターは、アクションリプレイのデッドコピー。つまりこちらが元祖なのだが、なぜか知名度はどっこいどっこい。イギリスのデーテル社が開発元。

●マジコン

ゲーム機用バックアップマシンの総称。なぜコピーマシンと言わないのかというと、オリジナルを持っていることが合法であることの前提とされるから（?）。語源はマジックコンピュータとか。

●コピーマシン

ソフトをコピーすることだけを目的としたハード。主にＭＳＸやファミコンの全盛時代初期に活躍していた。専用の生カートリッジに書き込むため、他機種との互換性はない。コストパフォーマンスも悪く、生カートリッジのデータを消すのに紫外線ランプを使ったりして健康に悪そうな印象を受けた。

●**落す（オトス）**
　コピーの隠語。プロテクトを外したときにも「●●オトしたぜ」などというふうに使う。

●**コピー野郎**
　オリジナルを持たず、ピーコしたソフトしか持っていない人の総称。

●**コピーサークル**
　高校生を中心に増殖中。互いのソフトをコピーするための組織。小さいものではクラスの仲良しグループから、大きくなると全国規模のものまで大小さまざま。代表者に罪悪感など、もちろんこれっぽっちもない。

●**寄生虫**
　コピーしたソフトを売ったりして利益を得ている人の総称。また、自分のソフトはコピーさせないのに、他人のソフトばかりコピーしている奴もこう呼ばれる。

●**プロテクト**
　コピー防止の手段。古くはプログラムの入ったフロッピーに色々な細工がされたり、マニュアルが青地に銀文字で印刷されていて、普通のコピー機ではコピれないといったものまで、盛りだくさん。いまではポストスクリプトの日本語フォントや、高価なＤＴＰソフトのドングルプロテクトなど、ごく一部。それでもすぐにクラックされる運命だけど……。

●**クラック**
　プロテクトを外すことを「クラックする」。そしてプロテクトを外す人々の総称を「クラッカー」という。ヨーロッパから回ってきたコピーソフトには、よくプロテクトを外した人物のメッセージが冒頭に流れるよう改造されている。奴らの自己主張は１９７０年代から衰えを知らない。

●**特殊チップ（カスタムチップ）**
　ゲーム機に限界があって実現できない機能を、カセット側の特殊チップで実現するというもの。ファミコンの「グラディウス」とか、そのへんから出始めた。特にファミコン終末期はカスタムチップを載せたソフトばかりで、ほとんどコピーできなかった。

●**ＤＳＰ（ディー・エス・ピー）**
　画像や音声処理のために使われる専用の高速演算プロセッサ。カセットの中に組み込まれている。スーファミではよく使われていて２タイプ存在するが、対応していないマジコンでこれらのソフトを吸い出しても動作しない。

●**クソゲー**
くそみたいにつまらないゲームソフト。

●**ダメソフト**
任天堂の山内社長はクソゲーを「ダメソフト」と呼ぶ。数々のソフトメーカーを前にした演説でこういう言葉が吐けるうちは、任天堂はまだ大丈夫だよな。今年はこのセリフを吐くのだろうか？　たぶん吐くだろう。強気だから。

●**S-NES（スーパーネス）**
スーファミのアメリカ版。角張っていてゴツいデザインはいかにもアメ公向け。ソフトはもちろんスーファミと共有できるが、カセットの形状が日米で違うので、アジア製の変換アダプターを使用せねばならない。

●**テラドライブ**
セガが作ったメガドラ内蔵の中途半端なパソコン。中途半端なスペックでまったく鳴かず飛ばず。しかし専用モニターだけはよく売れていたようだ。

●**X in 1（エックスインワン）**
複数のソフトが1本にまとまっている違法カセットの総称。インワンソフトとも呼ばれている。最近では、プレステのソフト4タイトル程度を1枚のCDに入れたプレステのインワンCDが、タイを中心に幅をきかせている。

●**固まる**
なにかの原因で止まってしまうこと。

●**改造コード**
エックスターミネーター、アクションリプレイなどの改造ツールで使用する専用のパスワード。機種によりコードは異なり、それぞれX-Tコード、PARコード、金指コードなどと呼ばれている。

●**金手指コード（ゴールドフィンガー）**
スーファミ用マジコン専門の改造コードで、メインプログラムに直接パッチを当てることができる。14桁で構成されていて、上からバンク、アドレス、データ、チェックとなっている。GFと略されることもあるが、ガールフレンドではない。

●**パチモノ**
ニセモノ・海賊版の総称。さらにマネすることを「パチる」などとも言う。

●コンパチ機
互換性のあるマシンのこと。もっとはっきり言うとニセモノ。アジアでは主に無許可でスーファミとファミコンの偽物が数多く作られている。

●IDE（アイ・ディー・イー）
インターフェース規格のひとつ。データの転送速度が速いことが特徴、主にハードディスクでよく使われている。

●自殺行為
秋葉原の路上で「ときメモ」や「同級生」のことを悪く言うこと。ホントに危ないからやめたほうがいいよ！

●品質保証
本来は心強い言葉だが、パチモノ関連ショップでこれらの単語を見ても、見なかったことにしておこう。信じる者が愚か者。

●ボッタクり
香港の路上ならまだしも、秋葉原界隈でも被害が相次いでいる。もともと値段のあってないようなパチモノにかんしては、情報を持たない者が持つ者に吸い取られる構造が確立している。

●同人ソフト（ドウジンソフト）
マニアが作った一般流通にのらない自己満足ソフト。しかしながらマニアだけに販売して、それだけで食えている人もいるのが事実。税金もかからない。秋葉原には同人ソフトだけを扱う店もいくつか存在する。

店内は限りなく香港の場末……

本書推奨！ パチモノ店舗紹介

●フリージア

ゲームボーイカラーなどの携帯ゲーム機や携帯電話のバックライト改造サービスが好評の店。

この店で働く店員には、懐かしの違法ファミコンソフト「SM調教師・瞳」の制作に関わっていた人物や、日本最大のゲームコピー組織・SFC研究会**（摘発済）**でバイトしていた経験を持つ人もいて、彼らの昔話を聞きに行くだけでも面白い（だけど迷惑になるのでほどほどにね）。

●あきばんぐ

http://www.akibang.com/

取り扱い商品のセンスが全般的によい。そして安い。通販ホームページのデザインも、給料の高いデザイナーを何人も雇っているだけあって、秀逸。

アキバのメインストリート・中央通りを上野方面にひたすら歩いて行き、店頭デモに**瞳孔開きっぱなしで群がるオタクども**が目印だった元ソフマップ本店（'99年11月に閉店、現在はその近所に「カクタソフトマップ」という名前でリニューアル・オープン）前を突破しよう。と、すぐにビルの前の看板が目に入るはずなので、エレベーターで八階に上がればそこがあきばんぐ。

体力自慢の君は階段をダッシュ。きっと少し痩せるよ。

●紙風船

プレミアショップ「メディアランド（元ゼット）」の平社員・バイト達の反乱軍によってつくられた店。

秋葉原では露店以外で唯一、パチモノ・インワンの入手できる場所として、以前は**とても過激で怪しかった**のだが、いまでは少々カゲが薄



あきばんぐ店内。

くなり気味。
（先日オープンした）カクタソフマップを素通りしたら、次の路地を曲がり、グルメを自負するサラリーマン達で賑わう「じゃんがらラーメン」を通り過ぎたら上野方面へ曲がろう。そのまま驀進すれば、はい紙風船。

●ストレート

あきばんぐ・スタッフの古巣である。皆ここで怪しいノウハウとテクニックを培った。

店長の平井さんはどこか森本レオに似ている。彼はなにを隠そうファミコン・クイックディスクのパチモノで儲けた第1世代。この業界では化石のようなひとで、インターネットすら当たり前なご時世に、パソコンはおろかワープロも使えないという噂。ずっとアキバで生きているのに……というわけで、チラシや値札はすべて味のある手書き。その怪しさがたまらない。**消費税も3パーセントだ。**

そして、毎週末に行われる怪力ショーも見逃すな！ 変なデブがプラケース付きCD－R百枚を指2本で持ち上げる！ **こんなショーやって売り上げ伸びるのか？** そこがイイところなんだけどね。

棚は在庫管理など皆無といった雰囲気で、次から次へと新しい商品が積み重ねられているため、新製品の奥をひっかき回すと、時おりプレミアのついた珍しいアイテムがひょっこり顔を出すこともしばしば……。**気分は遺跡発掘。**

チラシを配るオウム信者たちでにぎわう、通称「チラシ通り」から、チラシをもらいつつも、その場でクシャクシャに握りつぶしたりしながら直進。すぐに小汚い中華料理屋から悪臭が漂ってくるので、つられて左折。裏通りを進み「あきばお～二・三号店」を過ぎると怪しげなビルが見えてくる。目を凝らすと「ストレート」と書いてあるので見逃さないように。

●コンソール7

http://www.console7.com/

元祖MODチップ安売りの通販店。チップが法案で売れなくなった現在はプレステ関連の周辺機器を取り扱っている。通販専門なので、詳しくはホームページを。

●ゲームスアーク

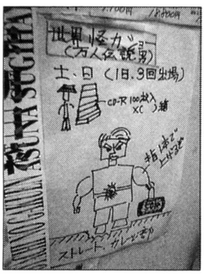
http://www.gamesark.co.jp/

この業界では最も老舗の部類に入る。スーファミ・マジコン時代から怪しげなモノの数々をマニアに提供。アキバの裏モノショップでは唯一、**若いオンナの子をたくさん起用**している店としても知られている。

アキバではあまり見ることのできない（街頭コンパニオンを除く）、かなりかわいい娘が粒ぞ



ストレート店内。



怪力ショーの告知。

ろいだが、**仕事ができるかどうかはわからない。**業界ミニコミの在庫も豊富。ほぼ全種類この店でそろってしまうといっても過言ではない。

●あきばおー

http://www.akibaoo.co.jp/

アジア雑貨とメディアの安い店。エロ同人誌まで扱い、その無節操さからユーザーの支持を集め、秋葉原内に支店もある。

店内は限りなく香港の場末。**値段が中文表示**だったり、スタンガンハエ叩き、ニセ札発見器など、油麻地は男人街でおなじみの商品も、まるであたりまえのように並べられている。恐ろしい時代になったものだ……。

●メディアランド

店内には石器時代のゲームマシン・ベクトレックスが陳列されてたりして、**中古マシン博物館**と化している……というわけで、エミュレータでしか動作の見れないレアなマシン（コレコビジョン等）がズラリと勢揃いしているさまは、一見の価値あり。

値段をコントロールしているかのように高額なブツもあるが、自分のコレクションがいったいどれくらいの価値なのか、見に行ってみるだけでも面白いと思う。なお、中古ゲーム機などは欲しいものが店頭になければ、予約も可能。

●ソフマップのプレミアコーナー

初代ファミコンが10万円以上で売っているやるせない店。中古ソフトも多いが、なかにはクリア直前セーブデータ入り「ドラクエ2」や、アクションコードで改造ずみのポケモンなど、**付加価値のついたカセット**が高く売られていたりして気が重くなる。

●宇宙に一番近い音楽ショップ

アキバ臭さが消えるか消えないか。ともかく微妙な店。秋葉原よりも銀座線の末広町にほど近い。

「音楽専門店」と名乗る店内には、雑然と並べられた段ボールの中に「6P延長コード」やら「マウスパッド」やら、音楽とはあまり接関係なさそうなブツが平然と置かれている。

店内を歩行者に見られたくないのか、入口をカーテンのようなボロ布で覆い隠しており、**いやがおうにも期待はふくらむ。**そんな見えない店内からは、なぜか宗教チックな音楽がポロリロ聞こえてきたりして、なおさらドキドキさせてくれる。

さて、気になる音楽商品のラインナップはというと……。

「チュピィ～ン」とか「ホワホワァ～」などの効果音で形成される、宇宙的で壮大な音楽CD。そして素人のお客さんが自費制作した宇宙音楽



宇宙に一番近い音楽ショップの店先。

カセットテープ。MIDIの素材CDなど、なぜか**宇宙に関わる商品**が多い。音楽ソフトもあるにはあるがきわめて影が薄く、また、自分の髪型を変えるソフトや、あげくの果てにエロCDも売っていて、ぜんぜん音楽専門店じゃないんですけど……。

　今後、どんなふうに変化していくのか、たいへん楽しみな店である。

●JOKER-X

http://www.positive.gr.jp/~pk/joker/

　静岡県から特別参加。ジュビロ磐田の磐田駅から徒歩五分。地方ユーザーにはうれしい強力でマニアックな店だ。店内は客からの委託中古ソフト中心の品揃えで、希望すれば自分のソフトを置いてもらうことも可能。分け前は通常7:3ということ。

　通販客にも親切で、定期的にメールで新入荷ソフトを教えてくれるほか、希望するソフトがあれば、あちこちのツテを辿ってかなりの確率でゲットしてくれる。ただし、**ひやかしは厳禁**。先日もひたすらゲームだけやりに来る小学生くらいのガキが怒鳴られて泣きを入れていたぜ。

●モッドマーケット

http://www.modmarket.com/

　日本国内での売買が法案で禁止されたいまも、未だに海外某国からMODチップやMODリプレイを販売している謎の店。**治外法権なのか?** ともかく貴重な店であることにはかわりない。しかもホームページは完全日本語だ……。

●裏CD-ROM取引所

http://members.tripod.com/URAROM/

　Windows用の日本語版のアプリ・ゲーム中心に売られている。どうでもいいソフトばかりのラインナップの充実ぶりには驚く。

●H-R

http://members.tripod.com/~gmtdra/list.htm

　Win用ゲーム(18禁ばかりですケド)をCD-Rで実費にてお分けします。とトップにいきなり書いてあるが、どうも考えてもぼったくり価格。Win用のゲームのラインナップは充実している。欲しくないけど。

●SOMYホームページ

http://www.camnet.com.kh/somy/

　業界一親切なピーコ店。ページも写真つきで解説してあるので、とても見やすい。アプリ・エミュ・裏PSなんでも売ってます。



JOKER-X店内。

明日のムショ行き決定君たちに朗報！
特選！　怖いモノ知らずな業者たち

フロッピー全盛期からCD－ROM当たり前の現在、アジアのピーコ業界はCDに移行。おまけに彼らが作り出すCDには著作権など存在しないため、さらにコピーのピーコまで出回り、ほとんどワケのわからない状態となっている。

1枚1枚、心のこもった手焼きが常識の日本と違い、アジアではうむをいわさず**プレスしまくり大量生産**。ためしに香港でプレスを行っている業者の話によると、1枚50円くらいから受けつけているらしい……。ということは、千枚発注しても5万円というわけで、これじゃ1枚売価が300円でも、数さえハケれば儲かるわけである。

もちろんアジアにも取り締まりはある。しかし今では現物を店頭に置かない隠し販売が主流なうえ、あらかじめ懲役刑が適用されない**子供を店員として雇ったり**している。

このへんで働いているガキは、自分がゴルゴ13にでもなった気分で、捕まっても妙に口がカタかったりするので、根本から摘発される可能性はほとんど、なきにひとしい。

そんなアジア原産のエミュレータCDやアプリCDだが、じつは日本でも場所によっ

ては購入可能。もちろん犯罪なので、**購入にはある程度のリスクがある。**

今日までデカイ顔で営業していた業者が、わずか2時間後に注文を山ほど残したまま夜逃げすることも珍しくない。

というわけで、ここではインターネット上で商いをしている違法軍団を、よりすぐって紹介しておく。アニメの録画が忙しくてアジアまで行けない人、もしくは自分のCD－Rでコピーしてひと儲けを企んでいる、明日のムショ行き決定君たちは、一度訪れてみるといいだろう。

なお、ここいらで買ったCDが原因で警察に事情聴取されるハメになったり、代金そのまま持ち逃げ（よくある）されても、当方は一切責任とらないから、そのつもりで。

（鶴見和昭）

●現役CD売り子

http://members.tripod.com/~daunun/

素人少年が小遣い稼ぎにCDを販売。比較的早く届くらしいが、最近はびびってしまい終了をほのめかしている。しかし一度うまい汁吸ったら、死ぬまでやめられないんだよね。

●ディストリビュートの杜

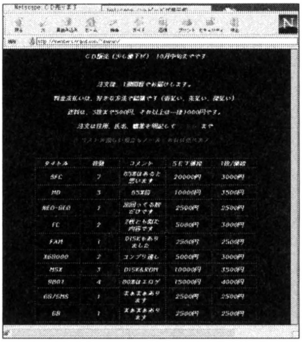
http://www.multimania.com/dforest/

　コピーCD販売のベテラン。業界では知る人ぞ知る最古参の某氏が運営。他の業者を見おろすような豪華ラインナップが特徴。

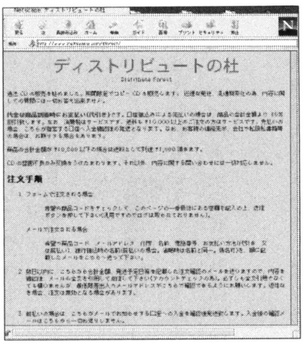
●SFC研究会の残骸

http://members.tripod.com/~sfclab/

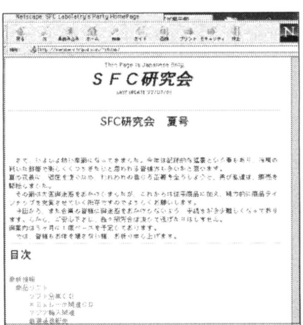
　エミュレータのデータが高いけど充実したサイト。時候のあいさつから始まり「私たちは決して逃げたりいたしません」という文句がニクイ。もう逃げないでね。



＊CD売ります



＊ディストリビュートの杜



＊SFC研究会

閉鎖されてても文句いわんでくれたまえ……

特選！　本誌内容・関連リンク

●エミュレータ関連リンク

＊Emulator Island
http://island.room.ne.jp/~vilvil/links/gamelink.htm

＊Console / Emulator Programming Resource in Japan
http://www.geocities.co.jp/Playtown/2004/cpr.htm

＊Grayfox unLTD
http://home.interlink.or.jp/~grayfox/

＊GBやろうぜRETURN
http://www.freepage.total.co.jp/gameboy/

＊パラ男無法地帯
http://www.cs.gunma-u.ac.jp/~j8406007/

＊ろむを吸おうぜっ
http://mmm.uec.ac.jp:8081/club/mma/~eggman/romread/

＊NES-ROM解析吸いだし研究所
http://www.tcup3.com/38/kenkyu.html

＊志保ちゃんのエミュレータニュース
http://toheart.pos.to/emunews/index.html

＊emulater info mation
http://members.xoom.com/emu¯inf/emu.html

＊エミュレータ日本語訳ページ
http://www.geocities.co.jp/Playtown/1901/

●エミュデータ・ツール関係

＊エミュデータライブラリ
http://members.tripod.com/~junnno/index.html

＊明日はどっちだ
http://www.pp.iij4u.or.jp/~tomorrow/

＊High Level Challenge !
http://www.geocities.co.jp/Playtown-Denei/3370/

＊K-Launcher
http://www.geocities.co.jp/Playtown/2595/

＊S-NES KEY
http://www.csc.tntech.edu/~jbyork/

＊GANG-A HOME PAGE
http://www.ganga.demon.co.uk/

●エミュレータ・関連リンク集

＊エミュリンクワールド
http://www.top.or.jp/~em/

＊街の灯
http:// plaza.harmonix.ne.jp /~thm / linksyu / index.htm

＊えみゅりんピック
http://www.angel.ne.jp/~plaza/emulin/

●ハックロム・ハックロムツール関係

＊わいわいの巣
http://www.geocities.co.jp/Playtown-Denei/4503/

＊CLAY CRAFT
http:// www.freepage.total.co.jp / claycraft / hyoshi.html

＊テウニレR
http://www.sun-inet.or.jp/~tkosugi/

＊むーん
http://members.tripod.com/~LV99/index.htm

＊室の穴
http://members.tripod.com/~t_effects/

＊えみゅれーた倶楽部
http://users.jp.tri6.net/~tsuru/sp/pachi/emu.htm

＊エミュレータ研究会
http://www.cool.ne.jp/crash/

＊MARIO EMULATION HOMEPAGE
http://pta6000.pld.com:80/derekp/

＊NES EMULATION SHOP
http://taichou.dynip.com/ac2k/nes/

●その他

＊Eindogs House
http://homepages.msn.com/WindowsWay/eindogs/
プレステのインワンCD作ったり、なんか知らないけど凄いページ

＊水谷幸太ホームページ
http://www.geocities.com/tokyo/courtyard/1808

＊MODマーケット
http://www.modmarket.com/

＊こんな世の中イヤになったら……
プロザック通販サイト
http://www.drug.net/

著者紹介

●鶴見和昭

http://users.jp.tri6.net/~tsuru/

http://www.ipr.ne.jp/~tsuru/dance/

http://www.ipr.ne.jp/~tsuru/bikkuri/

　元社長、元風俗通い、ダンサーとパチモノ収集家の鶴見です。ああでも、ぬるま湯につかっているような人生にイヤ気がさしましてですねえ、会社も閉めてプー太郎になりました。彼女も一人に絞って、オンナ遊びもやめました。

　これから多分ヒマになると思うので、いままで貯めたカネをギリギリまで無駄使いします。そして修行のため旅に出ます。でも、ホームページだけは更新しますから。

●マミヤ狂四郎

http://www.interq.or.jp/dragon/mamiya/

http://ueno.cool.ne.jp/mamiyainferno



マックとスーパーカブとピーコを愛する20歳。幼少時は「ゆでたまご」に憧れマンガ家を志し、落書き帳にシコシコ連載。中学生で「週プロ」に投稿開始。常連になって友人にバレかかったので、ペンネームを「マミヤ狂四郎」に変更した。

その頃アキバで鶴見氏の主宰するグループに招かれ、秋葉原の某露天商を描いた「露店兄貴」で裏漫画家デビュー。それを皮切りに読者をアキバ少年に絞った、一般ウケしない漫画を続々と発表する。

現在は持ち込み用のネタをじっくり制作するという大義名分のもと、ダラダラ生きてるんですけど……お仕事ください。



●クーロン黒沢

http://www.hehehe.net/users/kowloon/

バンコクの薄暗いアパートの一室で鶴見氏が広げたノートパソコンがすべての始まりだった……。そんでもって最初に意図していた内容とはかなりかけ離れてしまったのが不思議です。

今回山田君（イラン人）のインタビューはなし。なにごともほどほどが肝心。



参考文献：

『ゲームラボ』（三才ブックス）
『エミュレータ活用テクニック』（マジコン通信社）
『月刊電脳亜細亜』（あきばんぐ）

暗黒アジアン・ハッカーズ

2000年1月1日　第1版第1刷

著　者	クーロン黒沢 鶴見和昭 マミヤ狂四郎
ブックデザイン	守先　正
編　集	木村重樹（Plank Co.,Ltd） 日向泰洋
発行者	落合美砂
発行所	株式会社 太田出版 〒160-8571　東京都新宿区荒木町22エプコットビル1F 電話03-3359-6262　振替00120-6-162166
印刷・製本	株式会社 光邦

ISBN4-87233-495-7


2M
ニセブランド商品

改造ゲームから
違法CDまで、
世はまさに
コピーソフト無間地獄!!

パソコンやインターネットはいっそう身近になり、ソニーはプレイステーションで大成功……だが華やかな舞台裏には、想像を絶するコスいオトナたちが仕切る、あきれるほどセコい著作権無法地帯が広がっていた！
そんな一読するだけで夕飯がまずくなる“味のない世界”を満載した、クーロン黒沢と愉快な仲間たちによる世界最強最悪の《電脳パチモノ列伝》。はじめに言っとくけど、真似すると前科者になるよ……。

太田出版

はっきり言って
あなた、
これ犯罪ですよ……

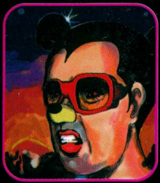
太田出版

［本書の主な内容］

- 秋葉原～バンコク～香港――世界最安値の裏モノショップ攻略ガイド
- 21世紀の盆栽遊び、骨董ゲーム改造の世界へようこそ！
- 僕の人生ニセファミコン、アジアで生まれたインチキマシン・グラフィティ
- パチモノカセットからプレミアソフトまで、お宝ゲーム完全カタログ
- 美少女キャラのパンツ丸見え、禁断の改造コード教えます！
- ソニーのサービスセンターに叱られない、プレステ改造マニュアル
- ホモ外人に同窓生、ロリータから鬱病女まで――インターネットは出会いの宝庫？
- パチモノ、ニセモノ界の名士、問題児に特選インタビュー
- 俺に焼けないCDはない！ ゲームに音楽、映画からアプリまで、違法CDの恐るべき実態
- アジアでオイラも考えた、“著作権ってナンデスカ?”

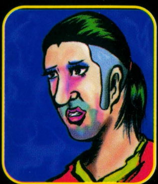
……などなど、お役立ち情報がテンコ盛り……はっきりいってコレは“買い”でしょ！

暗黒アジアン・ハッカーズ



クーロン黒沢（くーろんくろさわ）

1971年生まれ。成人前に行った香港・中国でボラれ、以後アジアの虜になる。現在はカンボジアの首都・プノンペンで貸本屋を営む日々。「バンコクの薄暗いアパートの一室で鶴見氏が広げたノートパソコンが（本書の）すべての始まりだった……」とのこと。



鶴見和昭（つるみかずあき）

元社長、元風俗通い、ダンサーとパチモノ収集家。ぬるま湯につかっているような人生にイヤ気がさし、会社も閉めプー太郎になり、彼女も一人に絞ってオンナ遊びもやめ、今後は限度額ギリギリまで貯金を無駄遣いしたあと、修行の旅に出る予定。

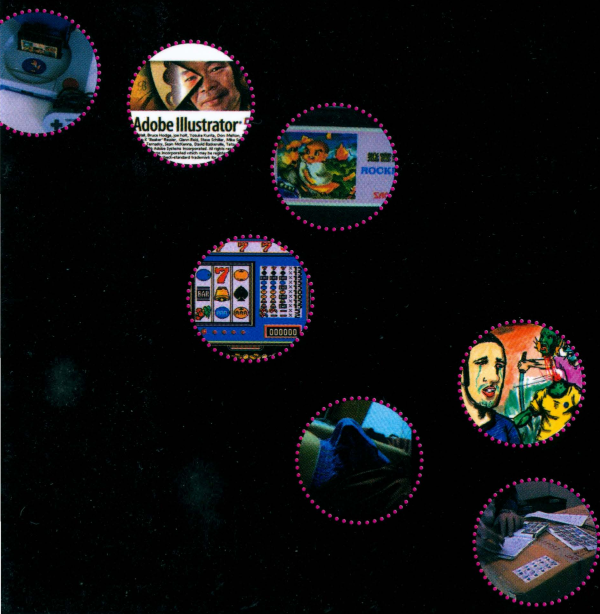


マミヤ狂四郎（まみやきょうしろう）

マックとスーパーカブとピーコを愛する20歳。幼少時は「ゆでたまご」に憧れマンガ家を志し、中学生で「週刊プロレス」に投稿開始。同時期、秋葉原で鶴見氏主宰のグループに招かれ、裏漫画家デビュー。以後、読者をアキバ少年に絞った、一般ウケしない漫画を続々と発表。









暗黒アジアンハッカーズ

Asian Hackers Inferno

クーロン黒沢
鶴見和昭
マミヤ狂四郎

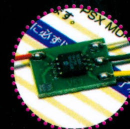
太田出版

9784872334951

1920095016801

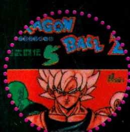
ISBN4-87233-495-7

C0095 ¥1680E







太田出版
定価（本体1680円+税）
















太田出版